

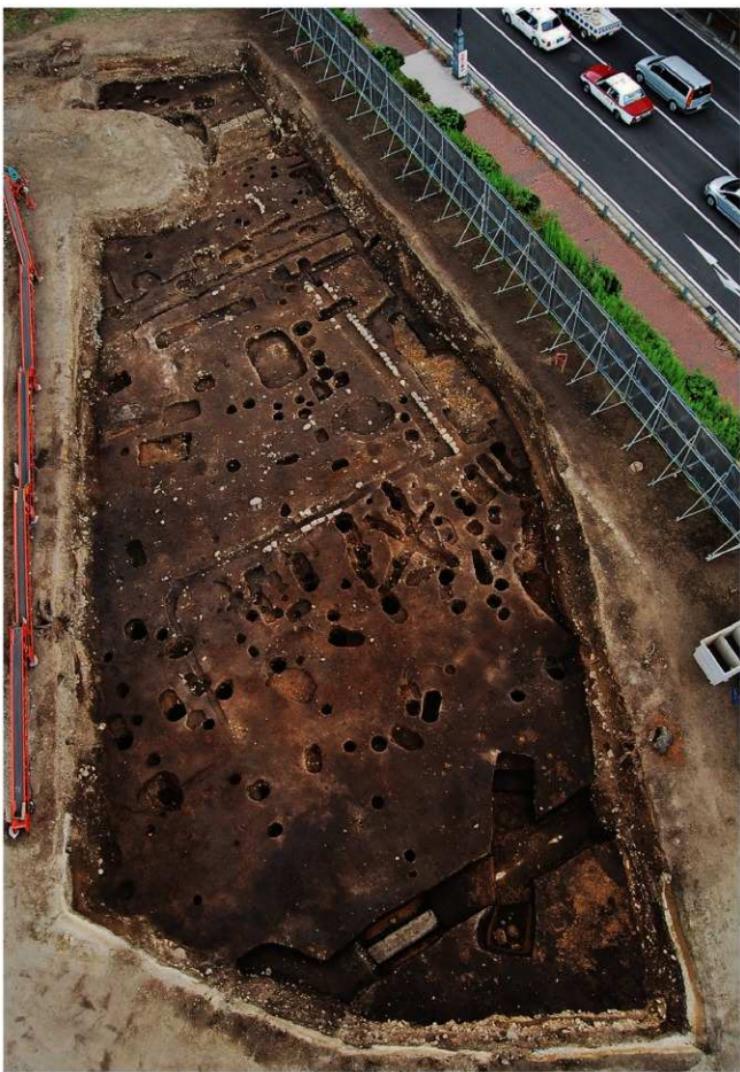
仙台市文化財調査報告書第384集

桜ヶ岡公園遺跡

——仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書IV——

2011年3月

仙台市教育委員会



II層上面調査区全景（西から）



III a層上面調査区全景（西から）



IV a層上面調査区全景（西から）



II層上面調査区全景（北から）



IIIa層上面調査区南側（北から）



SB4、SB5、SB6（北から）



SB2（東から）



SX39 出土遺物



SX39 出土遺物



SX49 出土遺物



SX49 出土遺物

序 文

仙台市の文化財保護行政につきまして、日頃から多大なご協力を賜り、まことに感謝にたえません。

さて、当市では、高速鉄道東西線建設事業を推進し、高速鉄道南北線や、鉄道、バスと連携した公共交通ネットワークを形成することにより、暮らしやすく環境にやさしい新しい都市づくりを進めております。

高速鉄道東西線の計画路線内には仙台城跡をはじめとした遺跡があり、さらに新しい遺跡が発見されることも予測されたことから、仙台市教育委員会では事業主体者の仙台市交通局と協議を重ね、平成 16 年度より確認・試掘調査を実施してまいりました。桜ヶ岡公園遺跡は広瀬川の左岸、仙台城跡の対岸に位置し、平成 16 年から翌年度にかけて実施した試掘調査により、平成 19 年度に新たに遺跡登録され、翌平成 19・20 年度に本発掘調査を実施いたしました。調査の結果、仙台城跡の対岸に位置する武家屋敷の様相を示す貴重な資料が得られております。本報告書は両年度の本発掘調査の成果をまとめたもので、高速鉄道東西線関係遺跡の 4 冊目の本報告書となります。

これまで、先人たちが残してきた貴重な文化遺産を保護し、活用しながら市民の宝として、次の世代に引き継いでいくことは、これからのか「まちづくり」に欠かせない大切なことであると考えております。ここに報告する調査成果が地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、広く活用され、文化財に対するご理解と保護の一助になれば幸いです。最後になりましたが、発掘調査及び調査報告書の刊行に際しまして、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げ、刊行の序といたします。

平成 23 年 3 月

仙台市教育委員会

教育長 青沼 一民

例 言

1. 本書は仙台市高速鉄道東西線建設事業に伴い実施した桜ヶ岡公園遺跡（西公園トンネル・駅部ほか）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、仙台市教育委員会が国際航業株式会社（現国際文化財株式会社）へ委託して実施した。
3. 本書の作成は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 原河英二・主濱光朗・結城慎一の監理のもとに、国際文化財株式会社 守谷健吾・荻澤太郎・朝日向忠久が担当した。
4. 本書の第3・4・5図の絵図・地図の掲載にあたっては、所蔵機関の許可を得ている。
5. 本調査の実施及び報告書の作成に際し、次の諸氏・機関よりご指導、ご教示、さまざまな協力を賜った。
記して謝意を表す次第である。（敬称略順不同）
藤沢敦・柴田恵子（東北大學埋蔵文化財調査研究室） 松木秀明（東北大學大学院） 深澤百合子（東北大學）
鈴木裕子（株式会社四門） 渡邊慎也（雑草文庫主宰） 東北大學 斎藤報恩会 東北歴史博物館
宮城県図書館 仙台市歴史民俗資料館 仙台市戦災復興記念館 仙台市交通局 仙台市建設局 仙台市博物館
6. 発掘調査に関わる一切の資料は、仙台市教育委員会が保管している。
7. 遺物の墨書き等の確認は鶴岡幸子氏、倉橋真紀氏、栗原伸一郎氏、坂田美咲氏（仙台市博物館）のご教示を得た。
8. 石製品の石材については、蟹沢聰史（東北大學名誉教授（理学博士））に鑑定していただいた。
9. 陶器の年代等の確認は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 佐藤 洋の協力を得た。

凡 例

1. 本書の土色は、新版標準土色帖（農林水産省農林水産技術会議事務局 1998年版）に準拠している。
2. 本書中の第1図は国土地理院発行の5万分の1地形図「仙台」の一部と1万分の1地形図「青葉山」「仙台駅」の一部を合成した。
3. 図中の座標値は日本測地系座標を使用した。
4. 本文図版等で使用した方位は真北を基準としている。
5. 標高値は、海拔高度（T.P.）を示している。
6. 遺構図は1/40縮尺を基本とした。その他については各図のスケールを参照されたい。
7. 基本層の表記は、表土層からローマ数字を用い、遺構堆積層についてはアラビア数字で表記した。
8. 遺構図において、■（トーン）は疊を示している。
9. 遺構・遺物の登録・整理及び報告書での表示には、以下の分類と略号を使用した。
SA：柱立跡 SB：建物跡 SD：溝跡 SE：井戸跡 SK：土坑 P：ピット SN：祭祀跡 SX：性格不明遺構
A：繩文土器 F：丸瓦・軒丸瓦 G：平瓦・軒平瓦 H：その他の瓦 I：陶器・瓦質土器・土師質土器
J：磁器 K：石器・石製品 N：金属製品 O：自然遺物 P：土製品 X：その他の遺物
10. 遺物実測図は原則として縮尺1/3としたが、瓦は1/4、古銭は原寸で表示した。
11. 遺物実測図において、外形線・中心線・稜線は実線、推定線は破線で、釉薬部の境は一点鎖線で表した。
中心線が一点鎖線のものは、展開し図上復元したものである。
12. 陶磁器類の遺物観察表には備考に「ロクロ成形」の記載は行っていない。また、法量の表示で○書きの値は残存値である。
13. 遺物観察表内の法量の記載で○書きの数字は残存値を示している。
14. 報告書内で使用している尺・寸の長さは「1尺=30.3cm」、「1寸=3.03cm」とした。



本文目次

第1章 調査概要	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査要項	1
第3節 調査概要	4
1 現地調査	4
2 整理作業	4
第2章 位置と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	6
1 近世から近代	6
2 近代から現代	7
3 これまでの発掘調査	8
第3章 調査方法	10
第1節 調査方法	10
1 現地調査	10
2 整理作業	10
3 遺構名称について	10
第2節 調査区グリッドの設定	11
第4章 基本層序	12
第5章 検出遺構と遺物	17
第1節 駅部	17
1 IV a層上面検出遺構	17
2 III a層上面検出遺構とIII層出土遺物	26
3 II層上面検出遺構とII層出土遺物	54
4 I b層上面検出遺構とI b層出土遺物	137
第2節 交番部	167
1 II a層上面検出遺構	167
2 I層上面検出施設跡	169
3 遺構外出土遺物	170
第3節 大銀杏部	172
1 大銀杏部調査区	172
2 III層出土遺物	173
3 II層出土遺物	173
4 I b層出土遺物	181
第6章 出土遺物と検出遺構について	183
第1節 出土遺物について	183
1 遺物数量表	183

2	陶磁器の数的分析	186
3	乾山について	188
4	焼縁について	188
5	土師質土器	190
6	近・現代資料	190
7	金属製品	192
8	土製品	193
9	古銭	194
10	出土遺物のまとめ	194
第2節	検出遺構について	194
1	近世の遺構	194
2	近代の遺構	197
第7章	まとめ	199
参考文献		200

挿図目次

第1図	道路位置図	3
第2図	河岸段丘分布図・断面模式図	5
第3図	絵図(1)	6
第4図	絵図(2)	7
第5図	絵図(3)	8
第6図	周辺遺跡分布図	9
第7図	グリッド設定図	11
第8図	基本土層図(1)	13
第9図	基本土層図(2)	14
第10図	基本土層図(3)	15
第11図	基本土層図(4)	16
第12図	IV a 層上面遺構配置図	17
第13図	SD9溝跡平面図・断面図・出土遺物	18
第14図	SD14溝跡平面図・断面図	19
第15図	SX29性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物(1)	20
第16図	SX29性格不明遺構出土遺物(2)	21
第17図	SX31性格不明遺構平面図・断面図	21
第18図	SX31性格不明遺構出土状況・出土遺物(1)	22
第19図	SX31性格不明遺構出土遺物(2)	23
第20図	SX32性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	23
第21図	SX33性格不明遺構平面図・断面図	24
第22図	SX50性格不明遺構平面図・断面図	24
第23図	SX51性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	25
第24図	III層上面遺構配置図	26
第25図	SA1柱跡平面図・断面図	27
第26図	SB2・SB3掘立柱建物跡平面図・断面図	28
第27図	SB2掘立柱建物跡出土遺物	29
第28図	SB4・SB5掘立柱建物跡平面図・断面図	30
第29図	SB6掘立柱建物跡平面図・断面図	31
第30図	SD10溝跡平面図・断面図	32
第31図	SD12溝跡平面図・断面図	32
第32図	SK48土坑平面図・断面図・出土遺物	33
第33図	SK54土坑平面図・断面図・出土遺物	34
第34図	SK55土坑平面図・断面図	34
第35図	SK56土坑平面図・断面図	35
第36図	SK57土坑平面図・断面図	35
第37図	SK58土坑平面図・断面図	35
第38図	SK59土坑平面図・断面図	36
第39図	SK60土坑平面図・断面図	36
第40図	SK62土坑平面図・断面図	36
第41図	SK63土坑平面図・断面図	37
第42図	SK65土坑平面図・断面図	37
第43図	SK66土坑平面図・断面図	38
第44図	SK67土坑平面図・断面図	38
第45図	SK68土坑平面図・断面図	39
第46図	SK69土坑平面図・断面図	39
第47図	SK70土坑平面図・断面図	39
第48図	SK71土坑平面図・断面図	40
第49図	SK72土坑平面図・断面図	40
第50図	SK73土坑平面図・断面図	40
第51図	SK85土坑平面図・断面図	41
第52図	SX22性格不明遺構平面図・断面図	41
第53図	SX22性格不明遺構遺物出土状況・出土遺物	42
第54図	SX23性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	43
第55図	SX34性格不明遺構平面図・断面図	43
第56図	SX34性格不明遺構出土遺物	44
第57図	SX37性格不明遺構平面図	44
第58図	SX37性格不明遺構断面図・出土遺物	45

第 59 図 SX61 性格不明遺構平面図・断面図	46
第 60 図 SX62 性格不明遺構平面図・断面図	46
第 61 図 SX63 性格不明遺構平面図・断面図	47
第 62 図 SX63 性格不明遺構出土遺物	48
第 63 図 Ⅲ層遺構外出土遺物(1)	48
第 64 図 Ⅲ層遺構外出土遺物(2)	49
第 65 図 Ⅲ層遺構外出土遺物(3)	50
第 66 図 Ⅲ層遺構外出土遺物(4)	51
第 67 図 Ⅲ層遺構外出土遺物(5)	52
第 68 図 Ⅲ層遺構外出土遺物(6)	52
第 69 図 Ⅲ層遺構外出土遺物(7)	53
第 70 図 Ⅱ層上面遺構配置図	54
第 71 図 SD3 溝跡平面図・断面図	55
第 72 図 SD3 溝跡出土遺物	56
第 73 図 SD4 溝跡平面図・断面図	57-58
第 74 図 SD6 溝跡平面図・断面図	59
第 75 図 SK1 土坑平面図・断面図・出土遺物(1)	60
第 76 図 SK1 土坑出土遺物(2)	61
第 77 図 SK1 土坑出土遺物(3)	62
第 78 図 SK2 土坑平面図・断面図・出土遺物	63
第 79 図 SK3 土坑平面図・断面図・出土遺物	63
第 80 図 SK4 土坑平面図・断面図	64
第 81 図 SK5 土坑平面図・断面図	64
第 82 図 SK6 土坑平面図・断面図	64
第 83 図 SK7 土坑平面図・断面図	65
第 84 図 SK9 土坑平面図・断面図	65
第 85 図 SK10 土坑平面図・断面図	65
第 86 図 SK11 土坑平面図・断面図	66
第 87 図 SK12 土坑平面図・断面図・出土遺物	66
第 88 図 SK14 土坑平面図・断面図	67
第 89 図 SK15 土坑平面図・断面図	67
第 90 図 SK17 土坑平面図・断面図・出土遺物	68
第 91 図 SK18 土坑平面図・断面図	69
第 92 図 SK19 土坑平面図・断面図	69
第 93 図 SK22 土坑平面図・断面図・出土遺物	70
第 94 図 SK23 土坑平面図・断面図	70
第 95 図 SK25 土坑平面図・断面図	71
第 96 図 SK27 土坑平面図・断面図・出土遺物	71
第 97 図 SK28 土坑平面図・断面図・出土遺物	72
第 98 図 SK30 土坑平面図・断面図	72
第 99 図 SK31 土坑平面図・断面図	73
第 100 国 SK32 土坑平面図・断面図・出土遺物	73
第 101 国 SK33 土坑平面図・断面図	74
第 102 国 SK34 土坑平面図・断面図・出土遺物	74
第 103 国 SK35 土坑平面図・断面図	75
第 104 国 SK36 土坑平面図・断面図	75
第 105 国 SK37 土坑平面図・断面図	76
第 106 国 SK37 土坑出土遺物(1)	77
第 107 国 SK37 土坑出土遺物(2)	78
第 108 国 SK40 土坑平面図・断面図	78
第 109 国 SK46 土坑平面図・断面図	78
第 110 国 SK47 土坑平面図・断面図・出土遺物	79
第 111 国 SK50 土坑平面図・断面図	80
第 112 国 SK51 土坑平面図・断面図	80
第 113 国 SK52 土坑平面図・断面図	81
第 114 国 SK75 土坑平面図・断面図・出土遺物(1)	81
第 115 国 SK75 土坑出土遺物(2)	82
第 116 国 SK75 土坑出土遺物(3)	83
第 117 国 SK75 土坑出土遺物(4)	84
第 118 国 SK75 土坑出土遺物(5)	85
第 119 国 SK75 土坑出土遺物(6)	86
第 120 国 SK76 土坑平面図・断面図・出土遺物	86
第 121 国 SK77 土坑平面図・断面図・出土遺物(1)	87
第 122 国 SK77 土坑出土遺物(2)	88
第 123 国 SK77 土坑出土遺物(3)	89
第 124 国 SK78 土坑平面図・断面図	90
第 125 国 SN1 祭祀遺構かわらけ・古戦出土状況図	90
第 126 国 SN1 祭祀遺構出土遺物	91
第 127 国 SN2 祭祀遺構出土遺物状況・出土遺物	92
第 128 国 SX2 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	93
第 129 国 SX4 性格不明遺構平面図・断面図	94
第 130 国 SX5 性格不明遺構平面図・断面図	94
第 131 国 SX6 性格不明遺構平面図・断面図	94
第 132 国 SX7 性格不明遺構平面図・断面図	95
第 133 国 SX9 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	95
第 134 国 SX10 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	96
第 135 国 SX12 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	97
第 136 国 SX14 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	98
第 137 国 SX15 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物(1)	99
第 138 国 SX15 性格不明遺構出土遺物(2)	100
第 139 国 SX15 性格不明遺構出土遺物(3)	101
第 140 国 SX19 性格不明遺構平面図・断面図	101
第 141 国 SX26 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物(1)	102
第 142 国 SX26 性格不明遺構出土遺物(2)	103
第 143 国 SX27 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	104
第 144 国 SX28 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物	105
第 145 国 SX35 性格不明遺構平面図・断面図	106
第 146 国 SX36 性格不明遺構平面図・断面図	106
第 147 国 SX38 性格不明遺構平面図・断面図	107
第 148 国 SX39 性格不明遺構平面図・断面図	107
第 149 国 SX39 性格不明遺構出土遺物(1)	108
第 150 国 SX39 性格不明遺構出土遺物(2)	109
第 151 国 SX39 性格不明遺構出土遺物(3)	110
第 152 国 SX39 性格不明遺構出土遺物(4)	111
第 153 国 SX39 性格不明遺構出土遺物(5)	112
第 154 国 SX39 性格不明遺構出土遺物(6)	113
第 155 国 SX41 性格不明遺構平面図・断面図	113
第 156 国 SX42 性格不明遺構平面図・断面図	114

第 157 図 SX43 性格不明遺構平面図・断面図	114
第 158 図 SX49 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物 (1)	115
第 159 図 SX49 性格不明遺構出土遺物 (2)	116
第 160 図 SX49 性格不明遺構出土遺物 (3)	117
第 161 図 SX49 性格不明遺構出土遺物 (4)	118
第 162 図 SX49 性格不明遺構出土遺物 (5)	119
第 163 図 SX49 性格不明遺構出土遺物 (6)	120
第 164 図 SX49 性格不明遺構出土遺物 (7)	121
第 165 図 SX56 性格不明遺構平面図・断面図	122
第 166 図 SX56 性格不明遺構出土遺物	123
第 167 図 SX57 性格不明遺構平面図・断面図	124
第 168 図 SX64 性格不明遺構平面図・断面図	124
第 169 図 II 層遺構外出土遺物 (1)	125
第 170 図 II 層遺構外出土遺物 (2)	126
第 171 図 II 層遺構外出土遺物 (3)	127
第 172 図 II 層遺構外出土遺物 (4)	128
第 173 図 II 層遺構外出土遺物 (5)	129
第 174 図 II 層遺構外出土遺物 (6)	130
第 175 図 II 層遺構外出土遺物 (7)	131
第 176 図 II 層遺構外出土遺物 (8)	132
第 177 図 II 層遺構外出土遺物 (9)	133
第 178 図 II 層遺構外出土遺物 (10)	134
第 179 図 II 層遺構外出土遺物 (11)	135
第 180 図 II 層遺構外出土遺物 (12)	136
第 181 図 I b 層上面遺構配置図	137-138
第 182 図 SB1 近代建物跡平面図	139
第 183 図 SB1 近代建物跡断面図	140
第 184 図 SD1 溝跡平面図・断面図	142
第 185 図 SD1 溝跡出土遺物	143
第 186 図 SD2 溝跡平面図・断面図	144
第 187 図 SD2 溝跡出土遺物	145
第 188 図 SD15 溝跡平面図・断面図	146
第 189 図 SD15 溝跡出土遺物	147
第 190 図 SD16 溝跡平面図・断面図・出土遺物	148
第 191 図 SK74 土坑平面図・断面図・出土遺物 (1)	149
第 192 図 SK74 土坑出土遺物 (2)	150
第 193 図 SK80 土坑平面図・断面図・出土遺物	151
第 194 図 SK81 土坑平面図・断面図	152
第 195 図 SK82 土坑平面図・断面図	152
第 196 図 SK83 土坑平面図・断面図	153
第 197 図 SK84 土坑平面図・断面図・出土遺物	154
第 198 図 SX53 性格不明遺構平面図・断面図	155
第 199 図 SX54 性格不明遺構平面図	157
第 200 図 SX54 性格不明遺構断面図	158
第 201 図 SX58 性格不明遺構平面図・断面図	159
第 202 図 SX60 性格不明遺構平面図・断面図	159
第 203 図 I 層遺構外出土遺物 (1)	160
第 204 図 I 層遺構外出土遺物 (2)	161
第 205 図 I 層遺構外出土遺物 (3)	162
第 206 図 I 层遺構外出土遺物 (4)	163
第 207 図 I 层遺構外出土遺物 (5)	164
第 208 図 I 层遺構外出土遺物 (6)	165
第 209 図 I 层遺構外出土遺物 (7)	166
第 210 図 II 層上面遺構配置図・基本土層図	167
第 211 図 SE1 井戸跡平面図・断面図	168
第 212 図 SE1 井戸跡出土遺物	169
第 213 図 I 層上面検出施設跡	169
第 214 図 文部省遺構外出土遺物 (1)	170
第 215 図 文部省遺構外出土遺物 (2)	171
第 216 図 大銀杏園調査区平面図・基本土層図	172
第 217 図 III b 層出土遺物	173
第 218 図 II 層出土遺物 (1)	173
第 219 図 II 層出土遺物 (2)	174
第 220 図 II 層出土遺物 (3)	175
第 221 図 II 層出土遺物 (4)	176
第 222 図 II 層出土遺物 (5)	177
第 223 図 II 層出土遺物 (6)	178
第 224 図 II 层出土遺物 (7)	179
第 225 図 II 层出土遺物 (8)	180
第 226 図 II 层出土遺物 (9)	181
第 227 図 I b 层出土遺物 (1)	181
第 228 図 I b 层出土遺物 (2)	182
第 229 図 SK39 出土の乾山路の陶器	188
第 230 図 燃縄のある出土遺物	189
第 231 図 SX31・SN1 出土の土師質土器	190
第 232 国 土師質土器高台「 ア 」の墨書き	190
第 233 国 桜ヶ岡公園跡出土の洋食器	191
第 234 国 桜ヶ岡公園跡出土の金属製品	192
第 235 国 桜ヶ岡公園跡出土の土製品	193
第 236 国 IV a 層上面検出遺構	194
第 237 国 III a 層上面検出遺構	195
第 238 国 II 層上面検出遺構	196
第 239 国 I b 层上面検出遺構	197
第 240 国 桜ヶ岡公園跡検出遺構時期別変遷模式図	198

目 次

第 1 表 道跡地名表	9
第 2 表 調査区基本土層注記表	12
第 3 表 SA1 柱穴観察表	27
第 4 表 SB2・SB3 据立柱建物跡観察表	29
第 5 表 SB4 据立柱建物跡柱穴観察表	30
第 6 表 SB5 据立柱建物跡柱穴観察表	30
第 7 表 SB6 据立柱建物跡柱穴観察表	31
第 8 表 SB1 近代建物跡基礎坑観察表	140
第 9 表 SD15 溝跡石材分類表	146
第 10 表 出土遺物数量表 (1)	183

第 11 表 出土遺物数量表 (2).....	184
第 12 表 出土遺物数量表 (3).....	185
第 13 表 出土層位・産地別遺物数量表.....	186
第 14 表 食器器産地別グラフ.....	186
第 15 表 喫茶・飲酒具産地別グラフ.....	187
第 16 表 暖房具・貯蔵具・調理具・灯明具産地別グラフ	187
第 17 表 信仰・調度具・その他産地別グラフ.....	187
第 18 表 燐琨のある出土遺物観察表.....	188
第 19 表 桜ヶ岡公園遺跡の時期区分表.....	194
第 20 表 挖立柱建物跡の規模.....	195

写 真 目 次

写 真 1 調査区より旧天文台を望む(東から).....	2
写 真 2 SD9・14溝検出状況(南から).....	19
写 真 3 SX22 性格不明遺構遺物出土状況(南から).....	42
写 真 4 SX22 性格不明遺構遺物出土状況(南から).....	42
写 真 5 SX37 性格不明遺構瓦検出状況(北から).....	45
写 真 6 SX63 性格不明遺構遺物出土状況(西から).....	47
写 真 7 SX63 性格不明遺構遺物出土状況(西から).....	47
写 真 8 SD4 溝跡石組検出状況(南から).....	58
写 真 9 SN1 祭祀遺構かわらけ出土状況(南から).....	90
写 真 10 SN2 祭祀遺構かわらけ出土状況(東から).....	92
写 真 11 SX39 性格不明遺構堆積状況(南から).....	113
写 真 12 SX49 性格不明遺構遺物出土状況(北から).....	121
写 真 13 桜ヶ岡公園と大銀杏.....	137
写 真 14 仙台市公会堂と桜ヶ岡公園の噴水.....	138
写 真 15 大銀杏周辺の遺構検出状況(西から).....	138
写 真 16 創業当時の絶翠館(明治19年撮影).....	140
写 真 17 SD1 溝跡検出状況(北から).....	141
写 真 18 SD1 溝跡検出状況(南東から).....	141
写 真 19 SD1 溝跡検出状況(南東から).....	141
写 真 20 SD15・16検出状況(北から).....	147
写 真 21 SX54 性格不明遺構東側検出状況(東から).....	156
写 真 22 SX54 性格不明遺構検出状況(北から).....	156
写 真 23 公会堂と噴水(絵葉書から).....	171

写 真 図 版 目 次

図 版 1 駅部IV a層上面(1).....	203
図 版 2 駅部IV a層上面(2).....	204
図 版 3 駅部III層上面(1).....	205
図 版 4 駅部III層上面(2).....	206
図 版 5 駅部III層上面(3).....	207
図 版 6 駅部III層上面(4).....	208
図 版 7 駅部III層上面(5).....	209
図 版 8 駅部III層上面(6).....	210
図 版 9 駅部III層上面(7).....	211
図 版 10 駅部III層上面(8).....	212
図 版 11 駅部III層上面(9).....	213
図 版 12 駅部II層上面(1).....	214
図 版 13 駅部II層上面(2).....	215
図 版 14 駅部II層上面(3).....	216
図 版 15 駅部II層上面(4).....	217
図 版 16 駅部II層上面(5).....	218
図 版 17 駅部II層上面(6).....	219
図 版 18 駅部II層上面(7).....	220
図 版 19 駅部II層上面(8).....	221
図 版 20 駅部II層上面(9).....	222
図 版 21 駅部II層上面(10).....	223
図 版 22 駅部II層上面(11).....	224
図 版 23 駅部II層上面(12).....	225
図 版 24 駅部II層上面(13).....	226
図 版 25 駅部II層上面(14).....	227
図 版 26 駅部II層上面(15).....	228
図 版 27 駅部II層上面(16).....	229
図 版 28 駅部II層上面(17).....	230
図 版 29 駅部II層上面(18).....	231
図 版 30 駅部II層上面(19).....	232
図 版 31 駅部II層上面(20).....	233
図 版 32 駅部II層上面(21).....	234
図 版 33 駅部II層上面(22).....	235
図 版 34 駅部II層上面(23).....	236
図 版 35 駅部II層上面(24).....	237
図 版 36 駅部II層上面(25)・駅部I層上面(1).....	238
図 版 37 駅部I層上面(2).....	239
図 版 38 駅部I層上面(3).....	240
図 版 39 駅部I層上面(4).....	241
図 版 40 駅部I層上面(5).....	242
図 版 41 駅部I層上面(6).....	243
図 版 42 駅部I層上面(7).....	244
図 版 43 駅部I層上面(8).....	245
図 版 44 駅部I層上面(9).....	246
図 版 45 説明会風景・作業風景.....	247
図 版 46 交番部I層上面(1).....	248
図 版 47 交番部I層上面(2).....	249
図 版 48 交番部I層上面(3).....	250
図 版 49 交番部I層上面(4)・大銀杏部(1).....	251
図 版 50 大銀杏部(2).....	252
図 版 51 駅部IV a層上面遺構出土遺物(1).....	253
図 版 52 駅部IV a層上面遺構出土遺物(2).....	254

図版 5.3	駅部Ⅳa層上面遺構出土遺物⑨・Ⅹ層上面遺構出土遺物(1)…	255
図版 5.4	駅部Ⅲ層上面遺構出土遺物(2)…	256
図版 5.5	駅部Ⅲ層上面遺構出土遺物(3)…	257
図版 5.6	駅部Ⅲ層遺構外出土遺物(1)…	258
図版 5.7	駅部Ⅲ層遺構外出土遺物(2)…	259
図版 5.8	駅部Ⅲ層遺構外出土遺物(3)…	260
図版 5.9	駅部Ⅲ層遺構外出土遺物(4)・Ⅺ層上面遺構出土遺物(1)…	261
図版 6.0	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(2)…	262
図版 6.1	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(3)…	263
図版 6.2	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(4)…	264
図版 6.3	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(5)…	265
図版 6.4	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(6)…	266
図版 6.5	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(7)…	267
図版 6.6	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(8)…	268
図版 6.7	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(9)…	269
図版 6.8	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(10)…	270
図版 6.9	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(11)…	271
図版 7.0	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(12)…	272
図版 7.1	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(13)…	273
図版 7.2	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(14)…	274
図版 7.3	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(15)…	275
図版 7.4	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(16)…	276
図版 7.5	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(17)…	277
図版 7.6	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(18)…	278
図版 7.7	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(19)…	279
図版 7.8	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(20)…	280
図版 7.9	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(21)…	281
図版 8.0	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(22)…	282
図版 8.1	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(23)…	283
図版 8.2	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(24)…	284
図版 8.3	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(25)…	285
図版 8.4	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(26)…	286
図版 8.5	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(27)…	287
図版 8.6	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(28)…	288
図版 8.7	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(29)…	289
図版 8.8	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(30)…	290
図版 8.9	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(31)…	291
図版 9.0	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(32)…	292
図版 9.1	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(33)…	293
図版 9.2	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(34)…	294
図版 9.3	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(35)…	295
図版 9.4	駅部Ⅱ層上面遺構出土遺物(36)・Ⅺ層遺構外出土遺物(1)…	296
図版 9.5	駅部Ⅱ層遺構外出土遺物(2)…	297
図版 9.6	駅部Ⅱ層遺構外出土遺物(3)…	298
図版 9.7	駅部Ⅱ層遺構外出土遺物(4)…	299
図版 9.8	駅部Ⅱ層遺構外出土遺物(5)…	300
図版 9.9	駅部Ⅱ層遺構外出土遺物(6)…	301
図版 10.0	駅部Ⅱ層遺構外出土遺物(7)…	302
図版 10.1	駅部Ⅱ層遺構外出土遺物(8)…	303
図版 10.2	駅部Ⅱ層遺構外出土遺物(9)…	304
図版 10.3	駅部Ⅱ層遺構外出土遺物(10)…	305
図版 10.4	駅部Ⅱ層遺構外出土遺物(11)…	306
図版 10.5	駅部Ⅱ層遺構外出土遺物(12)…	307
図版 10.6	駅部Ⅱ層遺構外出土遺物(13)・Ⅰ層上面遺構出土遺物(1)…	308
図版 10.7	駅部Ⅰ層上面遺構出土遺物(2)…	309
図版 10.8	駅部Ⅰ層上面遺構出土遺物(3)…	310
図版 10.9	駅部Ⅰ層上面遺構出土遺物(4)…	311
図版 11.0	駅部Ⅰ層上面遺構出土遺物(5)・Ⅰ層遺構外出土遺物(1)…	312
図版 11.1	駅部Ⅰ層遺構外出土遺物(2)…	313
図版 11.2	駅部Ⅰ層遺構外出土遺物(3)…	314
図版 11.3	駅部Ⅰ層遺構外出土遺物(4)…	315
図版 11.4	駅部Ⅰ層遺構外出土遺物(5)…	316
図版 11.5	駅部Ⅰ層遺構外出土遺物(6)…	317
図版 11.6	交番部Ⅰ層出土遺物(1)…	318
図版 11.7	交番部Ⅰ層出土遺物(2)…	319
図版 11.8	大銀杏部Ⅲ層出土遺物・Ⅱ層出土遺物(1)…	320
図版 11.9	大銀杏部Ⅱ層出土遺物(2)…	321
図版 12.0	大銀杏部Ⅱ層出土遺物(3)…	322
図版 12.1	大銀杏部Ⅱ層出土遺物(4)…	323
図版 12.2	大銀杏部Ⅱ層出土遺物(5)…	324
図版 12.3	大銀杏部Ⅱ層出土遺物(6)…	325
図版 12.4	大銀杏部Ⅱ層出土遺物(7)…	326
図版 12.5	大銀杏部Ⅱ層出土遺物(8)…	327
図版 12.6	大銀杏部Ⅰ層出土遺物(1)…	328
図版 12.7	大銀杏部Ⅰ層出土遺物(2)…	329
図版 12.8	大銀杏部Ⅰ層出土遺物(3)…	330
図版 12.9	瓦…	331
図版 13.0	出土古銭(1)…	332
図版 13.1	出土古銭(2)…	333
図版 13.2	出土古銭(3)…	334
図版 13.3	出土古銭(4)…	335
図版 13.4	出土古銭(5)…	336

第1章 調査概要

第1節 調査に至る経緯

平成11年5月、仙台市教育委員会と当時、事業主管局であった仙台市都市整備局との間で、高速鉄道東西線建設事業に伴う遺跡の取り扱いについての第1回目の協議が持たれた。その後、事業主管局が仙台市交通局に移され、平成15年度より仙台市教育委員会との本格的な協議が行われた。その結果、高速鉄道東西線事業計画予定路線内における周知の遺跡及び遺跡範囲外の状況把握のため、先ず確認調査及び試掘調査を実施し、その結果を踏まえて本調査を実施する箇所を決定し、これを基に発掘調査を順次、事業計画に沿いながら進めていくことが両者間で確認された。

以上の協議事項に基づき、平成16年度より確認調査及び試掘調査を開始した。平成16年度の対象地域は、高速鉄道東西線西部の川内地区、青葉山地区、西公園地区で、18箇所の調査区を設定し、総面積448m²の調査を実施した。

平成17年度の調査対象地域は仙台城跡及びその周辺地区、川内A遺跡隣接地区、西公園地区で、22箇所の調査区を設定し、総面積421m²の調査を実施した。このうち、西公園地区（この確認・試掘調査での便宜的区割りのD区）は、平成16年9月6日から9月17日までの間に1箇所（70m²）の試掘調査が行われ、翌平成17年9月12日から9月27日の間、3箇所（51m²）の試掘調査が実施された。その結果、近世を中心とした時期の遺構・遺物の存在が確認された。これを受け、仙台市教育委員会は仙台市交通局と協議を行い、平成19年度に桜ヶ岡公園遺跡のトンネル・駅部I区、大銀杏部、交番部の本調査、平成20年度には桜ヶ岡公園のトンネル・駅部II区の本調査を実施することとし、平成19年度は5月10日から、平成20年度は4月4日から本調査を開始した。

第2節 調査要項

調査要項

遺跡名稱：桜ヶ岡公園遺跡（宮城県遺跡登録番号01562）

所 在 地：仙台市青葉区桜ヶ岡公園1-1地内

調査原因：高速鉄道東西線路線・駅舎工事に伴う事前調査

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：文化財課調査係主査 原河 英二（平成19～20年度）

文化財課調査係主査 佐藤 洋（平成19年度）

文化財課調査係主事 広瀬真理子（平成19年度）

文化財課調査係主事 大久保弥生（平成20年度）

文化財調査係文化財教諭 志賀 雄一（平成20年度）

調査組織：国際航業株式会社（平成19年度）

国際文化財株式会社（平成20～22年度）

主任調査員 守谷 健吾（平成19年5月～8月・平成20年4月～7月）

主任調査員 竹内 俊之（平成19年9月～3月）

調査員 朝日向忠久（平成19年9月～3月・平成20年4月～7月）

第2節 調査要項

土橋 尚起(平成19年9月～平成20年3月)

調査員 栗木 寧(平成19年5月～8月)

皆川 貴史(平成19年5月～7月)

関 美男(平成19年5月～8月)

竹内 俊之(平成20年4月～7月)

計測員 佐々木 亨(平成19年5月～8月)

佐川 幸夫(平成19年5月～平成20年3月)

諸熊 和彦(平成19年9月～平成20年3月・平成20年4月～7月)

調査期間：平成19年5月10日～平成20年3月31日

平成20年4月4日～7月17日

調査対象面積：約2,990m²

調査面積：平成19年度 約1,282m²(平成19年度調査)

平成20年度 約1,000m²(平成20年度調査)

報告書作成要項

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：文化財課調査係主査 原河 英二(平成21年度)

文化財課調査指導係主査 主演 光朗(平成22年度)

文化財調査指導係専門員 結城 慎一(平成22年度)

調査組織：国際文化財株式会社(平成21年～平成22年度)

調査員 守谷 健吾(平成21年4月～平成22年3月)

平成22年5月～平成23年3月)

調査補助員 朝日向忠久(平成21年4月～平成22年3月)

荻澤 太郎(平成22年5月～11月)

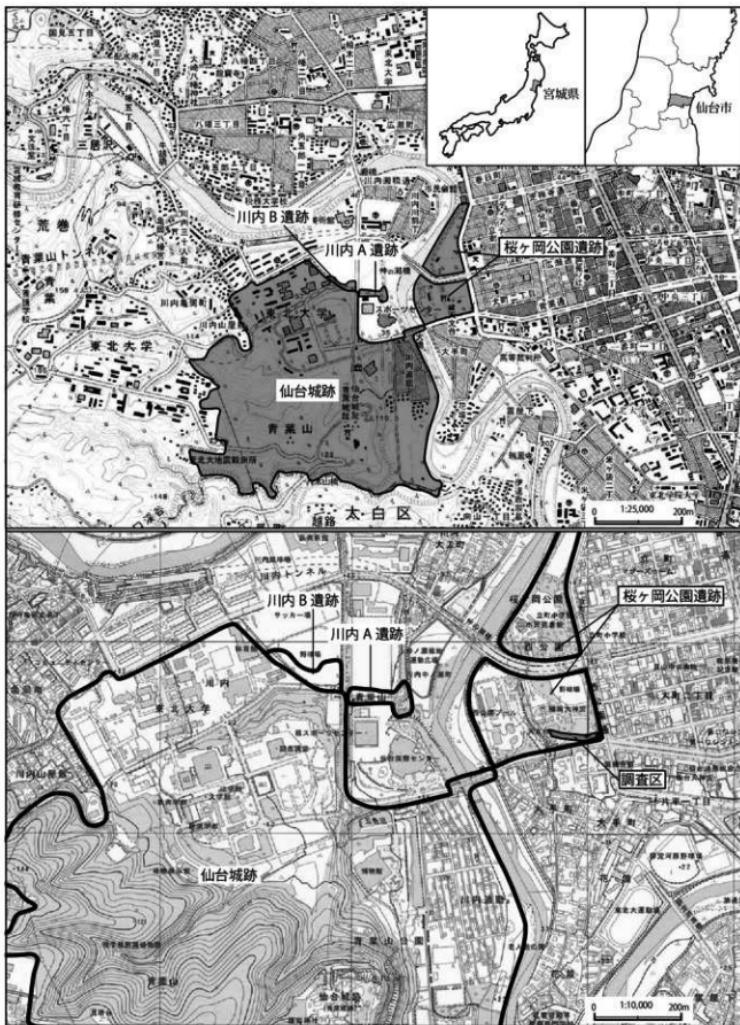
計測員 諸熊 和彦(平成21年4月～平成22年3月・平成22年5月～10月)

作成期間：平成21年4月4日～平成22年3月19日

平成22年5月10日～平成23年3月11日



写真1 調査区より旧天文台を望む(東から)



第1図 遺跡位置図

第3節 調査概要

1 現地調査

現地調査は、平成 16 年から 17 年にかけて行われた試掘調査の結果を受けて、平成 19 年 5 月 10 日から年度をまたいで平成 20 年 6 月 30 日までの期間に実施した。調査は交番部→大銀杏部→西公園トンネル・駅部Ⅰ区→Ⅱ区の順に着手し、調査日数は 270 日で、調査面積は 2.282m²である。

平成 19 年 5 月 10 日、大町交番移設予定地である「交番部」の調査区設定、および重機掘削を開始した。近代地図、写真記録等にもある仙台市公会堂の噴水跡を確認し、同年 6 月 6 日に埋め戻しまで完了した。仙台市指定樹木である大銀杏の移植予定地である「大銀杏部」の調査は、平成 19 年 6 月 4 日から同年 8 月 3 日まで行った。大銀杏部では近代の絵図（「仙台区及近傍村落之図」明治 15 年 P8 第 5 図 11）に描かれている中央に小島を持つ池跡の一部を確認した。平成 19 年 8 月 15 日より「西公園トンネル・駅部Ⅰ区」の重機掘削を開始し、東西線の工事の都合上、同年 11 月 22 日に一時中断、平成 20 年 1 月より未着手部分の調査を再開した。トンネル・駅部では近世の遺構面 2 面と近代建物跡等を確認した。仙台市天文台の解体終了後に「西公園トンネル・駅部Ⅱ区」の重機掘削に着手し、平成 20 年 4 月 4 日より人力による遺構調査を開始、近世の掘立柱建物、近代建物施設などを検出した。また、6 月 7 日には一般市民を対象とした現地説明会を開催し、約 530 名の参加があった。調査は 6 月 30 日までに埋め戻し、撤収を完了した。

2 整理作業

整理作業及び報告書作成作業は、平成 21 年 4 月から 2 カ年にわたって実施した。平成 21 年度は、出土遺物の 1 次・2 次整理及び遺構図面の編集・調整を行い、翌年度に編集作業を行い報告書刊行を実施した。

出土遺物は、内法 54.5cm × 33.6cm × 15cm の平箱に 450 箱程である。大部分を近世～近代の陶磁器が占め、その他に瓦、土師質土器、瓦質土器等が見られる。また少量であるが、繩文土器・石器等も見られる。出土遺物は水洗・注記した後、取り上げ番号毎に内容を確認し、遺物台帳に記載した。陶磁器・土師質土器・瓦質土器・瓦等は、器種・器形・文様等により分類し、接合を行った。接合した後さらに産地別に分類し、取り上げ番号毎に、それぞれの破片数をカウントした。また、産地・時期が判別でき、遺構や土層の性格が判断できるもの等について抽出し、実測・写真撮影に耐えられるよう、破損箇所に樹脂を充填して補強・復元を行った。金属製品等は付着している泥土や鏽を落とし、陶磁器類と同様に分類・カウント・抽出を実施した。各種データは FileMaker 社 FileMaker Pro を利用したデータベースを構築し、業務進捗情報とあわせて一元管理を行った。

抽出遺物については、それぞれ、種別ごとに登録し、実測・デジタルトレースによる遺物図作成及び写真撮影を行い遺物観察表を作成した。

遺構についても現場で計測・作成された遺構図面を確認し、検出面・堆積土・出土遺物等を確認して、その帰属年代、性格を検討し、遺構図の作成を行った。

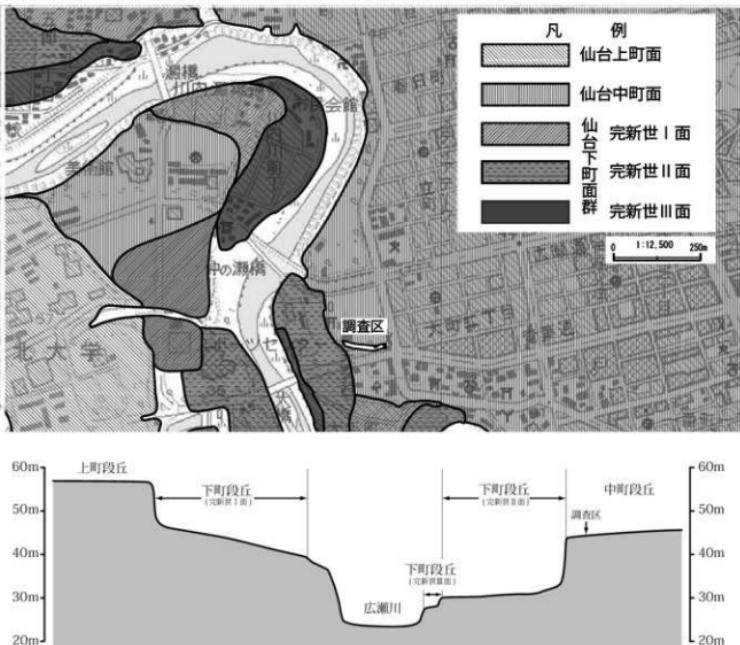
第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

桜ヶ岡公園遺跡は、広瀬川が形成した河岸段丘・仙台中町面上に位置し、現状は仙台市青葉区桜ヶ岡公園地内に所在する。周辺は、西側に標高差約10mをはかる仲の町崖があり、その崖線下から広瀬川まで仙台下町面群(完新世II面～完新世III面)が連続する。

広瀬川の形成した河岸段丘は上位より青葉山面群・台ノ原面・仙台上町面・仙台中町面・仙台下町面(完新世I面～III面)の順に7面に区分される。各段丘面の形成時期は、年代測定結果によると、それぞれ、台ノ原面:約10万年前、仙台上町面:約2.6万年前、仙台中町面:約1.6万年前、仙台下町面(完新世I面):約9100～9500年前、仙台下町面(完新世II面):約2010年前とされている。また、仙台下町面(完新世III面)の形成時期については完新世II面の形成から近世期の間に形成されたものと考えられる。(松本・熊谷2010)

桜ヶ岡公園遺跡の位置する中町段丘は、広瀬川が大きく蛇行する渡橋付近の北西から南東方向へ広がる。調査区の標高は約43m～45mで、西側の仲の町崖にむかって緩やかに傾斜している。



第2図 河岸段丘分布図・断面模式図(松本・熊谷2010の図を一部改変して使用した)

第2節 歴史的環境

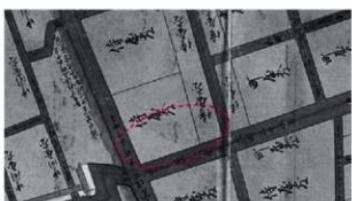
1 近世から近代

桜ヶ岡公園遺跡は、西公園通り、広瀬川、大町通り、仙台市民会館に囲まれた範囲である。今回の調査地点は桜ヶ岡公園遺跡の南東部、仙台市天文台跡地および大町交差点北西側の広場付近にある。当遺跡は仙台城本丸（第6図-4）から広瀬川を挟んで北東に約850m、二ノ丸から東北東約700mに位置しており、標高は約43m～45mである。川内A遺跡（第6図-2）、川内B遺跡（第6図-3）等と同様の仙台藩家臣の武家屋敷遺跡である。

慶長5年に伊達宗が、仙台城の縄張り、城下の町割を行い、それ以前は原野だったと考えられる当該地域は武家屋敷として使われるようになった。また、仙台市天文台の西側、崖下の旧市民プールの周辺は中間・御小人屋敷が立ち並び、また、御作事方会所・御紙蔵などの藩施設にあてられた。

仙台城関連の絵図資料等から、本調査区のおおよその変遷を概観する。正保2・3年（1645・1646）の「奥州仙台城下絵図」（第3図-1）では「侍屋敷」と記されており、仙台城周辺の屋敷割の段階で、武家地に割り当てたことが推測される。寛文4年（1664）の「仙台城下絵図」（第3図-2）では、片倉小十郎（一家：1万8000石）の屋敷地となっている。寛文4年の片倉家は三代景長が家督を継いでおり、絵図の片倉小十郎は景長のことと指すと思われる。なお、延宝9年～天和年間（1681～1683）の「仙台城下絵図」（第3図-3）以降では広瀬川の右岸、仙台城大手門に通じる大橋のたもとに居を移しているのが描かれている。

調査地点の北側の野球場、現在は公園として再整備されている土地には藩政時代を通して伊達成実を初代とする亘理伊達家（一門：2435貫302文）の屋敷地となっている。寛文の絵図にある伊達安房は、政宗九男で成実の養子に入った亘理伊達家2代当主の宗実の通称である。「仙台城下絵図」（第3図-3）では、津田民部（虎の間：500貫文。津田民部春康。伊達騒動で处罚された津田玄蕃の弟）、大鷗良設（召出：50貫文。四郎左衛門仲施）南十エ門（召出：37貫415文。十右衛門良重）の名が見られる。元禄4・5年（1691・1692）の「仙台城下五星掛絵図」（第

1. 正保2・3年（1645・1646）「奥州仙台城下絵図」
蓄蔵報恩会所蔵2. 寛文4年（1664）「仙台城下絵図」
宮城県図書館所蔵

3. 延宝9年～天和年間（1681～1683）「仙台城下絵図」仙台市歴史民俗資料館所蔵

4. 元禄4・5年（1691・1692）「仙台城下五星掛絵図」
蓄蔵報恩会所蔵

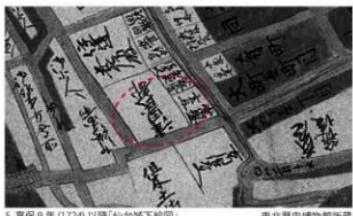
第3図 絵図（1）（○は調査区推定範囲）（高倉ほか1994・2005）

3図-4)では引き続き津田民部、大船良設、伊達安房の名のほかに猪又立順(格式不明:15貫文)が居している。享保9年(1724)の「仙台城下絵図」(第4図-5)では津田民部、伊達安房のほか、常磐玄与(内科医:150俵。玄與定貞。互理氏家臣の大内縫殿の次男玄椿素行は、医学を岡本玄治に学び、玄與はその2代目となる。)の名が見られる。宝曆10~明和3年(1760~1766)「仙台城下絵図」(第4図-6)では津田民部の名がなくなり、古内要人(着座:704貫223文。要人広富)の名が現れ、これ以降初代岩沼市長を務める古内広直まで古内家が当地を拝領することになる。また、佐藤平八郎の名があるが詳細は不明である。天明6~寛政元年(1781~1789)の「仙台城下絵図」(第4図-7)では古内要人の名が見られるが、古内屋敷の東側は空き地となっている。

安政3~6年(1856~1859)の「安政補正改革仙府絵図」(第4図-8)では古内左近介(左近之介広直:戊辰戦争後中嶋屋敷に移り、岩沼町長、初代岩沼市長を勤める)、大内縫殿(一族:139貫777文。縫殿義門。慶邦奉行を務める)、伊達藤五郎(13代藤五郎邦実もしくは14代邦成と思われる)が、当地を拝領していたようである。

2 近代から現代

戊辰戦争後の版籍奉還に伴い、武家地は新政府に没収され、当屋敷地は広瀬川を見下ろす景勝地として桜岡大神宮、芝居小屋などが設置されていく。その後、明治6年(1873)1月15日の「公園開設に関する太政官布達」によって明治8年(1875)6月に桜ヶ岡公園が開園された。公園内に建てられた主な施設として和洋料亭「抱翠館」^{抱くわいかん}が挙げられる(第5図-12)。これは、明治19年(1886)に針生惣助により建てられたとされている。「抱翠館」は仙台の西洋文化の中心的な施設の一つであったと考えられ、板垣退助や尾崎行雄などの著名人の演説会が、催されたという記録も残っている。なお、「抱翠館」は、明治42年(1909)には仙台市が買収し、公会堂の一部としたが、昭和20年(1945)の仙台大空襲で焼失している。また、昭和3年(1928)には、当地が仙台市商工会主催による「東北産業博覧会」の会場となり、多くのパビリオンが設けられた(第5図-13)。昭和30年(1955)には市民からの寄付により、仙台市天文台が開台した。翌年に仙台市に寄贈され市の施設となった。この仙台市天文台は、平成20年(2008)東西線建設事業により解体・撤去され50年の歴史に幕を閉じた。



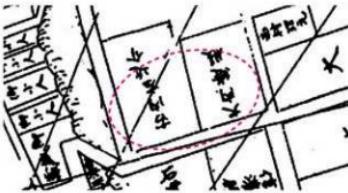
5.享保9年(1724)以降「仙台城下絵図」 東北歴史博物館所蔵



6.宝曆10~明和3年(1760~1766)「仙台城下絵図」 斎藤報恩会所蔵



7.天明6~寛政元年(1781~1789)「仙台城下絵図」 仙台市博物館所蔵



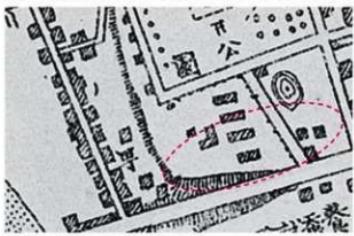
8.安政3~6年(1856~1859)「安政補正改革仙府絵図」 (戦災消失)

第4図 絵図 (2)(○)は調査区推定範囲 (高倉ほか1994・2005)

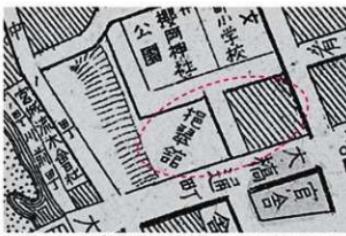
第2節 歴史的環境

3 これまでの発掘調査

本調査区から北側に約60m離れた野球場（第1図）と、その周辺では、桜ヶ岡公園遺跡2次調査（仙台市2007b）、3次調査（仙台市2008）、4次調査（仙台市2010）が行われている。それぞれの調査とも、調査面積が狭く、搅乱により削平されている箇所も多いため、明確に近世といえる遺構の検出は乏しい。そのため、両調査とも遺跡の全体像の把握までには至っていないが、注目すべき点として、2次調査の11トレンチと16トレンチで検出した2基の礎石が示す礎石建物の可能性と、3次調査の調査区No 21における陶磁器、土師質土器、瓦質土器、銅製品、ベッ甲製品等、多種多様な遺物の出土等があげられる。各調査区出土の遺物の帰属年代は16世紀末～19世紀（幕末）を示しており、遺物の数量比から、主体となる年代は、ともに、18～19世紀代と考えられる。なお、これら調査区のある野球場と、その周辺は前述の伊達安房の拝領地にあたり、遺構と遺物はそれに関連する可能性がある。既調査の出土遺物の年代、武家屋敷地の屋敷割などの成果は、本調査区を含めた近世の桜ヶ岡公園周辺の景観復元を行うにあたり重要な資料といえよう。



11. 明治 15 年(1882)「堀塙區及近傍村落之圖」
仙台市博物館所蔵

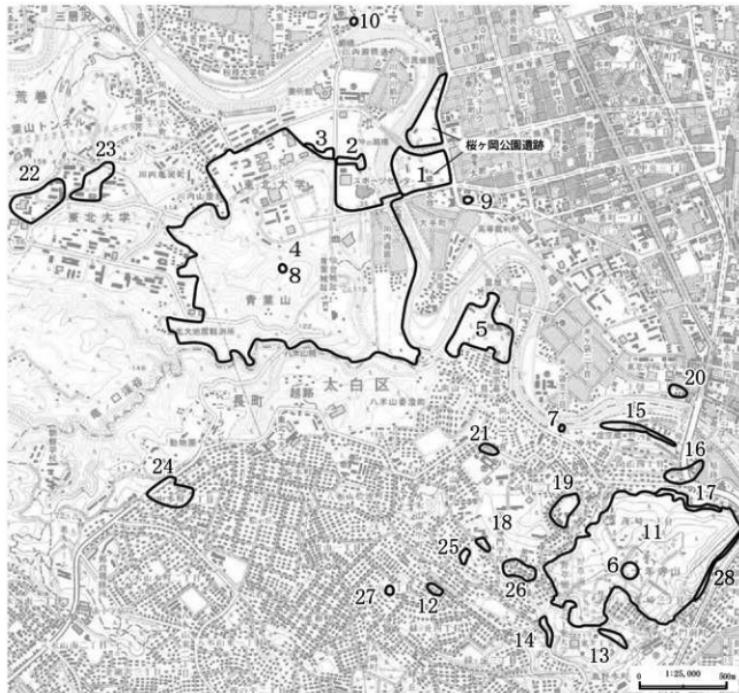


12. 明治 33 年(1900)「最近實測仙臺市街全圖」
仙台「雅華文庫」所蔵



13. 大正 3 年(1914)「東北博覽會圖」
宮城県図書館所蔵

第5図 絵図(3) (赤枠は調査区推定範囲) (高倉ほか 1994・2005)



第6図 周辺遺跡分布図

番号	遺跡名称	時代	所在地	性格
1	桜ヶ岡公園遺跡	縄文・近世	青葉区桜ヶ岡公園	式古墳・散在地
2	川内A遺跡	縄文・近世	青葉区青葉山1丁目	式古墳・散在地
3	川内B遺跡	縄文・近世	青葉区青葉山	式古墳
4	仙台城跡	中世・近世	青葉区川崎・荒巻	城跡
5	綱ヶ峯(伊達家邸跡)	近世	青葉区綱ヶ峰下	邸跡
6	大年寺跡	近世	太白区大年寺1丁目	寺所
7	猿體寺跡	中世	青葉区山崎2丁目	仏寺跡
8	川内古神社	中世	青葉区川内・荒巻	神社跡
9	平城天大神宮の板碑	中世	青葉区片平1丁目	板碑
10	源千利春文永8年板碑	中世	青葉区弘明町	板碑
11	浅ヶ崎跡	中世	太白区浅ヶ崎・崎1丁目	城跡跡
12	西山二丁目遺跡	奈良・平安	太白区西山2丁目	散在地
13	深ヶ崎穴室跡	古墳・奈良	太白区二丁目	穴室墓
14	二ツ古墳穴室跡A地点	古墳	太白区二丁目	穴室墓
15	愛宕山櫛穴室跡A地点	古墳	太白区愛宕山4丁目他	穴室墓

番号	遺跡名称	時代	所在地	性格
16	愛宕山櫛穴室跡B・C地	古墳・奈良	太白区愛宕山4丁目他	櫛穴墓
17	大年寺山櫛穴墓跡	古墳	太白区大年寺4丁目	櫛穴墓
18	八木山櫛穴道跡	弥生・奈良・平安	太白区八木山4丁目	集落跡
19	綱ヶ丘遺跡	縄文・奈良・平安	太白区綱ヶ丘2丁目	散在地
20	土塹遺跡	縄文	青葉区土塹1丁目	散在地
21	向山島夷遺跡	縄文中期	太白区向山島夷	散在地
22	青葉山B遺跡	縄文・中・晚・弥生・平安	青葉区荒巻字青葉	包合地
23	青葉山D遺跡	縄文・中・弥生・奈良・平安	青葉区荒巻字青葉	包合地
24	綱ヶ丘遺跡	縄文	太白区八木山本町1丁目	散在地
25	二ツ沢遺跡	縄文	太白区八木山2丁目	散在地
26	綱ヶ丘B遺跡	縄文	太白区綱ヶ丘2丁目	散在地
27	西山二丁目B遺跡	古石器・縄文	太白区西山2丁目	散在地
28	杉手手	近世	太白区茂戸3丁目他	廻陣土手

第1表 遺跡地名表

第3章 調査方法

第1節 調査方法

1 現地調査

掘削作業は、公園に植栽されていた桜の伐採作業終了の後、現地表である公園広場の盛土層（1層）を重機で除去し、以下は人力掘削にて調査を実施した。調査は作業工程上3地区に分け、それぞれの調査区を、交番部、大銀杏部、トンネル駅部と呼称した（第7図）。

計測作業は、日本測地系座標に基づいて設置された基準点から、今回調査に使用可能な位置に新点を設置し、グリッドの設定及び、遺構の計測・遺物出土地点の計測を行った。使用機材はトータルステーション:TOPCON社GPT7000、電子平板:福井コンピュータ社 BlueTrend Vを使用し、必要に応じてクラボウ社製の三次元写真計測システム:KuravesGを使用して図面の作成を実施した。

写真撮影は、作業開始前、遺構検出状況、土層断面、遺物出土状況、遺構完掘状況、全景写真を35mm一眼レフカメラを使用してカラーリバーサル及びモノクロの2種類のフィルムで撮影した。また、補助として500万画素以上のデジタルカメラで、調査写真と同一カットのほか、作業状況等を撮影し、調査日誌に添付するなどして日々変化する遺跡の状況を記録した。また、調査区の全景撮影は遺構検出状況及び完掘状況を、20mの高所作業車を使用して撮影を行った。

2 整理作業

出土遺物は、調査区毎に1番から取り上げ番号を付し、遺物カードに調査区・出土地点（グリッド・遺構No.）・層位・内容・出土年月日等の情報を記載した。

整理作業では、出土遺物を水洗し十分乾燥させた後、遺物カードの内容を注記し、接合を行った。注記の内容は、遺跡番号(01562)・調査次数(1)・調査区略号(1:交番部 2:大銀杏部 3:駅部I区 4:駅部II区)・出土地点(遺構名)・取り上げ番号の順に記載した。破片の接合には、セメダインC及びパラロイドB72を使用した。接合作業後、遺物の器種、産地等を分類しながら破片数を数え、出土遺構や土層の性格を判断できる主要遺物を抽出し、遺物の登録を実施した。欠損部の充填・復元が必要なものは、プライトン、モビニール、エレホン等の樹脂を用いた。遺物写真は、1000万画素級のデジタル一眼レフカメラを用いて、正面のほか、見込み、高台内文様等必要に応じて数方向からの撮影を実施した。遺物実測は、外形及び断面を從来手法で実測し、デジタルトレースする際に、並行してオルソイメージャー(完全正射影・深焦点撮影システム)を使用して得られた、染付や文様等を画像処理して重ね合わせ、遺物図を作成した。遺物のデジタルトレース及び編集にはAdobe社製Illustratorを、画像処理には同社のPhotoShopを使用した。

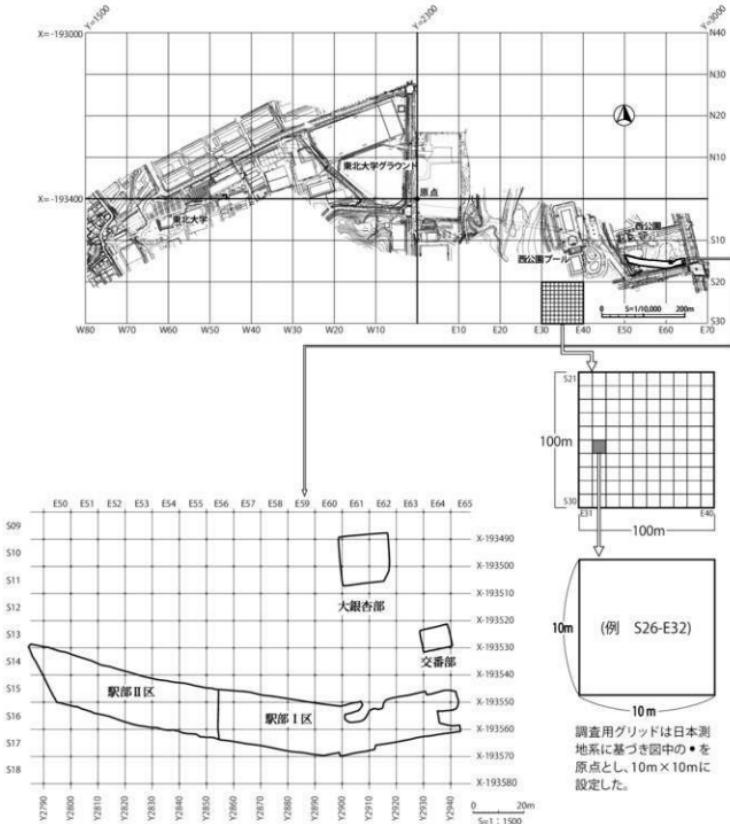
遺構平面図・断面図は、現場で計測・描画した図面データをAdobe社製Illustratorで編集・調整を行い作成した。また、遺構・遺物の図版、写真図版のレイアウト及び報告書の編集作業にはAdobe社製InDesignを使用した。

3 遺構名称について

遺構番号は調査区毎・遺構種別毎に検出順に1番から通し番号を付した。遺構の種類を表す略号は凡例に示したとおりである。

第2節 調査区グリッドの設定

高速鉄道東西線計画路線に係わる青葉山地区、川内地区、西公園地区の全域を網羅するグリッドが既に設定されており、今回の調査もそのグリッドに準拠して調査を実施した。日本測地系 X=-193400m, Y=2300m の座標点を原点として、10m 単位の方眼を設定し、東西南北それぞれの方向へ E1・S2・N1・N2 というように方位記号と番号を付した。S-N 方向の番号と E-W 方向の番号 2つを組み合わせ、N1-W6 といったようなグリッド名とした。



第7図 グリッド設定図

第4章 基本層序

基本層序は、大別でⅠ～Ⅵの6層、細別では13層が確認された。

Ⅰ層は、桜ヶ岡公園の造成時に盛上された客土と空襲の焦土や瓦礫を含む層で2層に細別される。Ⅰ a層はオリーブ褐色の砂質シルトからなる桜ヶ岡公園の戦後に造成された客土である。調査区の東側にかけて堆積し、層厚は10～30cmを測る。上面は現代の造成工事により大幅に削平されている箇所がみられる。Ⅰ b層はオリーブ褐色の砂質シルト層からなり、レンガ、コンクリート片、ガラス片、鉄屑、炭化物などを多量に含む。出土した遺物の年代等から戦前に盛土・整地された層と考えられる。Ⅰ a層と同様に調査区の東側にかけて堆積し、層厚は20～40cmを測る。

Ⅱ層は、近世(18世紀中頃～19世紀初頭)の盛土・整地層と考えられる層である。黒褐色の砂質シルト層で、繊維・炭化物(径0.5～1cm)を少量含む。調査区の全域に堆積しているが、例外的に調査区中央部は近代以降の著しい削平を受けており、これの堆積を確認することはできなかった。層厚は5～45cmを測る。

Ⅲ層は、近世(17世紀中頃～18世紀中頃)の盛土・整地層と考えられる層でa・b・cの3層に細別される。Ⅲ a層は黒色の粘土質シルト層で、まだらに暗オリーブ褐色土を少量混入し、径1cm程の小礫を含む。調査区の全域に堆積し、層厚は5～10cmを測る。Ⅲ b層はオリーブ黒色の粘土質シルト層で、径1cm程の小礫を含む。調査区の東側に堆積し、層厚は5～10cmを測る。Ⅲ c層は暗褐色の砂質シルト層で、径3～5cmの礫を少量含む。調査区の全域に堆積し、層厚は5～10cmを測る。なお、Ⅲ層は屋敷地開発に伴う樹木等の抜根の際に生じた凹凸を平らに整地する層としても考えることができる。

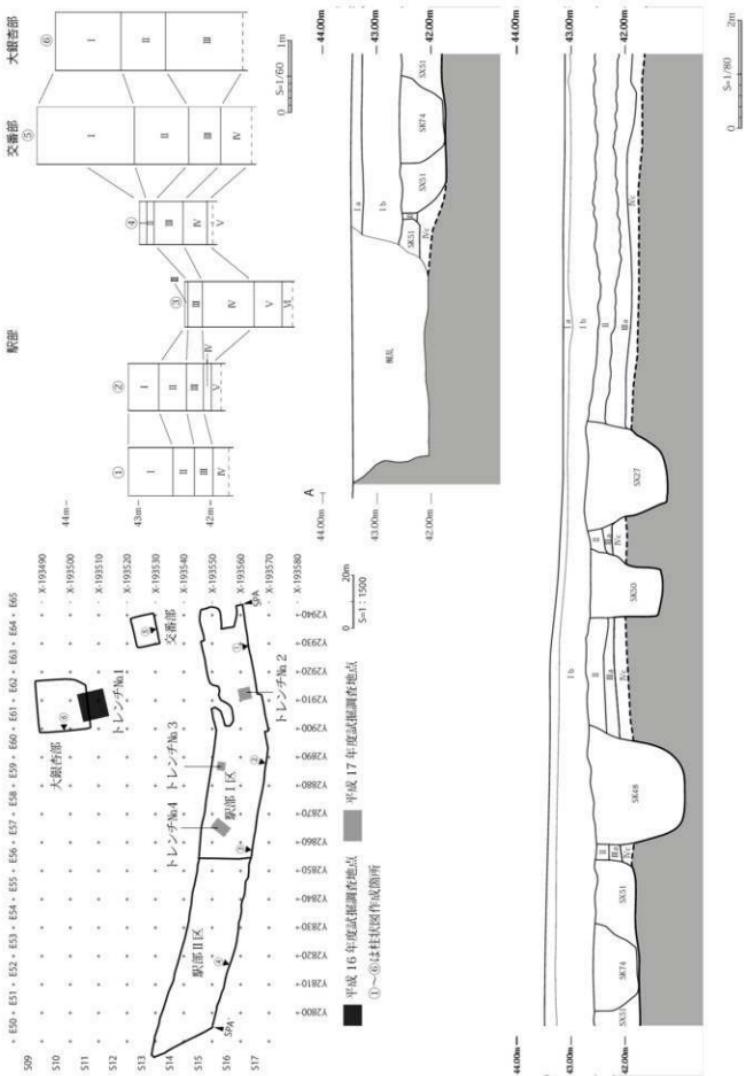
Ⅳ層は、自然堆積層でa・b・c・dの4層に細別される。Ⅳ a層は青黒色の粘土質シルト層で小礫を含む。調査区の東半分に堆積し、層厚は5～25cmを測る。Ⅳ b層は黒色の粘土質シルト層で小礫を含む。調査区の東半分に堆積し、層厚は10～25cmを測る。Ⅳ c層は黒色の粘土質シルト層で少量の纖維、磨耗が著しく、型式が判別不能な縄文土器の細片、石器(剥片)、被熱した礫を含む。Ⅳ d層は黒褐色の粘土質シルト層で、Ⅳ c層の土がまだらに混在する。V層との漸層層と考えられる。

V層は、自然堆積層で所謂、ローム層である。これは、2層に細分される。V a層は暗褐色の粘土質シルト層で1～3mmの砂粒を微量に含む。調査区の東半分に堆積し、層厚は20～30cmを測る。V b層は暗褐色の砂質シルト層で1mm程度の砂粒を多量に含む。調査区の東端部周辺で、標高が低い箇所にのみ堆積する。層厚は5cm～20cmを測る。

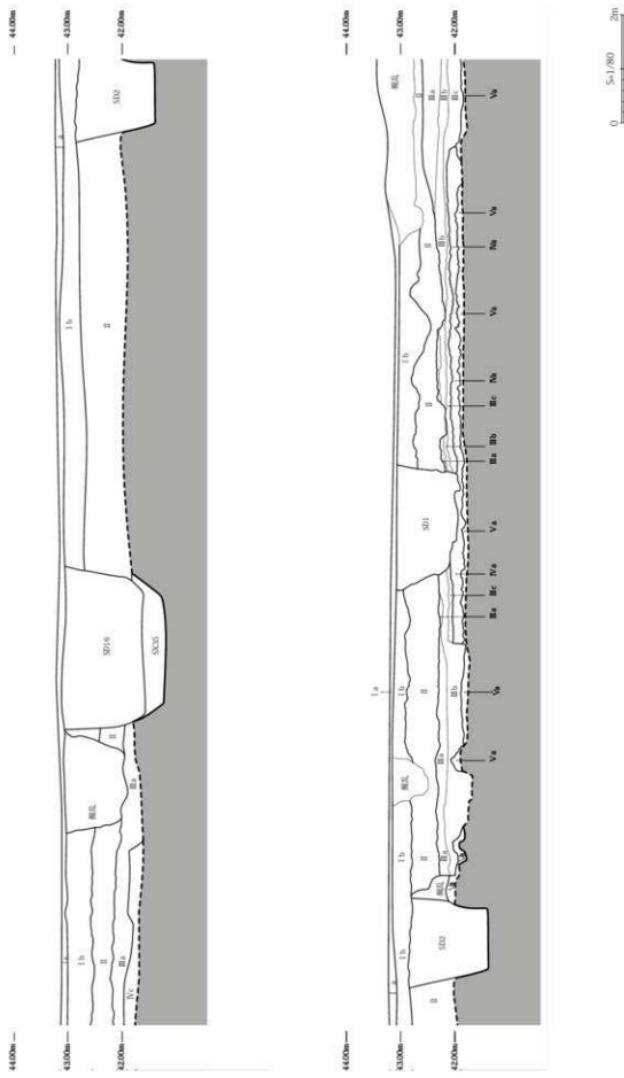
VI層は、自然堆積層としての段丘疊層である。径5～10cmの礫で構成される。調査区全域に堆積している。重機による基本層の断割り確認で2m以上の層厚を確認したが、掘り抜くことは出来なかった。

番号	土色	土質	粘性	しまり	備考
Ⅰ a	2.5Y4/4 オリーブ褐色	砂質シルト	なし	なし	瓦礫・レンガ等多量、現代盛土層。
Ⅰ b	2.5Y4/4 オリーブ褐色	砂質シルト	なし	なし	瓦礫・レンガ等多量、近代盛土層、焼土含む。
Ⅱ	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	なし	あり	径5～10mmの炭化物多量、径1～2cm程度の礫少量。
Ⅲ a	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	あり	あり	2.5Y3/3暗オリーブ褐色まだらに含む、シルト粒少量、径1cm程の小礫を含む
Ⅲ b	5Y2/2 オリーブ黒色	粘土質シルト	あり	あり	径5～10mmの2.5Y3/3暗オリーブ褐色、シルト粒多量、径1cm程の小礫を含む
Ⅲ c	10YR3/3 細褐色	砂質シルト	あり	あり	2.5Y2/1 黑色シルトとの混合層、径3～5cmの礫を少量含む
Ⅳ a	5P82/1 青黒色	粘土質シルト	あり	あり	径1mm以下の10YR3/3暗褐色シルト粒極少量、粘性強。
Ⅳ b	7.5YR2/1 黒色	粘土質シルト	あり	あり	10YR2/1 黑色シルト層、粘性強。
Ⅳ c	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	あり	あり	径1mm以下の10YR3/3暗褐色シルト粒極少量、粘性強。
Ⅳ d	10YR2/1 黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	10YR3/3暗褐色粘土質シルトが底辺に認める層。
V a	10YR3/3 細褐色	粘土質シルト	あり	あり	径1～3mmの砂、小礫少量、白色シルト粒少量。
V b	10YR3/4 細褐色	砂質シルト	なし	なし	径1mmの砂粒主体の層。
VI	10YR3/4 細褐色	礫層	なし	なし	段丘疊層、径5～10cmの礫多量、低位では径10～50cmの礫多量。

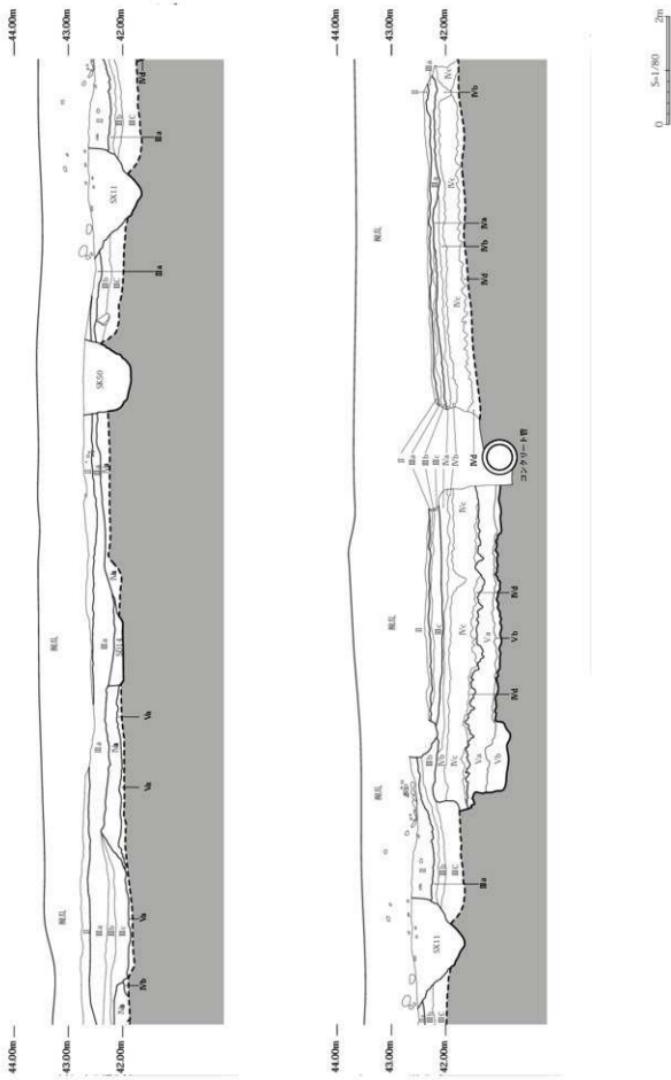
第2表 調査区基本土層注記表



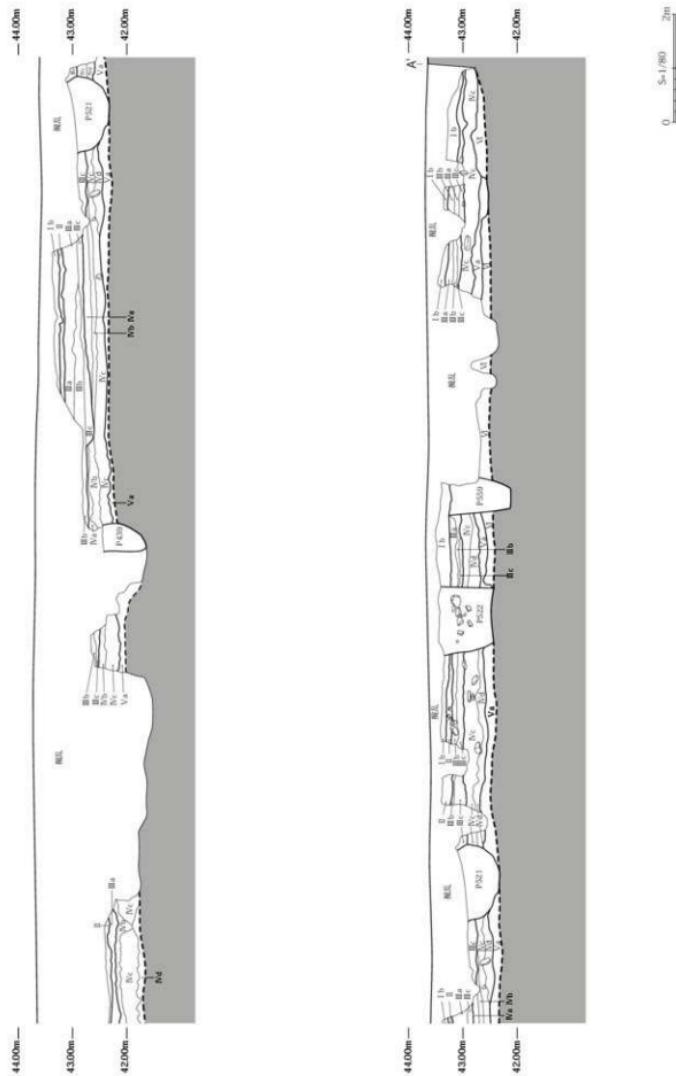
第8図 土層断面図作成位置図・柱状図・基本土層図(1)



第9図 基本土層図(2)



第10図 基本土層図(3)



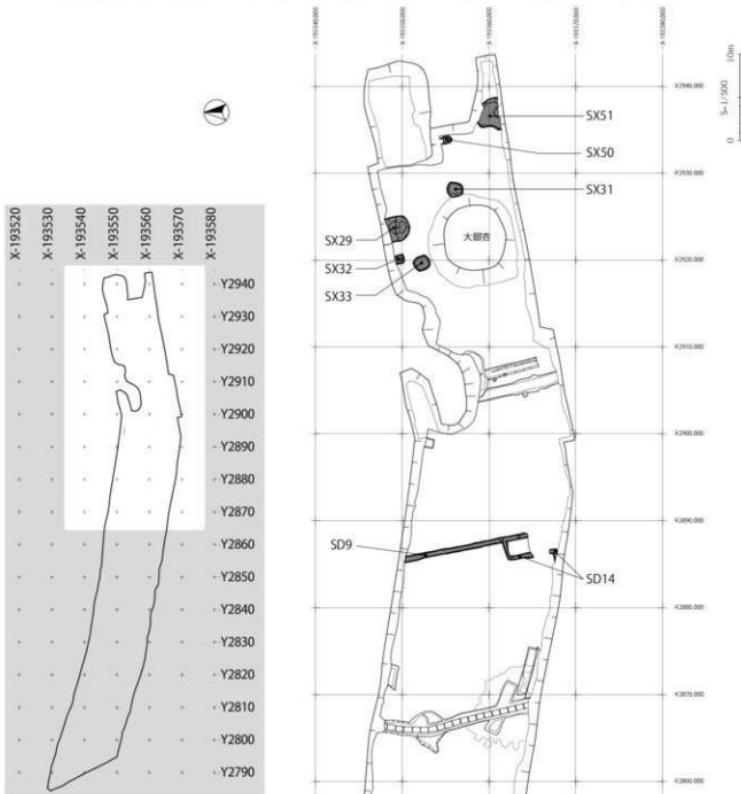
第11図 基本土層図(4)

第5章 検出遺構と遺物

第1節 駅部

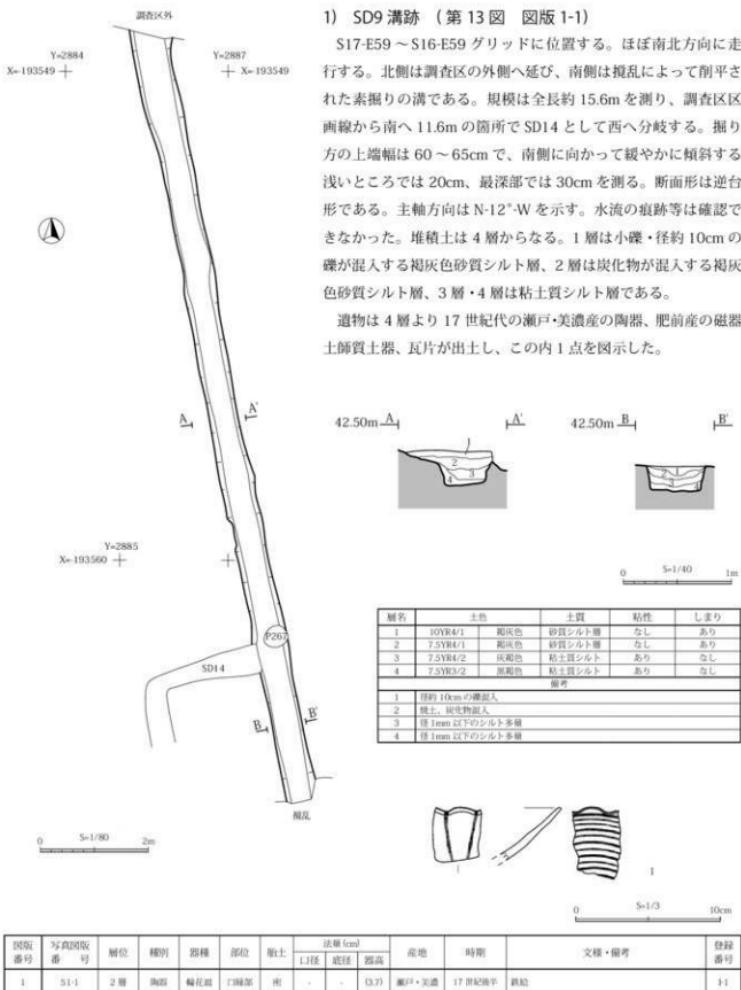
1 IV a 層上面検出遺構

IV a 層上面で検出された遺構は、溝が2条、性格不明遺構が6基である。IV a 層は自然堆積層で、本遺跡の遺構検出面としては最下面である。検出した遺構は性格不明のものが大半でⅢ a 層で検出した掘立柱建物跡などはみられない。検出面は著しく凹凸がみられる。また、遺構から出土した遺物は17世紀代のものが多い。



第12図 IV a 層上面遺構配置図

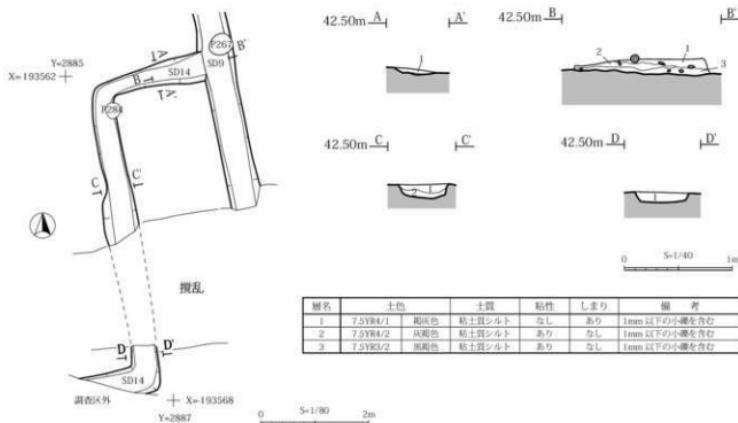
(1) 溝跡



第13図 SD9溝跡平面図・断面図・出土遺物

2) SD14溝跡 (第14図 図版1-2)

S16-E59～S17-E59 グリッドに位置する。クランク状を呈する素掘りの溝である。南側を一部擾乱によって寸断される。規模は全長約 9.2m を測り、上端幅は 45～60cm で、深さは 10cm を測る。SD9 から分岐し、西方向へ 2m 進んだ箇所で南方向へ 90 度折れ曲がり、SD9 と並走しながら南方向に 5.6m 進んだ箇所で、さらに西方向に 90 度屈折し、調査区外へ延びる。底面は平坦なし、壁面は緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。主軸方向は N-10°-W を示す。水流の痕跡は確認できなかった。堆積土は、1mm 以下の小礫を少量含む粘土質シルトの 3 層からなる。遺物は出土していない。



第14図 SD14溝跡平面図・断面図

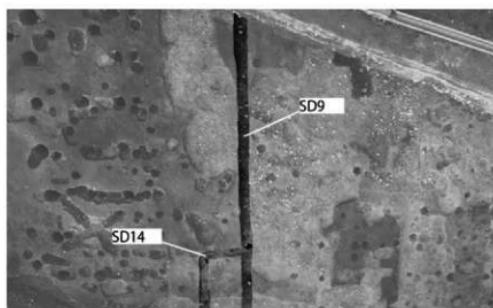


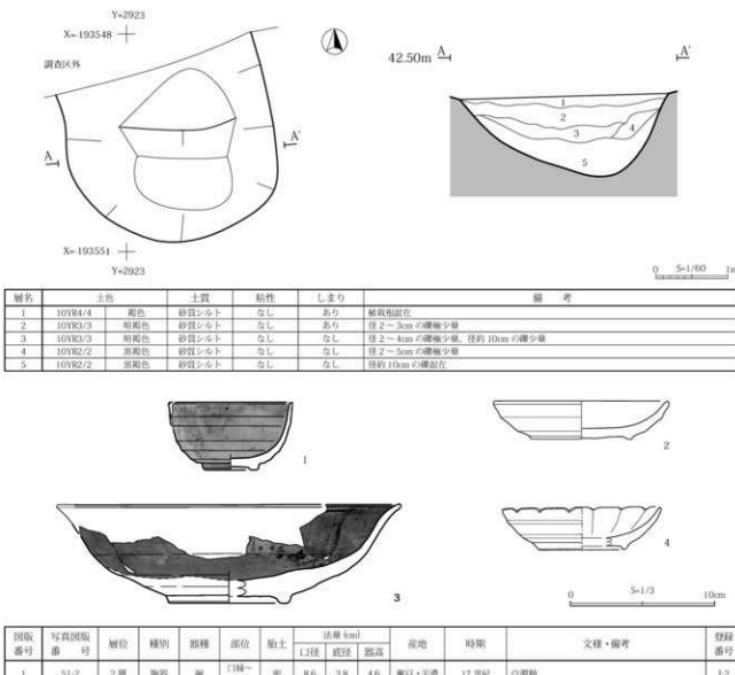
写真2 SD9 + 14 溝跡検出状況(南から)

(2) 性格不明遺構

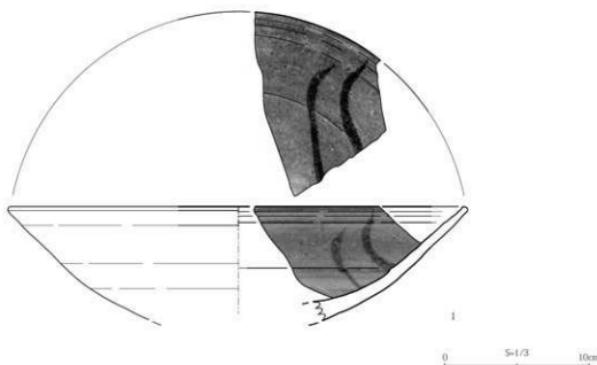
1) SX29 性格不明遺構 (第15・16図 図版1-3)

S16-E63 グリッドに位置し、北側が調査区外へ延びる。規模は長軸2.9m、短軸2.45m、深さ1.16mを測る。平面形は不明で、底面は北側がテラス状になり、断面形は開いたU字状を呈する。壁面は、南側から北側にかけて緩やかに立ち上がる。堆積土はいずれも砂質シルト層で5層からなる。1層は植物根が混入した層、2層は径2~3cmの礫を少量含む層、3層は径2~10cmの礫を少量含む層、4層は径2~5cmの礫を少量含む層、5層は径約10cmの礫を少量含む層である。

遺物は2~3層より17世紀代の瀬戸・美濃産および唐津産の陶器、17世紀~18世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片が出土し、この内5点を図示した。



第15図 SX29性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物(1)



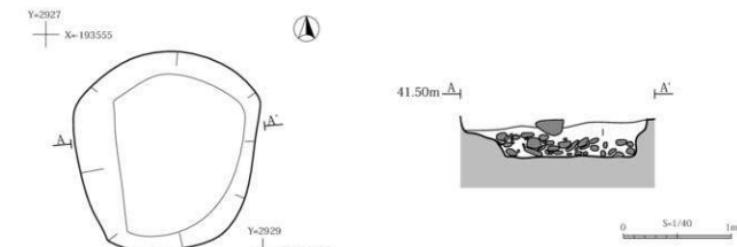
図版番号	写真図版番号	層位	種別	面種	部位	胎土	法線(cm)		産地	時期	文様・備考	登録番号	
							上径	底径	高さ				
1	51-3	3層	陶器	皿	口縁一部 底部	泥	131.80	111.69	17.99	鹿洋	17世紀	鉄鉢？草文	16

第16図 SX29 性格不明遺構出土遺物(2)

2) SX31 性格不明遺構 (第17~19図 図版1-4)

S13-E63グリッド、大銀杏東側の根元に位置する。規模は、長軸 1.83m、短軸 1.7m、深さ 33cm を測る。平面形は主軸方向 N-5°-W を示す楕円形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は暗褐色粘土質シルトからなり、人為的に埋められたものと考えられる。堆積土中には多量の自然礫が確認された。自然礫の寸法は長軸 10~25cm、幅 5~10cm、厚さ 10~15cm の扁平なものである。

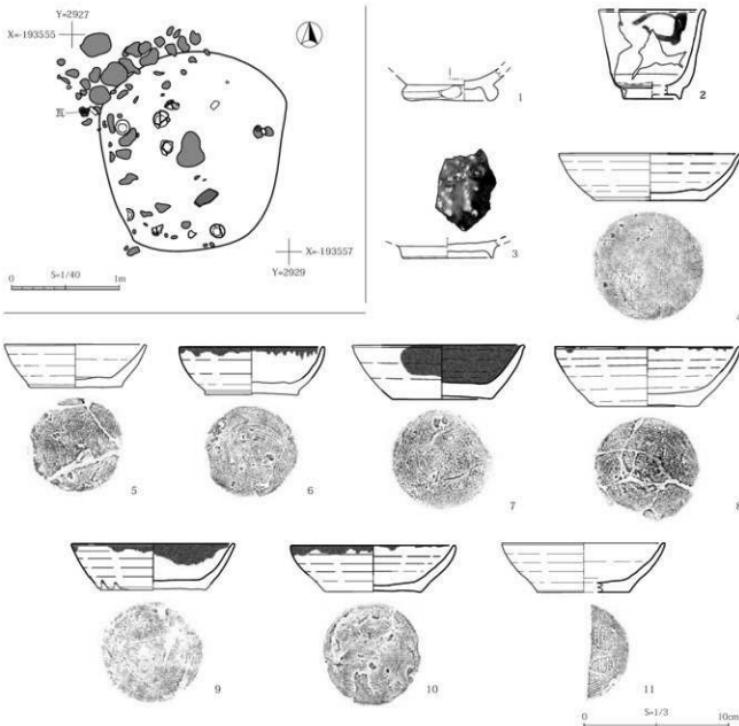
遺物は17世紀代の瀬戸・美濃産の陶器、17世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、軒丸瓦片、水晶片、在地産の瓦質土器の小片が出土し、この内 14 点を図示した。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR5/3	暗褐色	粘土質シルト	あり	あり 上部: 細 1~2cm の礫多量 下部: 細 10~20cm の礫多量

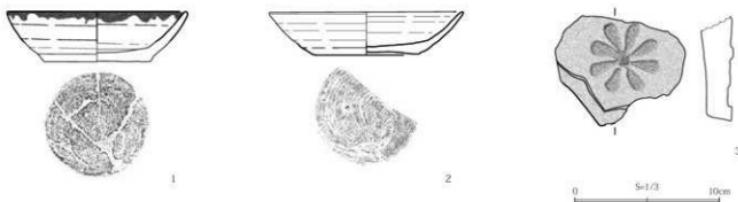
第17図 SX31 性格不明遺構平面図・断面図

第1節 駅部



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	断土	法量(cm)			产地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	51-7	2層	陶器	碗	全体～底部	未	5.8	(2.3)	栗戸・美濃	17世紀後半			17
2	51-8	2層	陶器	瓶	口縁～底部	未	7.4	4	16.2	栗戸・美濃	17世紀後半	鉢足	18
3	51-9	2層	陶器	皿	底部	未	-	6.3	(1.4)	栗戸・美濃	17世紀後半	縹緹模	19
4	51-12	2層	土師器	土器	かわらけ	口縁～底部	12.7	7.5	3.3	在地	17世紀?		I-216
5	52-8	2層	土師器	土器	かわらけ	口縁～底部	9.8	6.5	3	在地	17世紀?		I-217
6	52-3	2層	土師器	土器	かわらけ	口縁～底部	10	6.5	3.4	在地	17世紀?	油煙付器	I-218
7	52-9	2層	土師器	土器	かわらけ	口縁～底部	12	7	3.8	在地	17世紀?	油煙付器	I-219
8	52-7	2層	土師器	土器	かわらけ	口縁～底部	13.1	7.1	4.2	在地	17世紀?	油煙付器	I-220
9	52-2	2層	土師器	土器	かわらけ	口縁～底部	11.4	7.2	3.2	在地	17世紀?	油煙付器	I-221
10	52-1	2層	土師器	土器	かわらけ	口縁～底部	11.5	6.5	3.2	在地	17世紀?	油煙付器	I-222
11	51-10	2層	土師器	土器	かわらけ	口縁～底部	11.3	6.9	3.4	在地	17世紀?		I-223

第18図 SX31 性格不明遺構遺物出土状況・出土遺物(1)



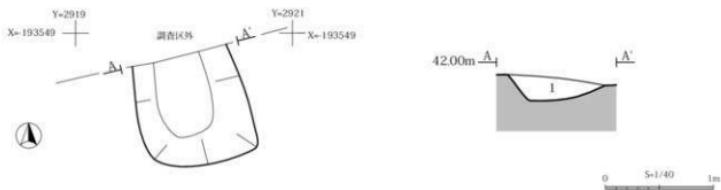
図版番号	写真図版番号	層位	種類	器種	部位	胎土	法線(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	52-4	2層	土師質土器	かわらけ	体部～底部	陶	7.4	12.6	3.5	在地	17世紀	油煙付着	I-224
2	53-1	2層	土師質土器	かわらけ	口縁～底部	陶	7.3	13.5	3	在地	17世紀		I-225
<hr/>													
図版番号	写真図版番号	層位	種類	器種	部位	胎土	法線(cm)			参考			登録番号
3	53-2	2層	油灰瓦				長さ	幅	厚さ				H-1
<hr/>													
長さ 24cm 幅 10.2cm 厚さ 2.4cm													

第19図 SX31 性格不明遺構出土遺物(2)

3) SX32 性格不明遺構 (第20図 図版1-5)

S16-E63 グリッドに位置し、北側が調査区の外側へ延びる。確認された規模は、長軸 1.02m、短軸 1.02m、深さ 24cm を測る。平面形は不明で、底面は外側に向かって緩やかに開き、断面形は開いた逆台形である。堆積土は暗褐色砂質シルトの単層である。

遺物は産地不明の陶器小片、土師質土器が出土し、この内 1 点を図示した。



図名	土色	土質	粘性	しまり	参考
1	10YR0/3	暗褐色	砂質シルト	なし	なし ※ 10~20cm の埋蔵層

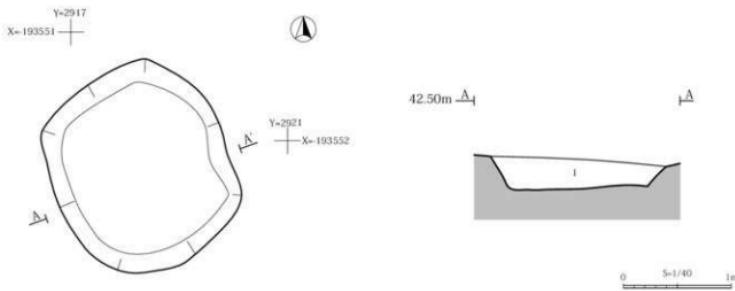


第20図 SX32 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

第1節 駅部

4) SX33 性格不明遺構（第21図 図版2-1）

S16-E63 グリッドに位置する。規模は、長軸 1.85m、短軸 1.67m、深さ 32cm を測る。平面形は主軸方向 N-30°-W を示す隅丸方形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。



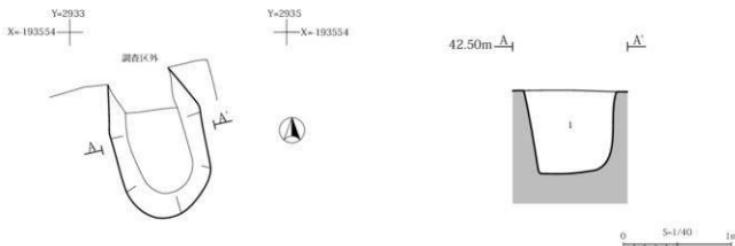
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
I	7.5YR3/2 黒褐色	砂質シルト	なし	なし	厚2~3cmの漂礫少級、骨土和輪微弱

第21図 SX33 性格不明遺構平面図・断面図

5) SX50 性格不明遺構（第22図 図版2-2）

S16-E64 グリッドに位置する。北側が調査区外へ延びる。規模は、長軸 1m、短軸 86cm、深さ 76cm を測る。平面形は主軸方向 N-15°-W を示す梢円形と考えられる、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は灰褐色砂質シルトの単層である。

遺物は产地不明の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、瓦片が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



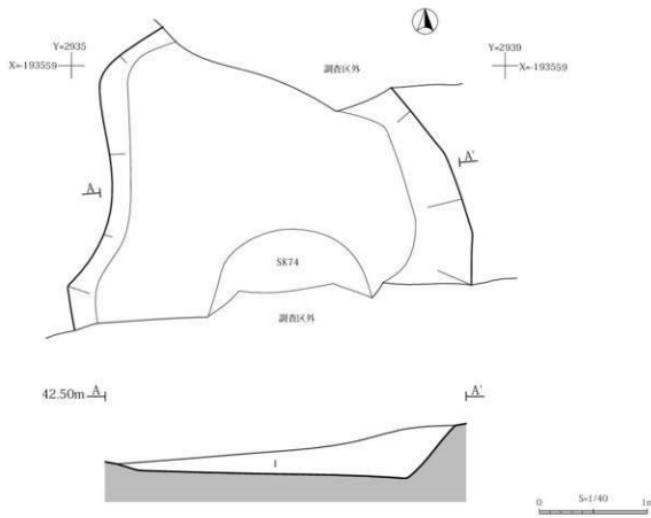
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
I	5YR5/2 灰褐色	砂質シルト	なし	あり	厚 1cm ~ 3cm の小漂石を少量含む

第22図 SX50 性格不明遺構平面図・断面図

6) SX51 性格不明遺構 (第23図 図版2-3~4)

S17-E64 グリッドに位置する。南北両側が調査区外へ延び、SK74 と重複しており、SX51 が古い。規模は、長軸 3.76m、短軸 2.7m、深さ 51cm を測る。平面形は長軸方向 N-82°E を示す不整形で、底面は平坦で、断面形は逆台形である。西壁は擾乱によって削平されているため、不明瞭である。堆積土は暗赤褐色砂質シルトの単層である。

遺物は 17世紀代の瀬戸・美濃産の陶器、土師質土器、瓦片が出土し、この内 2 点を図示した。



図版番号	写真版番号	層位	種別	鉢種	部位	胎土	法面(cm)	产地	時期	文様・備考	登録番号
1	SYR01/2	1層	陶器	かわらけ	底部	泥	- 3.4	(1.3)	在地	不明	1-10
2	SYR01/7	1層	陶器	鉢	底面	泥	-	(3.3)	瀬戸・美濃	17世紀前半 内面無地	1-11

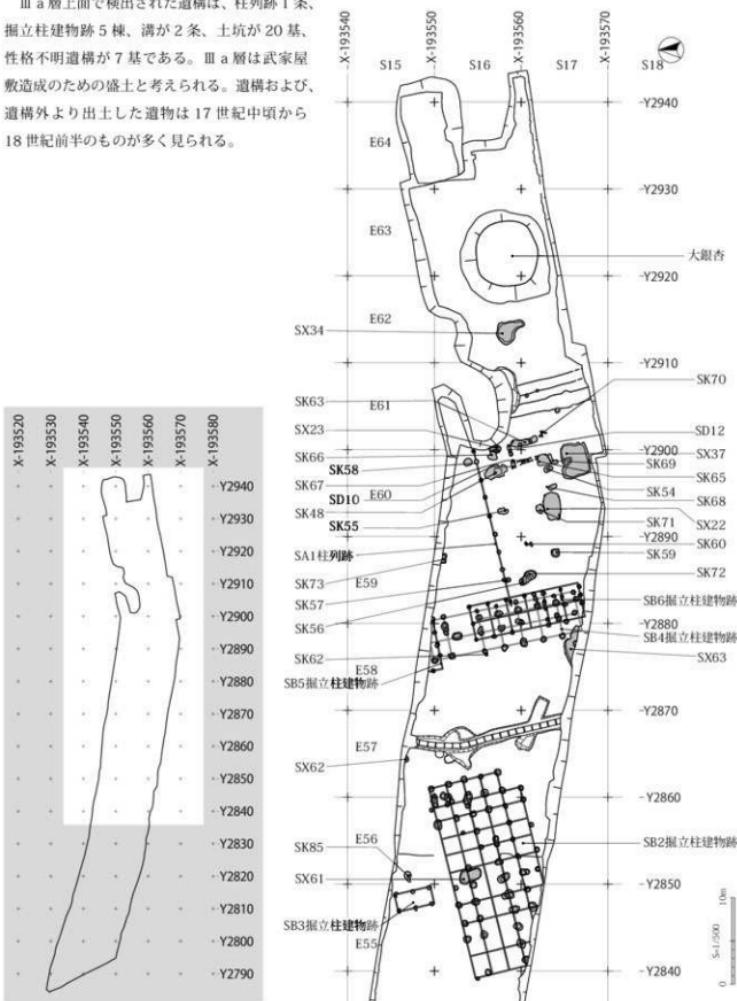


第23図 SX51 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

第1節 駅部

2 III a層上面検出遺構とIII層出土遺物

III a層上面で検出された遺構は、柱列跡1条、掘立柱建物跡5棟、溝が2条、土坑が20基、性格不明遺構が7基である。III a層は武家屋敷造成のための盛土と考えられる。遺構および、遺構外より出土した遺物は17世紀中頃から18世紀前半のものが多く見られる。



第24図 III層上面遺構配置図

(1) 柱列跡

1) SA1 柱列跡 (第25図 図版3-1)

S16-E59～E61 グリッドに位置する。東西方向に直線的に並ぶ9基の柱穴からなる。

規模は長さ 12.8m である。柱間寸法は西端から 3.75m(12尺4寸)・2m(6尺6寸)・2.1m(6尺9寸)・2.3m(7尺5寸)・2.2m(7尺2寸)・2.1m(6尺9寸)・2.2m(7尺2寸)・1.25m(4尺1寸)を測る。主軸方向は N-77°E を示す。東側は調査区外へ延びる可能性がある。

掘り方の規模は径 46～54cm、深さ 10～70cm を測る。各柱穴の平面形は不整円形～不整椭円形で断面形は逆台形である。柱痕は確認できなかった。堆積土はいずれも 1～3cm の小礫を含む粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。



第3表 SA1 柱穴観察表

第25図 SA1 柱列跡平面図・断面図

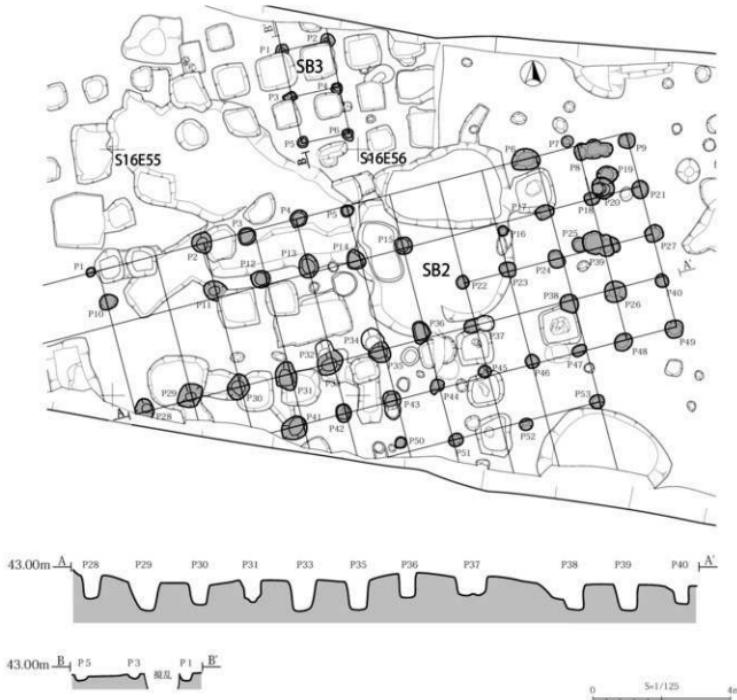
(2) 挖立柱建物跡

1) SB2 挖立柱建物跡 (第26・27図 図版3-2)

S16-E55～S17-E57グリッドに位置する。上面は近代の建物(SB1)、桜の根などにより著しく擾乱され、柱穴が部分的に失われている可能性が高いこと、及び当該遺構の南西側が調査区外に広がるため建物規模・構造の詳細は不明な部分がある。

桁行検出長21.8m(11間)、梁行検出長14m(5間)を測る東柱を有する東西棟である。柱間寸法は桁行方向、梁行方向ともに平均2.1m(6尺9寸)を測り、主軸方向はN-77°-Eである。平面形は、不整円形もしくは梢円形で、断面形は逆台形であるものが多い。各柱穴の規模は径0.4～1.17m、深さ0.08～0.87mを測る。また、柱穴脇に柱の抜取穴と考えられる痕跡を数基の柱穴で確認した。柱痕は確認できなかった。堆積土はいずれも粘土質シルトからなり径1～5mmの礫を少量含む。

遺物はP6より17世紀代の肥前産の陶器が1点出土し、これを図示した。



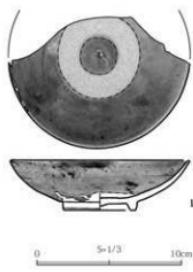
第26図 SB2・SB3 挖立柱建物跡平面図・断面図

SB2

表中の■は抜取穴が確認されたもの

PT No.	径 (m)	深さ (m)	断面形状	土色
P1	0.41	0.31	逆台形	I0YR2/2 黒褐色
P2	0.88	0.44	逆台形	I0YR2/2 黒褐色
P3	0.71	0.36	逆台形	I0YR2/1 黒褐色
P4	0.78	0.28	逆台形	2.5YR2/1 黒褐色
P5	0.53	0.21	椭円形	I0YR2/2 黑褐色
P6	1.17	0.65	逆台形	7.5YR2/2 黑褐色
P7	0.50	0.24	逆台形	7.5YR2/1 黑褐色
P8	0.79	0.32	逆台形	I0YR3/1 黑褐色
P9	0.69	0.35	逆台形	7.5YR2/1 黑褐色
P10	0.70	0.36	逆台形	7.5YR2/2 黑褐色
P11	0.85	0.74	逆台形	I0YR4/2 黄褐色
P12	0.76	0.83	逆台形	I0YR3/1 黑褐色
P13	0.96	0.82	逆台形	I0YR3/1 黑褐色
P14	0.86	0.31	逆台形	5PBR2/1 黑褐色
P15	0.70	0.36	逆台形	7.5YR2/2 黑褐色
P16	0.40	0.28	逆台形	I0YR3/3 黑褐色
P17	0.70	0.69	逆台形	5YR2/1 黑褐色
P18	0.55	0.24	椭円形	I0YR2/1 黑褐色
P19	0.88	0.24	椭円形	I0YR3/4 黑褐色
P20	0.94	0.87	逆台形	I0YR2/3 黑褐色
P21	0.75	0.24	椭円形	7.5YR2/1 黑褐色
P22	0.56	0.32	逆台形	7.5YR2/1 黑褐色
P23	0.69	0.63	逆台形	7.5YR2/1 黑褐色
P24	0.76	0.64	U字形	5YR2/1 黑褐色
P25	1.06	0.22	椭円形	2.5YR2/1 黑褐色
P26	0.89	0.56	逆台形	7.5YR2/1 黑褐色
P27	0.74	0.44	逆台形	7.5YR2/2 黑褐色
P28	0.80	0.76	逆台形	I0YR3/1 黑褐色
P29	1.01	0.68	逆台形	I0YR4/1 黑褐色
P30	1.06	0.53	逆台形	I0YR4/1 黑褐色
P31	1.17	0.71	逆台形	I0YR3/2 黑褐色
P32	0.74	0.70	逆台形	I0YR4/1 黑褐色

第4表 SB2・SB3・振立柱建物跡観察表



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法華 (cm)			高地	時期								
							L寸法	底径	底高										
I											文様・備考								
虹の日輪刻印 砂野窯											登録番号 E-12								

第27図 SB2 振立柱建物跡出土遺物

2) SB3 振立柱建物跡（第26図 図版3-2）

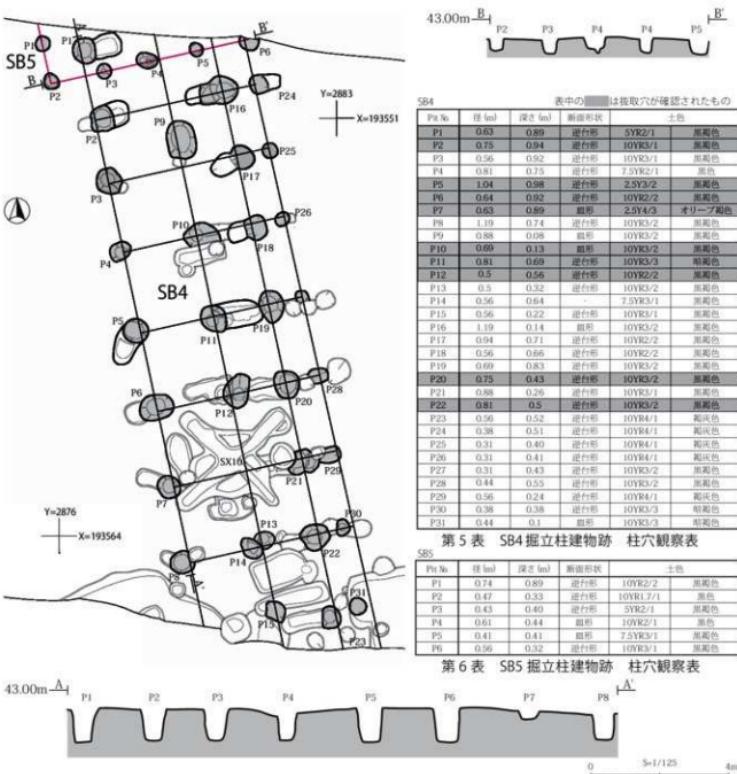
S15-E55 グリッドに位置する。当該遺構の北部が調査区外へ広がるため桁行は2間以上と考えられる。なお、建物規模・構造の詳細には不明な部分がある。

桁行検出長 3.8m(2間)、梁行総長 1.8m(1間)を測る側柱の南北棟である。柱間寸法は桁行方向、梁行方向ともに平均 1.8m を測り主軸方向は N-13°-W である。各柱穴の平面形は不整円形もしくは椭円形で断面形は逆台形である。各柱穴の規模は径 0.45 ~ 0.59m、深さ 0.11 ~ 0.25m を測る。柱痕は確認できなかった。堆積土はいずれも粘土質シルトからなり、径 1 ~ 5mm の礫を少量含む。遺物は出土していない。

3) SB4 挖立柱建物跡 (第28図 図版4-1)

S16-E58～S17-E59 グリッドに位置する。当該遺構の北部及び、南部が調査区外へ広がるため、桁行は7間以上と考えられる。なお、上記理由と柱穴の一部を他遺構に削平されている可能性もあり、建物規模の詳細には不明な点がある。

桁行検出長 17.5m(7間)、梁行総長 4.2m(2間)を測る束柱を有する南北棟で身舎の東側に廂をもつ。柱間寸法は桁行方向、梁行方向ともに平均 2.1m(6尺 9寸)、身舎の東側柱穴列と廂の各柱間寸法は平均 0.8m を測り、主軸方向は N-13°W である。各柱穴の規模は径 0.31～1.19m、深さ 0.1～0.98m を測る。また、柱穴脇に柱の抜取穴と考えられる痕跡を数基の柱穴で確認した。柱痕は確認できなかった。堆積土はいずれも粘土質シルトで径 1mm 以下の砂粒、径 1～3cm の礫を少量含む。遺物は出土していない。



第28図 SB4・SB5 挖立柱建物跡平面図・断面図

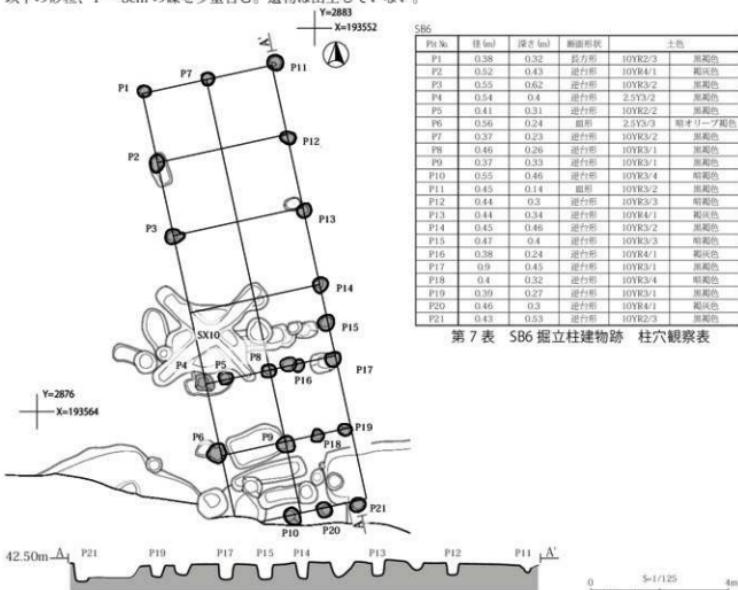
4) SB5 掘立柱建物跡（第28図 図版4-1）

S15-E58 グリッドに位置する。建物北部の大部分が調査区外へ広がるため、建物の規模・構造の詳細には不明な部分が多い。東西方向に検出長 5.7m(4間)、南北方向に検出長 1.2m(1間)を測り、柱間寸法は、南北方向平均 1.2m(約3尺9寸)、東西方向平均 1.45m(4尺7寸)を測る。各柱穴の平面形は不整円形もしくは楕円形で、断面形は逆台形であるものが多い。径 0.41 ~ 0.74m、深さ 0.32 ~ 0.89m を測る。柱痕は確認できなかった。堆積土はいずれも粘土質シルトからなり、径 1mm の以下の寸粒、径 1 ~ 3cm の礫を少量含む。遺物は出土していない。

5) SB6 掘立柱建物跡（第29図 図版4-1）

S16-E58 ~ S17-E59 グリッドに位置する。建物の南部が調査区外に広がること、及び柱穴の一部を他遺構に削平されているため桁行は 6 間以上と考えられ、建物の規模・構造の詳細には不明な部分がある。なお、SB4 と重複関係にあるが、新旧関係は不明である。桁行検出長 12.5m(6間)、梁行検出長 3.9m(2間)を測る東柱を有する南北棟である。柱間寸法は桁行方向、梁行方向とともに平均 2.1m(6尺9寸)を測る。梁行の北側から 5 ~ 7 列目にかけての桁行中央柱穴列と、東側柱穴列との間に間仕切りと考えられる柱穴(P16,P18,P20)が検出された。なお、桁行中央柱穴列及び東側柱穴列と間仕切りの柱穴列との各柱間寸法は、平均 0.91m である。

各柱穴の平面形は不整形及び、楕円形で断面形状は逆台形を呈するものが多い。各柱穴の規模は、径 0.37 ~ 0.56m、深さ 0.14 ~ 0.62m を測る。柱痕は確認できなかった。堆積土はいずれも粘土質シルトからなり、1mm 以下の砂粒、1 ~ 3cm の礫を少量含む。遺物は出土していない。



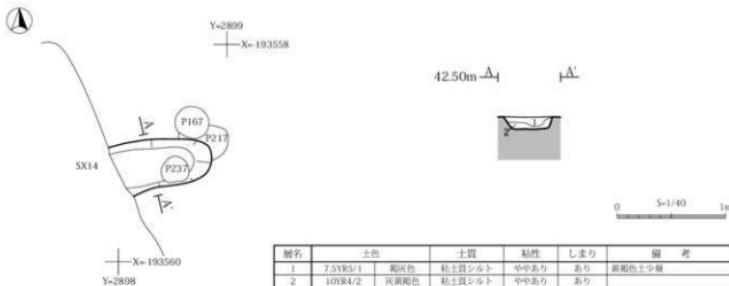
第7表 SB6 掘立柱建物跡 柱穴観察表

第1節 駅部

(3) 溝跡

1) SD10 溝跡（第30図 図版5-1・2）

S16-E60 グリッドに位置する。東西方向に伸び、SX14 と重複しており、SD10 が古い。規模は長軸 90cm、短軸 40cm、深さ 11cm を測る。主軸方向は N-81°E で、断面形状は逆台形である。底面は平坦で傾斜はもたず、流水の痕跡等は確認できなかった。堆積土は粘土質シルトの2層からなる。遺物は出土していない。



第30図 SD10 溝跡平面図・断面図

2) SD12 溝跡（第31図 図版5-3・4）

S16-E60 グリッドに位置する。東西方向に伸びる。規模は長軸 1.44m、短軸 36cm、深さ 20cm を測る。方向は N-75°E で、断面形状は逆台形である。底面は平坦で傾斜はもたず、流水の痕跡は確認できなかった。堆積土は灰黄褐色粘土質シルトの単層である。

遺物は产地不明の陶器、平瓦の小片が少量出土しているが、細片のため図示し得なかった。



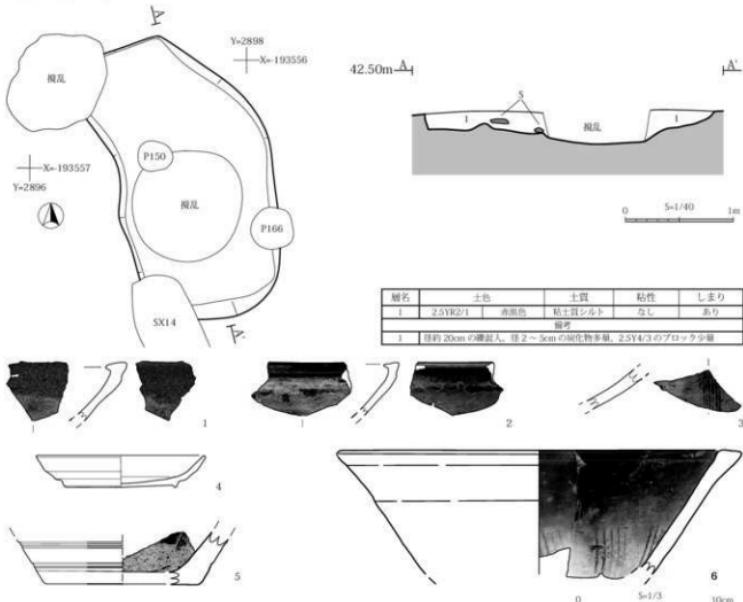
第31図 SD12 溝跡平面図・断面図

(4) 土坑

1) SK48 土坑 (第32図 図版5-5・6)

S16-E60 グリッドに位置する。北西端と中央部を擾乱で削平され、SX14、P150、P166 と重複しており、SK48 が古い。規模は長軸 2.69m、短軸 1.44m、深さ 30cm を測る。平面形は主軸方向 N-18°W を示す不整長方形で、底面はやや起伏を持ち、断面形は皿形である。堆積土は径 20cm 程度の礫、炭化物を含む赤黒色粘土質シルトの単層である。

遺物は 17世紀代の志野産の皿、岸産の擂鉢、肥前産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器が出土し、この内 6点を図示した。



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法華 [cm]			産地	時期	文様・備考	登録番号
							上径	底径	厚				
1	53-9	1層	陶器	擂鉢	口縁～全体	素	-	-	(8)	屏	17世紀	口縁部に墨灰釉	I-13
2	53-11	1層	陶器	擂鉢	口縁～全体	素	-	-	(3.9)	屏	17世紀	口縁部に墨灰釉	I-14
3	53-10	1層	陶器	擂鉢	全体	素	-	-	(2.5)	屏	17世紀		I-15
4	54-1	1層	陶器	皿	口縁～底部	素	11.7	7.7	2.3	志野	17世紀	見込に目廻	I-16
5	54-2	1層	陶器	擂鉢	全体	素	-	-	(10.6)	(3.7)	在地	不明	I-17
6	54-3	1層	陶器	擂鉢	口縁～全体	素	(28.2)	-	(8.9)	不明	不明		I-223

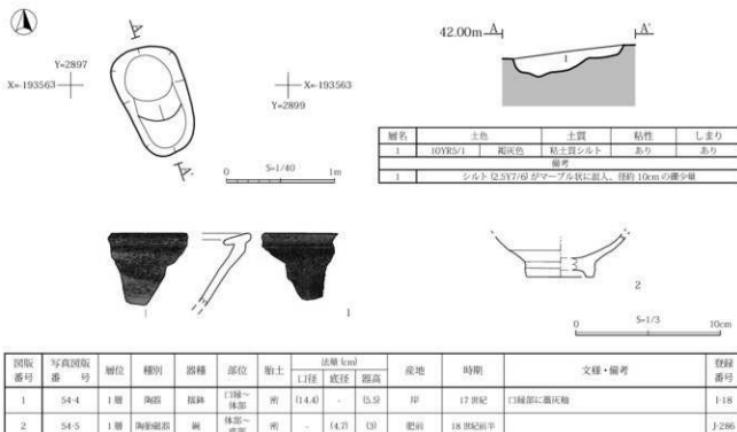
第32図 SK48 土坑平面図・断面図・出土遺物

第1節 駅部

2) SK54 土坑 (第33図 図版6-1)

S17-E60 グリッドに位置する。規模は長軸 1.02m、短軸 63cm、深さ 27cm を測る。平面形は主軸方向 N-20°-W を示す梢円形で、底面に起伏をもつ。断面形は皿形である。底面は北側に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は径 10cm 程度の礫を少量含む褐色粘土質シルトの単層である。

遺物は 17 世紀代の岸産の擂鉢、18 世紀前半の肥前産の陶胎磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片が出土し、この内 2 点を図示した。

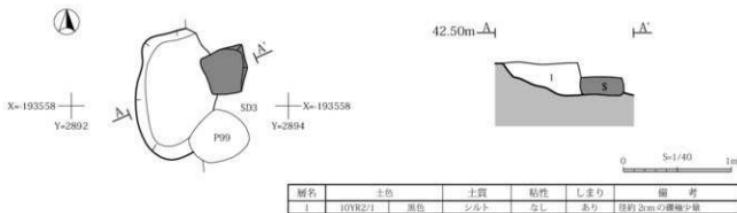


第33図 SK54 土坑平面図・断面図・出土遺物

3) SK55 土坑 (第34図 図版6-2)

S16-E60 グリッドに位置する。SD3、P99 と重複しており、SK55 が占い。規模は長軸 1.21m、短軸 70cm、深さ 30cm を測る。平面形は主軸方向 N-6°-E を示す不整形で、底面はわずかな起伏をもち、断面形は皿形である。検出範囲の東端で 40 × 40 × 15cm の平坦な礫が確認された。これは礎板石の可能性も考えられる。堆積土は木端片を含む黒色シルトの単層である。

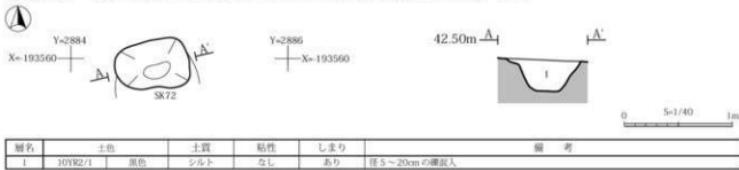
遺物は土師質土器が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



第34図 SK55 土坑平面図・断面図

4) SK56 土坑 (第35図 図版6-3・4)

S17-E59～S16-E59 グリッドに位置する。SK72 と重複しており、SK56 が新しい。規模は長軸 0.7m、短軸 0.5m、深さ 0.3m を測る。平面形は主軸方向 N-77°E を示す隅丸方形である。底面は平坦で、断面形は逆台形である。堆積土は径 5～20cm の礫を含む黒色シルトの単層である。遺物は出土していない。



第35図 SK56 土坑平面図・断面図

5) SK57 土坑 (第36図)

S16-E59 グリッドに位置し、中央部は擾乱により削平されている。規模は長軸 1.05m、短軸 0.72m、深さ 0.35m を測る。平面形は主軸方向 N-31°E を示す不整梢円形をなすが、底面の形状は擾乱に覆され不明である。断面形は階段状である。堆積土は黒色シルトの単層である。

遺物は 18世紀代の肥前産の磁器、产地不明の陶器、土師質土器、瓦片が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



第36図 SK57 土坑平面図・断面図

6) SK58 土坑 (第37図 図版6-5)

S16-E59 グリッドに位置する。規模は長軸 96cm、短軸 84cm、深さ 85cm を測る。平面形は主軸方向 N-33°W を示す梢円形で、底面は平坦をなす。断面形は皿形である。堆積土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。



第37図 SK58 土坑平面図・断面図

第1節 駅部

7) SK59 土坑 (第38図 図版6-6)

S16-E60 グリッドに位置し、南東側は土層確認用のサブトレンチにより削平されている。規模は長軸 1.23m、短軸 70cm、深さ 27cm を測る。平面形は主軸方向 N-68°E を示す梢円形で、底面は平坦である。断面形は開いた弧状である。堆積土は径 2 ~ 5cm の礫を含む褐色粘土質シルト・黒褐色シルト層からなる。遺物は出土していない。



第38図 SK59 土坑平面図・断面図

8) SK60 土坑 (第39図 図版6-7)

S17-E59 グリッドに位置する。P5、P60 と重複しており、SK60 が古い。規模は長軸 93cm、短軸 40cm、深さ 24cm を測る。平面形は主軸方向 N-16°E を示す梢円形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は焼土・炭化物・小礫を含む褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。



第39図 SK60 土坑平面図・断面図

9) SK62 土坑 (第40図 図版6-8)

S16-E58 グリッドに位置する。東側は SB4 を構成する P2 と重複しており、SK62 が古い。確認された規模は長軸 60cm、短軸 40cm、深さ 14cm を測る。削平されているため平面形は不明である。底面は平坦で、断面形は逆台形である。堆積土は礫を少量含む黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。



第40図 SK62 土坑平面図・断面図

10) SK63 土坑 (第41図 図版7-1・2)

S17-E61～S16-E61 グリッドに位置する。規模は長軸 3.09m、短軸 90cm、深さ 35～45cm を測る。平面形は主軸方向 N-12°W を示す長楕円形で、断面形は逆台形及び階段状である。底面にピット状の落ち込みが確認されており、布掘り溝の可能性もあるが、明確に組むピットを周辺で検出できなかった。落ち込みの径は平均 40cm、深さは 45cm、間隔は 1.48m を測る。堆積土は砂質シルトと粘土質シルトの 4 層からなる。

遺物は産地不明の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、瓦質土器、が出土しているが、細片のため図示し得なかつた。

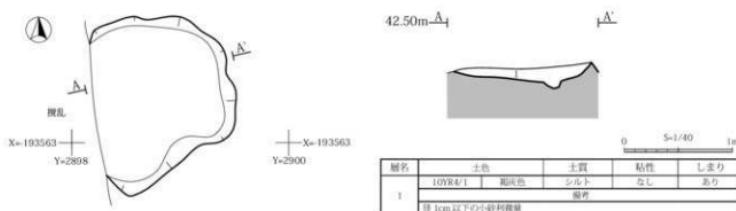


第41図 SK63 土坑平面図・断面図

11) SK65 土坑 (第42図 図版7-3・4)

S17-E60 グリッドに位置し、西側は擾乱により削平されている。SK67 と重複しており、SK65 が新しい。規模は長軸 1.56m、短軸 1.32m、深さ 24cm を測る。平面形は不整楕円形と考えられ、底面は起伏をもち、断面形は皿形である。堆積土は径 1cm 以下の礫を少量含む褐色灰化色シルトの単層である。

遺物は産地不明の陶器、土師質土器の小片、瓦片が出土しているが、細片のため図示し得なかつた。

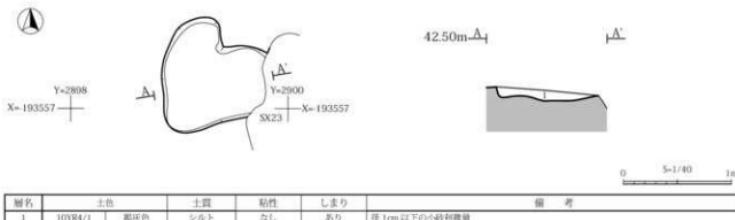


第42図 SK65 土坑平面図・断面図

第1節 駅部

12) SK66 土坑 (第43図 図版7-5・6)

S16-E60 グリッドに位置する。SX23 と重複しており、SK66 が古い。規模は長軸 1.09m、短軸 90cm、深さ 13cm を測る。平面形は不整形で、北側に突出して広がる部分が見られる。底面はわずかに起伏し、断面形は皿形である。堆積土は径 1cm 以下の礫を少量含む褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

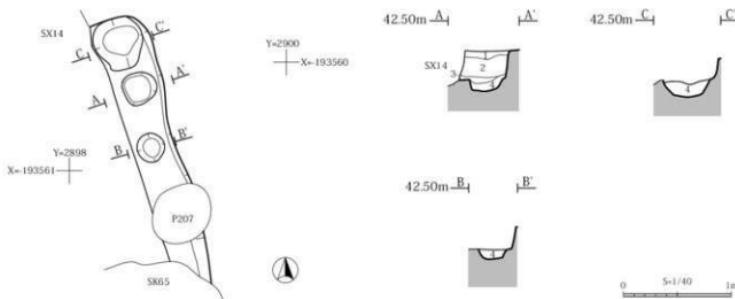


第43図 SK66 土坑平面図・断面図

13) SK67 土坑 (第44図 図版8-1・2)

S17-E60 ~ S16-E60 グリッドに位置する。SX14、SK65 と重複しており、SK67 が古い。規模は長軸 2.57m、短軸 53cm、深さ 10 ~ 40cm を測る。残存する平面形は主軸方向 N-18°W を示す溝状で、断面形は逆台形である。底面にビット状の落ち込みが確認されており、布振り溝の可能性もあるが、明確に組むビットを周辺で検出できなかった。落ち込みの間隔は、北から順に 7.5cm、25cm を測る。堆積土はシルト・粘土質シルトの 4 層からなる。

遺物は 18 世紀代の肥前産の磁器が出土しているが、細片のため図示し得なかった。

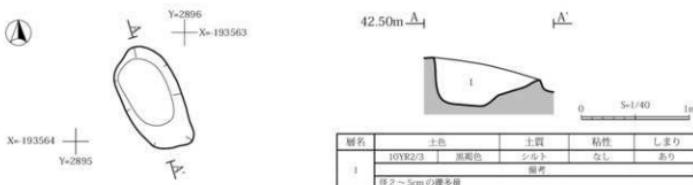


第44図 SK67 土坑平面図・断面図

14) SK68 土坑 (第45図 図版7-7・8)

S17-E60 グリッドに位置し、規模は長軸 10cm、短軸 53cm、深さ 40cm を測る。平面形は主軸方向 N-21°W を示す不整橿円形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は径 2~5cm の礫を多量に含む黒褐色シルトの単層である。

遺物は在地産の瓦質土器が出土しているが、細片のため図示し得なかった。

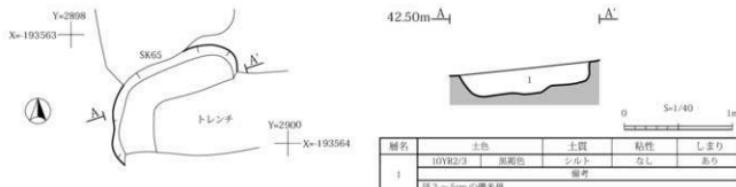


第45図 SK68 土坑平面図・断面図

15) SK69 土坑 (第46図 図版8-3)

S16-E60 グリッドに位置する。SK65 と重複しており、SK69 が古い。南東側は土層確認用のサブトレンドで削平されている。規模は長軸 1.23m、短軸 72cm、深さ 27cm を測る。平面形は橿円形と考えられ、底面は中央部にわずかな起伏をもち、断面形は逆台形である。堆積土は径 2~5cm の礫を多量に含む黒褐色シルトの単層である。

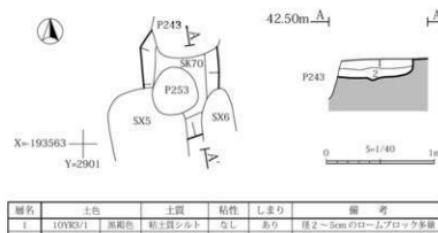
遺物は瀬戸・美濃産の陶器が 1 点出土しているが、細片のため図示し得なかった。



第46図 SK69 土坑 平面図・断面図

16) SK70 土坑 (第47図 図版8-4)

S17-E61 グリッドに位置する。SX5、SX6、P243、P253 と重複しており、SK70 が古い。規模は長軸 67cm、短軸 65cm、深さ 16cm を測る。平面形は橿円形と推定され、残存する底面は平坦である。断面形は皿形である。堆積土は径 2~5cm のロームブロックを含む粘土質シルトの 2 層からなる。遺物は出土していない。



第47図 SK70 土坑平面図・断面図

第1節 駅部

17) SK71 土坑 (第48図 図版8-5)

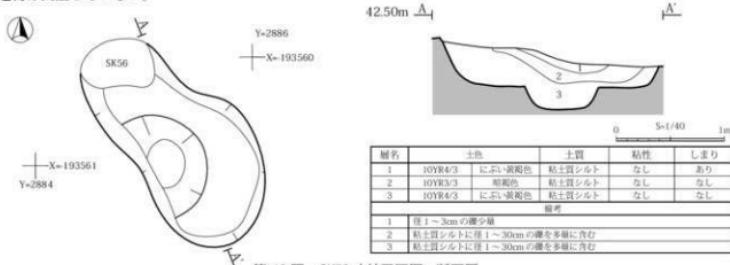
S17-E60 グリッドに位置する。SD3、P286 と重複しており、SK71 が古い。規模は長軸 1.01m、短軸 86cm、深さ 12cm を測る。平面形は主軸方向 N-65°-E を示す梢円形で、底面は平坦をなし、断面形は皿形である。堆積土は径 2~5cm の礫を含む黒褐色シルト層の単層である。遺物は出土していない。



第48図 SK71 土坑平面図・断面図

18) SK72 土坑 (第49図 図版8-6)

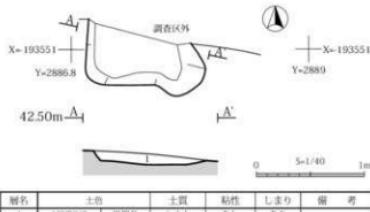
S17-E59 ~ S16-E59 グリッドに位置する。SK56 と重複しており、SK72 が古い。規模は長軸 2.2m、短軸 1.08m、深さ 67cm を測る。平面形は主軸方向 N-35°-W を示す不整梢円形で、底面中央に窪みを有する。断面形は階段状である。堆積土は礫を含む粘土質シルト・礫の3層からなる。礫を用い人為的に埋め戻されたものと思われる。遺物は出土していない。



第49図 SK72 土坑平面図・断面図

19) SK73 土坑 (第50図 図版8-7)

S16-E59 グリッドに位置し、北側は調査区外に延びる。規模は長軸 1.12m、短軸 53cm、深さ 10cm を測る。平面形は不整形で、底面は平坦をなし、断面形は皿形である。堆積土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。



第50図 SK73 土坑 平面図・断面図

20) SK85 土坑（第51図）

S15-E56 グリッドに位置する。P488 と重複しており、SK85 が古い。規模は長軸 1.25m、短軸 76cm、深さ 48cm を測る。平面形は主軸方向 N-73°E を示す梢円形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は礫を含む黒色シルトの単層である。遺物は出土していない。



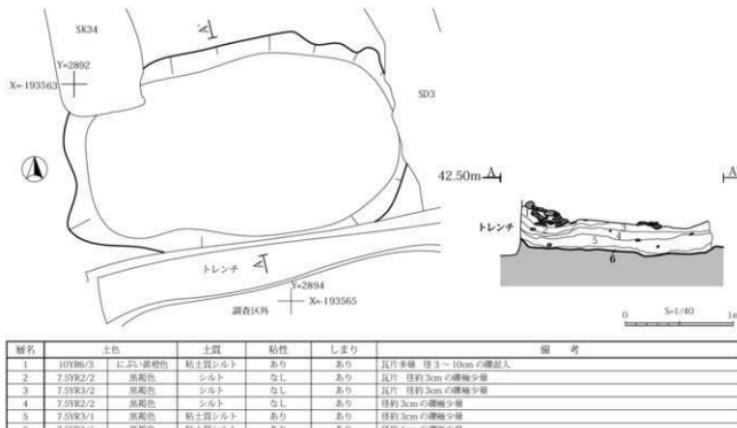
第51図 SK85 土坑平面図・断面図

(5) 性格不明遺構

1) SX22 性格不明遺構（第52～53図 図版9-1～4）

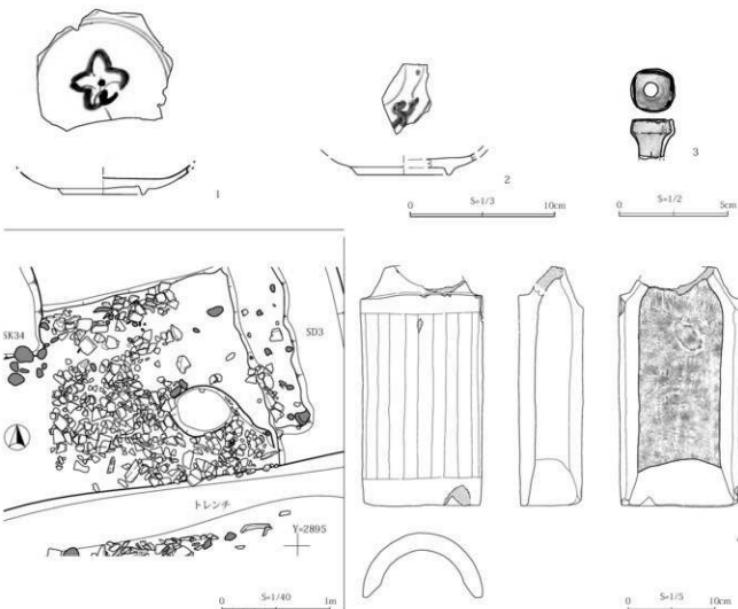
S17-E60 グリッドに位置する。SK34、SD3 と重複しており、SX22 が古い。南側の一部が基本土層確認用のトレーナによって削平されている。規模は長軸 3.14m、短軸 1.94m、深さ 44cm を測る。平面形は主軸方向 N-82°E を示す楕円方形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は礫を含む黒褐色シルト・粘土質シルトの6層からなる。

遺物は上層の3層より軒丸瓦片 133点、平瓦片 1192点に、17世紀代の肥前産の磁器、瀬戸・美濃産の陶器、在地産の瓦質土器が少量出土し、この内4点を図示した。



第52図 SX22 性格不明遺構平面図・断面図

第1節 駅部



図版番号	写真図版番号	層位	種類	器種	部位	胎土	法量(cm)			产地	時期	文様・備考	登録番号
							U径	底径	器高				
1	55-1	3層	磁器	鉢	体部～底部	用	11.28	5.7	(2)	肥前	17世紀後半	染付 二重織紋 猫达に花文	J-1
2	55-2	3層	磁器	鉢	底部	用	11.6	6.5	(2.1)	肥前	18世紀後半	染付 草花文	J-2
3	55-3	3層	陶器	花生？	口縁部	用	2.1	-	(3)	鹿児島・美濃	17世紀	口縁部に鉄輪	I-19
図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量(cm)			備考					登録番号	
				長さ	幅	厚さ							
4	129-7	3層	丸瓦	29.2	10.3	8.2	内部に角目模					F-2	

第53図 SX22 性格不明遺構遺物出土状況・出土遺物

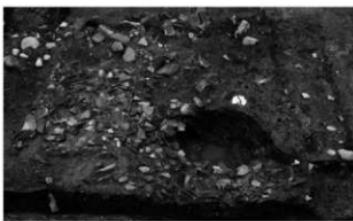


写真3 SX22 性格不明遺構遺物出土状況(南から)

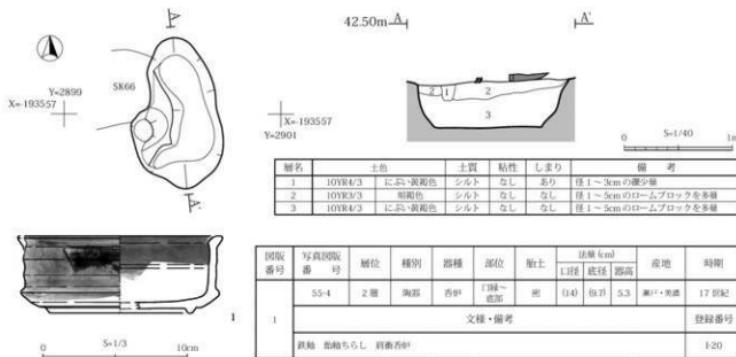


写真4 SX22 性格不明遺構遺物出土状況(南から)

2) SX23 性格不明遺構 (第54図 図版10-1)

S17-E60～61 グリッドに位置する。SK66 と重複しており、SX23 が新しい。規模は長軸 1.4m、短軸 81cm、深さ 44cm を測る。平面形は主軸方向 N-6°W を示す橢円形で、底面は西側がテラス状に高まり、断面形は逆台形である。堆積土は径 1～3cm の礫少量と径 1～5cm のロームブロックを多量に含むシルトの 3 層からなる。

遺物は 17 世紀代の瀬戸・美濃産の陶器、瓦片、土師質土器片が出土し、この内 1 点を図示した。

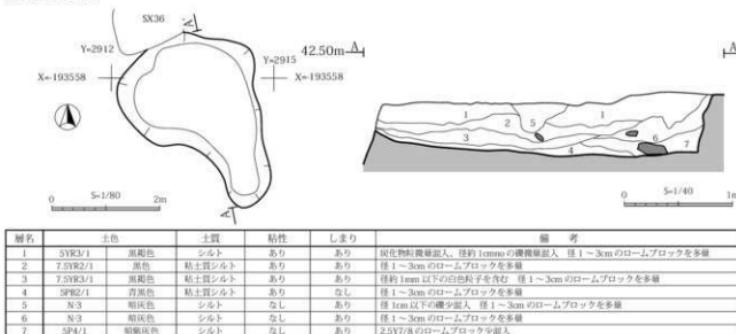


第54図 SX23 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

3) SX34 性格不明遺構 (第55・56図 図版10-2)

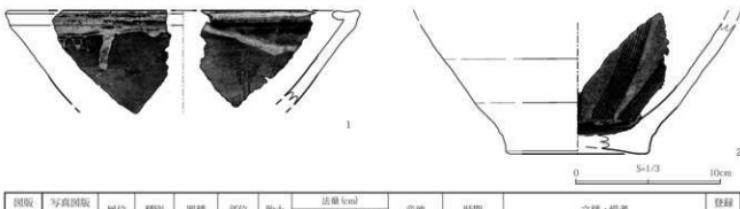
S17-E62 グリッドに位置する。SX36 と重複しており、SX34 が古い。規模は長軸 3.43m、短軸 2.61m、深さ 54cm を測る。平面形は主軸方向 N-20°W を示す不整形で、底面は平坦で断面形は逆台形である。堆積土は小礫と径 1～3cm のロームブロックを多量に含む粘土質シルト・シルトの 7 層からなる。

遺物は 17 世紀代の岸産の陶器、土師質土器、在地産の瓦質土器、18 世紀代の肥前産の磁器が出土し、この内 2 点を図示した。



第55図 SX34 性格不明遺構平面図・断面図

第1節 駅部

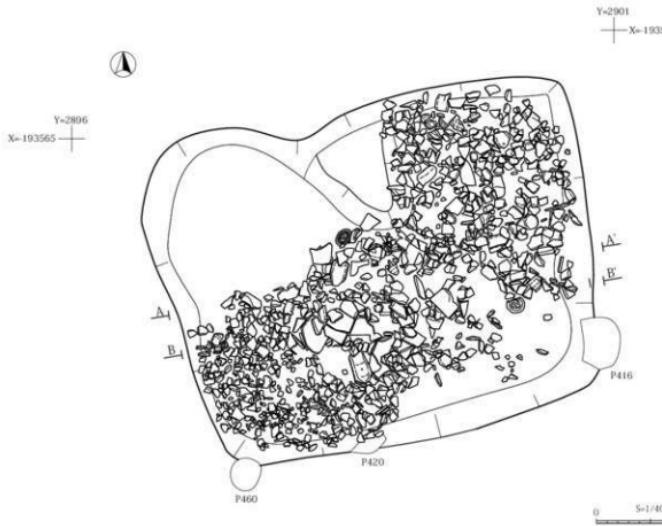


第56図 SX34 性格不明遺構 出土遺物

4) SX37 性格不明遺構 (第57・58図 図版10-3・4)

S17-E60～61 グリッドに位置する。堆積土中より多量の軒丸瓦片、平瓦片を検出した。P416・420・460と重複しており、SX37が古い。規模は長軸 4.08m、短軸 3.14m、深さ 50cm を測る。平面形は長軸方向 N-76°E を示す丸方形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は、長さ 10～20cm、幅 10～15cm、厚さ 10～20cm の礫・瓦片を多量に含む黒褐色粘土質シルトからなる。

遺物は軒丸瓦片 1080 点、平瓦片 2832 点、その他の瓦が 10 点、17世紀代の瀬戸・美濃産の陶器、土師質土器、瓦質土器、17～18世紀代肥前産の磁器が出土し、この内、実測可能な輪違い瓦と志野産の皿を図示した。



第57図 SX37 性格不明遺構平面図

42.50m A

A'



42.50m B

B'



S=1/40 1m

層名	土色	土質	粘性	しまり	参考
1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	あり	なし	瓦片多層



1

0 S=1/3 10cm



2

0 S=1/3 10cm

図版番号	写真図版番号	層位	種類	器種	部位	胎土	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	高さ				
1	55-7	1層	陶器	盆	口縁～底部	泥	11.8	6	2.4	東洋・美濃	17世紀後半	実物	H23

図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量(cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
2	129-4	1層	輪廻い瓦	9	10.2	5.5		H2

第58図 SX37 性格不明遺構断面図・出土遺物

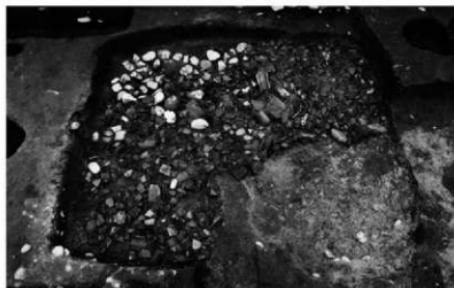


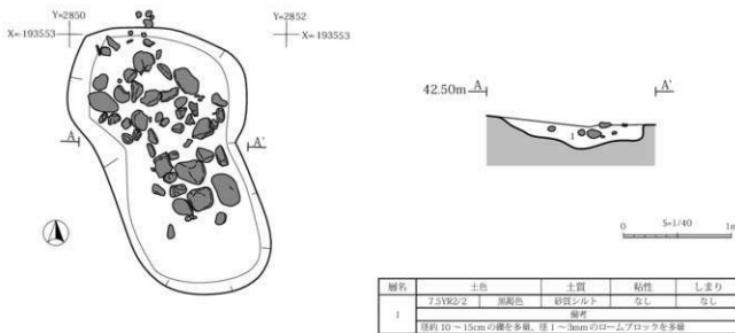
写真5 SX37 性格不明遺構瓦検出状況(北から)

第1節 駅部

5) SX61 性格不明遺構（第59図 図版11-1）

S15-E56 グリッドに位置する。規模は長軸 2.64m、短軸 1.62m、深 22cm を測る。平面形は、長軸方向 N-23°W を示す中央がややくびれた梢円形で、底面はやや起伏をもち、断面形は皿形である。堆積土上部から中部にかけて径 10～15cm の自然礫が多量に出土した。堆積土は径 1～3cm のロームを斑状に含む黒褐色砂質シルトの単層からなる。

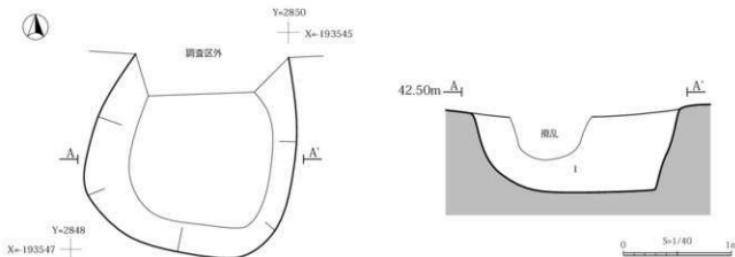
遺物は産地不明の陶器、土師質土器、瓦質土器、瓦片が少量出土しているが、細片のため図示し得なかった。



第59図 SX61 性格不明遺構平面図・断面図

6) SX62 性格不明遺構（第60図 図版11-2）

S15-E55 グリッドに位置し、南側は調査区外へ延びる。遺構堆積土の一部は搅乱で削平されている。規模は長軸 1.89m、短軸 1.54m、深 73cm を測る。平面形は不整梢円形、底面は平坦で、断面形は逆台形である。堆積土は径 1～3cm のロームを斑状に含む黒褐色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。

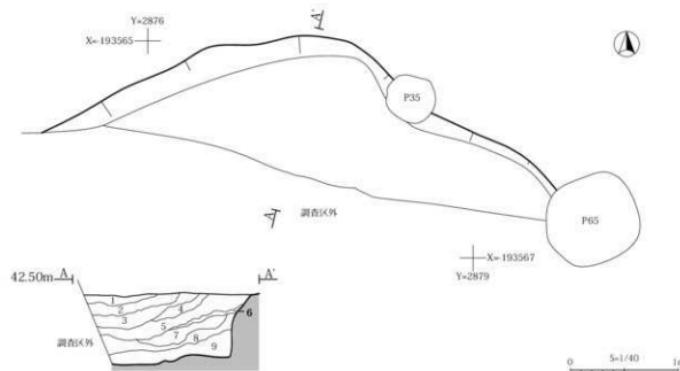


第60図 SX62 性格不明遺構平面図・断面図

7) SX63 性格不明遺構 (第 61 ~ 62 図 図版 11-3 ~ 6)

S17-E58 グリッドに位置し、南側は調査区外へ延びる。P35、P65 と重複しており、SX63 が古い。規模は長軸 4.76m、短軸 1.4m、深さ 64cm を測る。平面形は不明で、底面は南側が低くなり、断面形は逆台形である。堆積土は積層状に堆積した粘土質シルト・砂質シルトの 9 層からなる。

遺物は 1 層から 5 層より陶器、土師質土器、瓦質土器、磁器、器種不明の金属製品の細片が出土した。底面からは、17 世紀代の唐津産の陶器小皿と瀬戸・美濃産の陶器小皿が重なった状態で出土し、この内 3 点を図化した。



番号	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.5Y3/3	暗オーリーブ褐色	粘土質シルト	あり	砂利多量
2	10YR4/6	褐色	粘土質シルト	あり	砂利少
3	10YR2/7	褐色	粘土質シルト	あり	10YR3/2, 5 層状に少額
4	10YR2/3	暗褐色	砂質シルト	あり	砂利少
5	10YR2/7	褐色	砂質シルト	なし	砂質シルト [10YR3/1] との互層
6	10YR2/6	褐色	砂質シルト	なし	砂質シルト [10YR3/1] との互層
7	10YR2/4	暗褐色	砂質シルト	なし	下部 3 ~ 5cm 厚が炭化物層あり、径 2 ~ 10cm の礫少額、砂多量
8	10YR4/3	褐色	砂質シルト	なし	径 2 ~ 5cm の礫多量
9	10YR2/4	暗褐色	砂質シルト	なし	径 2 ~ 5cm の礫少額

第 61 図 SX63 性格不明遺構平面図・断面図

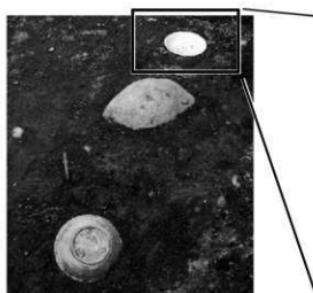
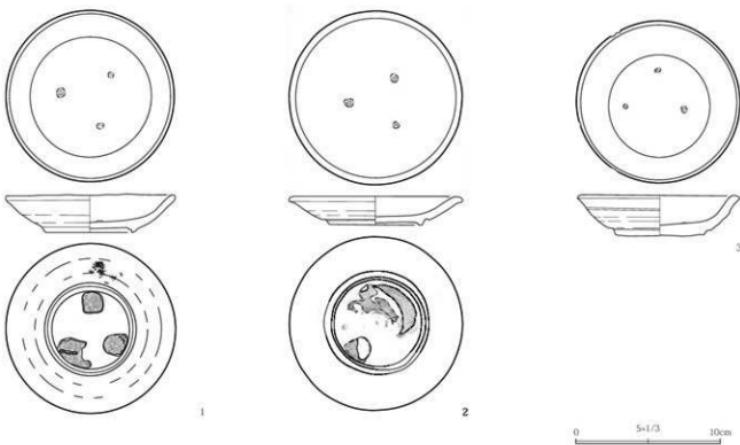


写真 6 SX63 性格不明遺構遺物出土状況 (西から)



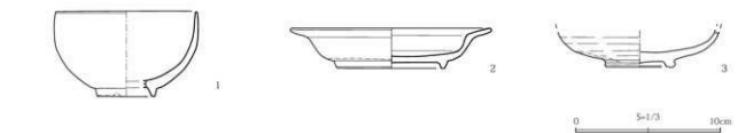
写真 7 SX63 性格不明遺構遺物出土状況 (西から)



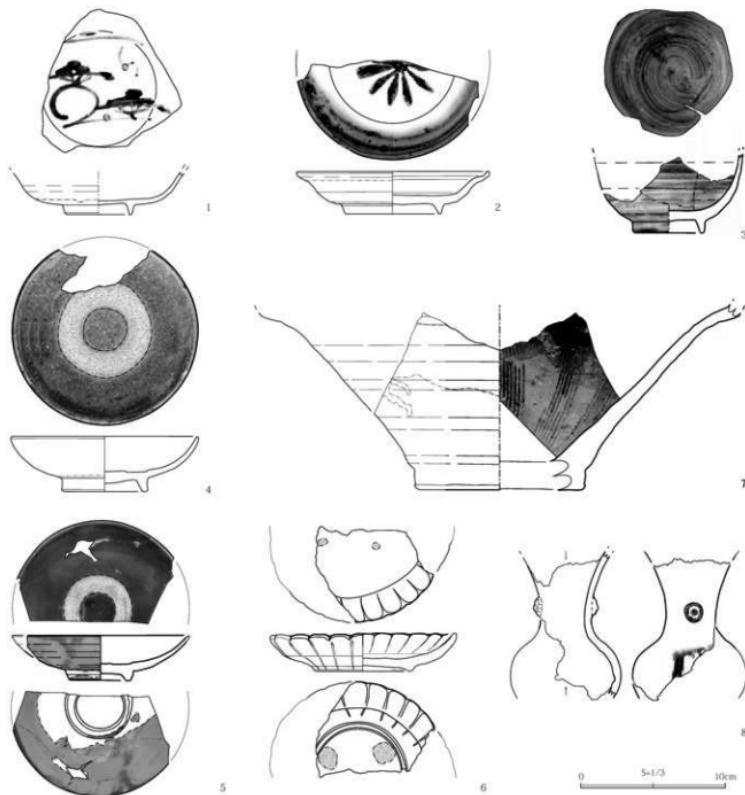
第62図 SX63 性格不明遺構出土遺物

(6) III層遺構外出土遺物

III層遺構外出土遺物は種別内訳で陶器片 590 点、磁器片 700 点、土師質土器片 216 点、瓦質土器片 60 点、石製品 13 点、平瓦 996 点、丸瓦片 312 点、その他の瓦 13 点、金属製品(古銭)58 点、土製品 5 点、その他の遺物 20 点となり、総数で 2983 点を数え、この内 42 点を抽出し図示した。

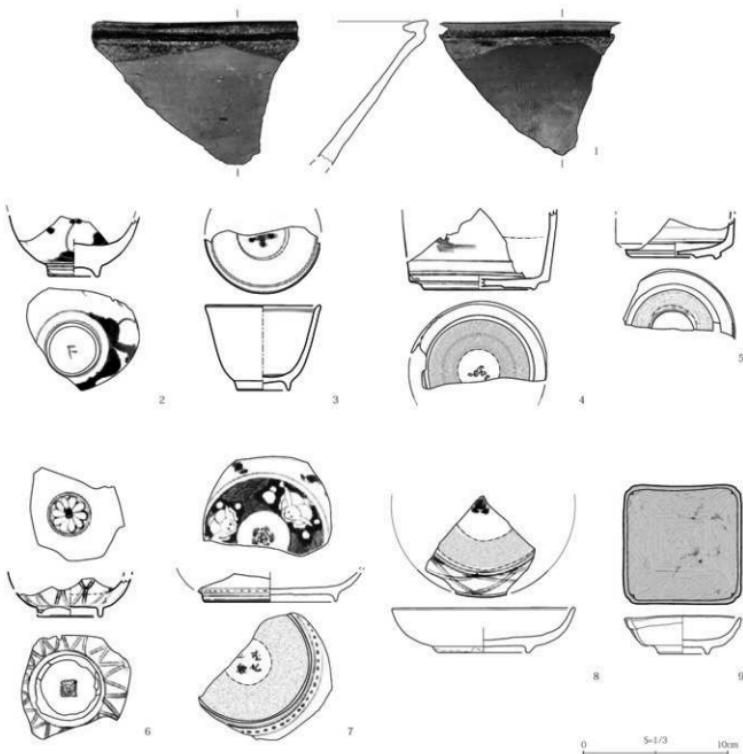


第63図 III層遺構外出土遺物(1)



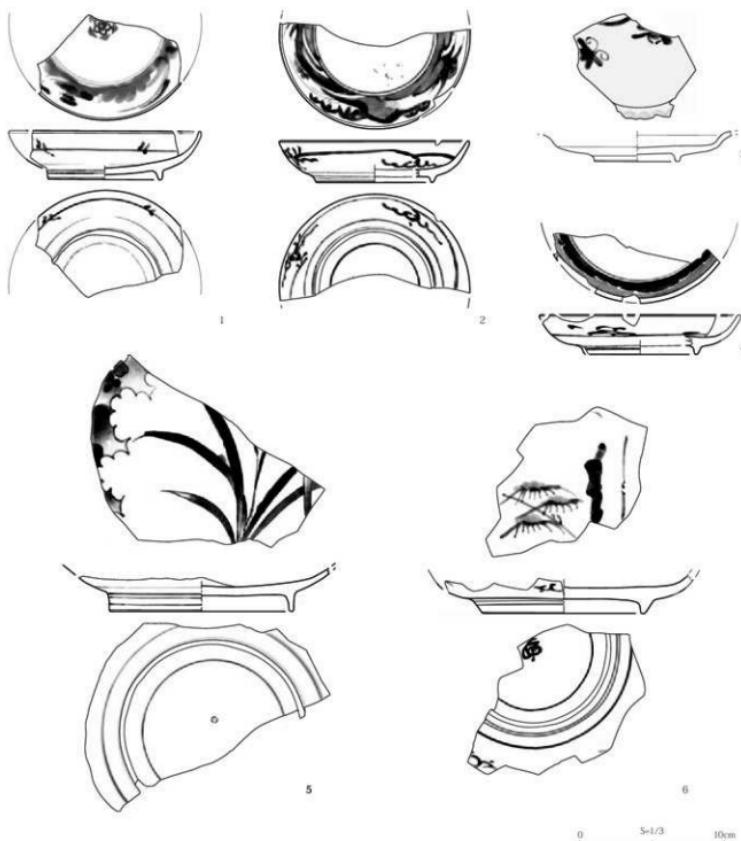
図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量(cm)	产地	時期	文様・備考	登録番号
1	56-5	S16-E59	陶器	皿	体部～底部	密	- 4.7 2.9	大堀相馬	18世紀後半～19世紀前半	鉢足 和	1-30
2	56-6	S17-E59	陶器	皿	口縁～底部	密	113.0 6.6 3	瀬戸・美濃	17世紀後半	鉢足	1-31
3	56-7	S16-E59	陶器	碗	体部～底部	密	- 4.9 5.5	唐津	18世紀後半	刷毛目文	1-32
4	56-8	S16-E59	陶器	皿	口縁～底部	密	13 6 3.8	小野相馬	18世紀後半～19世紀前半	蛇の目駒脚	1-33
5	56-9	S17-E59	陶器	皿	口縁～底部	密	11.5 4.6 3.1	肥前	17世紀後半	蛇の目駒脚 織野窯	1-34
6	56-11	S16-E59	陶器	輪花皿	口縁～底部	密	111.0 5.9 2.6	志野	17世紀後半	輪花 高火入歛土目駒	1-35
7	57-1	S16-E59	陶器	瓶	体部～底部	密	33.4 11.3 13.5	岸	17世紀		1-36
8	57-3	S16-E59	陶器	丸花器	体部	密	6.6 10.5	小野相馬	19世紀前半	圓輪付け壺	1-37

第64図 III層遺構外出出土遺物(2)



図版番号	写真図版番号	グリッド番号	種別	器種	部位	着土	法量/cm ³	产地	時期	文様・備考	登録番号
							12径 底径 脚高				
1	S7-2	S16-E59	陶器	磁器	口縁部	密	-	-	伊	17世紀 墨付	1-38
2	S8-1	S16-E59	磁器	碗	底部～ 底部	密	3.5 4.5	肥前	染付け 草花文 炙台内に施	J-3	
3	S7-7	S16-E59	磁器	碗	口縁～ 底部	密	3.7 5.9	肥前	18世紀前半 青磁物 見込に五弁花	J-4	
4	S7-6	S17-E59	磁器	大入れ	底部～ 底部	密	17.8 5.6	肥前	18世紀前半 染付け 漬瓶	J-5	
5	S7-5	S16-E59	磁器	大入れ	口縁～ 底部	密	96.9 2.7	肥前	18世紀前半 染付け 外面) 漬瓶	J-6	
6	S7-4	S17-E59	磁器	碗	底部～ 底部	密	8.3 4.5 (2.7)	肥前	18世紀前半 (口縁) 漬瓶	J-7	
7	S8-7	S16-E59	磁器	皿	底部～ 底部	密	9 11.5	肥前	18世紀前半 染付け 茶碗底文 雪塊 五弁花 鈴の目大蔵	J-8	
8	S9-2	S16-E59	磁器	皿	口縁～ 底部	密	12.6 6.4 3.1	肥前	18世紀前半 染付け 内面) 格子文 見込に五弁花	J-9	
9	S7-8	S16-E59	磁器	小皿	口縁～ 底部	密	-	-	肥前 18世紀前半 型押し 圓入り角小皿	J-10	

第65図 III層遺構出土遺物(3)



図版番号	写真図版番号	グリッド番号	種別	器種	部位	出土	法面(cm) 上径 底径 厚さ	段地	時期	文様・備考	登録番号
1	58-4	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	衝	(13.4) (7.8) 3.3	肥前	18世紀前半 染付(外面) 茄青草文 内面) 草花文 瓶込 に五瓣花	J-11	
2	58-2	S17-E59	磁器	皿	口縁～底部	衝	(13.2) (8.2) 2.8	肥前	18世紀後半 染付(外面) 茄青草文 内面) 草花文	J-12	
3	59-1	S16-E59	磁器	皿	底部～	衝	13 5.9 (2.2)	肥前	17世紀 染付 梅雀文	J-13	
4	58-5	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	衝	(14.0) (7.0) 2.8	肥前	17世紀後半～ 18世紀始半 染付(外面) 茄青草文 内面) 口縁部押彫	J-14	
5	58-6	S17-E59	磁器	皿	底部～	衝	17.8 (12.7) 3.0	肥前	18世紀始半 染付(外) 花草文	J-15	
6	58-8	S16-E59	磁器	皿	底部～	衝	18.2 (11.3) (2.7)	肥前	18世紀前半 染付(外面) 茄青草文 内面) 雪竹骨高台 に油絵	J-16	

第66図 III層構造出土遺物(4)

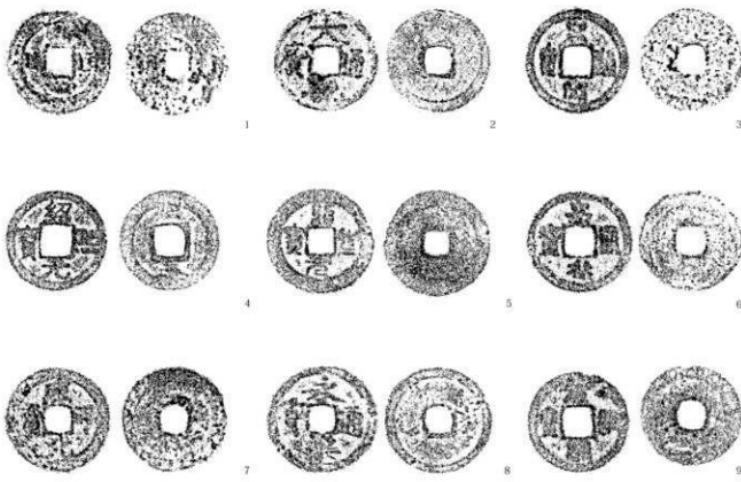
第1節 駅部

図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	器種	部位	胎土	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							上縁	底径	高さ				
1	58-3	S16-E59	磁器	盤	縫部～底部	泥	-	8.7	(3.8)	肥前	18世紀中頃	模様付(外面)草葉(内面)華文花(底辺に折り花)	J-17
2	59-3	S16-E59	土器質	かわらけ	口縁～底部	泥	10.8	6.8	2.2	在地	不明	油煙付(内)	I-228
3	59-4	S16-E59	土器質	かわらけ	口縁～底部	泥	8.2	6	1.8	在地	不明	油煙付(内)	I-229
4	59-5	S16-E59	陶器	盤	口縁～底部	泥	11.4	7.3	2.4	志野	17世紀後半	見辺に目振	I-29

第67図 III層遺構外出土遺物(5)

図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量(cm)			備考			登録番号
				長さ	幅	厚さ				
1	59-7	S16-E59	金属製品	10	3	0.5	鍍			N-1
2	59-6	S16-E59	土器質	5.5	2.5	3	土人形	猪		P-1
3	129-1	S16-E59	軒丸瓦	31	17	16	瓦当に巴文			F-4

第68図 III層遺構外出土遺物(6)



図版番号	写真図版番号	グリッド号	銭貨名	初鑄年	法規 (mm.g)			備考	登録番号
					外径	穿孔	重さ		
1	133-7	S16-E59	皇宋通宝	1039(北宋)	2.4	0.8	2.81		N-19
2	133-6	S17-E59	大觀通寶	1107(宋)	2.5	0.8	2.42		N-20
3	133-14	S16-E59	皇宋通宝	1039(北宋)	2.4	0.8	2.5		N-21
4	134-9	S16-E59	紹熙元宝	1190(南宋)	2.4	0.7	2.6		N-22
5	134-11	S16-E59	紹熙元宝	1094(宋)	2.4	0.8	2.83		N-23
6	133-4	S17-E59	嘉祐通寶	1056(宋)	2.4	0.8	2.85		N-24
7	134-3	S16-E59	治平元宝	1064(宋)	2.4	0.7	2.81		N-25
8	134-5	S16-E59	永樂通寶	1408(明)	2.4	0.8	2.68		N-26
9	134-13	S16-E59	元豐通寶	1078(宋)	2.4	0.7	2.54		N-27

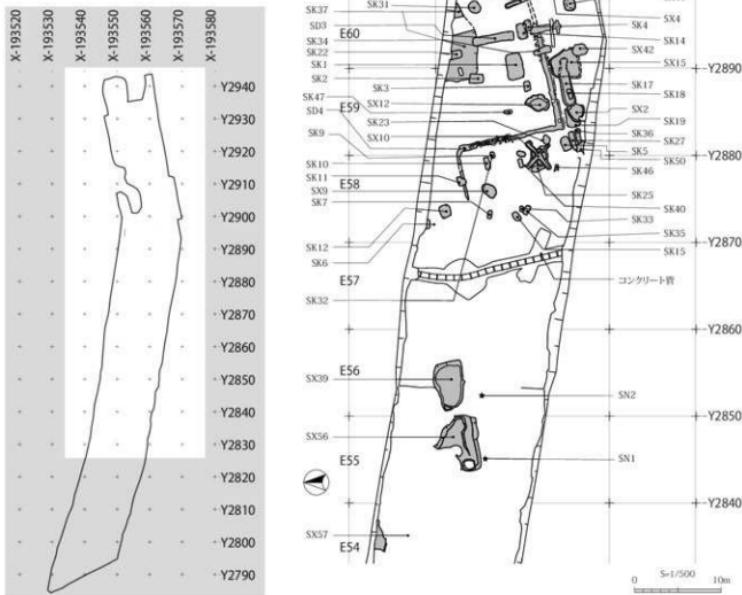
第69図 III層構外出土遺物(7)

第1節 駅部

3 II層上面検出遺構とII層出土遺物

II層は近世の盛土である。II層上面で検出された遺構は、溝が3条、土坑が39基、祭祀遺構が2基、性格不明遺構が25基である。

調査区中央部では土地の区画と考えられる溝跡(SD4・SD6)を検出した。遺構および、遺構外からは18世紀中頃～19世紀前半の遺物が多く出土している。また、SX39からは、幕末期の良好な一括資料が出土した。



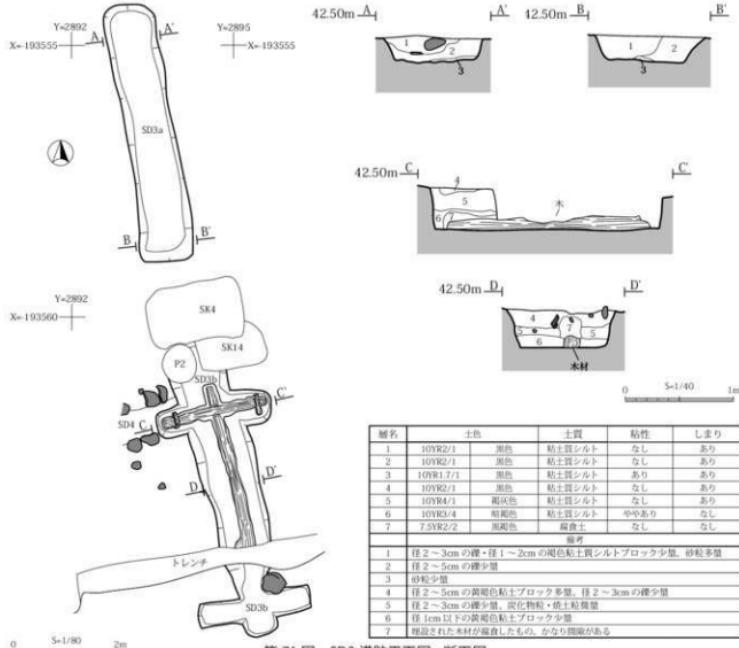
第70図 II層上面遺構配置図

(1) 溝跡

1) SD3 溝跡 (第 71・72 図 図版 12-1 ~ 3・13-1)

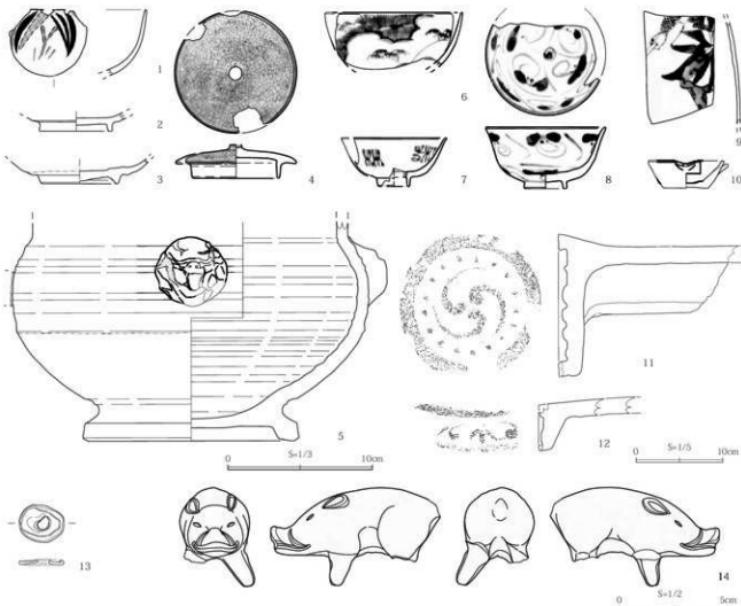
S16-E60 ~ S17-E60 グリッドに位置する。南北方向に走行する素堀の溝で、南側を土層確認用のトレンチに削平されている。この溝は中央部が途切れしており、便宜的に北側を SD3a と南側を SD3b と呼称した。主軸方向は共に N-13°-W を示す。

SD3a は長さ 2.4m、幅は 0.43 ~ 0.50m で、深さ 0.24 ~ 0.3m を測る。底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。SD3b は SK4、SK14、P2 より古く、SD4、SK37、SK55、SK70、SK71 より新しい。長さ 2.7m、幅は 0.46 ~ 1m で、深さは 0.32m ~ 0.4m を測る。堆積土中から腐食の著しい木材片が確認された。平面形は直線形を基本とするが、「十」の字状を呈する。溝の内部で検出した木材は腐食により大半が失われているが、溝と同様に「十」の字状に組木されていたものと考えられる。遺構の底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。なお、SD3a、SD3b とともに、底面に傾斜はみられず、水流等の痕跡も確認できなかった。SD3b は木片の検出状況等から、地中梁の類とも考えられる。堆積土は粘土質シルト・腐食土の 7 層からなる。遺物は 2 層、4 ~ 5 層中より 17 世紀前半の京焼、19 世紀代の大坂相馬産の磁器、19 世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、瓦片、金属製品、土製品が出土し、この内 14 点を図示した。



第 71 図 SD3 溝跡平面図・断面図

第1節 駅部



図版番号	写真図版番号	層位	種類	器種	部位	胎土	法華(cm)	产地	時期	文様・備考	資料番号
1	60-1	4層	陶器	瓶	口縁～体部	南	-	(4.6)	京	17世紀前半 色絵付 草花文	1-40
2	60-4	4層	陶器	瓶	体部～底部	南	5	(1.0)	大堀相馬	19世紀前半 花輪・四隅	1-41
3	59-9	4層	陶器	瓶	体部～底部	南	-	(1.0)	志野	18世紀後半～	1-42
4	59-10	4層	陶器	土器(箱)	南	6.5	-	2.1	大堀相馬	19世紀前半 花輪	1-43
5	60-3	4層	陶器	水差	体部～底部	南	21.8	14.4	在地	19世紀前半	1-44
6	60-7	2層	磁器	瓶	体部	南	8.8	-	(4)	肥前 18世紀後半～	J-18
7	60-5	2層	磁器	瓶	口縁～底部	南	7.2	2.2	3.4	鹿児・美濃 19世紀前半 塗付け 口縁有り 濱氏秀文	J-19
8	60-6	4層	磁器	瓶	口縁～底部	南	8.2	3	4.3	鹿児・美濃 19世紀前半 塗付け 口縁有り 麥乏	J-20
9	60-8	4層	磁器	瓶	体部	南	4.7	-	8.0	19世紀後半 塗付け 武者？	J-21
10	60-2	5層	陶器	印田器	口縁～底部	南	5.2	3.1	2	在地 丸に櫻小舗付有	1-45

図版番号	写真図版番号	層位	種類	法華(cm)			備考	資料番号
				長さ	幅	厚さ		
11	127-11	4層	軒瓦	12.0	16.5	16.5	瓦当に巴文	F-5
12	129-10	4層	軒平瓦	(1.1)	11	3	瓦当に側巴文	G-1
13	60-10	4層	金属製品	2	1.8	0.5	不明	N-2
14	60-9	4層	土製品	8	4.5	4.8	土人形 旗	P-2

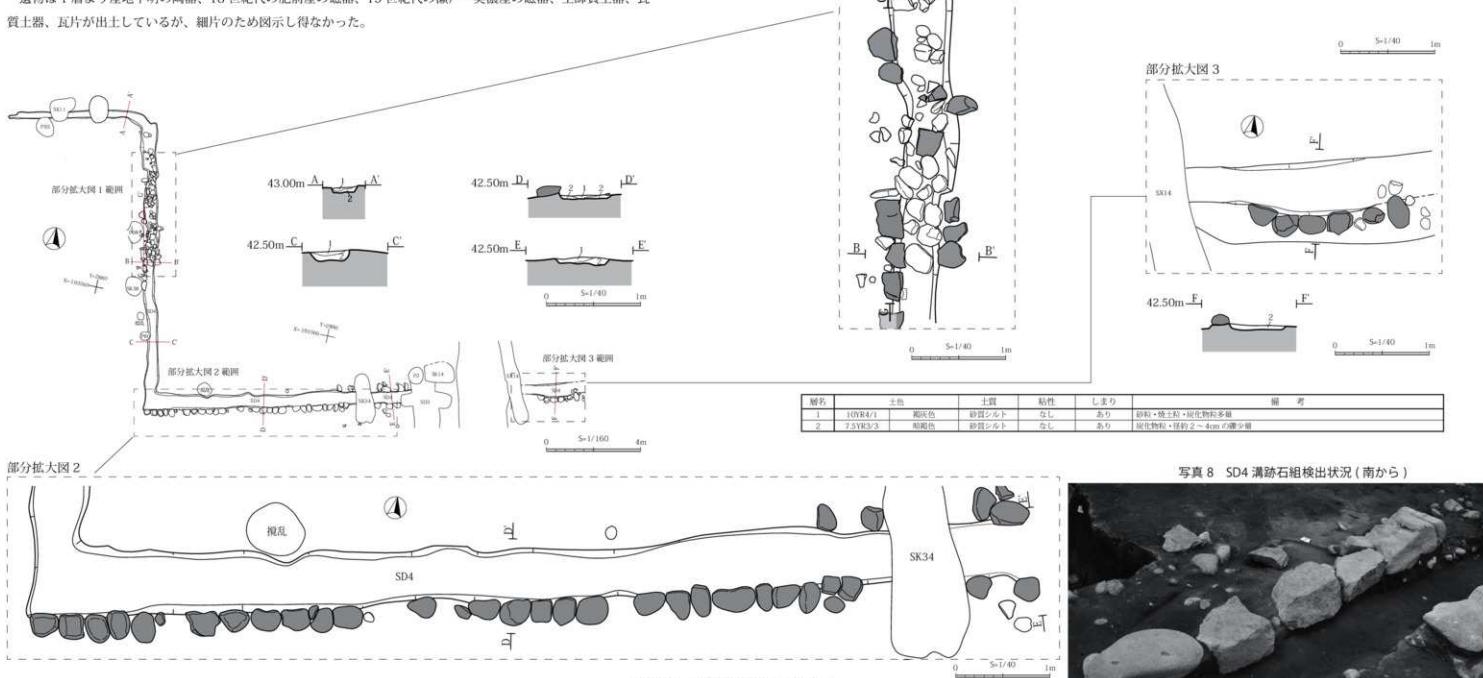
第72図 SD3溝跡出土遺物

2) SD4 溝跡（第73図 図版13-1～4）

S16-E58～S17-E61 グリッドに位置し、一部に石組をもつ区画溝と考えられる。SD1、SD3、SK11、SK34 と重複しており、SD4 が古い。規模は、北西の端部を基点として考えると、東方向へ 6m 進んだ位置で南方向へ 90°折れ曲がり、N-13°E の方向に 12m 行走する。更に、その位置から東方向へ 90°折れ曲がり 19m 行走する。検出長は総延長にして約 34m を測る。幅は 40～60cm で、深さは 60～80cm を測る。平面形はクランク形で、底面はやや起伏をもつ。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。水流の痕跡等は確認できなかった。

総延長 34m に対して約 70% にあたる 23.8m の石組が残存していたが、両辺に石組が残存している箇所は、総延長の 8% にあたる 2.6m である。石材はいずれも端部片側を調整し平面を作り出した自然礎であり、長さ 30～50cm、幅 20～35cm、厚さ 30～40cm を測る。石組はこの石材を内側に面を揃えて直線的に構築されている。堆積土は、砂粒・炭化物粒を含む砂質シルトの 2 層からなる。

遺物は 1 層より産地不明の陶器、18 世紀代の肥前産の磁器、19 世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、土師質土器、瓦質土器、瓦片が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



第73図 SD4 溝跡平面図・断面図

写真8 SD4 溝跡石組検出状況(南から)

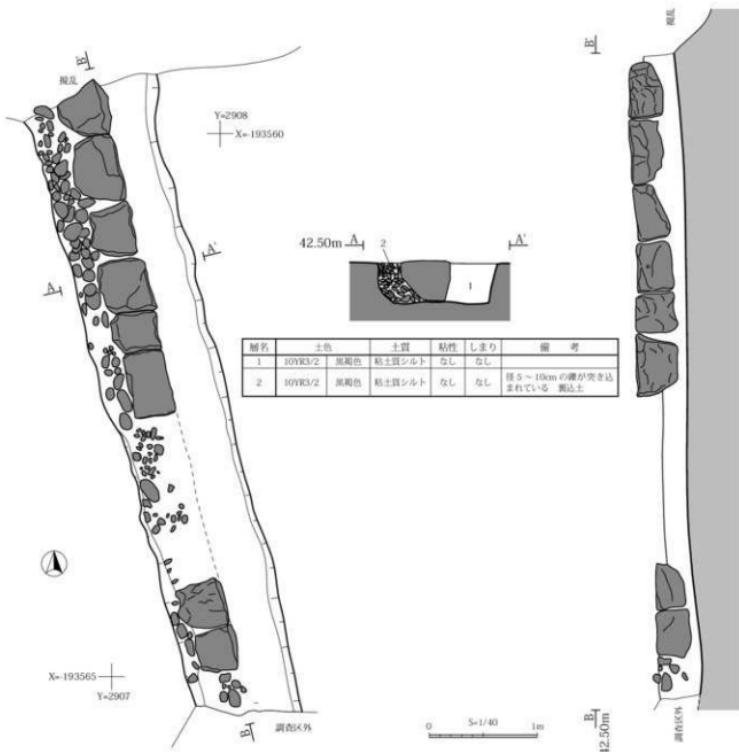


3) SD6溝跡（第74図 図版14-1～3）

S17-E61グリッドに位置する。両端は調査区の外側に伸び、調査区を南北に縦断する石組みを有する溝である。石組の一部は擾乱により削平されている。検出長は3.2mで、主軸方向はN-13°Wを示す。

石組の上端幅は0.4～0.45m、下端幅は0.3～0.4mを測る。石組は、間知石（長さ38～60cm、幅40～60cm、厚さ28～40cm）の面を内側に揃え、直線的に配置されている。裏込は自然礫（長さ5～15cm、幅5～10cm、厚さ3～10cm）が間知石の安定のために頑強に突きこまれている。

掘り方の上端幅は1～1.32m、下端幅は0.8～0.92m、深さは0.36～0.4mを測り、南側に向かって緩やかに傾斜している。堆積土は、1層は黒褐色粘土質シルトで、2層は裏込である。遺物は出土していない。



第74図 SD6溝跡平面図・断面図

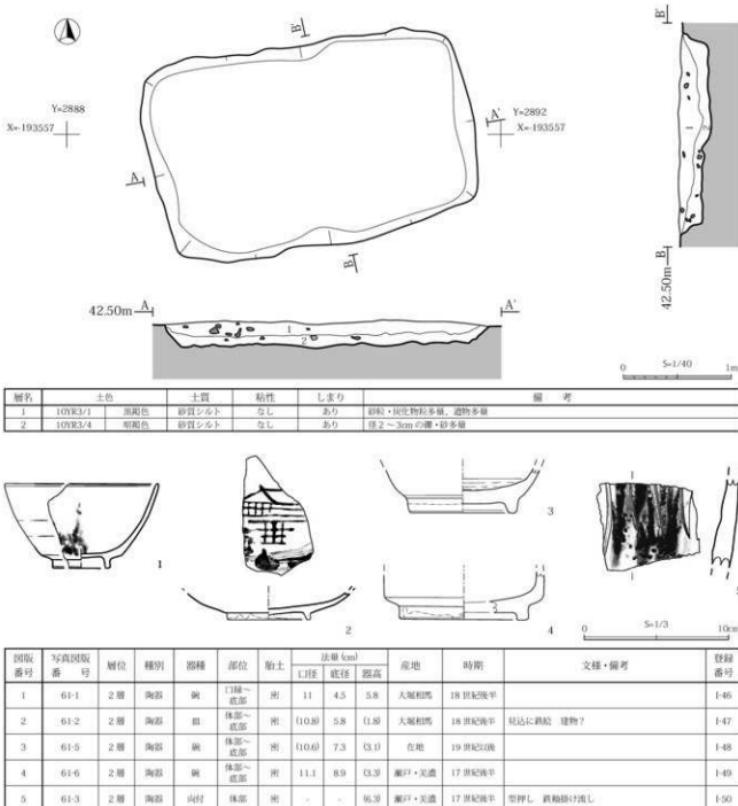
第1節 駅部

(2) 土坑

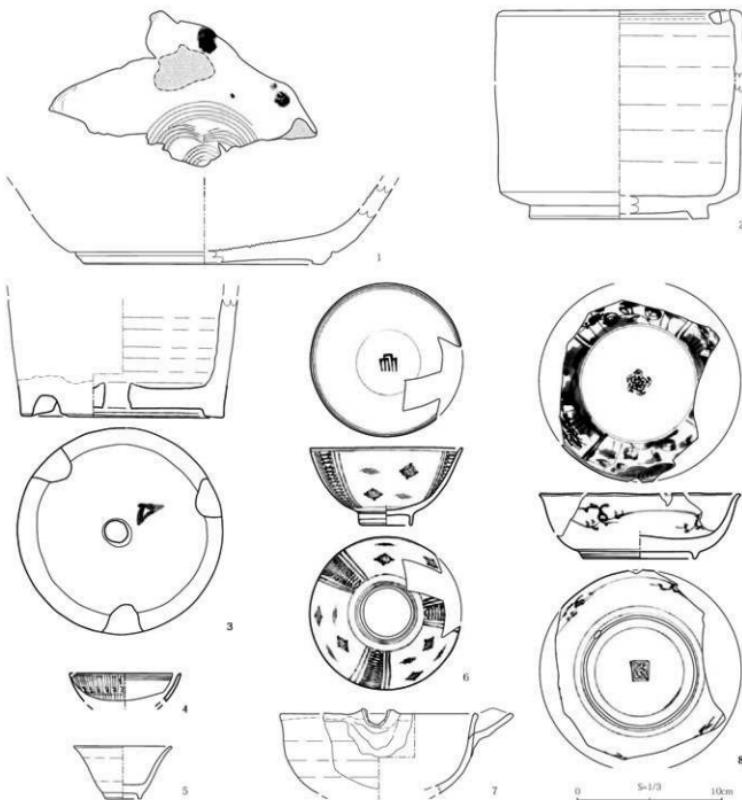
1) SK1 土坑 (第75～77図 図版14-4～7)

S16-E60 グリッドに位置する。規模は、長軸 2.98m、短軸 1.87m、深さ 20cm を測る。平面形は主軸方向 N-78°-E を示す長方形で、底面は起伏を持つ。壁面は緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は黒褐色・暗褐色砂質シルトの2層からなり、1層は炭化物、砂粒を多量に含み、2層は径 2～3cm 磚を多量に含む。

遺物は1層中より、17世紀代の瀬戸・美濃産の陶器、19世紀代の大堀相馬産、堤産の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片、煙管などが出土し、この内 20点を図示した。



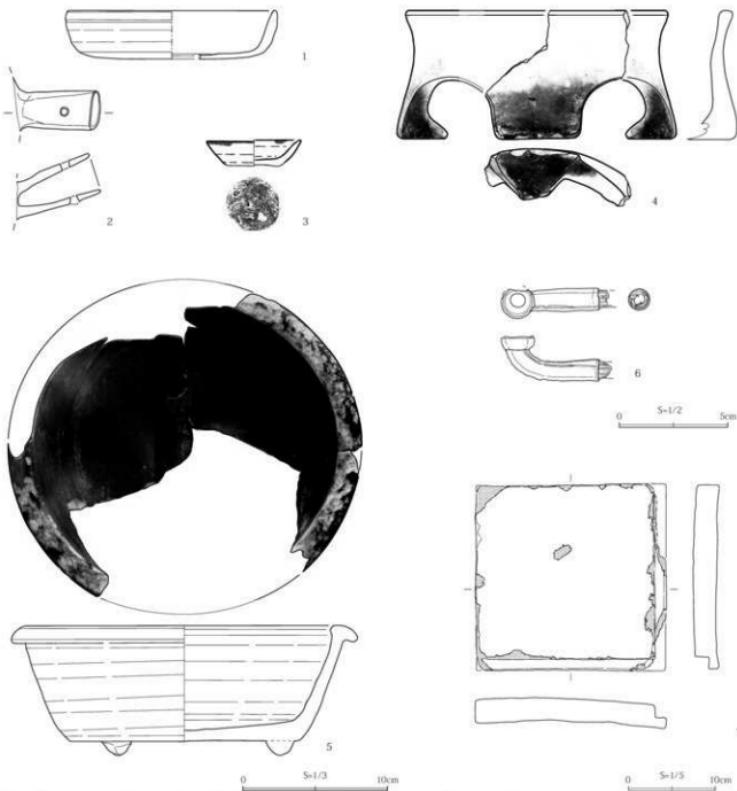
第75図 SK1 土坑平面図・断面図・出土遺物(1)



図版 番号	写真図版 番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法算 [cm]			産地	時期	文様・備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	62-1	2層	陶器	直	体部～ 底部	泥	26	16.7	15.5	鹿谷・美濃	17世紀後半	型押C、一部に織部貼	I-51
2	61-7	2層	陶器	片	口縁～ 底部	泥	17.7	12.4	14.5	現	19世紀以後	鉄輪	I-52
3	61-10	2層	陶器	植木鉢	体部～ 底部	泥	15.8	14.1	9.8±1	現	19世紀以後	高台に墨書き△	I-53
4	62-3	2層	磁器	瓶	口縁～ 底部	泥	7.7	-	(2.7)	肥前	18世紀後半	染付(外)、質文、内面)二重輪廻	J-22
5	62-4	2層	磁器	小坪	口縁～ 底部	泥	6.8	2.4	3.7	鹿谷・美濃	18世紀後半～ 19世紀前半	染付(外)	J-23
6	62-5	2層	磁器	瓶	口縁～ 底部	泥	10.7	4.1	6.2	肥前	18世紀の半	七宝文、質文、内面)見足記 源氏文	J-24
7	61-4	2層	陶器	片口	体部	泥	13.7	-	10.5	大坂粗糲	19世紀以前	鉄輪	I-54
8	62-2	2層	磁器	直	口縁～ 底部	泥	113.9	7.8	4.7	肥前	18世紀後半	染付(外)、質文草花紋、内面)染付草花紋 見足記(五瓣花、高台に二重輪廻内)織部	J-25

第76図 SK1 土坑出土遺物(2)

第1節 駅部



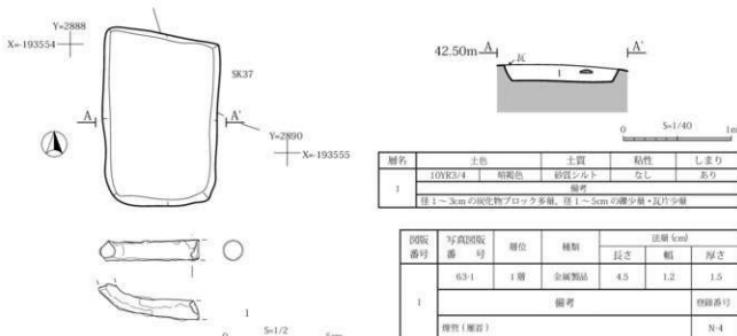
図版 番号	写真図版 番 号	層位	種類	器種	部位	胎土	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	登録 番号
							口径	底径	高さ				
1	61-9	2層	陶器	埴輪	口縁～底部	泥	14.6	10.3	3.4	堤	19世紀以後	輪相	I-55
2	61-8	2層	陶器	埴輪	口縁～底部	泥	2.7	-	5.8	堤	19世紀以後	輪相	I-56
3	62-6	2層	土器質 土器	打明顯	口縁～底部	泥	6.6	3.8	1.8	在地	18世紀後半		I-230
4	62-8	2層	土器質 土器	埴輪	口縁～底部	泥	18	19.2	8.9	在地	19世紀以後		I-231
5	62-7	2層	瓦質土 器	火入れ	口縁～底部	泥	24.2	16	9	在地	19世紀以前		I-278
図版 番号	写真図版 番 号	層位	種類	法量(cm)			備考					登録 番号	
				長さ	幅	厚さ							
6	62-9	2層	金屬製品	4.5	1.2	1.9	複数(複数)一部破損存					N-3	
7	127-9	2層	平瓦	20.9	21	3						G-2	

第77図 SK1土坑出土遺物(3)

2) SK2 土坑 (第78図 図版15-1・2)

S16-E59 グリッドに位置する。SK37 と重複し、SK2 が古い。規模は長軸 1.62m、短軸 1.05m、深さ 14cm を測る。平面形は主軸方向 N-0°-E を示す不整長方形で、底面は平坦をなす。断面形は逆台形である。堆積土は暗褐色砂質シルトの単層である。

遺物は産地不明の陶器、18世紀代の磁器、土師質土器、瓦、煙管等が出土し、この内、煙管を 1 点を図示した。

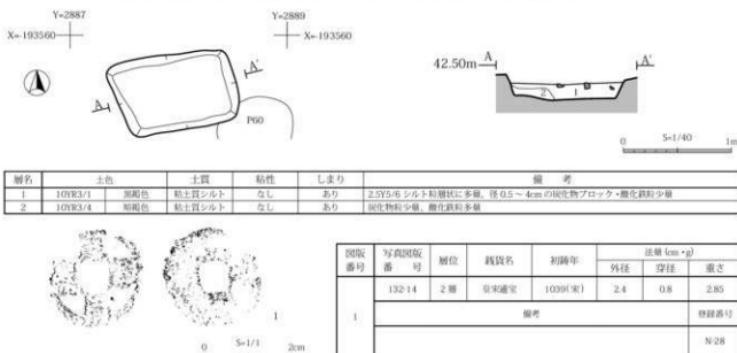


第78図 SK2 土坑平面図・断面図・出土遺物

3) SK3 土坑 (第79図 図版15-3・4)

S17-E59 グリッドに位置する。P60 と重複しており、SK3 が古い。規模は長軸 1.12m、短軸 71cm、深さ 20cm を測る。平面形は主軸方向 N-79°-E を示す不整長方形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は粘土質シルトの 2 層からなる。

遺物は 18世紀代の肥前産の磁器の小片、古銭が出土し、この内、古銭を 1 点を図示した。

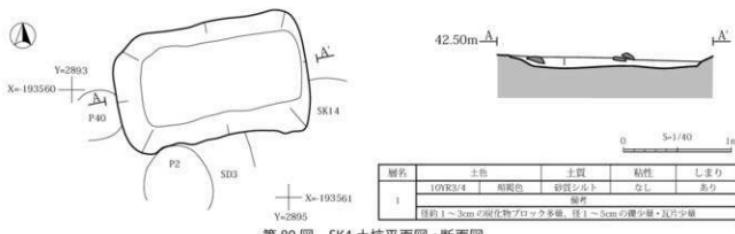


第79図 SK3 土坑平面図・断面図・出土遺物

第1節 駅部

4) SK4 土坑 (第80図 図版15-5・6)

S17-E60～S16-E60 グリッドに位置する。P40、SK14、SD3より新しく、P2より古い。規模は長軸1.78m、短軸1.14m、深さ12cmを測る。平面形は主軸方向N-78°Eを示す長方形で、底面は平坦をなし、断面形は皿形である。堆積土は暗褐色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。



5) SK5 土坑 (第81図 図版15-7・8)

S17-E59 グリッドに位置する。P83と重複しており、SK5が新しい。規模は長軸1.6m、短軸99cm、深さ28cmを測る。平面形は主軸方向N-68°Eを示す隅丸長方形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は3層からなる。

遺物は産地不明の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片、金属製品等が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



6) SK6 土坑 (第82図 図版16-1)

S15-E58 グリッドに位置し、北側は調査区外に展開する。規模は長軸1.09m、短軸38cm、深さ19cmを測る。平面形は不明である。底面はやや起伏をもち、断面形は皿形である。堆積土は灰黄褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。



7) SK7 土坑 (第83図 図版16-2・3)

S16-E58 グリッドに位置する。規模は長軸 96cm、短軸 50cm、深さ 21cm を測る。平面形は主軸方向 N-80°-W を示す開丸長方形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土はオリーブ褐色砂の単層である。遺物は出土していない。



番号	土色	土質	粘性	しまり	備考
I 2.5V4/3	オリーブ褐色	砂	なし	なし	径2~10cmの礫多量

第83図 SK7 土坑平面図・断面図

8) SK9 土坑 (第84図 図版16-4・5)

S16-E58 グリッドに位置する。規模は長軸 96cm、短軸 50cm、深さ 12cm を測る。平面形は主軸方向 N-20°-W を示す開丸長方形で、底面は平坦をなし、断面形は皿形である。堆積土は黒褐色粘土質シルトの単層である。

遺物は産地不明の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、瓦片、土師質土器、在地産の瓦質土器が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



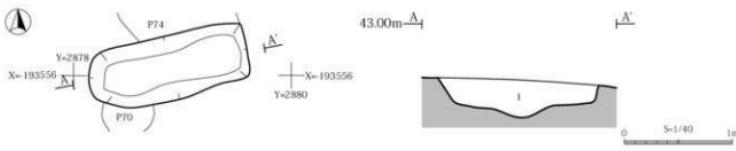
番号	土色	土質	粘性	しまり	備考
I 10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	なし	なし	径2~5cmの礫と砂少量

第84図 SK9 土坑平面図・断面図

9) SK10 土坑 (第85図 図版16-6・7)

S16-E58 グリッドに位置する。P70、P74 と重複しており、SK10 が新しい。規模は長軸 1.49m、短軸 60cm、深さ 36cm を測る。平面形は主軸方向 N-76°-E を示す開丸長方形で、底面は中央部に深さ 10cm ほどの窪みをもつ。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は黒褐色粘土質シルトの単層である。

遺物は大堀相馬産の陶器、土師質土器、瓦片が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



番号	土色	土質	粘性	しまり	備考
I 10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	なし	あり	径2~5cmの礫と砂少量

第85図 SK10 土坑平面図・断面図

第1節 駅部

10) SK11 土坑 (第86図 図版16-8)

S16-E58 グリッドに位置する。SD4と重複しており、SK11が新しい。規模は長軸 1.1m、短軸 94cm、深さ 36cm を測る。平面形は主軸方向 N-68°-E を示す不整形で、検出面から深さ 20cm ほどの北東部に、底面幅 39cm、奥行き 23cm のテラス状を呈する箇所がある。断面形は階段状である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層である。遺物は出土していない。

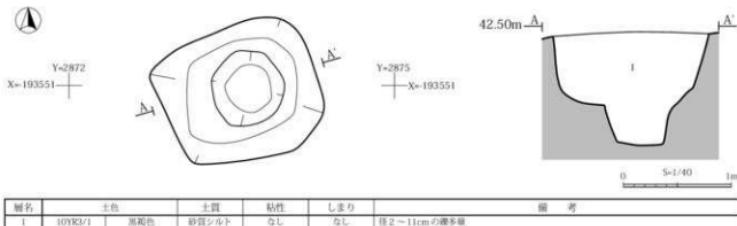


第86図 SK11 土坑平面図・断面図

11) SK12 土坑 (第87図 図版17-1・2)

S16-E58 グリッドに位置する。規模は長軸 1.43m、短軸 1.27m、深さ 1.01m を測る。平面形は主軸方向 N-67°-E を示す隅丸方形で、底面は中心に向かって緩やかに傾斜し、中央部は径約 70cm、深さ約 40cm のピット状をなす。断面形は漏斗形である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層である。

遺物は産地不明の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、在地産の瓦質土器・瓦片、古銭が出土している。古銭以外は細片のため図示し得なかった。



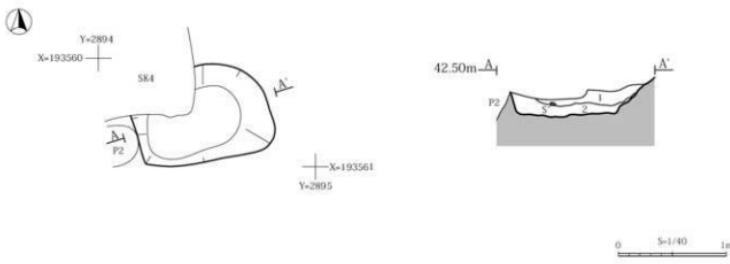
図版番号	写真図版番号	層位	銭銘名	初期年	法規 (cm・g)			備考	登録番号
					外径	穿孔	重さ		
1	131-13	2層	寛永通宝	1636	2.0	0.8	2.3		N-29
2	131-4	2層	寛永通宝	1636	2.4	0.8	2.8		N-30

第87図 SK12 土坑平面図・断面図・出土遺物

12) SK14 土坑 (第 88 図 図版 17-3・4)

S17-E60 グリッドに位置する。SK4 と重複しており、SK14 が古い。規模は長軸 1.24m、短軸 88cm、深さ 28cm を測る。平面形は主軸方向 N-72°E を示す隅丸長方形で、底面は平坦をなし、断面形は皿形である。堆積土は粘土質シルトの 2 層からなる。

遺物は、19世紀代の大堀相馬産の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片が出土しているが、細片のため図示し得なかった。

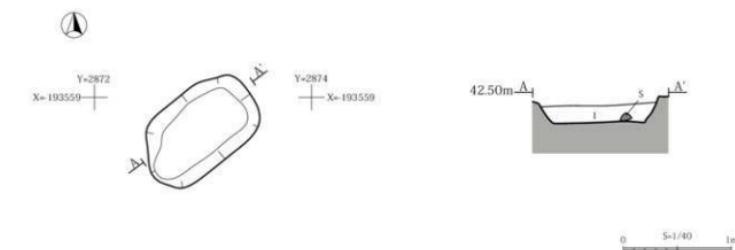


第 88 図 SK14 土坑平面図・断面図

13) SK15 土坑 (第 89 図 図版 17-5・6)

S16-E58 グリッドに位置する。規模は長軸 1.16m、短軸 71cm、深さ 19cm を測る。平面形は主軸方向 N-52°E を示す隅丸長方形で、底面は平坦をなし、断面形は皿形である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層である。

遺物は 19 世紀代の大堀相馬産の陶器、瓦片、金属製品等が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



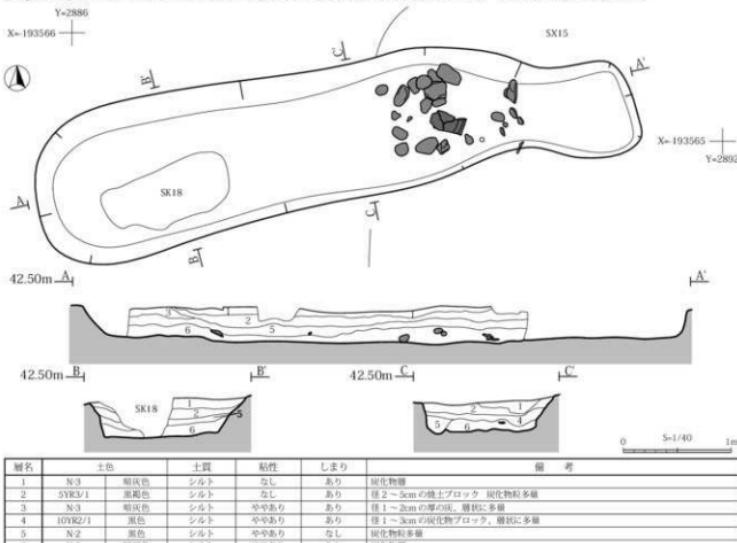
第 89 図 SK15 土坑平面図・断面図

第1節 駅部

14) SK17 土坑（第90図 図版18-1～3）

S17-E60～S17-E59グリッドに位置する。SK17は、東側のSX15より新しく、西側のSK18より古い。規模は長軸5.58m、短軸1.44m、深さ27～35cmを測る。平面形は主軸方向N-79°Eを示す長楕円形で、底面は平坦であり、断面形は逆台形である。堆積土は炭化物を多量に含むシルトの6層からなる。

遺物は6層より18世紀代の瀬戸・美濃産の陶器、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、在地産の瓦質土器、御神酒徳利と思われる土師質土器の胴部～底部片、瓦片、煙管、古銭が出土し、この内3点を図示した。



図版番号	写真図版番号	層位	種類	器種	部位	胎土	法規(cm)		産地	時期	文様・備考	登録番号
							U径	底径	高さ			
1	63-3	6層	土師質土器	壺利	体部～底部	重	-	3.1	6.1	在地	19世紀以後 御神酒徳利	I-232
2	63-2	6層	金属性質品	4.9	1.8	1.9	外径	内径	厚さ			N-5
3	132-7	6層	本漆通常	1408(明)			法規(cm・g)				備考	登録番号
							外径	穿孔	重さ			

第90図 SK17 土坑平面図・断面図・出土遺物

15) SK18 土坑 (第91図 図版17-7・8・18-2)

S17-E59 グリッドに位置する。SK17 と重複しており、SK18 が新しい。規模は長軸 1.16m、短軸 54cm、深さ 37cm を測る。平面は主軸方向 N-65°E を示す不整形で、底面は平坦をなし、断面形は階段状である。底面に炭化した木片を多量に含む。堆積土は黒褐色砂質シルトの 3 層からなる。遺物は出土していない。

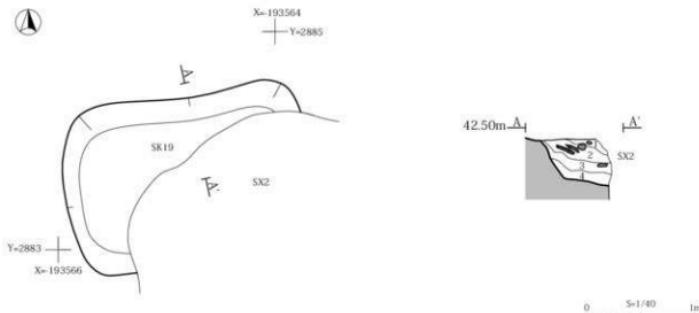


第91図 SK18 土坑平面図・断面図

16) SK19 土坑 (第92図 図版18-4・5)

S17-E59 グリッドに位置する。SX2 と重複しており、SK19 が古い。規模は長軸 2.22m、短軸 1.57m、深さ 39cm を測る。平面形は主軸方向 N-77°E を示す頸丸長方形と考えられる。底面は平坦をなし、南側に向かって緩やかに傾斜する。断面形は不明である。堆積土は砂質シルト・粘土の 4 層からなる。

遺物は 19 世紀の大堀相馬産の陶器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



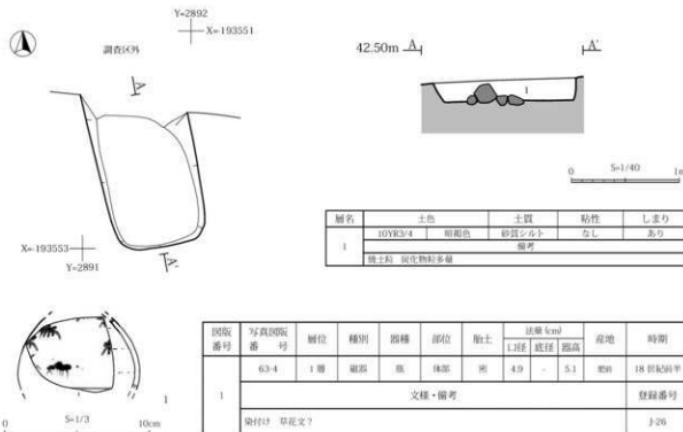
第92図 SK19 土坑平面図・断面図

第1節 駅部

17) SK22 土坑（第93図 図版19-1・2）

S16-E60 グリッドに位置し、北側は調査区外に広がる。規模は長軸 1.21m、短軸 92cm、深さ 20cm を測る。平面形は主軸方向 N-10°W を示す長方形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は暗褐色砂質シルトの単層で、底面付近に長さ 10～20cm、幅 5～10cm、厚さ 5～10cm の自然礫を含む。

遺物は 19世紀代の大堀相馬産の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、石製品、土製品、瓦片、金属製品等の細片が出土し、この内 1点を図示した。

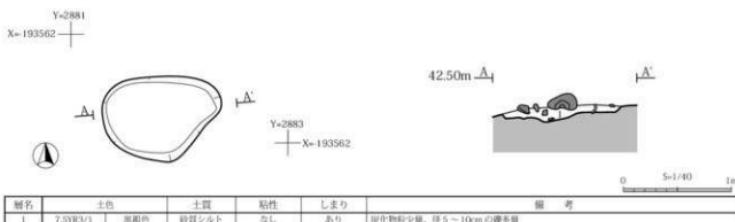


第93図 SK22 土坑平面図・断面図・出土遺物

18) SK23 土坑（第94図 図版19-3・4）

S17-E59 グリッドに位置する。規模は長軸 1.1m、短軸 0.79m、深さ 0.13m を測る。平面形は主軸方向 N-84°E を示す不整な梢円形で、底面はやや起伏をもち、断面形は浅いすり鉢状である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層で礫を多量に含む。

遺物は 19世紀代の大堀相馬産の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、瓦片が出土しているが、細片のため図示しえなかった。

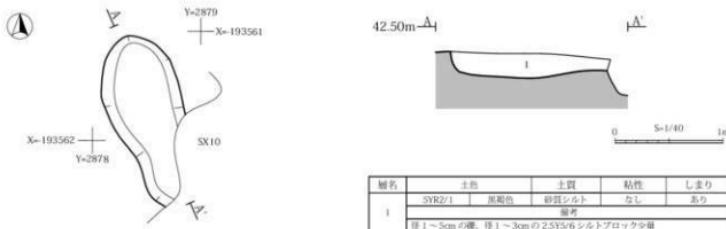


第94図 SK23 土坑平面図・断面図

19) SK25 土坑 (第95図 図版19-5・6)

S17-E58 グリッドに位置する。SX10 と重複しており、SK25 が古い。規模は長軸 1.56m、短軸 71cm、深さ 20cm を測る。平面形は主軸方向 N-17°W を示す不整橢円形で、底面は平坦をなし、断面形は皿形である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層である。

遺物 19世紀代の大堀相馬産の陶器、在地産の瓦質土器、瓦片が出土しているが、細片のため図示し得なかった。

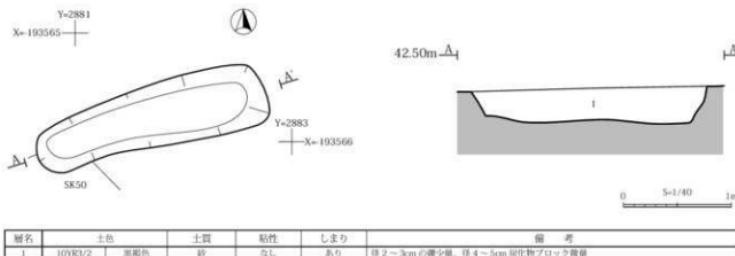


第95図 SK25 土坑平面図・断面図

20) SK27 土坑 (第96図 図版19-7・8)

S17-E59 グリッドに位置する。SK50 と重複しており、SK27 が古い。規模は長軸 2.18m、短軸 62cm、深さ 34cm を測る。平面形は主軸方向 N-72°E を示す長楕円形で、底面はやや起伏をもち、断面形は逆台形である。堆積土は黒褐色沙の単層である。

遺物は 19世紀代の大堀相馬産の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、金属製品が出土し、この内 1 点を図示した。



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	堆積	法線 5cm			産地	時期	文様・備考	登録番号
							L径	底径	器高				
I	63-6	1層	磁器	紅皿	口縁～底	南	4.7	1.5	1.5	鹿島	19世紀後半	型押し	J-27

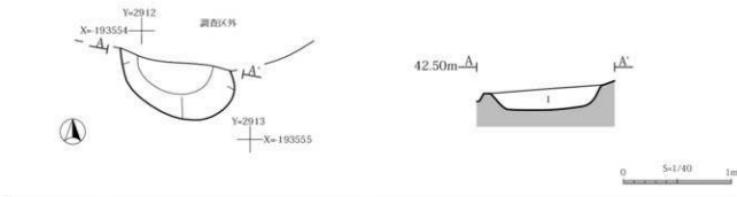
第96図 SK27 土坑平面図・断面図・出土遺物

第1節 駅部

21) SK28 土坑 (第97図 図版20-2)

S16-E62 グリッドに位置し、北側は調査区外に広がる。規模は長軸 1.12m、短軸 53cm、深さ 20cm を測る。平面形は主軸方向 N-69°W を示す不整梢円形と推定され、底面は平坦をなし、断面形は皿形である。堆積土は黒褐色シルトの単層である。

遺物は産地不明の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、瓦片が出土し、この内 1 点を図示した。



第97図 SK28 土坑平面図・断面図・出土遺物

22) SK30 土坑 (第98図 図版20-2・3)

S16-E62 ~ S16-E61 グリッドに位置する。規模は長軸 1.12m、短軸 77cm、深さ 32cm を測る。平面形は主軸方向 N-16°W を示す梢円形で、底面は平坦をなし、断面形は皿形である。堆積土は極暗赤褐色粘土質シルトの単層である。

遺物は 18世紀代の肥前産の磁器、金属製品が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



第98図 SK30 土坑平面図・断面図

23) SK31 土坑 (第 99 図 図版 20-4・5)

S16-E60 グリッドに位置し、規模は長軸 1.45m、短軸 1.24m、深さ 28cm を測る。平面形は主軸方向 N-54°-E を示す隅丸方形で、底面は平坦をなし、断面形は皿形である。堆積土は黒色砂質シルトの単層である。

遺物は土師質土器、瓦片、金属製品が出土しているが、細片のため図示し得なかった。

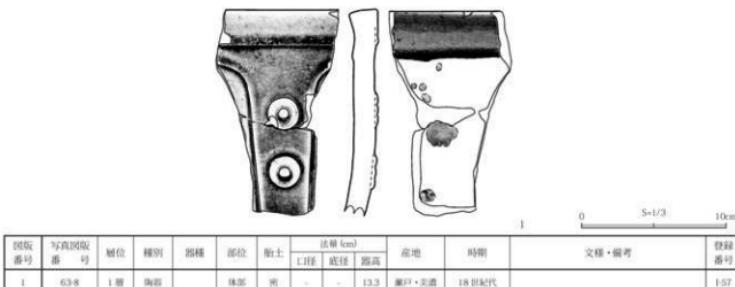
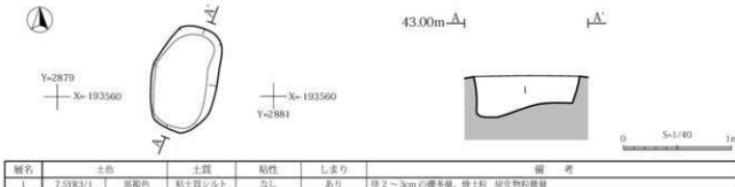


第 99 図 SK31 土坑平面図・断面図

24) SK32 土坑 (第 100 図 図版 20-6・7)

S17-E59 ～ S16-E59 グリッドに位置する。規模は長軸 97cm、短軸 62cm、深さ 38cm を測る。平面形は主軸方向 N-23°-E を示す隅丸長方形で、底面は南側に向かって緩やかに傾斜し、断面形は逆台形である。堆積土は黒褐色粘土質シルトの単層である。

遺物は 18 世紀代の瀬戸・美濃系陶器、18 世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、瓦片が出土し、この内 1 点を図示した。



第 100 図 SK32 土坑平面図・断面図・出土遺物

第1節 駅部

25) SK33 土坑 (第101図 図版21-1・2)

S17-E58～S16-E58 グリッドに位置する。規模は長軸 62cm、短軸 47cm、深さ 14cm を測る。平面形は主軸方向 N-81°W を示す隅丸方形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層である。

遺物は18世紀代の肥前産の磁器、土師質土器が出土しているが、細片のため図示し得なかった。

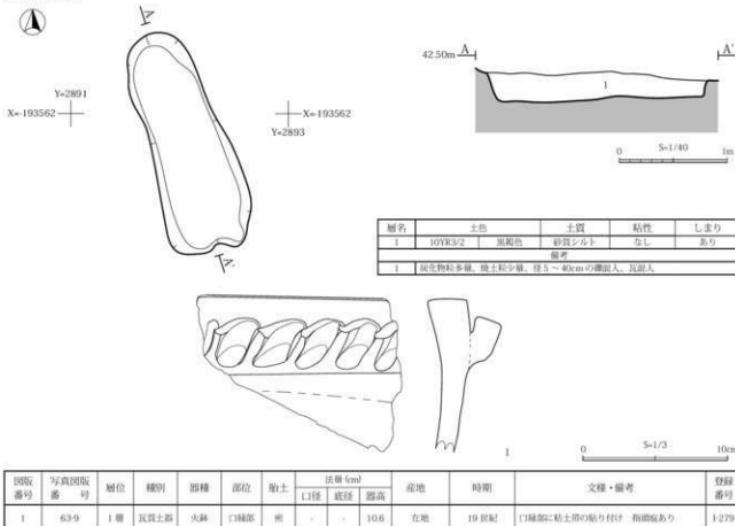


第101図 SK33 土坑平面図・断面図

26) SK34 土坑 (第102図 図版21-3・4)

S17-E60 グリッドに位置し、規模は長軸 2.1m、短軸 82cm、深さ 26cm を測る。平面形は主軸方向 N-20°W を示す不整の長楕円形で、底面はやや起伏をもち、断面形は逆台形である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層である。

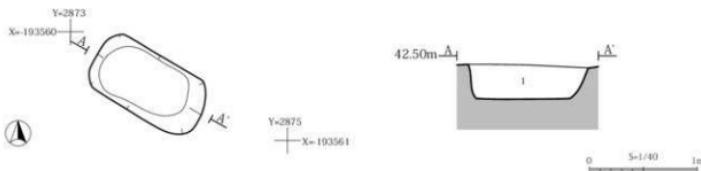
遺物は19世紀代の堤産の陶器、土師質土器、在地産の瓦質土器の火鉢、瓦片、金属製品が出土し、この内1点を図示した。



第102図 SK34 土坑平面図・断面図・出土遺物

27) SK35 土坑 (第 103 図 図版 21-5・6)

S17-E58 グリッドに位置する。規模は長軸 1.11m、短軸 58cm、深さ 32cm を測る。平面形は主軸方向 N-59°-W を示す隅丸長方形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は黒褐色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。



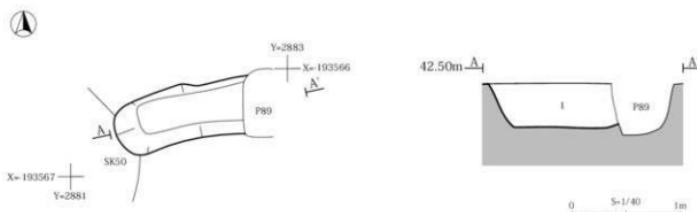
層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
I	7.SVR3/1 黒褐色	粘土質シルト	なし	あり 径 2~3cm の礫多層、堆土剝・炭化物有無	

第 103 図 SK35 土坑平面図・断面図

28) SK36 土坑 (第 104 図 図版 21-7・8)

S17-E59 グリッドに位置する。SK36 は SK50 より新しく、P89 より古い。規模は長軸 1.19m、短軸 52cm、深さ 42cm を測る。平面形は主軸方向 N-77°-E を示す隅丸方形と考えられる。底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は黒褐色粘土質シルトの単層である。

遺物は平瓦の小片が 2 点出土しているが、細片のため、図示し得なかった。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
I	7.SVR3/1 黒褐色	粘土質シルト	なし	あり 径 2~3cm の礫多層、堆土剝・炭化物有無	

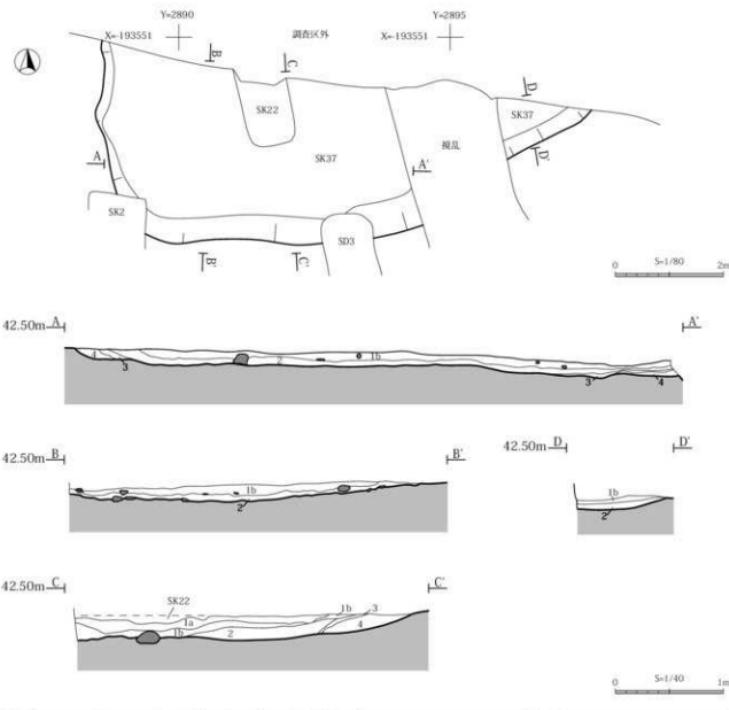
第 104 図 SK36 土坑平面図・断面図

第1節 駅部

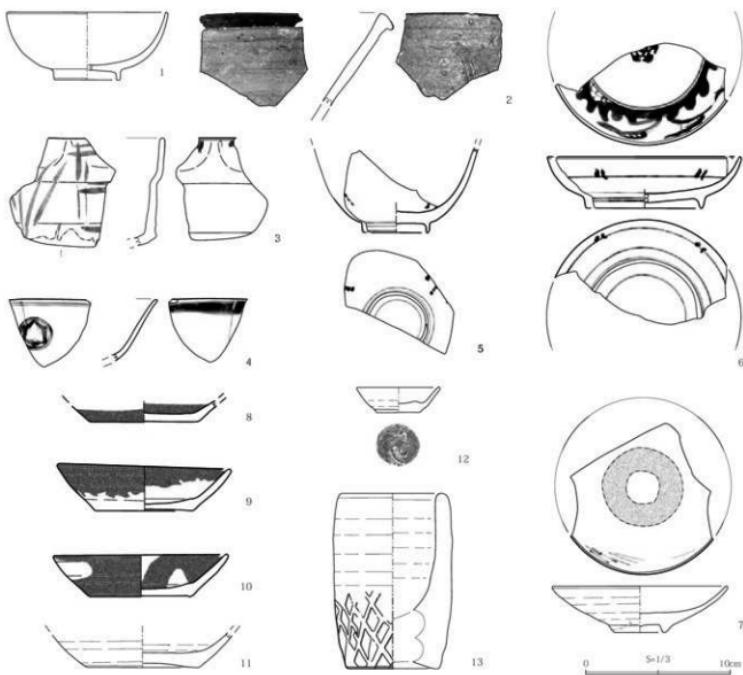
29) SK37 土坑 (第105~107図 図版22-1~4)

S16-E59~S16-E58グリッドに位置し、北側は調査区外に広がる。SD3、SK2、SK22と重複しており、SK37が古い。東側を一部搅乱されている。規模は長軸8.97m、短軸3.16m、深さ15~20cmを測る。平面形は不明であるが、底面はやや起伏をもち、壁は南側に向かって緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は大別4層、細別5層からなり、1・2層は堆積土、3・4層は構築土と考えられる。

遺物は1a、1b層中より17世紀代の絵唐津向付陶器、岸産の擂鉢、17世紀~18世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片、石製品、土製品、煙管、飾金具が出土し、この内17点を図示した。なお、18世紀代の磁器には焼締による補修痕の見られるものがあり、廃棄年代は19世紀代以降と思われる。



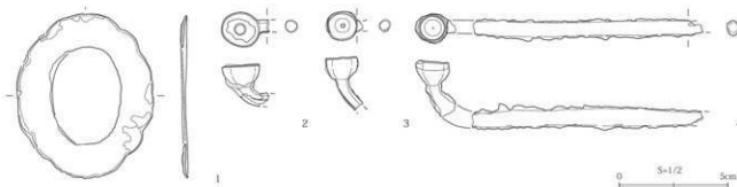
第105図 SK37 土坑平面図・断面図



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法華(cm)			产地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	64-1	2層	陶器	碗	口縁～底部	泥	11.2	4.5	4.7	肥前	17世紀後半		I-58
2	64-2	2層	陶器	皿	口縁～全体	泥	28	-	6.9	伊	17世紀	輪船 菊文	I-59
3	64-3	2層	陶器	山形	口縁～全体	泥	-	-	7.4	唐津	19世紀後半～ 19世紀前半	輪船 菊文	I-60
4	64-4	2層	磁器	碗	全体	泥	10.4	-	4.4	肥前	18世紀後半	染付 丸文 織錦柄あり	J-29
5	64-7	2層	磁器	碗	全体	泥	11.3	4.5	5.8	肥前	18世紀後半	染付 草花?	J-30
6	64-5	2層	磁器	皿	口縁～底部	泥	13.5	8.1	3.5	肥前	18世紀後半	染付(外面)草文 内面)草花文 見込に五瓣花	J-31
7	64-6	2層	磁器	皿	口縁～底部	泥	12.2	3.6	3.3	肥前	17世紀後半	染付(見込)蛇ノ目輪調 織錦	J-32
8	64-9	2層	土師質土器	かわらけ	全体	泥	10	7.5	1.5	在地	18世紀後半～ 19世紀後半	油煙仕着	I-233
9	65-1	2層	土師質土器	かわらけ	全体	泥	12.1	6.8	3.1	在地	18世紀後半～ 19世紀後半	縫付蓋有り	I-234
10	65-3	2層	土師質土器	かわらけ	全体	泥	12.2	7	2.9	在地	18世紀後半～ 19世紀後半	縫付蓋有り	I-235
11	64-10	2層	土師質土器	かわらけ	全体	泥	12.4	7.7	2.3	在地	18世紀後半～ 19世紀後半		I-236
12	65-2	2層	土師質土器	打印皿	全体	泥	5.8	3	1.8	在地	18世紀後半～ 19世紀後半		F-237
13	64-8	2層	土師質土器	燒接垢	全体	泥	7.7	6.4	12.2	在地	17世紀	格子状織き目	I-238

第106図 SK37 土坑出土遺物(1)

第1節 駅部

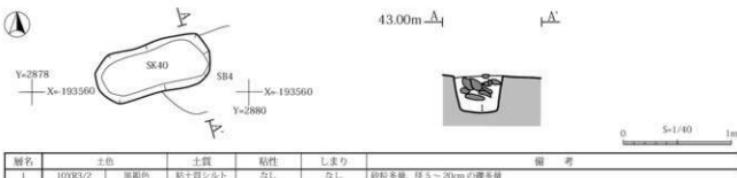


図版番号	写真図版番号	層位	種類	法単 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
1	65-4	2層	金属製品	7.5	6.5	0.5	鍍金具	N-6
2	65-5	2層	金属製品	12.5	1.5	2	環貫(鍍金)	N-7
3	65-6	2層	金属製品	11.5	1.5	2	環貫(鍍金)	N-8
4	65-7	2層	金属製品	113.5	1.5	3	環貫	N-9

第107図 SK37 土坑出土遺物(2)

30) SK40 土坑 (第108図 図版23-1・2)

S17-E58～S16-E58 グリッドに位置する。SB4 を構成する P12 と重複しており、SK40 が新しい。規模は長軸 1.08m、短軸 48cm、深さ 31cm を測る。平面形は主軸方向 N-72°-E を示す梢円形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は黒褐色粘土質シルトの單層で礫を多量に含む。遺物は出土していない。



第108図 SK40 土坑平面図・断面図

31) SK46 土坑 (第109図 図版23-3・4)

S17-E58 グリッドに位置する。P21 と重複しており、P21 が新しい。規模は長軸 82cm、短軸 44cm、深さ 45cm を測る。平面形は主軸方向 N-76°-W を示す長方形と思われ、底面は平坦をなし、断面形は U 字形である。堆積土は 2 層の砂質シルトからなる。遺物は出土していない。

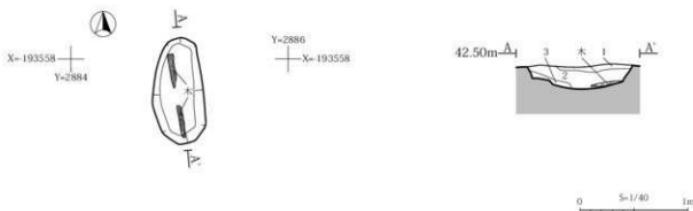


第109図 SK46 土坑平面図・断面図

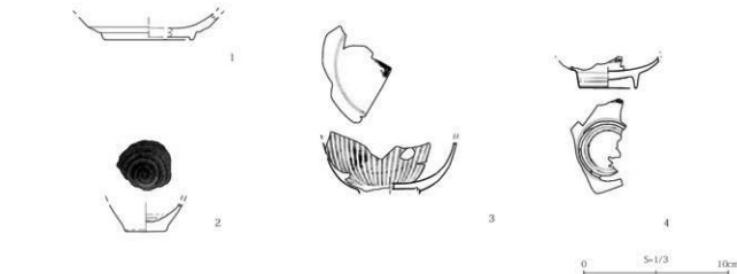
32) SK47 土坑 (第110図 図版23-5)

S16-E59グリッドに位置する。規模は長軸97cm、短軸48cm、深さ20cmを測る。平面形主軸方向はN3°-Wを示す梢円形で、底面はすり鉢状に中央に向かって緩やかに傾斜しており、断面形は皿形である。堆積土は1・2層が砂質シルトで、3層が黒褐色粘土質シルトである。底面付近で横木が確認されており、地中染の可能性も考えられ、なんらかの建物を構成する柱穴と思われるが、明確に組む柱穴は見つからなかった。

遺物は17世紀前半の志野産の陶器、19世紀代の大堀相馬産の豆甕、18世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、瓦片が出土し、この内4点を図示した。



編番	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	7.SYK3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	あり 径2～5cmの2.5YS6粘土ブロック多様、径5～10cmの漂浮物、炭化物少量
2	7.SYK2/1	黒色	砂質シルト	なし	あり 炭化物類、径5～10cmの漂浮物
3	7.SYK3/1	黒褐色	粘土シルト	なし	あり 2.5YS6粘土粘多様、炭化物類微量



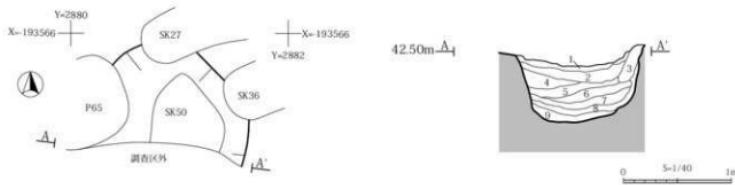
図版 番号	写真図版 番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法規 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録 番号
							口径	底径	器高				
1	65-8	2層	陶器	豆甕	体部～底部	泥	9.5	6.1	1.8	志野	17世紀前半	白墨繪	161
2	65-9	2層	陶器	豆甕	底部	泥	4.9	2.8	1.9	大堀相馬	19世紀前半	直輪捺け流し	162
3	66-1	2層	磁器	瓶	体部	泥	0.3	4.1	4.4	肥前	18世紀前半	豪村(外側)朱絵文 内側)冠込に施	J33
4	66-2	2層	磁器	瓶	体部～底部	泥	7	3.9	2.2	肥前	18世紀前半	豪村(口)開口	J34

第110図 SK47 土坑平面図・断面図・出土遺物

第1節 駅部

33) SK50 土坑 (第111図 図版23-6)

S17-E59 グリッドに位置し、南側は調査区外に広がる。P65、SK27、SK36 と重複し、SK50 が古い。規模は長軸 1.34m、短軸 90cm、深さ 70cm を測る。平面形は不整梢円形と考えられ、底面は中心に向かって緩やかに傾斜し、断面形は逆台形である。堆積土は径 1 ~ 5cm の小礫を少量含む粘土質シルトなど 9 層からなる。遺物は出土していない。

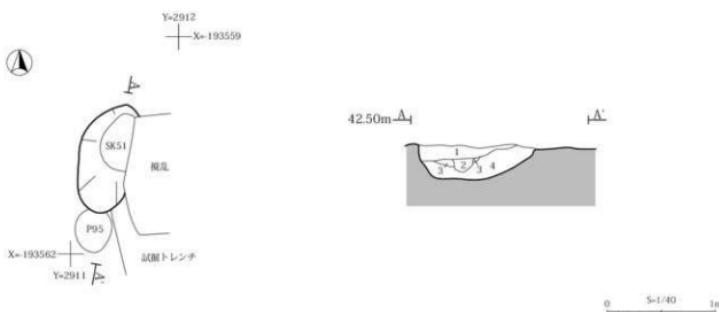


層名	土色	土質	黏性	しまり	備考
1	暗青灰褐色	粘土質シルト	あり	あり	10YR3/3のブロック多量
2	5YR3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	なし
3	10YR4/2	灰茶褐色	粘土質シルト	あり	径 5cm 程の礫少
4	10YR2/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	径 5mm 程の礫少
5	10YR2/2	黒褐色	シルト	なし	径 5mm 程の礫少
6	10YR2/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	径 5mm 程の炭化物多量、白色シルト粘土多量
7	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	径 5mm 程の炭化物少
8	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	あり	径 2mm 程の礫多量、白色シルト粘土多量
9	10YR3/1	黒褐色	粘土	なし	径 3cm 程の礫少

第111図 SK50 土坑平面図・断面図

34) SK51 土坑 (第112図 図版23-7)

S17-E62 ~ S16-E62 グリッドに位置し、東側は壊乱で削平されている。P95 と重複し、SK51 が新しい。規模は長軸 1.12m、短軸 35cm、深さ 24cm を測る。平面形は主軸方向 N-12°-E を示す梢円形で、底面はやや起伏をもち、断面形は皿形である。堆積土は砂質シルト・シルトの 4 層からなる。遺物は出土していない。



層名	土色	土質	黏性	しまり	備考
1	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	径 5 ~ 10mm の炭化物多量、径 1 ~ 2cm 程度の礫少
2	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	炭化物多量、径 5 ~ 10mm の礫多
3	10YR3/6	黒褐色	砂質シルト	なし	径 5 ~ 10mm の 10YR3/3 粘土質シルトブロック多量
4	10YR3/1	黒褐色	シルト	なし	あり

第112図 SK51 土坑平面図・断面図

35) SK52 土坑 (第113図 図版23-8)

S17-E61 グリッドに位置する。規模は長軸 83cm、短軸 77cm、深さ 14cm を測る。平面形は不整梢円形で、底面はやや起伏をもち、断面形は皿形である。堆積土は黒褐色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。

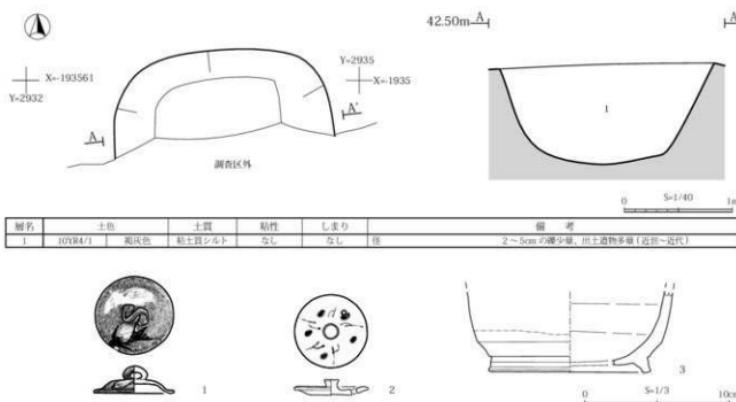


第113図 SK52 土坑平面図・断面図

36) SK75 土坑 (第114～119図 図版24-1)

S17-E64 グリッドに位置し、南側は調査区外に広がる。規模は長軸 1.98m、短軸 78cm、深さ 86cm を測る。平面形は主軸方向 N-84°-E を示す卵円形と推定され、底面は中心に向かって緩やかに傾斜し、断面形は逆台形である。堆積土は褐灰色粘土質シルトの単層である。

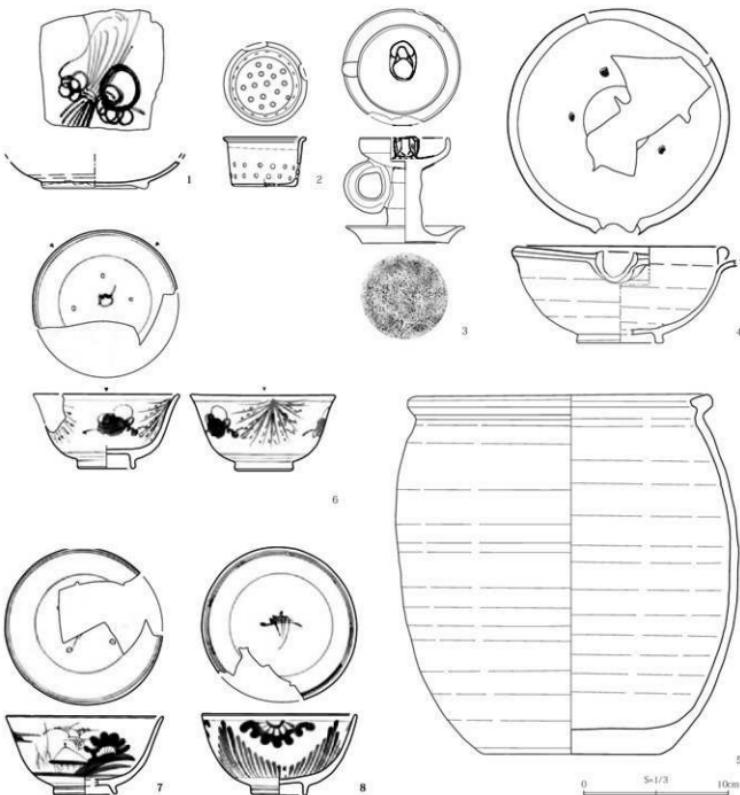
遺物は 19世紀代の大堀相馬産、堤産の陶器、17～19世紀代の肥前産磁器、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片、金属製品、土製品が出土し、この内 33 点を図示した。



第114図 SK75 土坑平面図・断面図・出土遺物 (1)

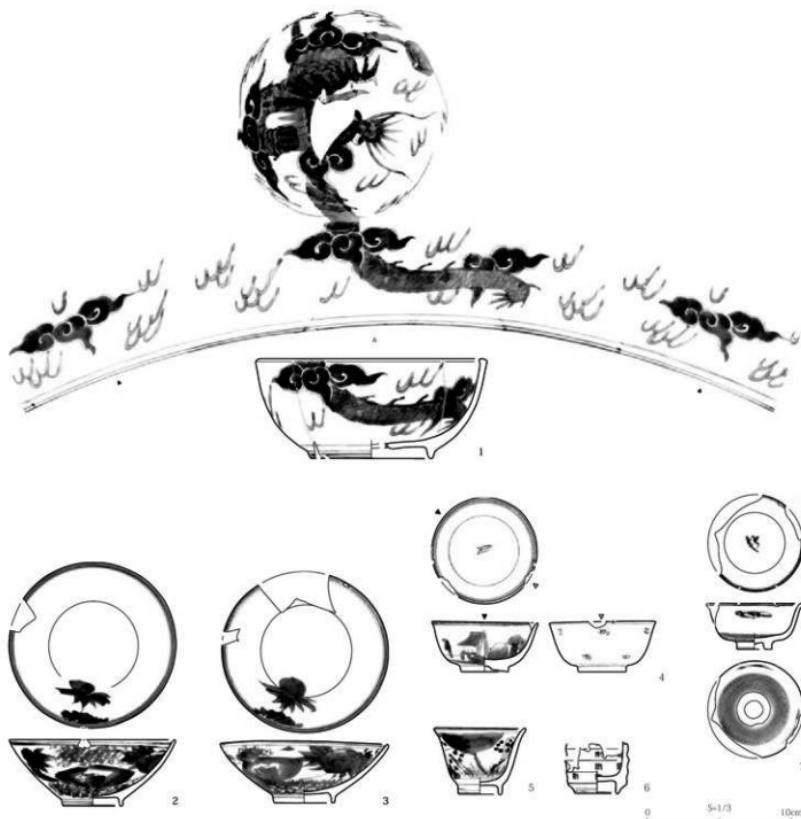
図版番号	写真図版番号	層位	種別	沿縁	部位	胎土	法量(cm)			產地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	高さ				
1	66-4	1層	陶器	土瓶 (壺)	体部	密	5.5	3	1.9	大堀相馬	19世紀後半	鉢足 秋草 底輪	163
2	66-5	1層	陶器	土瓶 (壺)	体部	密	5.2	2.9	10.1	大堀相馬	19世紀後半	鉢足	164
3	66-8	1層	陶器	鉢	体部～底部	密	14.2	11.2	6.7	在地	18世紀後半～ 19世紀前半	鉢足	165

第1節 駅部



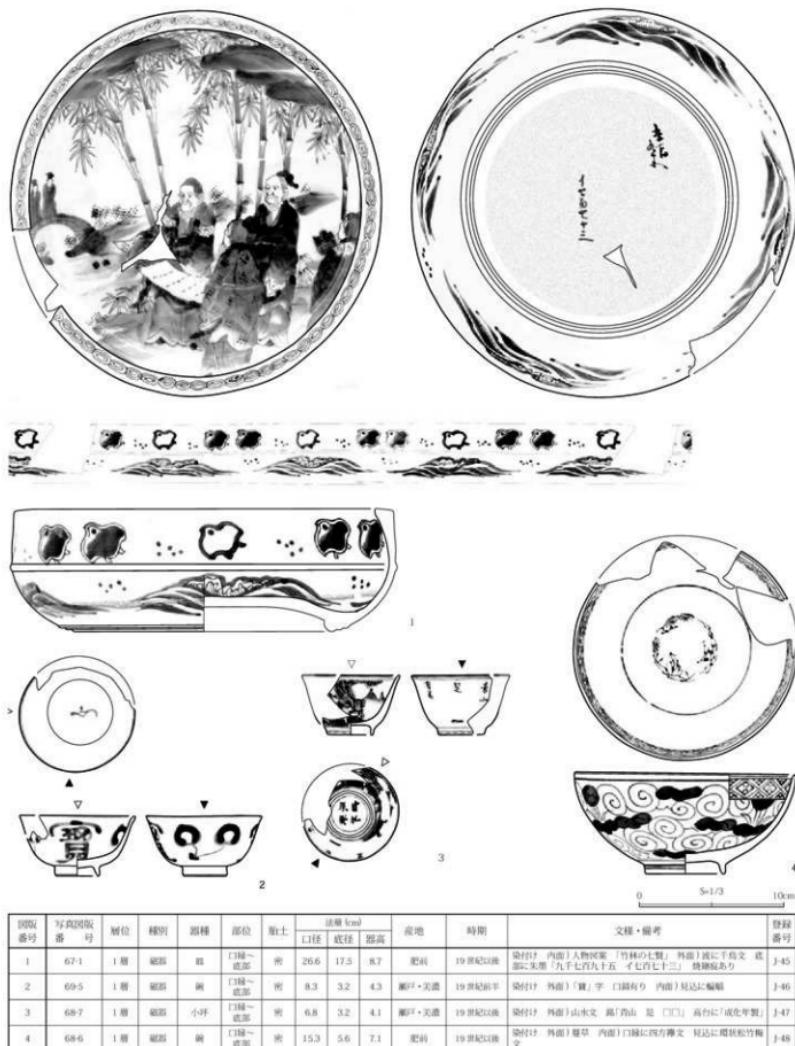
図版 番号	写真図版 番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法華 [cm]	产地	時期	文様・備考		登録 番号
										口径	底径	
1	66-7	1層	陶器	皿	底部	密	11.6 7.3 1.8	大根相馬	18世紀後半	楓松 宝物	楓葉	166
2	66-9	1層	陶器	茶漬	茶漬	口縁～底部	密 5.7 4.5 4.5	大根相馬	18世紀後半	直面と側面に穿孔あり		167
3	66-6	1層	陶器	盤	底部	口縁～底部	密 6.2 6 7.4	在地	18世紀後半	楓松		168
4	68-8	1層	陶器	片口	口縁～底部	密	14.5 6 6.7	在地	18世紀後半～ 19世紀初半	楓松		169
5	66-10	1層	瓦質土	甕	底	口縁～底部	密 20.8 12.4 24.5	在地	19世紀後半			1280
6	68-5	1層	磁器	碗	口縁～底部	密	11 4.5 5.7	瀬戸・美濃	18世紀後半～ 19世紀初半	模付付（外面）宝物 内面）模様 見込に火炎文	模付付（外面）	J-35
7	67-2	1層	磁器	碗	口縁～底部	密	10.9 4.3 5.6	肥前	18世紀後半～ 19世紀初半	模付付（外面）山水文 東屋 遠山 細内面）見込に火炎文	模付付（外面）	J-36
8	68-4	1層	磁器	碗	口縁～底部	密	10.8 3.8 3.6	瀬戸・美濃	18世紀後半	模付付（外面）草花文 内面）口縁部に変形した 模文。見込に寿字文	模付付（外面）	J-37

第115図 SK75 土坑出土遺物 (2)



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)		落地	時期	文様・縞考	登録番号
							口径	底径				
1	67-4	1層	磁器	碗	口縁～底部	泥	16	8.5	6.9	肥前	19世紀(後) 染付け 外面から内面にかけて一葉がりの萱竈 無縞底あり	J-38
2	68-1	1層	磁器	碗	口縁～底部	泥	11.6	4.2	4.6	瀬戸・美濃 19世紀(中) 19世紀(後)	染付け 外面)草花文 内面)縞	J-39
3	68-2	1層	磁器	碗	口縁～底部	泥	11.7	4.3	4.3	瀬戸・美濃 19世紀(後)	染付け)草花文(牡丹) 内面)縞	J-40
4	69-6	1層	磁器	碗	口縁～底部	泥	7.6	3.4	3.6	瀬戸・美濃 19世紀(後)	染付け 外面)山水文(山中無聲社) 内面)團扇 見込に岩波	J-41
5	67-3	1層	磁器	小鉢	全体～底部	泥	6.4	2.8	4.6	瀬戸・美濃 19世紀(後)	洋紋底に水呑染付け 外面)山水文 山背(之口) 萩台内(成化年製)	J-42
6	68-3	1層	磁器	碗	全体～底部	泥	4.3	3	3.6	肥前	染付け 文字?	J-43
7	70-1	1層	磁器	小鉢	口縁～底部	泥	6.7	2.4	3.3	瀬戸・美濃 19世紀(後)	染付け 外面)連文 宮闈有り 内面)短足に帆掛け舟	J-44

第116図 SK75 土坑出土遺物 (3)



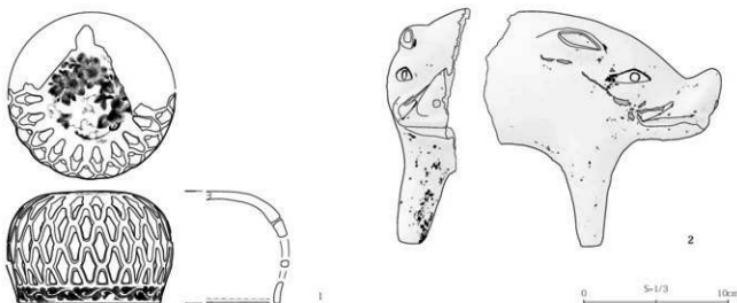
第117図 SK75 土坑出土遺物(4)



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	69-1	1層	磁器	盤	口縁~底部	陶	14.9	8	2.5	肥前	18世紀前半~19世紀前半	染付(外側)梅文、内面)雪竈	J-49
2	69-2	1層	磁器	花口皿	口縁~底部	陶	14	9.1	3.0	肥前	18世紀前半	重ね楓葉、高台内に「宜昌年製」	J-50
3	70-6	1層	磁器	碗	底部~腹部	陶	10.1	7.8	14.8	肥前	19世紀前半	染付(外側)梅宝文	J-51
4	69-4	1層	磁器	葵花口盤	口縁~底部	陶	6.5	4.7	5.2	肥前	19世紀前半	染付(外側)山水文、遠山、帆船(舟身)見込に波瀾	J-52
5	70-2	1層	磁器	扇形口盤	口縁~底部	陶	18.5	14.1	3.8	肥前	18世紀前半	染付(外側)七宝文、船、「福壽」(内面)草花文+山水文	J-53
6	70-4	1層	磁器	瓶	体部	陶	-	-	8.6	肥前	18世紀前半	染付(外側)草花文	J-54
7	70-9	1層	土師質土器	瓶	体部~底部	陶	15	11	3.3	在地	19世紀以後		J-239
8	70-3	1層	磁器	蓋	口縁部	陶	10	-	(2.5)	肥前	19世紀前半	染付(外側)梅、梅子板、羽、蝶	J-55
9	69-3	1層	磁器	瓶	底部~底部	陶	1.7	3.5	9.0	肥前	18世紀前半	染付(外側)草花文、荔枝	J-56

第118図 SK75 土坑出土遺物(5)

第1節 駅部

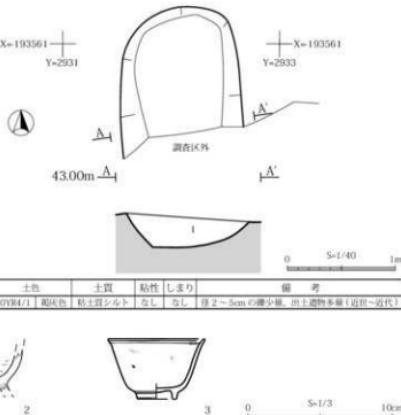


第119図 SK75 土坑出土遺物(6)

37) SK76 土坑 (第120図 図版24-2)

S17-E64 グリッドに位置し、南側は調査区外に広がる。規模は長軸 1.16m、短軸 1.13m、深さ 31cm を測る。平面形は主軸方向 N7°-W を示す長楕円形で、底面は平坦をなし、断面形は皿形である。堆積土は褐灰色粘土質シルトの單層である。

遺物は 18 世紀代の小野相馬産の陶器、19 世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、在地産の植木鉢、瓦質土器が出土し、この内 3 点を図示した。

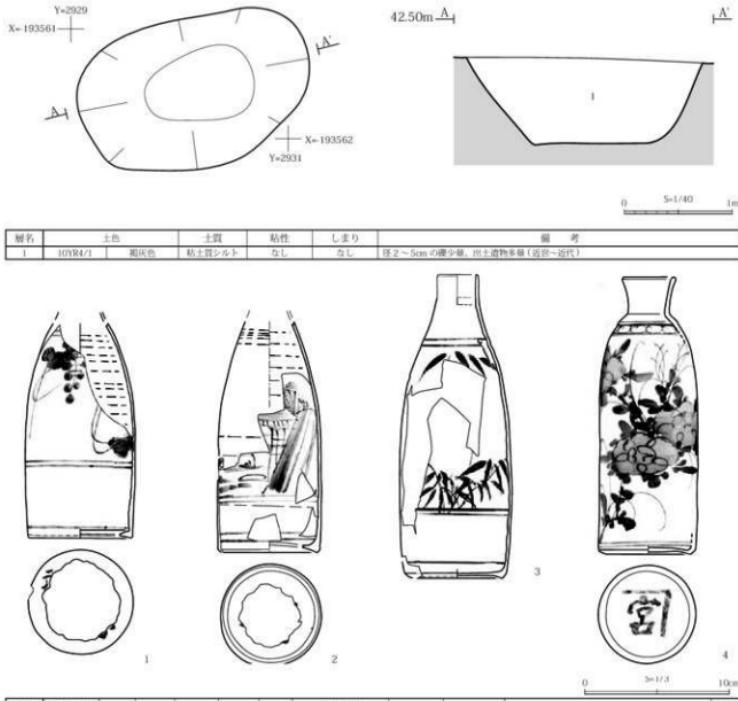


第120図 SK76 土坑平面図・断面図・出土遺物

38) SK77 土坑 (第121~123図 図版25-1・2)

S17-E64 ~ S17-E63 グリッドに位置する。規模は長軸 2.18m、短軸 1.39m、深さ 83cm を測る。平面形は主軸方向 N-74°E を示す橿円形で、底面は平坦、断面形は逆台形である。堆積土は褐色粘土質シルトの単層である。

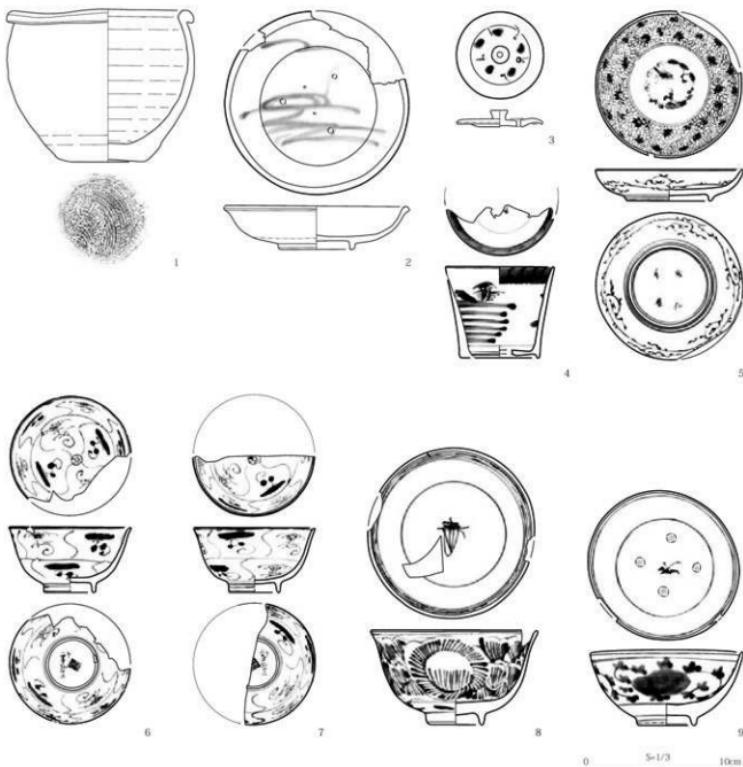
遺物は 18 ~ 19 世紀代の大堀相馬産、在地産の陶器、18 世紀代の肥前産の磁器、19 世紀代の瀬戸・美濃産、切込産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器火鉢、金属製品が出土し、この内 21 点を図示した。なお、図 121-4 の切込産磁利の外底面には墨書で「宮」(1)と記されている。



第121図 SK77 土坑平面図・断面図・出土遺物(1)

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法華(cm)			產地	時期	文様・備考	登録番号
							口徑	底径	器高				
1	72-4	1層	陶器	磁利	体部～底部	泥	3.8	7.2	14.8	大堀相馬	18世紀後半	絵絵 肉頭 薔薇文	171
2	72-1	1層	陶器	磁利	体部～底部	泥	3.5	6.7	15.9	大堀相馬	18世紀後半	絵絵 山水文 東屋 帆船舟舟 底部墨書き	172
3	72-3	1層	陶器	磁利	口縁～底部	泥	2.9	6.3	21.1	大堀相馬	18世紀後半	絵絵 黒絵 二重輪廻 井	173
4	72-2	1層	磁器	磁利	口縁～底部	泥	3.7	5.7	18.2	切込	19世紀以前	草花文 亂竹内「宮」(1)	159

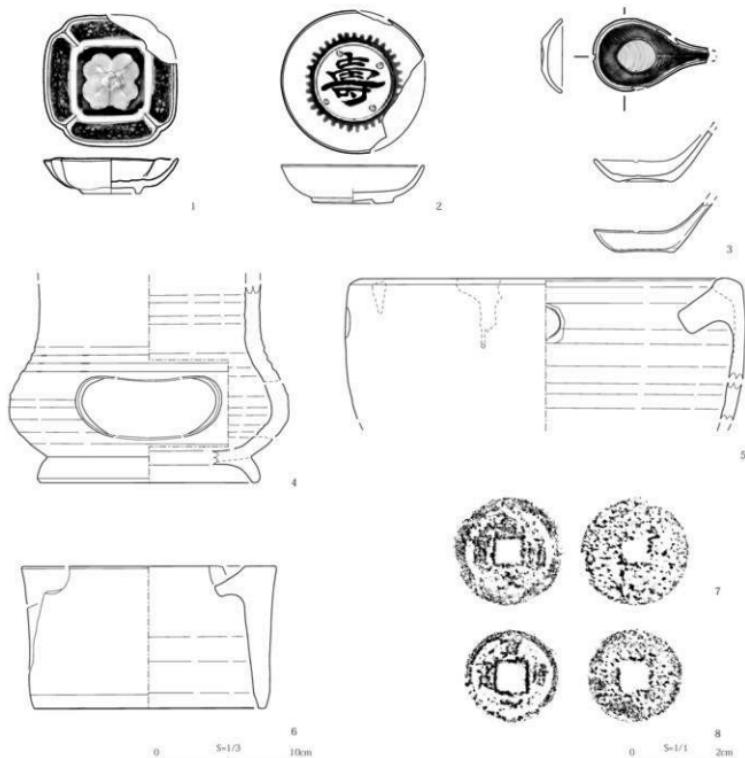
第1節 駅部



0 5=1/3 10cm

図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	図版番号
							上口径	底径	器高				
1	71-5	1層	陶器	廣口	口縁	赤土	13	5.3	10.4	在地	18世紀後半	鉢	1-74
2	73-2	1層	陶器	直	口縁	赤土	12.9	4.8	3	大坂相馬	18世紀後半	鉢	1-75
3	71-4	1層	陶器	土瓶	口縁	赤土	6	3	1.2	大坂相馬	18世紀後半	色絵	1-76
4	72-8	1層	磁器	萬葉緞口	口縁	赤土	7.5	5.5	6.3	肥前	18世紀後半	染付け(外面)風景文 東屋(内面)口縁部に建築する孤見込に田	1-60
5	72-5	1層	磁器	直	口縁	赤土	10.2	5.8	2.2	肥前	18世紀後半	染付け(外面)草花文(内面)花散らし水波文 番松竹梅文、山台に「成化年製」	1-61
6	71-6	1層	磁器	端反側	口縁	赤土	8.2	3.5	4.6	鹿戸・美濃	19世紀前半	染付け(外)万葉花文(内)万葉花文	J-62
7	71-8	1層	磁器	端反側	口縁	赤土	8.4	3.5	4.4	鹿戸・美濃	19世紀前半	染付け(外)万葉花文(内)万葉花文	J-63
8	73-4	1層	磁器	直	口縁	赤土	11.6	4	6.6	鹿戸・美濃	9世紀前半	染付け(外)草花文(内)見込に舟形文	1-64
9	1-7	1層	磁器	直	口縁	赤土	10.5	4.1	5.3	切込	19世紀前半	染付け(外)草花文 牡丹(内)見込に蝙蝠ハリ支え4箇所	1-65

第122図 SK77 土坑出土遺物(2)



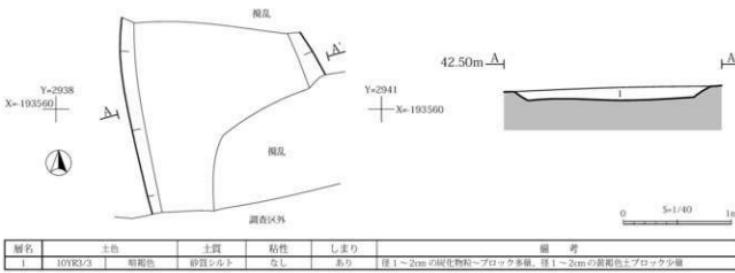
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							上径	底径	高さ				
1	72-6	1層	罐形	小皿	口縁～底部	泥	9.3	4.1	2.5	肥前	18世紀後半～19世紀初頭 型輪取り、内部に草花文、見込に四瓣花の輪刺 負鉢足あり	J-66	
2	72-7	1層	罐形	皿	口縁～底部	泥	9.9	5.6	2.7	肥前	18世紀後半～19世紀初頭 見込に「寿」	J-67	
3	73-1	1層	罐形	蓮華	口縁～底部	泥	5.1	2.2	3.6	肥前	19世紀後半 内部に木葉の型押し	J-68	
4	73-3	1層	瓦質土器	紋造	体部～底部	泥	15.3	14.8	13.8	在地	18世紀後半	J-281	
5	73-5	1層	瓦質土器	模印	口縁～底部	泥	27.4	25.4	9.6	在地	18世紀後半	J-282	
6	73-6	1層	瓦質土器	模印	口縁～底部	泥	17.6	16	10	在地	18世紀後半	J-283	
図版番号	写真図版番号	層位	銭貨名	初鋳年	法量(cm ³ g)			備考			登録番号		
					外径	穿径	重さ						
7	130-7	1層	寛永通宝	1636	24	0.8	271				N-32		
8	130-15	1層	寛永通宝	1636	24.2	0.9	281				N-33		

第123図 SK77 土坑出土遺物(3)

第1節 駅部

39) SK78 土坑（第124図 図版26-1）

S17-E65～S16-E64 グリッドに位置し、北側と南東側は擾乱で削平され、南側は調査区外に広がる。規模は長軸1.88m、短軸1.78m、深さ10cmを測る。平面形は不明である。底面は平坦で、断面形は皿形である。主軸方向はN-67°-Eを示す。堆積土は暗褐色砂質シルトの單層である。遺物は出土していない。

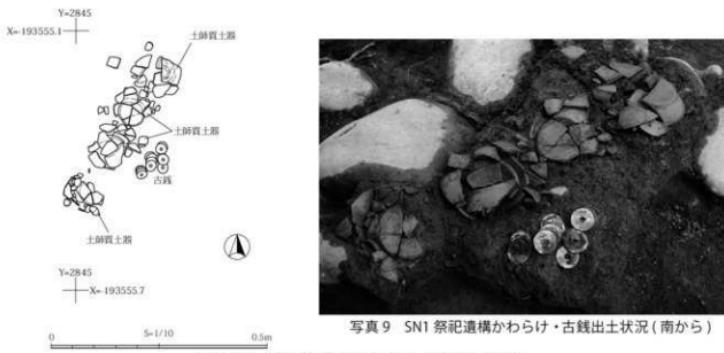


第124図 SK78 土坑平面図・断面図

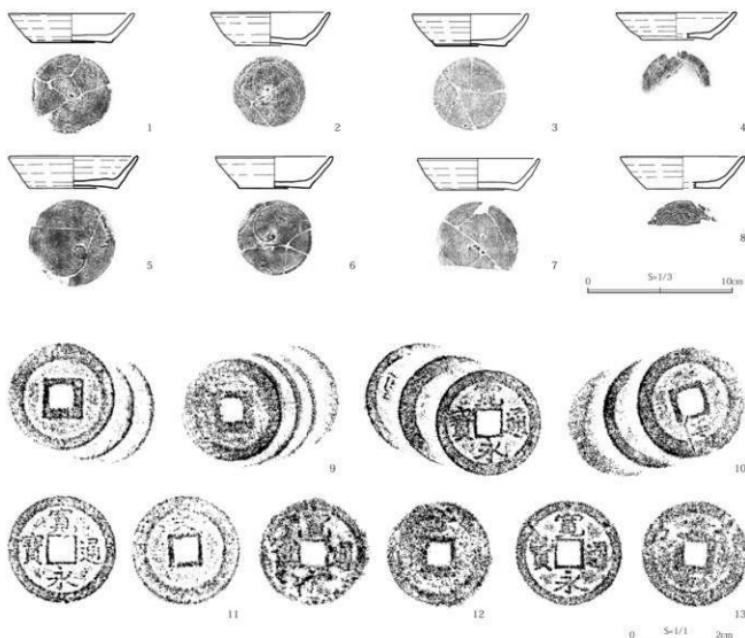
(3) 祭祀遺構

1) SN1 祭祀遺構（第125・126図 図版26-2～4）

S16-E55 グリッドに位置し、土師質土器と古銭が出土した。遺構上部は擾乱により削平されており、遺構の掘り方はないが、祭祀を行った痕跡と考え、遺構として認定した。出土した土師質土器は、ほぼ同じ規格のもので平均口径8.4cmを測る。2枚の土師質土器が合わせ口の状態で、4組8枚が1列に並んで検出された。土師質土器の閉じ組等は残存していない。古銭は一箇所にまとめられ、「寛永通宝」が10枚出土した。遺物は40×23cmの範囲で、まとめて検出されている。合わせ口に閉じられている土師質土器の内側から他の遺物は検出されなかった。



第125図 SN1 祭祀遺構かわらけ・古銭出土状況図



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法華(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							外径	穿径	高さ				
1	74-4	-	土師質土器	かわらけ	口縁～底盤	陶	8.8	5.3	2	在地	19世紀前半	2と合わせ口(上)	I-241
2	74-5	-	土師質土器	かわらけ	口縁～底盤	陶	8.5	4.5	2.3	在地	19世紀前半	1と合わせ口(下)	I-242
3	74-1	-	土師質土器	かわらけ	口縁～底盤	陶	7.8	4.7	2.2	在地	19世紀前半	4と合わせ口(上)	I-243
4	74-7	-	土師質土器	かわらけ	口縁～底盤	陶	8.3	4.6	1.9	在地	19世紀前半	3と合わせ口(下)	I-244
5	74-8	-	土師質土器	かわらけ	口縁～底盤	陶	8.7	6.7	2.2	在地	19世紀前半	6と合わせ口(上)	I-245
6	74-6	-	土師質土器	かわらけ	口縁～底盤	陶	8.2	4.8	2.3	在地	19世紀前半	5と合わせ口(下)	I-246
7	74-2	-	土師質土器	かわらけ	口縁～底盤	陶	8.8	5.7	2.2	在地	19世紀前半	8と合わせ口(上)	I-247
8	74-3	-	土師質土器	かわらけ	口縁～底盤	陶	8.7	5.1	2.3	在地	19世紀前半	7と合わせ口(下)	I-248
図版番号	写真図版番号	層位	銘文	初期年	法華(cm)	法華(cm・g)			備考			登録番号	
						外径	穿径	高さ	外径	穿径	高さ		
9	74-9	-	寛永通宝	1636	-	-	-	-	4枚・背文			N-34	
10	74-10	-	寛永通宝	1636	-	-	-	-	3枚			N-35	
11	74-13	-	寛永通宝	1636	2.4	0.8	2.85		背文			N-36	
12	74-12	-	寛永通宝	1636	2.4	0.7	2.81					N-37	
13	74-11	-	寛永通宝	1636	2.45	0.65	2.68					N-38	

第126図 SN1祭祀構造出土遺物

第1節 駅部

2) SN2 祭祀遺構(第127図 図版27-1・2)

S16-E56 グリッドに位置し、遺構上部は擾乱により削平されており、遺構としての掘り方はないが、祭祀を行った痕跡と考え、遺構として認定した。出土した土師質土器は、ほぼ同じ規格のもので平均口径 20.6cm を測る。2 枚の土器が合わせ口の状態で、2組 4枚が近接して出土した。土師質土器の閉じ紐等は残存していない。合わせ口になった2枚の土器の内側より19世紀代の焰烙の把手片が出土している。周辺より水晶の小片が2点出土している。また、4枚の土器のうち2枚の底面には「FO」と墨書きされている。また、周辺からは、19世紀代の在地産の擂鉢、在地産の瓦質土器、瓦片、磁石片が出土しているが、細片のため図示し得なかった。

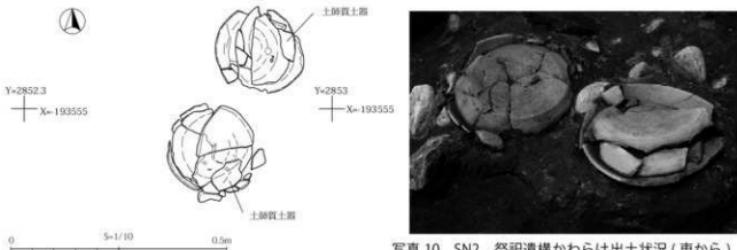
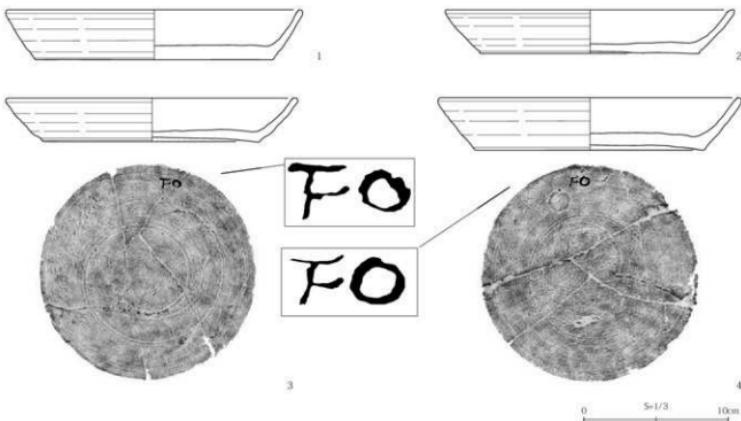


写真 10 SN2 祭祀遺構かわらけ出土状況(東から)



第127図 SN2 祭祀遺構遺物出土状況・出土遺物

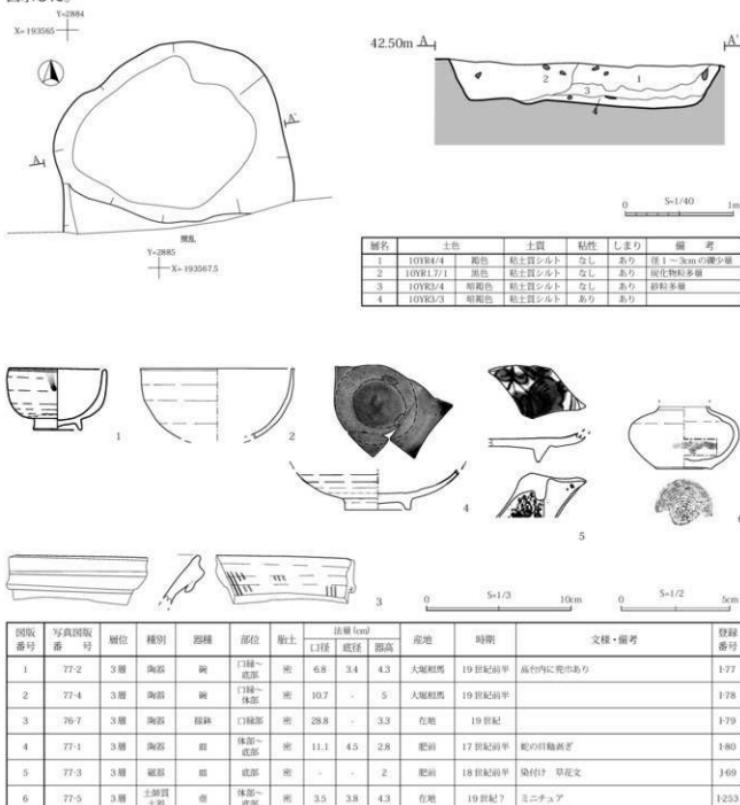
図版番号	写真図版番号	層位	種別	溶繩	部位	胎土	法面(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							U径	底径	器高				
1	75-3	-	土師質土器	かわらけ	口縁一底部	素	20.9	16.1	3.7	在地	19世紀前半	4とあわせくち(下)	I-249
2	75-4	-	土師質土器	かわらけ	口縁一底部	素	20.3	15	3.4	在地	19世紀前半	3とあわせ口(上)	I-250
3	75-6	-	土師質土器	かわらけ	口縁一底部	素	20.2	15	3.4	在地	19世紀前半	墨書き「FO」の文字 2とあわせ口(下)	I-251
4	75-5	-	土師質土器	かわらけ	口縁一底部	素	21.1	16	3.4	在地	19世紀前半	墨書き「FO」の文字 1とあわせ口(上)	I-252

(4) 性格不明遺構

1) SX2 性格不明遺構 (第128図 図版28-1)

S17-E59 グリッドに位置し、遺構の南側は擾乱により削平されている。規模は長軸 2.5m、短軸 2.1m、深さ 42cm を測る。平面形は主軸方向 N-79°E を示す不整梢円形で、底面はやや起伏をもち、断面形は逆台形である。堆積土は径約 1~3cm 程度の礫や砂礫・炭化物粒を多量に含む粘土質シルトの 4 層からなる。

遺物は 17 世紀前半の肥前産の輪禪皿、19 世紀代の大畠相馬産の陶器、19 世紀代の在地産の擂鉢、18 世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片、土製品、石製品、漆器の被膜片が出土し、この内 6 点を図示した。



第128図 SX2 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

第1節 駅部

2) SX4 性格不明遺構 (第129図 図版28-2)

S17-E60～61 グリッドに位置し、遺構の南側は基本土層確認用のトレンチで削平されている。規模は長軸87cm、短軸44cm、深さ27cmを測る。平面形は不明である。底面は植物根による擾乱のため、やや起伏をもち、断面形は皿形である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層からなる。遺物は出土していない。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
I	7.DYR3/1 黒褐色	砂質シルト	なし	あり	目 5mm の粘土粒・炭化物少額、目 10 ~ 15cm の隙間入

第129図 SX4 性格不明遺構平面図・断面図

3) SX5 性格不明遺構 (第130図 図版28-3)

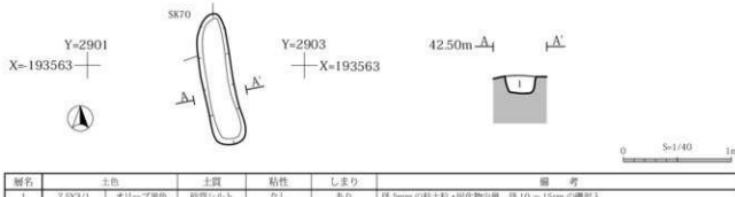
S17-E61 グリッドに位置し、遺構の南側は基本土層確認用のトレンチで削平されている。規模は長軸66cm、短軸61cm、深さ28cmを測る。平面形は南北N-14°-Wを示す不整格円形で、底面はやや起伏をもち、東側に向かって緩やかに傾斜する。断面形は皿形である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層からなる。遺物は出土していない。



第130図 SX5 性格不明遺構平面図・断面図

4) SX6 性格不明遺構 (第131図 図版28-4)

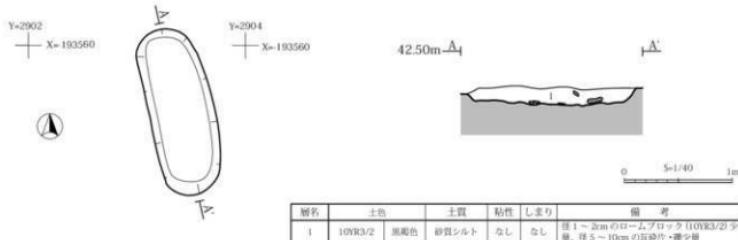
S17-E61 グリッドに位置する。SK70と重複し、SX6が新しい。規模は長軸1.22m、短軸30cm、深さ15cmを測る。平面形は主軸方向N-9°-Wを示す長楕円形である。底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土はオリーブ黑色砂質シルトの単層からなる。遺物は出土していない。



第131図 SX6 性格不明遺構平面図・断面図

5) SX7 性格不明遺構 (第132図 図版28-5)

S17-E61 グリッドに位置する。規模は長軸 1.56m、短軸 60cm、深さ 14cm を測る。平面形は主軸方向 N-13°-W を示す長楕円形で、底面は起伏をもつ。壁面は緩やかに傾斜し、断面形は皿形である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層からなる。遺物は18世紀代の肥前産の磁器、在地産の瓦質土器が出土しているが、細片のため図示し得なかつた。

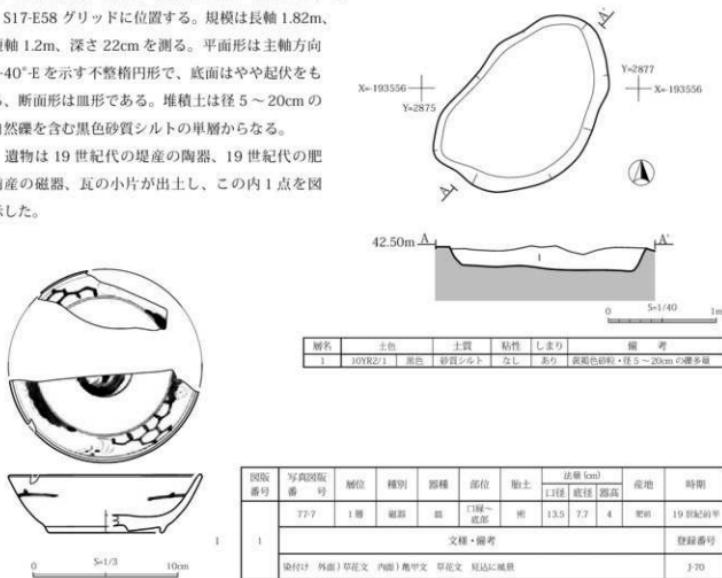


第132図 SX7 性格不明遺構平面図・断面図

6) SX9 性格不明遺構 (第133図 図版29-1・2)

S17-E58 グリッドに位置する。規模は長軸 1.82m、短軸 1.2m、深さ 22cm を測る。平面形は主軸方向 N-40°-E を示す不整楕円形で、底面はやや起伏をもち、断面形は皿形である。堆積土は径 5 ~ 20cm の自然礫を含む黒色砂質シルトの単層からなる。

遺物は19世紀代の堤産の陶器、19世紀代の肥前産の磁器、瓦の小片が出土し、この内1点を図示した。



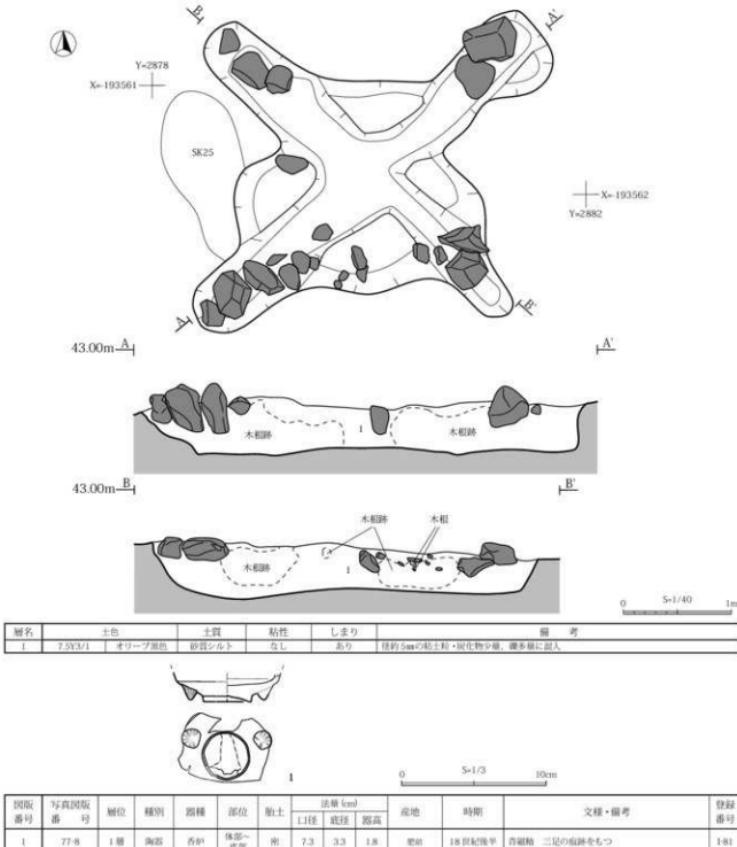
第133図 SX9 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

第1節 駅部

7) SX10 性格不明遺構 (第134図 図版29-3～5)

S17-E58～59 グリッドに位置し、遺構上部を樹木の根により削平されている。SB4、SB6、SX25と重複しており、SX10が新しい。規模は長軸4.12m、短軸3.78m、深さ41cmを測る。平面形は「X」字で、底面はやや起伏をもつ。また、検出面から深さ15～25cmの位置で東西南北の各方向4ヶ所にテラス状の面を確認した。断面形は逆台形である。「X」字の端部4か所に長さ15～45cm、幅25～40cm、厚さ25～30cmの自然礫が突きこまれていた。堆積土は植物根により著しく擾乱されているが、1～3cmの小礫を少量含むオリーブ色砂質シルトの単層である。

遺物は産地不明の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、瓦片が出土し、この内1点を図示した。

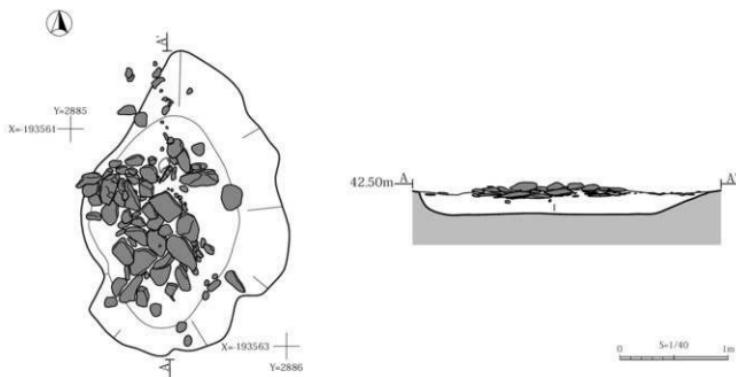


第134図 SX10 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

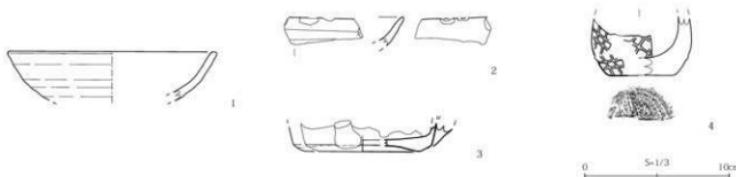
8) SX12 性格不明遺構 (第135図 図版30-1・2)

S17-E59 グリッドに位置する。規模は長軸 2.81m、短軸 1.9m、深さ 19cm を測る。平面形は主軸方向 N-3°-E を示す不整形である。底面は平坦をなし、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は皿形である。堆積土は上面に径 3 ~ 10cm の礫を大量に含む黒色粘土質シルトの単層である。

遺物は 17世紀代の志野産の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、17世紀代の在地産の焼塙甌、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片が出土し、この内 4 点を図示した。



番号	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10V82/1	黒色	粘土質シルト	あり	なし 径 1 ~ 2cm の炭化物 ブロック少種。径 3 ~ 10cm の礫多種。径 1 ~ 5cm の石片・陶器色砂 質シルトブロックが下部に少種



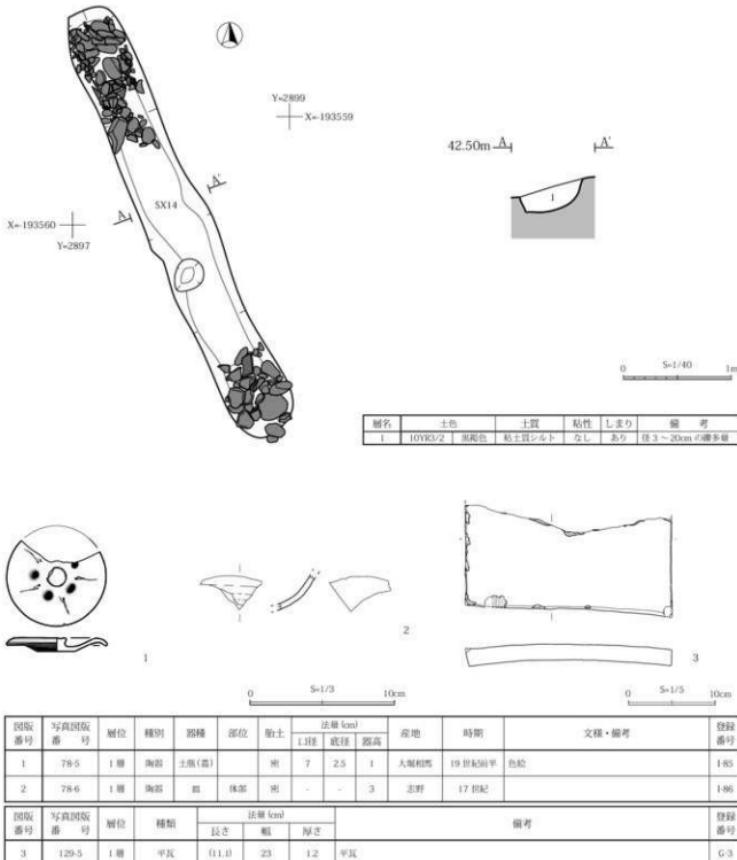
図版番号	写真図版番号	層位	種別	路線	部位	胎土	法算 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							上径	底径	高さ				
1	78-1	1 層	陶器	Ⅲ	口縁～底部	赤	14.6	-	3.4	志野	17世紀後半		182
2	78-3	1 层	陶器	輪花器	口縁部	赤	14.8	-	2	志野	17世紀		183
3	78-2	1 层	陶器	不明	体部～底部	赤	10.2	7.8	2.2	在地	19世紀？		184
4	78-4	1 层	土師質土器	埴輪物	体部～底部	赤	6.6	4.4	4.2	在地	17世紀	格子引き目	1254

第135図 SX12 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

第1節 駅部

9) SX14 性格不明遺構 (第136図 図版30-2~4)

S17-E60グリッドに位置する。規模は長軸4.26m、短軸64cm、深さ28cmを測る。平面形は主軸方向N-25°Wを示す溝状で、断面形は皿形である。遺構両端部に大量の自然礫(長さ10~25cm、幅5~20cm、厚さ5~15cm)と瓦の小片が突きこまれている。堆積土は黒褐色粘土質シルトの単層である。遺物は17世紀代の志野産の陶器片、19世紀代の大堀相馬産の土瓶の蓋、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片が出土し、この内3点を図示した。

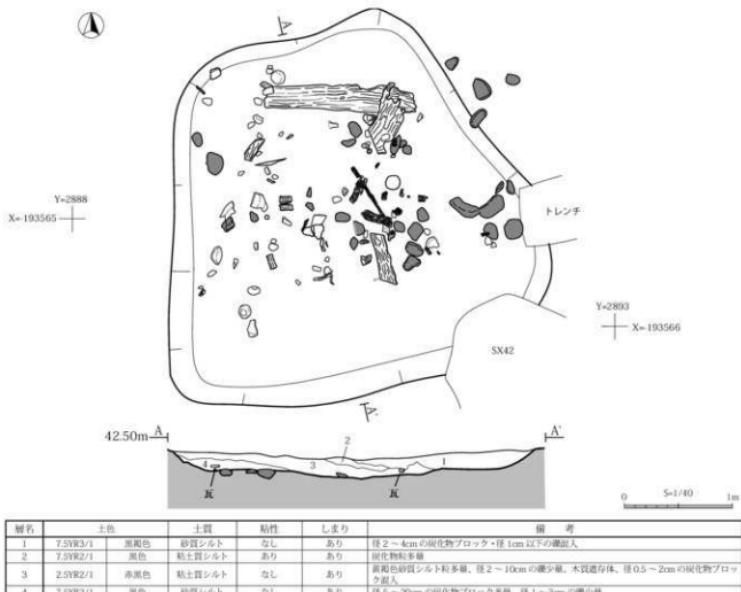


第136図 SX14 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

10) SX15 性格不明遺構（第137～139図 図版30-6・7・31-1）

S17-E59 グリッドに位置する。SX42 と重複しており、SX15 が古い。東側をトレンチに削平される。規模は長軸 3.55m、短軸 3.4m、深さ 19cm を測る。平面形は主軸方向 N.3°E を示す不整台形で、底面はやや起伏をもち、断面形は皿形である。堆積土は粘土質シルトと砂質シルトの 4 層からなる。底部付近で径約 5cm ～ 20cm の炭化ブロックを多量に検出した。

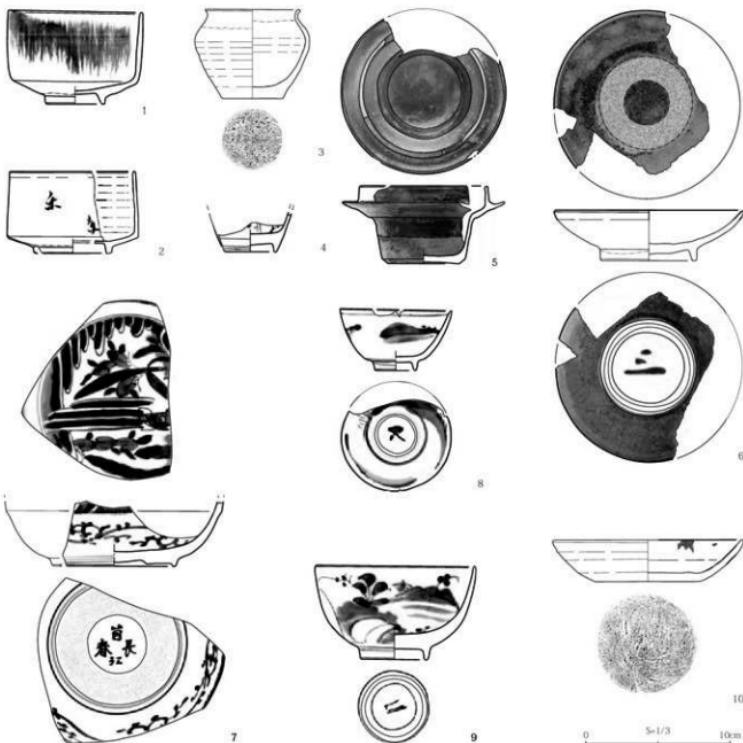
遺物は 19 世紀代の大堀相馬産、小野相馬産の陶器、18 世紀代の肥前産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片、土製品、鉄製品、古銭、著しく腐食した木皮片等が出土し、この内 16 点を図示した。



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	78-7	3 層	陶器	瓶	口縁～底部	泥	11.1	4.7	5.7	大堀相馬	19 世紀前半	炭化跡流し	187
2	78-8	4 層	陶器	瓶	口縁～底部	泥	12.8	4.7	6.8	大堀相馬	19 世紀前半	器身と裏底の掛け分け	188
3	78-12	3 层	陶器	瓶	全体～底部	泥	12.8	5	5.7	大堀相馬	19 世紀前半	器身と裏底の掛け分け	189

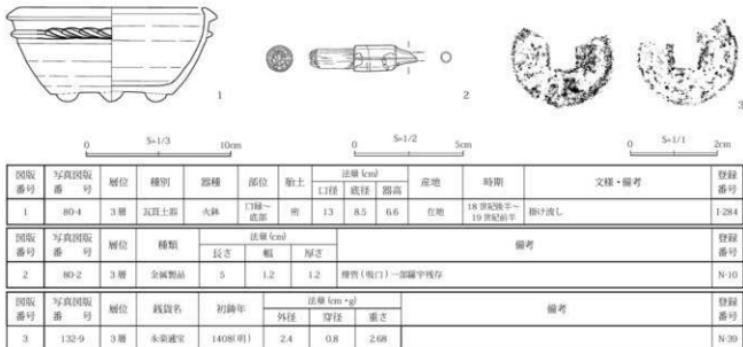
第137図 SX15 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物(1)

第1節 駅部



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法華(km)			产地	時期	文様・備考	登錄番号
							口径	底径	器高				
1	78-9	4層	陶器	碗	口縁一部	密	9.4	3.8	6.4	大船相馬	19世紀前半	掛け流し	1-90
2	78-10	3層	陶器	碗	口縁～底部	密	-	-	5.7	大船相馬	19世紀前半	鉛船 文字文	1-91
3	79-1	4層	陶器	豆葉	口縁～底部	密	6.6	4.3	6.1	大船相馬	19世紀前半	鉛船 滅灰地	1-92
4	79-6	3層	磁器	蓋付瓶口	体部～底部	密	5.6	3.7	2.8	肥前	18世紀後半	染付け 外面) 條幅 草花文	J-71
5	78-13	3層	陶器	油受器	口縁～底部	密	9	5	5.4	在原	19世紀以後		1-93
6	79-3	3層	陶器	皿	口縁～底部	密	13.2	6.8	3.5	小野相馬	19世紀後半	蛇の目駆刺 萩台内「三」	1-94
7	79-8	3層	磁器	皿	口縁～底部	密	14.1	8.6	4.5	肥前	18世紀後半	染付け 外面) 草花文 船の目駆刺 内面) 草花文 魚 萩台内「三」(良春)	J-72
8	79-5	3層	磁器	碗	口縁～底部	密	7.7	3	4.3	肥前	18世紀後半	染付け 外面) 山水文 萩台内に露虫文	J-73
9	79-4	3層	磁器	碗	口縁～底部	密	11.1	4.7	6.4	肥前	18世紀後半	染付け 外面) 草花文 横闊? 山水文 萩台内に露	J-74
10	80-1	3層	土師質土器	かわらけ	口縁～底部	密	3.3	7.2	2.9	在原	19世紀?		J-255

第138図 SX15 性格不明遺構出土遺物(2)

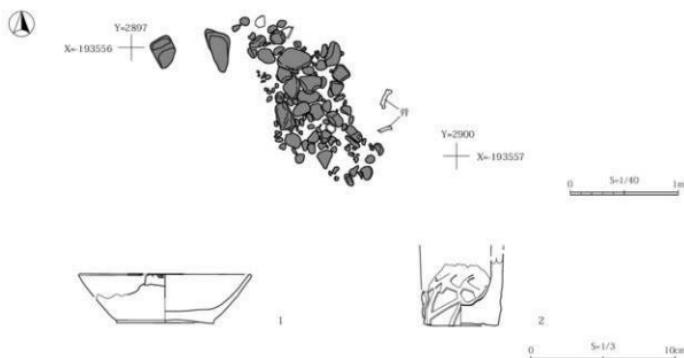


第139図 SX15性格不明遺構出土遺物(3)

11) SX19 性格不明遺構 (第140図 図版31-2)

S16-E60 グリッドに位置する。範囲は長軸 1.94m、短軸 96cm を測る。主軸方向は N-36°W を示す。長さ 2 ~ 20cm、幅 2 ~ 15cm、厚さ 3 ~ 20cm の自然縁の集石遺構である。遺構は近現代の搅乱の影響で周囲が削平されていたため、掘り方は確認できなかった。

遺物は 19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器片、土師質土器が出土し、この内 2 点を図示した。



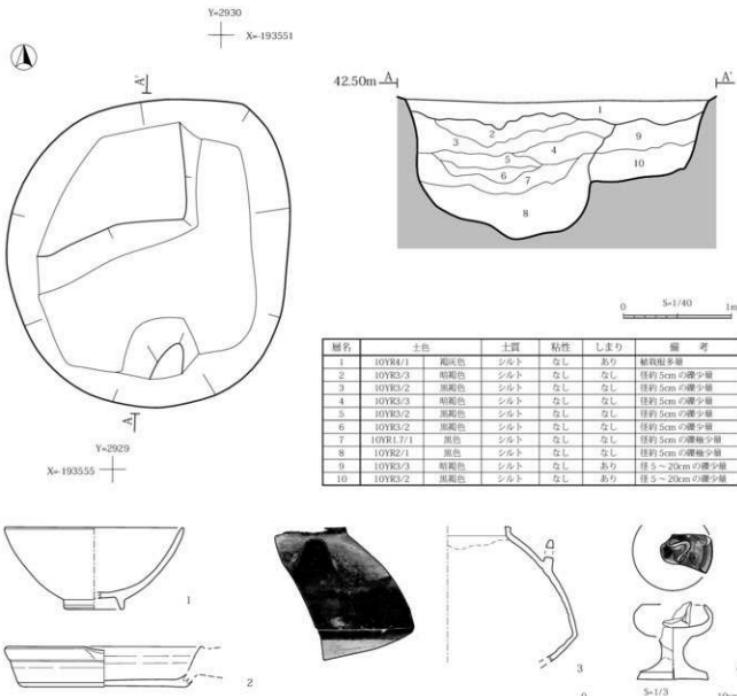
第140図 SX19性格不明遺構平面図・出土遺物

第1節 駅部

12) SX26 性格不明遺構 (第141・142図 図版32-1・2)

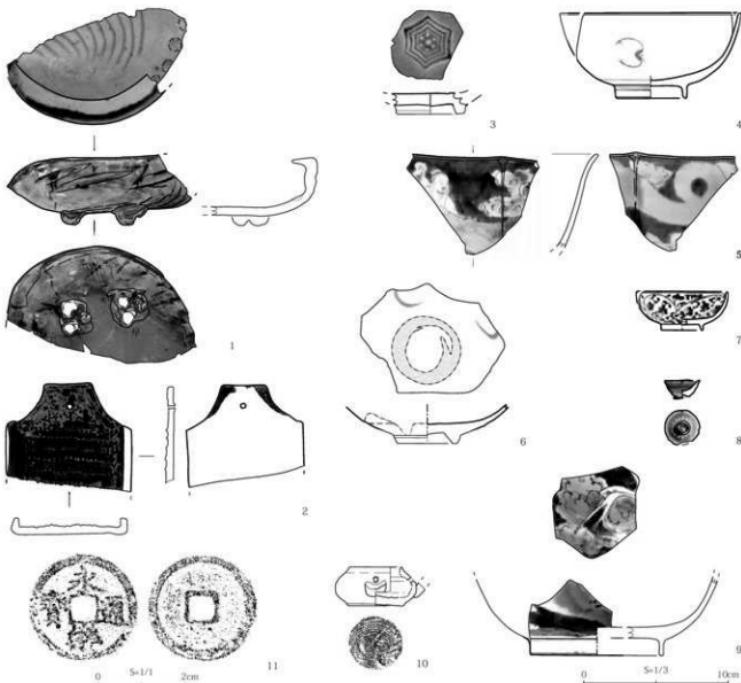
S16-E63～64 グリッドに位置する。規模は長軸 2.83m、短軸 2.6m、深さ 1.3m を測り、平面形は主軸方向 N 0°-W を示す梢円形で、断面形は北側にテラスを有する U 字状である。検出面から深さ 70cm 程度で、北西辺に底面幅 1.8m、奥行き 1m 程度のテラス状を呈する場所が確認された。テラス部分の底面は平坦である。主体部の底面には深さ 20cm 程度の窪みがみられる。堆積土は径 5～20cm の礫を少量含むシルトの 10 層からなる。

遺物は 19 世紀代の大堀相馬産、堤産の陶器、18～19 世紀代の肥前産の磁器、19 世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片、金属製品、土製品、銅鉄が出土し、この内 15 点を図示した。



図版番号	写真図版番号	層位	種別	断面	部位	胎土	口径	底径	器高	法華 (cm)	產地	時期	文様・備考	登録番号
1	80-8	9 層	陶器	碗	口縁～底部	密	12.5	4.2	3.8		大堀相馬	18 世紀後半～19 世紀初半		195
2	80-9	0 层	陶器	培塿	口縁～底部	密	13.7	11.3	2.8		19 世紀後半	陶器		196
3	81-2	9 层	陶器	土瓶	口縁～底部	密	9	-	8.9	12.5	大堀相馬	18 世紀後半～19 世紀初半	鉄鉢掛け流し	197
4	80-10	8 层	陶器	土瓶	口縁～底部	密	4.0	5	5.4		19 世紀前半	鉄鉢		198

第141図 SX26 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物(1)



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	出土	法量(cm)			戻地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	81-1	8層	陶器	杏核	口縁～底部	衝	12.8	-	4.7	在地	19世紀後	鉄輪 内面白滑脂	199
2	81-3	9層	陶器	おろし皿	上半	衝	8	6.6	1.2	在地	19世紀	鉄輪	1100
3	81-4	9層	陶器	皿	底部	衝	6.0	4.6	(1.4)	肥前	18世紀後半～19世紀半	型押し 線彫	1101
4	81-8	9層	磁器	碗	口縁～底部	衝	12.5	5	5.8	肥前	19世紀半	染付け 外面) 接触文?	1175
5	81-10	9層	磁器	山付	口縁～底部	衝	-	-	(6.6)	肥前	18世紀後半～19世紀半	染付け 唐子文	1176
6	81-7	9層	磁器	皿	体部～底部	衝	11.3	4.1	2.7	肥前	17世紀	染付け 蛇の目輪渦足	1177
7	81-9	9層	磁器	碗	体部	衝	6.4	3	2.7	肥前	18世紀後半～19世紀半	染付け 外面) 花唐草文	1178
8	81-5	9層	磁器	紅皿	口縁～底部	衝	2.4	1.4	1.3	肥前	18世紀後半～19世紀半	型押し	1179
9	81-6	9層	磁器	碗	体部～底部	衝	(16.7)	(8.2)	(5.5)	肥前	18世紀後半～19世紀半	染付け 花?	1180
10	81-11	9層	土器	壺	口縁～底部	衝	3.8	3.8	2.7	在地	19世紀?		1257
図版番号	写真図版番号	層位	種別	銘品名	初跡年	法量(cm・g)			備考			登録番号	
						外径	穿径	重さ					
11	132-6	3層	朱赤通宝	1408(明)	2.4	0.8	2.68					N-40	

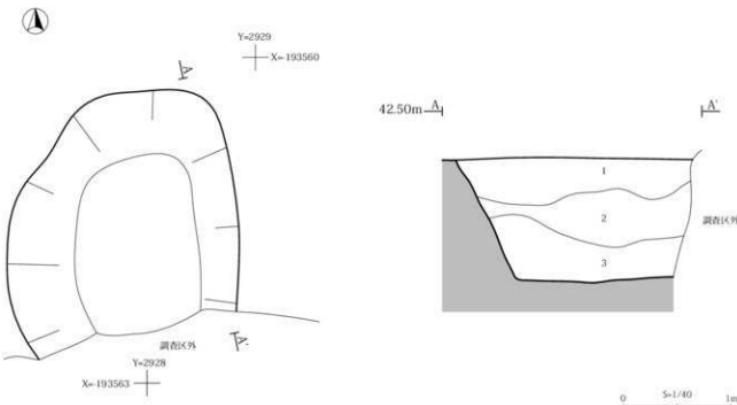
第142図 SX26 性格不明遺構出土遺物(2)

第1節 駅部

13) SX27 性格不明遺構 (第143図 図版32-3)

S16-E63 グリッドに位置し、南側が調査区外に広がる。規模は長軸 2.22m、短軸 2.15m、深さ 1.1m を測る。平面形は主軸方向 N-8°W を示す橢円形、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は黒褐色砂質シルトの3層からなる。

遺物は 19世紀代の大堀相馬産の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、土師質土器、瓦質土器、瓦片が出土し、この内 2 点を図示した。



層名	土色	土質	粒性	しまり	備考
1	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし 10~20cm の薄多量
2	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし
3	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし 10~20cm の薄多量



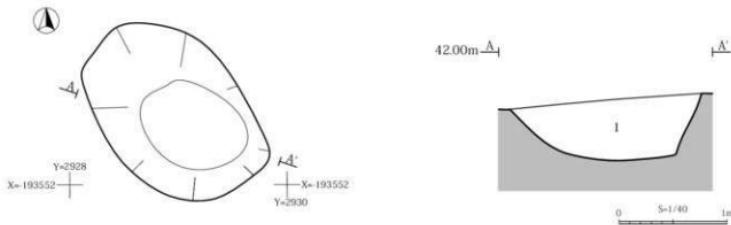
図版番号	写真図版番号	層位	種別	鉢種	部位	胎土	法華(cm)	底径	底高	器高	発地	時期	文様・備考	登録番号
1	82-2	2層	陶器	施灰?	全体~底部	泥	7	6.5	5.5	大堀相馬	19世紀前半	鉢		F102
2	82-1	2層	土師質土器	かわらけ	口縁~底部	泥	7.8	4	1.5	在地	19世紀?			F258

第143図 SX27 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

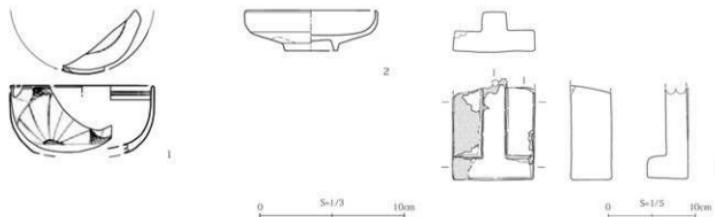
14) SX28 性格不明遺構（第144図 図版32-4）

S16-E63 グリッドに位置する。規模は長軸 1.86m、短軸 1.29m、深さ 58cm を測る。平面形は主軸方向 N-38°W を示す不整規円形で、底面は平坦をなす。北西壁は緩やかに立ち上がり、南東壁は鋭角的に立ち上がる。断面形は逆台形である。堆積土は径 10~20cm の礫を多量に含む黒褐色砂質シルトの単層からなる。

遺物は 19 世紀代の大堀相馬産の陶器、18 世紀代の肥前産の磁器、瓦片・土師質土器片が出土し、この内 3 点を図示した。



番号	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし 径 10~20cm の礫多量



図版番号	写真図版番号	層位	種類	器種	部位	埴土	法線(cm)			高地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	高さ				
1	82-4	1層	磁器	瓶	口縁～全体	泥	10	-	5.1	肥前	18世紀前半	模付け 外面）水著花文 内面）網目	J-81
2	82-3	1層	陶器	瓶	口縁～底部	泥	9.2	3.7	2.8	大堀相馬	19世紀前半	燒接痕あり	I-103
図版番号	写真図版番号	層位	種類	器種	法線(cm)			備考					登録番号
3	127-8	1層	不明	瓦片	0.0.0	9.8	5	瓦片					H-1

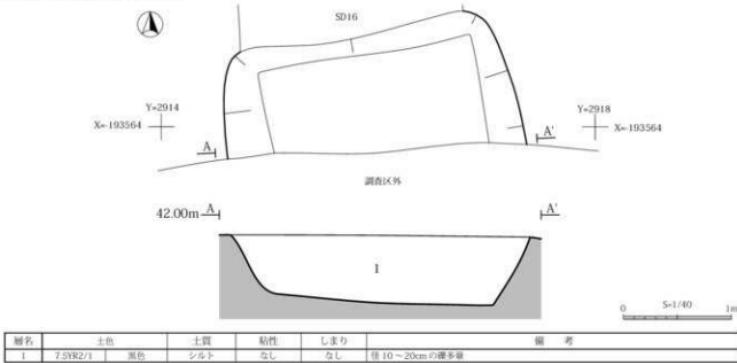
第144図 SX28 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物

第1節 駅部

15) SX35 性格不明遺構 (第145図 図版32-5)

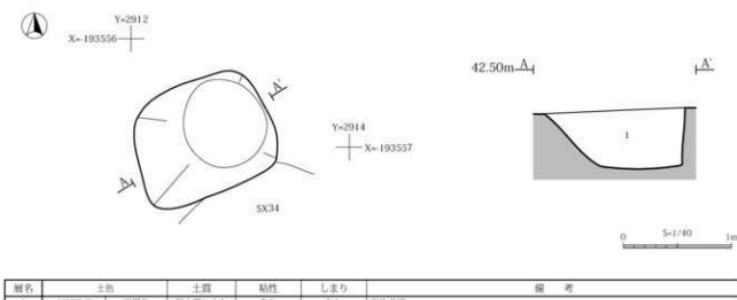
S16-E62 グリッドに位置し、南側が調査区外に広がる。SD16と重複しており、SX35が古い。規模は長軸 2.75m、短軸 1.22m、深さ 63cm を測る。平面形は主軸方向 N-87°E を示す隅丸方形で、断面形は逆台形である。堆積土は径約 10~20cm の礫を多量に含む黒色シルトの単層からなる。

遺物は19世紀代の大堀相馬産、堤産の陶器、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、金属製品が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



16) SX36 性格不明遺構 (第146図 図版33-1)

S17-E62 グリッドに位置する。SX34と重複しており、SX36が新しい。規模は長軸 1.32m、短軸 1.02m、深さ 53cm を測る。平面形は主軸方向 N-63°E を示す隅丸方形で、底面は平坦をなし、西壁は緩やかに立ち上がりが、東壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は逆台形である。堆積土は瓦片を多量に含む黒褐色粘土質シルトの単層からなる。遺物は出土していない。



17) SX38 性格不明遺構（第147図 図版33-2）

S16-E62 グリッドに位置する。規模は長軸 1.92m、短軸 63cm、深さ 36cm を測る。平面形は主軸方向 N-63°-E を示す隅丸長方形で、底面は平坦をなし、壁はほぼ垂直に立ち上がる。断面形は逆台形である。堆積土は径 2～10cm の礫を多量に含む黒褐色砂質シルトの単層からなる。遺物は出土していない。

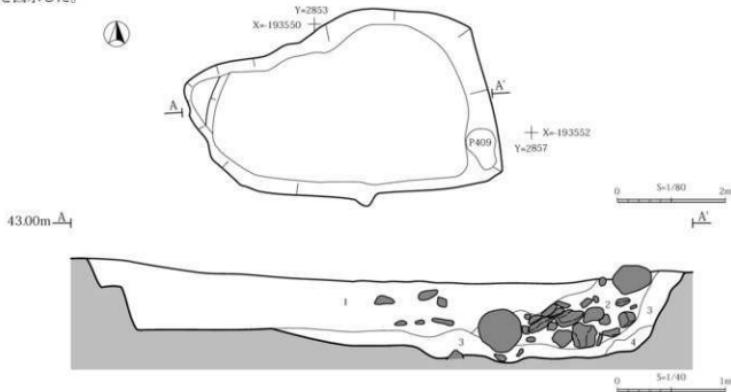


第147図 SX38 性格不明遺構平面図・断面図

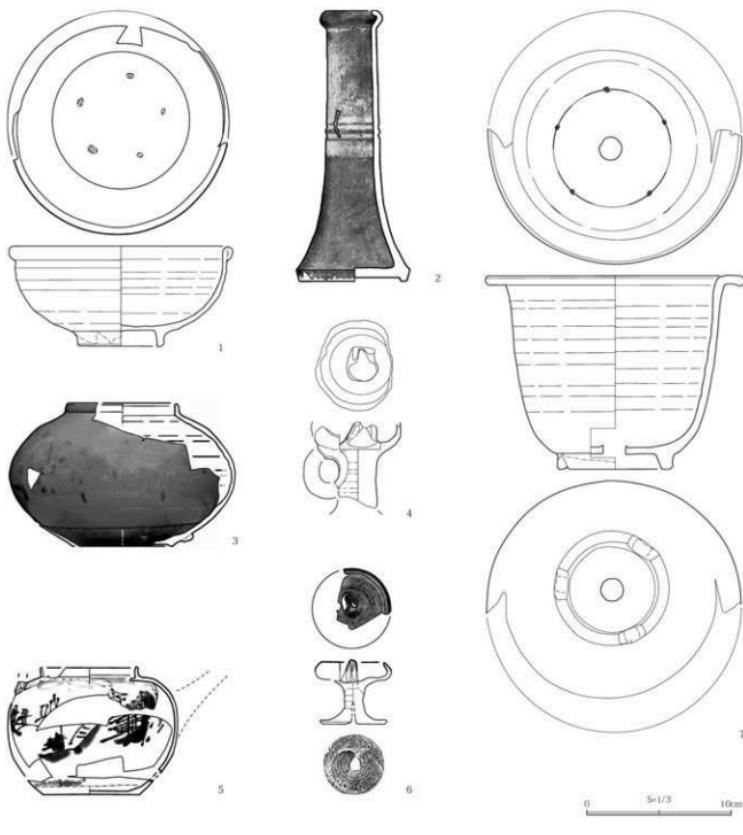
18) SX39 性格不明遺構（第148～154図 図版33-3・4）

S16-E56 グリッドに位置する。P409 と重複しており、SX39 が古い。遺構上面は大きく掠乱されている。規模は長軸 5.51m、短軸 3.29m、深さ 74cm を測る。平面形は主軸方向 N-8°-W を示す不整形で、底面は起伏をもち、西側から東側に向かって緩やかに傾斜し、断面形は逆台形である。また、検出面から深さ約 30cm の西辺に、底面幅約 90cm、奥行 40cm のテラス状を呈する場所がある。堆積土はシルト・粘土質シルトの4層からなり、2層には長さ 20～40cm、幅 5～35cm、厚さ 5～40cm の礫を大量に含む。

遺物は、1～2層より 17世紀代の京産の陶器、19世紀代の大堀相馬産、堤産、在地産の陶器、19世紀の肥前産、瀬戸・美濃産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片、石製品、金属製品、土製品が出土し、この内 45 点を図示した。

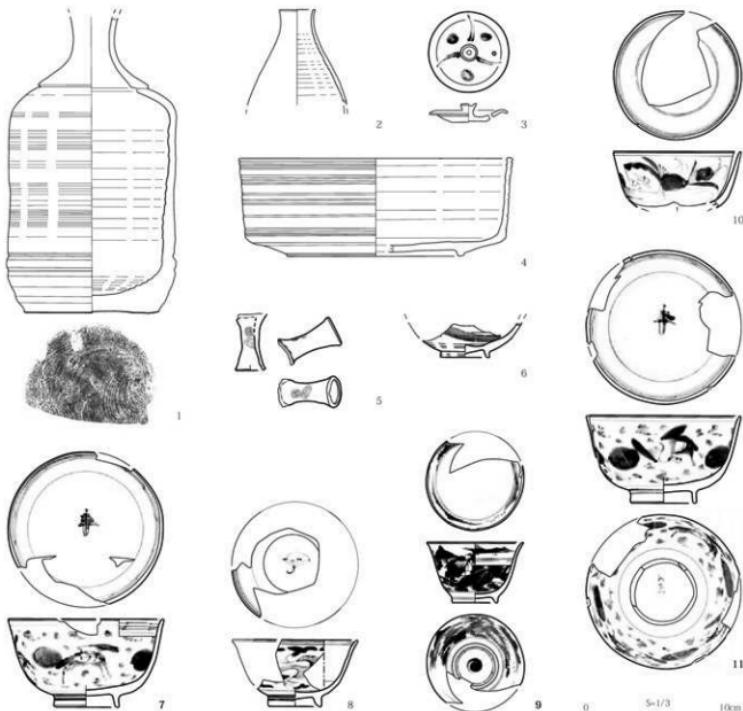


第148図 SX39 性格不明遺構平面図・断面図



第149図 SX39 性格不明遺構出土遺物(1)

図版番号	写真図版番号	層位	種別	泥被	部位	出土	法線(cm)			产地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	周長				
1	83-10	2層	陶器	片口	口縁～底部	密	15	6	7	大坂相馬	19世紀前半	絞込み目痕有り	I-104
2	83-1	2層	陶器	花生	口縁～底部	密	3.5	7.5	18.8	在地	19世紀前半		I-105
3	84-3	2層	陶器	土瓶	口縁～底部	密	7.8	6.9	10	大坂相馬	19世紀前半		I-106
4	83-2	2層	陶器	米甕	口縁～底部	密	6.2	2.6	6.2	堺	19世紀前半	鉢輪	I-107
5	84-1	2層	陶器	土瓶	口縁～底部	密	6.8	6.7	8.8	大坂相馬	19世紀前半	色絞付、山水模蘭文、帆跡付舟、通山	I-108
6	82-5	2層	陶器	米甕	口縁～底部	密	4.5	4.6	5	堺	19世紀前半		I-109
7	83-9	2層	陶器	桶木鉢	口縁～底部	密	11.0	8	13.4	堺	19世紀前半		I-110



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	計量 (cm)	产地	時期	文様・備考	図版番号
1	82-8	2層	陶器	瓶	口縁～底面	泥	3.4 9.2 20.1	在地	19世紀前半	鉢輪	1-111
2	82-8	2層	陶器	瓶	口縁～底部	泥	2.5 - 16.6	大船相馬	19世紀前半		1-112
3	82-6	2層	陶器	土瓶(?)	体部	泥	5.4 2.5 1.3	大船相馬	19世紀前半	鉢輪	1-113
4	84-2	2層	陶器	鉢	口縁～底部	泥	18 12.2 7.5	人頭相馬	19世紀前半	沈殿 ロクロ目	1-114
5	83-4	2層	陶器	急須	取手	泥	2.2 2.9 3.9	京	17世紀後半	首輪機?「音羽」「鉢」の押印	1-115
6	82-7	2層	陶器	瓶	体部～底面	泥	7.9 2.5 13.5	大船相馬	18世紀後半～19世紀初頭	鉢輪 灰釉掛け波し	1-116
7	84-5	2層	磁器	瓶	口縁～底面	泥	10.8 4.5 6.2	麗口・美濃	19世紀前半	染付け 外面)丸丹 雅 内面)見込に希文字	1-182
8	85-2	2層	磁器	瓶	口縁～底部	泥 (8.7)	3.8 4.8	麗口・美濃	19世紀前半	染付け 外面)波 美 内面)黒擦	1-183
9	86-5	2層	磁器	小洋	口縁～底部	泥	6.7 3.2 4.2	麗口・美濃	19世紀前半	染付け 外面)山水文、裏屋 内面)口縁部に山水、柄付け舟 通山	1-184
10	86-1	2層	磁器	瓶	口縁～底部	泥	8.9 - (4)	肥前	18世紀後半～19世紀初頭	染付け 外面)実物、屋 内面)黒擦	1-185
11	85-6	2層	磁器	瓶	口縁～底部	泥	10.5 4.5 6	麗口・美濃	19世紀前半	染付け 外面)牡丹 雅 内面)見込に「寿」字文、底部に美濃「めむ」一 塗装あり	1-186

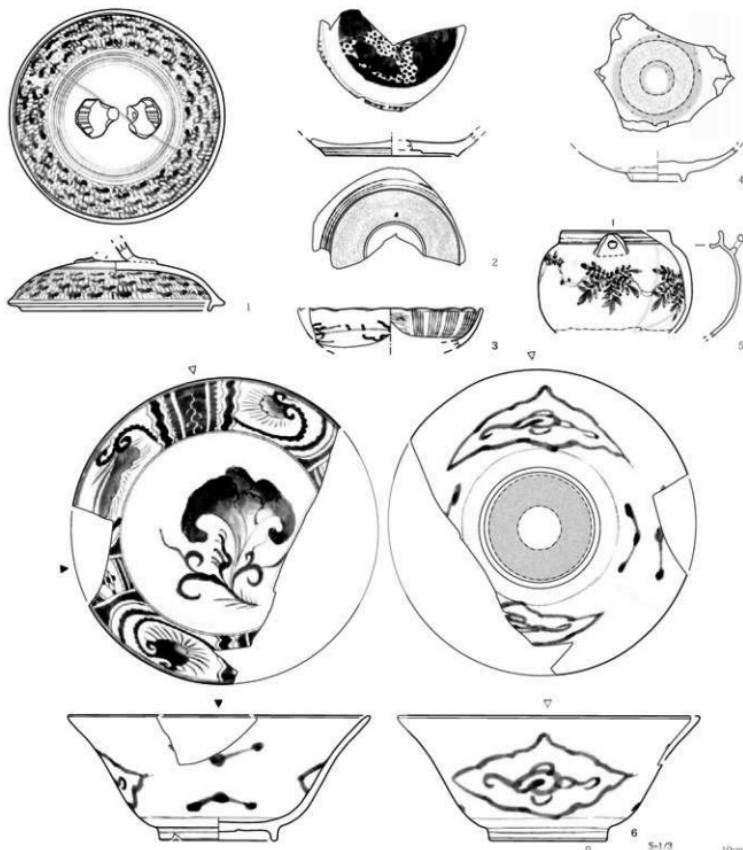
第150図 SX39性格不明遺構出土遺物(2)

第1節 駅部



図版番号	写真図版番号	層位	種類	器種	部位	胎土	法線(cm)	底地	時期	文様・備考	写真番号
1	85-5	2層	磁器	碗	口縁-底部	密	8.3	3.8	(3.6)	麻口・美濃 19世紀前半 染付け 口縁有り「宝」字文	J87
2	85-4	2層	磁器	碗	口縁-底部	密	8.3	5	(4.2)	麻口・美濃 19世紀前半 染付け 口縁有り 潮氏吉文	J88
3	86-2	2層	磁器	碗	口縁-底部	密	17.7	2.5	3.9	肥前 18世紀後半 染付け 外面景文	J89
4	85-3	2層	磁器	萬葉口	底部	密	-	3.3	(3)	肥前 18世紀後半 染付け 萩口内に「左へ造」	J90
5	86-8	2層	磁器	碗	口縁-底部	密	7.5	3.7	5.5	麻口・美濃 19世紀前半 染付け	J91
6	87-4	2層	磁器	小坪	口縁-底部	密	7	-	(2.7)	肥前 19世紀前半 染付け よろけ模文?	J92
7	88-5	2層	磁器	碗	口縁-底部	密	10.7	4.7	6.2	麻口・美濃 19世紀前半 染付け 外面)牡丹 対面)足込に「寿」字文	J93
8	86-4	1層	磁器	蓋	全体	密	10.3	3.8	2.8	肥前 18世紀後半- 19世紀前半 色絵付 草花文 高台内に蓋	J94
9	87-6	1層	磁器	碗	全体	密	19.6	10.3	10.5	肥前 18世紀後半- 19世紀前半 染付け 草花文	J95
10	88-4	2層	磁器	瓶	全体	密	1.7	4.7	(13.2)	肥前 18世紀前半 染付け 嬉唐草文、松竹梅文	J96
11	88-3	1層	磁器	蓋	口縁-底部	密	7.8	3.2	2.9	肥前 18世紀後半- 19世紀前半 色絵付 草花文 蓋 梅	J97

第151図 SX39 性格不明遺構出土遺物(3)



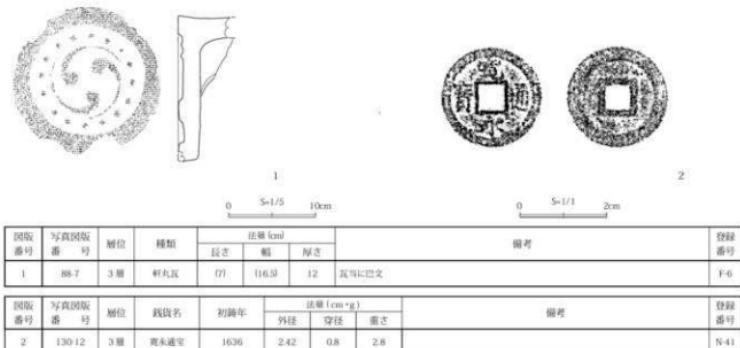
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	出土	法面 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	87-5	2層	磁器	蓋	体部	密	14	13	4.8	肥前	18世紀後半～19世紀初半	染付け 離塵唐草 燈籠底あり	J-98
2	89-3	1層	磁器	皿	体部～底部	密	12	9.2	(1.7)	肥前	18世紀後半	染付け 花の月形盆台 草花文	J-99
3	84-8	2層	磁器	小皿	口縁～体部	密	12.9	8.9	(2.0)	肥前	18世紀後半～19世紀初半	染付け 外面)草花文 (内面)格字文	J-100
4	88-6	2層	磁器	皿	体部～底部	密	11	3.7	2.30	肥前	18世紀後半	蛇の目輪渦足	J-101
5	87-8	2層	磁器	土瓶	口縁～体部	密	7.5	7.5	0.75	肥前	18世紀後半～19世紀初半	染付け 蓬草 燈籠底あり	J-102
6	89-1	2層	磁器	鉢	口縁～底部	密	21	8.2	8.6	肥前	18世紀後半	染付け 外面) 宝物? 星宿? (内面) 草花文 鉢頭	J-103

第152図 SX39 性格不明遺構出土遺物(4)



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法華(km)			产地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	87-2	2層	磁器	鉢	口縁～底部	密	15.4	5.5	8.5	肥前	18世紀後半～19世紀初半	染付け 山形文 十字 矢込に花 道部に朱書きで「八瀬二」焼継瓶あり	J-104
2	87-1	2層	磁器	鉢	口縁～底部	密	19.2	8.5	10.1	肥前	19世紀以後	染付け 外曲面 草花文 裏 台面に山形文 内 側に口縁に雲文山水人物 東屋 烧継瓶	J-105
3	87-7	2層	陶器 磁器	皿	口縁～体部	密	3.3	-	(5.1)	肥前	18世紀後半～19世紀初半	染付け	J-287
4	84-9	2層	磁器	鉢	口縁～底部	密	9.2	3.8	3.5	肥前・美濃	19世紀初半	口縁有り	J-106
5	85-6	2層	磁器	蓋	体部	密	8.6	3.7	2.7	肥前	18世紀後半～19世紀初半	染付け 蘭目文	J-107
6	84-4	1層	磁器	皿	底部	密	-	-	(1.2)	肥前	18世紀初半	染付け 草花文 圓盤	J-108
7	84-6	2層	陶器	皿	底部	密	-	-	(1.1)	京	18世紀後半～19世紀初半	色點付け 赤絞 美台内に「乾山」	J-117
8	84-7	2層	磁器	花生付	口縁～底部	密	4.9	4.9	9.9	肥前	18世紀後半	梅花形の透かし 染付け 花絞らし水波文	J-109

第153図 SX39性格不明遺構出土遺物(5)



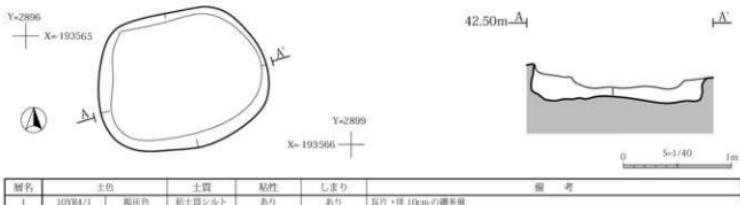
第154図 SX39 性格不明遺構出土遺物(6)



写真11 SX39 性格不明遺構堆積状況(南から)

19) SX41 性格不明遺構 (第155図 図版33-5)

S17-E60 グリッドに位置する。規模は長軸 1.58m、短軸 1.27m、深さ 33cm を測る。平面形は主軸方向 N-72°E を示す梢円形で、底面は中央部に向かって緩やかに隆起し、断面形は逆台形である。堆積土は径 10cm ほどの礫を多量に含む粘土質シルトの単層からなる。遺物は産地不明の陶器、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、瓦片が出土したが、細片のため図示し得なかった。

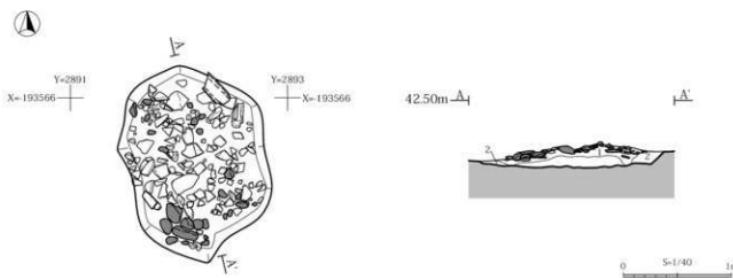


第155図 SX41 性格不明遺構平面図・断面図

第1節 駅部

20) SX42 性格不明遺構（第156図 図版34-1）

S17-E60 グリッドに位置する。規模は長軸 1.83m、短軸 1.36m、深さ 14cm を測る。平面形は主軸方向 N-8°-W を示す不整形で、底面は起伏を持ち、断面形は浅い皿形である。堆積土は黒褐色粘土質シルト・黒色シルトの 2 層からなり、1 層に長さ 5 ~ 20cm、幅 3 ~ 5cm、厚さ 3 ~ 5cm の礫を多量に含む。遺物は、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片が出土したが、細片のため図示し得なかった。

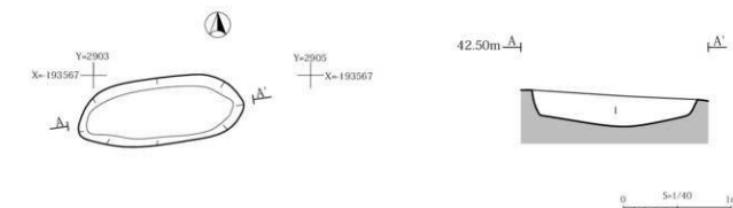


番号	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR8/1	黒褐色 粘土質シルト	あり	なし	瓦片・径 5 ~ 20cm 矣の礫多量
2	10YR2/1	黒色 シルト	なし	あり	に述べる褐色土少無

第156図 SX42 性格不明遺構平面図・断面図

21) SX43 性格不明遺構（第157図 図版34-2）

S17-E61 グリッドに位置する。規模は長軸 1.54m、短軸 61cm、深さ 30cm を測る。平面形は主軸方向 N-80°-E を示す梢円形で、底面は中央部に向かって擗鉢形に緩やかに傾斜し、断面形は皿形である。堆積土は灰黄褐色シルトの単層からなる。遺物は 19 世紀代の堤産の陶器、瓦片が出土したが、細片のため図示し得なかった。

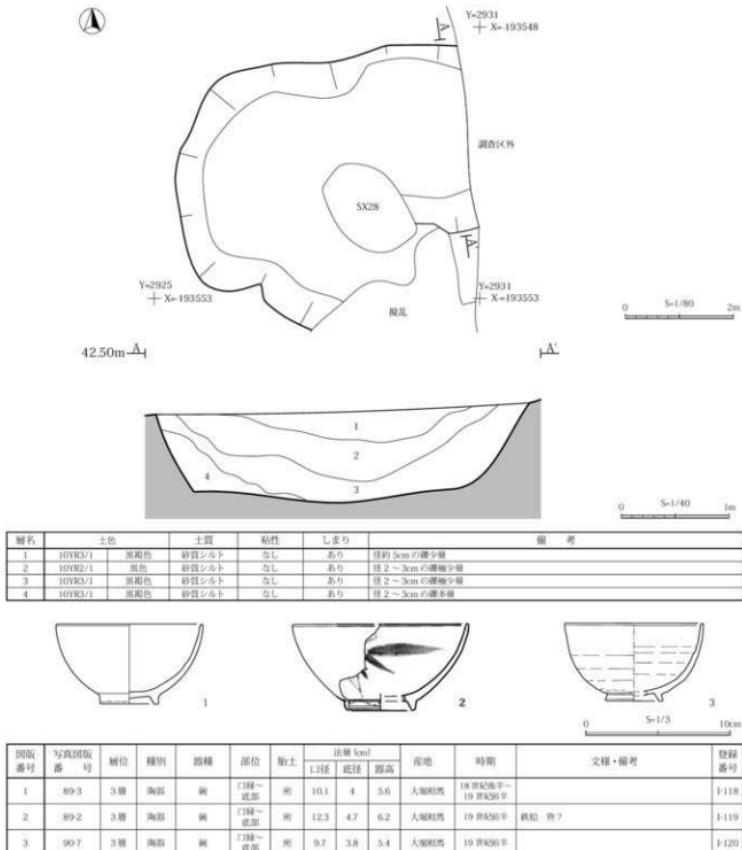


番号	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR4/2	灰黄褐色 シルト	なし	あり	径 2cm 程度の礫・に述べる褐色土・炭化物少無

第157図 SX43 性格不明遺構平面図・断面図

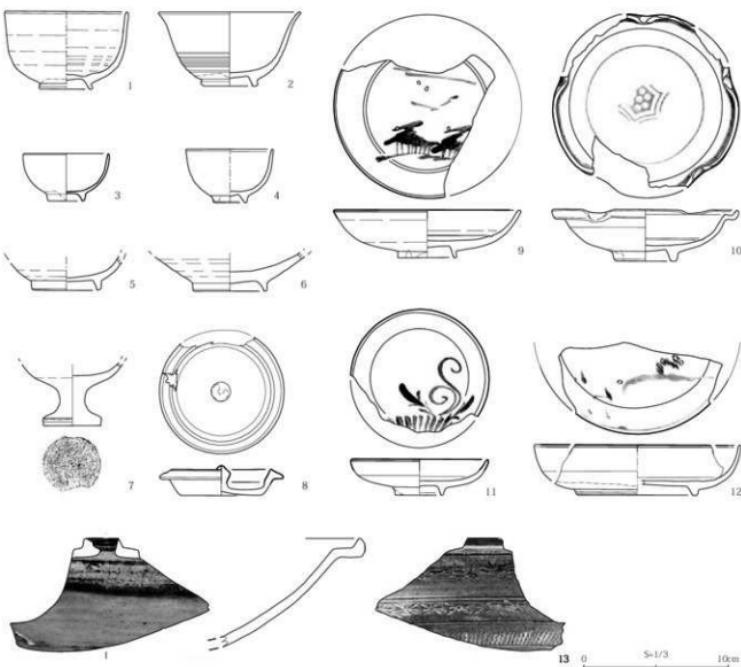
22) SX49 性格不明遺構（第158～164図 図版49-3～5）

S15-E630～S16-E64 グリッドに位置する。SX28と重複しており、SX49が古い。南側を搅乱で削平される。また、東側は調査区外に広がる。規模は長軸 5.48m、短軸 4.93m、深さ 86cm を測る。平面形は主軸方向 N-79°E を示す不整形で、底面は東側に向かって緩やかに傾斜し、断面形は逆台形である。堆積土は砂質シルトの4層からなる。遺物は3層から、17世紀代の唐津産の陶器、19世紀代の大堀相馬産、堤産、在地産の陶器、18～19世紀代の肥前産の磁器、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、土師質土器、瓦質土器、瓦、金属製品、土製品、瓦、古銭の小片が出土し、この内61点を図示した。



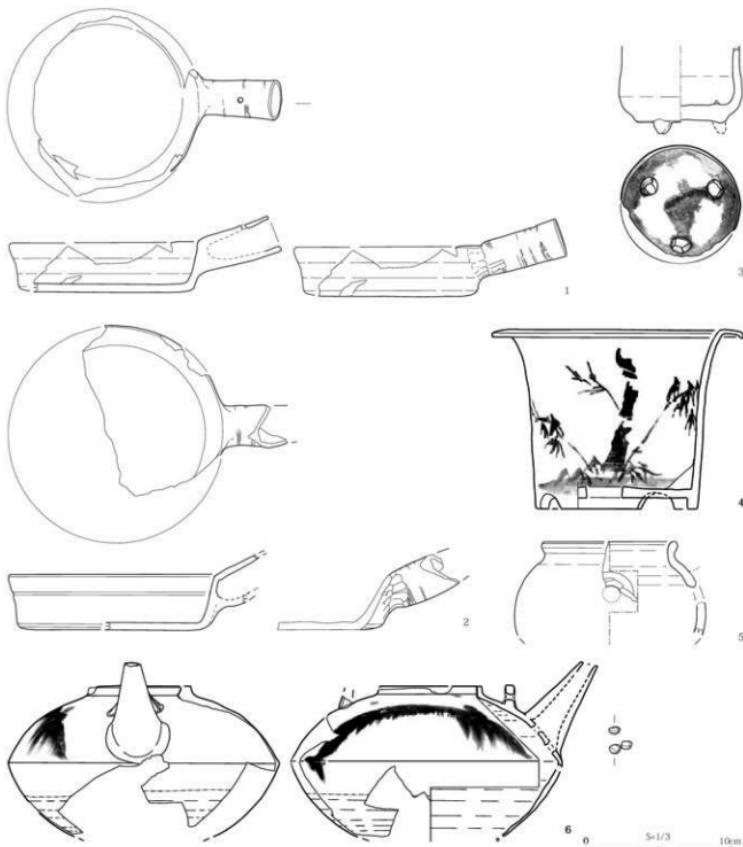
第158図 SX49 性格不明遺構平面図・断面図・出土遺物(1)

第1節 駅部



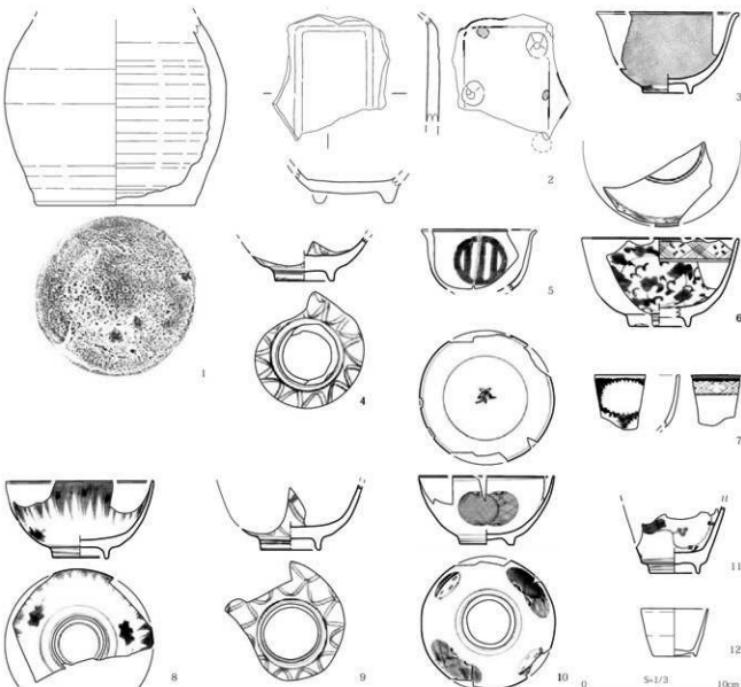
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量(cm)			落地	時期	文様・備考	登録番号
							L径	底径	器高				
1	90-5	3層	陶器	碗	口縁～底部	泥	8.6	3.6	5.4	大輪相馬	19世紀前半		I-121
2	89-7	3層	陶器	碗	口縁～底部	泥	10	3.5	5.2	大輪相馬	18世紀後半～19世紀前半		I-122
3	89-1	3層	陶器	碗	口縁～底部	泥	6	2.5	3.3	大輪相馬	19世紀前半		I-123
4	90-6	3層	陶器	碗	口縁～底部	泥	6	2.3	3.8	大輪相馬	19世紀前半		I-124
5	90-4	3層	陶器	碗	全体～底部	泥	7.4	4.6	2.3	唐津	17世紀	刷毛目	I-125
6	89-8	3層	陶器	碗	全体～底部	泥	10.2	5.1	2.6	大輪相馬	19世紀前半		I-126
7	89-11	3層	陶器	込飯器	全体～底部	泥	6.8	4	4.4	小輪相馬	19世紀前半		I-127
8	89-5	3層	陶器	器	全体～底部	泥	8.5	5.7	2.2	大輪相馬	18世紀後半～19世紀前半	繩括	I-128
9	89-4	3層	陶器	器	口縁～底部	泥	(13)	4.1	3.3	大輪相馬	19世紀前半	鉢輪 松波 繩	I-129
10	89-9	3層	陶器	器	口縁～底部	泥	13	4.5	3.5	大輪相馬	19世紀前半	型押し	I-130
11	89-6	3層	陶器	器	口縁～底部	泥	9.5	3.5	2.5	大輪相馬	18世紀後半	鉢輪 繩草	I-131
12	90-3	3層	陶器	器	口縁～底部	泥	14.3	8.2	3.5	大輪相馬	19世紀前半		I-132
13	90-14	3層	陶器	器	全体	泥	-	(7.6)	唐津	17世紀後半	型押し		I-133

第159図 SX49 性格不明遺構出土遺物(2)



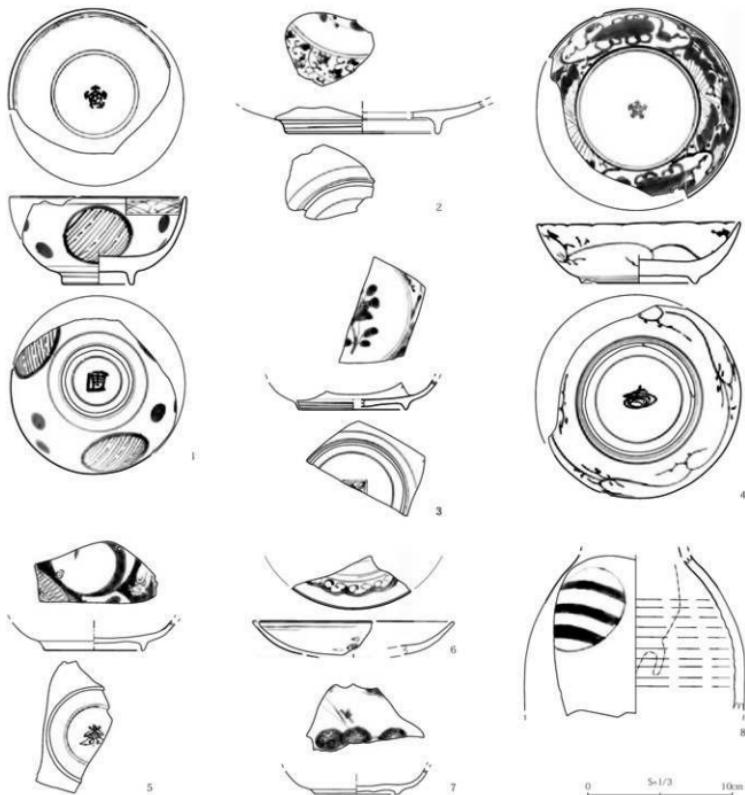
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	出土	計量(cm)	产地	時期	文様・備考	登録番号
1	91-2	3層	陶器	焰壺	口縁～底面	密	13.3 11.5 3.5	堤	18世紀後半～19世紀初半	鉛釉	I-134
2	91-4	3層	陶器	焰壺	口縁～底面	密	14.5 12.5 3.9	堤	18世紀後半～19世紀初半	鉛釉	I-135
3	91-1	3層	陶器	火入れ	蓋～底面	密	8 5.8 16	堤	19世紀初半		I-136
4	90-11	3層	陶器	植木鉢	口縁～底面	密	16.3 11.2 13	在地	18世紀後半～19世紀初半	素焼き 鉛釉？質	I-137
5	90-12	3層	陶器	土瓶	口縁～底面	密	9.2 - 16.6	在地	19世紀?		I-138
6	89-10	3層	陶器	土瓶	口縁～底面	密	7.1 8.7 10.4	人頭組陶	19世紀初半 鉛釉輪廻し掛け		I-139

第160図 SX49 性格不明遺構出土遺物(3)



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法華 (cm)			高地	時期	文様・備考	登録番号
							12径	直径	器高				
1	91-3	3層	陶器	罐	體部～近底	泥	-	10.8	(13.1)	大堀相馬	18世紀後半～19世紀初頭	鉢輪	J-140
2	99-9	3層	陶器	瓦盤	體部～近底	泥	-	-	2.7	圓窓・美濃	18世紀後半～19世紀初頭	18世紀後半～19世紀初頭	J-141
3	93-9	3層	陶器	罐	體部～近底	泥	9.9	3.4	5.5	大堀相馬	18世紀後半～19世紀初頭	環反	J-142
4	92-1	3層	磁器	罐	體部～近底	泥	8.7	4	(2.8)	肥前	18世紀後半～19世紀初頭	染付け 薔薇文	J-110
5	92-9	3層	磁器	電気碗	口縁～体部	泥	7.9	-	4.2	肥前	18世紀後半～19世紀初頭	染付け 三三回 旗臘模あり	J-111
6	91-5	3層	磁器	罐	口縁～底部	泥	10.9	42	6.2	肥前	18世紀後半～19世紀初頭	染付け 外面)花唐草文 内面)口縁部に四方舞文	J-112
7	92-5	3層	磁器	罐	口縁～体部	泥	-	-	(3.0)	肥前	18世紀後半～19世紀初頭	染付け 外面)四輪文 内面)四方舞文	J-113
8	92-2	3層	磁器	罐	口縁～底部	泥	10.2	3.8	5.3	肥前	18世紀後半～19世紀初頭	染付け 圓窓 田代 楓	J-114
9	91-7	3層	磁器	罐	口縁～底部	泥	10.9	4	4.8	肥前	18世紀後半～19世紀初頭	染付け 外面)花唐草文	J-115
10	91-10	3層	磁器	罐	口縁～底部	泥	9.5	3.8	4.8	肥前	18世紀後半～19世紀初頭	染付け 外面)九文 内面)圓窓 見台に露虫	J-116
11	92-11	3層	陶器	瓦盤	體部～近底	泥	-	3.5	(4.7)	肥前	18世紀後半～19世紀初頭	染付け 草花文	J-288
12	92-8	3層	磁器	萬葉鏡	口縁～底部	泥	8.2	3.3	6.3	肥前・美濃	18世紀後半		J-117

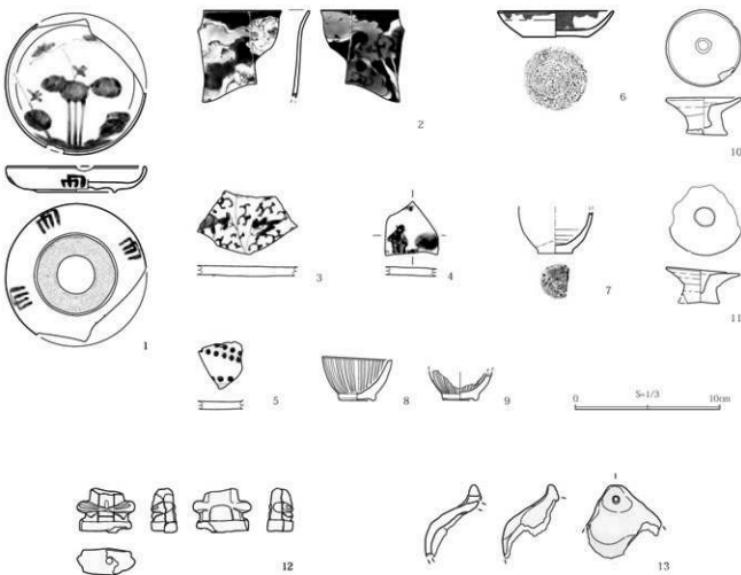
第161図 SX49性格不明遺構出土遺物(4)



図版番号	写真図版番号	層位	種別	断面	部位	断面	法量(cm)			产地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	91-8	3層	磁器	鋼	口縁～底部	密	12.5	4.8	6	肥前	18世紀前半	染付け(外面)丸文、(内面)白線部に西方神文 高台内側縁	J-118
2	92-12	3層	磁器	皿	体部～底部	密	16.8	10.4	6(2.0)	肥前	18世紀前半	染付け 花唐草文	J-119
3	92-13	3層	磁器	皿	体部～底部	密	11.6	7.5	(2)	肥前	18世紀前半	染付け(外面)舞踊 高台に墨刷(内面)草花文、見込に五 行花、高台内側縁	J-120
4	92-3	3層	磁器	皿	口縁～底部	密	14.2	7.8	4.2	肥前	18世紀後半	染付け(外面)草文、(内面)草花文、見込に五 行花、高台内側縁	J-121
5	92-4	3層	磁器	皿	体部～底部	密	10.7	6.9	(2.0)	肥前	18世紀前半	染付け(外面)高台内に銀文(内面)蓮	J-122
6	92-14	3層	磁器	皿	口縁～底部	密	14	-	(2.0)	肥前	18世紀前半	染付け	J-123
7	93-1	3層	磁器	皿	体部～底部	密	9.6	6.7	1.8	肥前	18世紀前半	染付け 草花文 飛獅頭あり	J-124
8	92-6	3層	磁器	鉢	体部	密	15.4	-	(1.0)	肥前	18世紀前半	染付け 丸文	J-125

第162図 SX49性格不明遺構出土遺物(5)

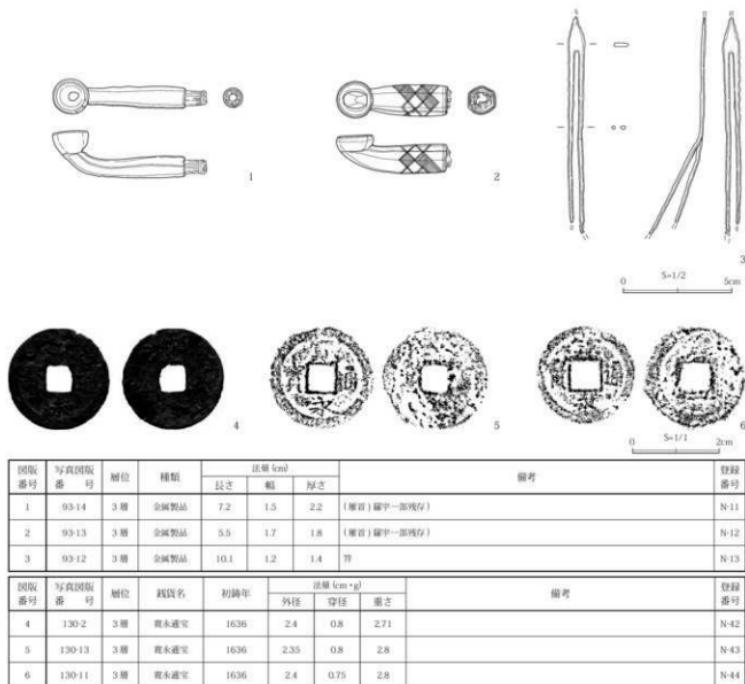
第1節 駅部



図版番号	写真図版番号	層位	種類	器種	部位	取土	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	高さ				
1	91-9	3層	磁器	皿	口縁～底部	粘	9.8	5.3	1.8	肥前	18世紀前半	梁付け 花の日皿高台 外面) 溝氏杏文 内面) 草花模文	J-126
2	91-6	3層	磁器	碗	口縁～体部	粘	-	-	1.6	肥前	18世紀後半～19世紀初半	梁付け 地脚瘤あり	J-127
3	93-2	3層	磁器	皿	口縁～体部	粘	-	-	(4.5)	肥前	18世紀後半～19世紀初半	梁付け 花唐草文	J-128
4	92-7	3層	磁器	皿	体部	粘	-	-	0.80	肥前	18世紀後半～19世紀初半	梁付け 風景?	J-129
5	92-10	3層	磁器	皿	体部	粘	-	-	0.30	肥前	18世紀後半～19世紀初半	梁付け 蘿草?	J-130
6	93-3	3層	土師質土器	かわらけ	口縁～底部	粘	8	4.4	1.8	在郷	19世紀?		J-299
7	90-10	3層	陶器	豆皿	体部～底部	粘	-	2.4	2.71	人頭粗馬	19世紀前半		J-143

図版番号	写真図版番号	層位	種類	法量(cm)			備考				登録番号
				長さ	幅	厚さ					
8	93-10	3層	土製品	-	3.5	2	紅組				P-4
9	93-6	3層	土製品	-	3.2	1.50	紅組				P-5
10	93-4	3層	土製品	-	3.1	1.8					P-6
11	93-5	3層	土製品	-	3.4	1.8					P-7
12	93-11	3層	土製品	1.2	2.8	0.20	土人形 天神				P-8
13	93-7	3層	土製品	-	0.51	13.40	土鉢				P-9

第163図 SX49 性格不明遺構出土遺物(6)



第164図 SX49 性格不明遺構出土遺物(7)

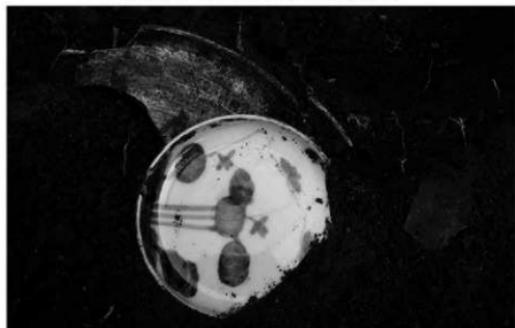
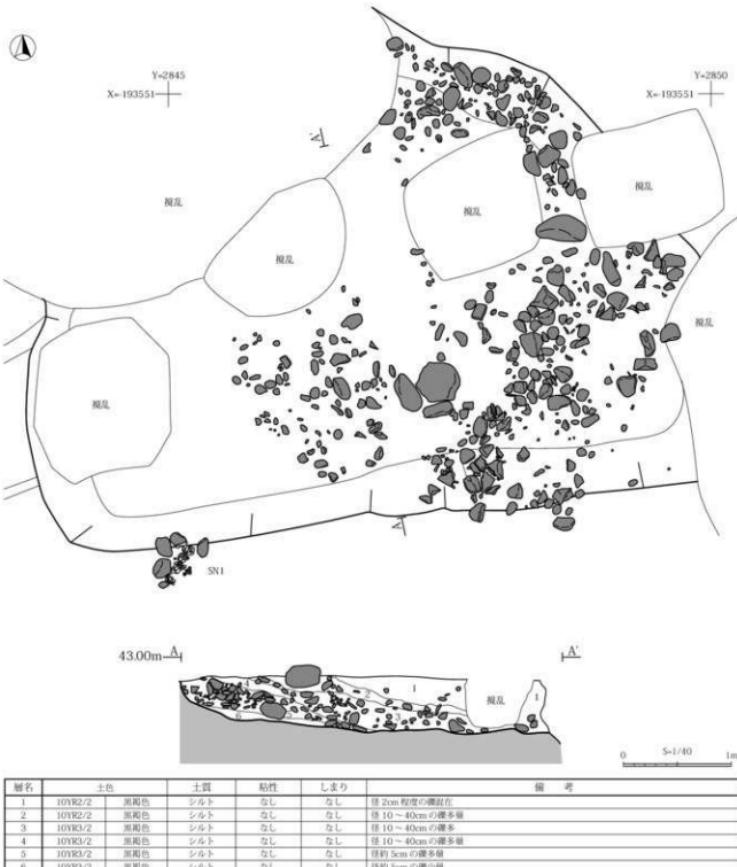


写真12 SX49 性格不明遺構遺物出土状況(北から)

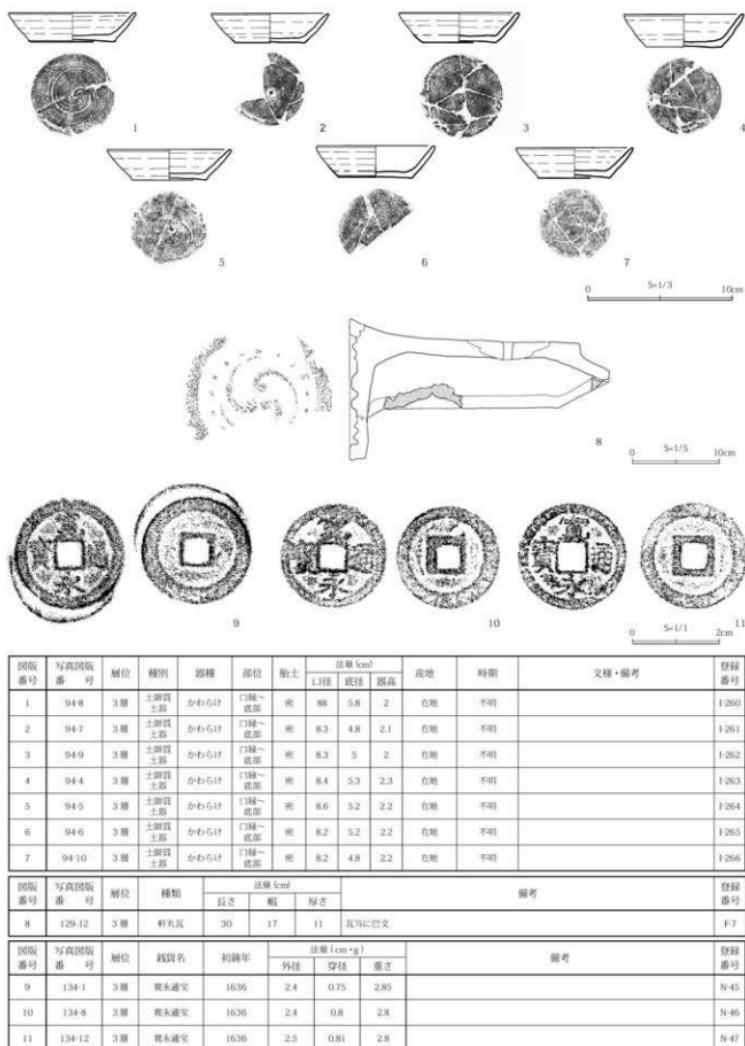
第1節 駅部

23) SX56 性格不明遺構（第165図～166図 図版35-1・2）

S16-E55 グリッドに位置し、周囲を擾乱により削平される。規模は長軸 6.1m、短軸 4.7m、深さ 48cm を測る。平面形は主軸方向 N-79°E を示す不整形で、底面は東側に向かって緩やかに傾斜しており、断面形は皿形であると考えられる。堆積土は黒褐色シルトの 6 層からなり、長さ 10～45cm、幅 5～15cm、厚さ 3～16cm の自然礫を多量に含む。遺物は 19 世紀代の堤産、大堀相馬産の陶器、19 世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片、古銭が出土し、この内 11 点を図示した。



第165図 SX56 性格不明遺構平面図・断面図



第166図 SX56 性格不明遺構出土遺物

第1節 駅部

24) SX57 性格不明遺構 (第167図 図版36-1)

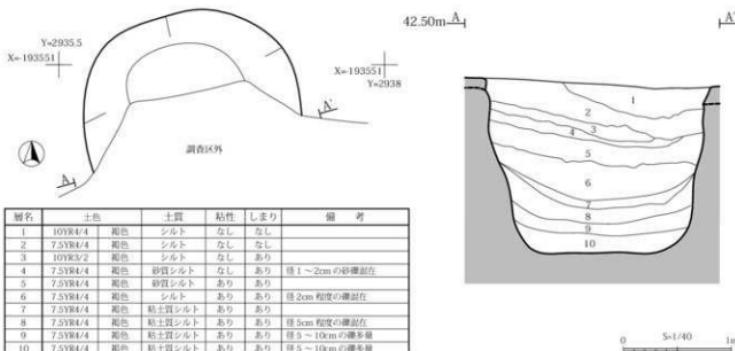
S16-E54 グリッドに位置し、北側は調査区の外側に広がり、遺構の西側、南側を擾乱で削平されている。規模は長軸 3.36m、短軸 1.38m、深さ 0.55m を測る。平面形は不明である。底面は起伏をもち、壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は黒褐色シルトの単層で、多量の瓦片と、長さ 10~20cm、幅 5~10cm、厚さ 5~10cm の自然礫を含む。遺物は産地不明の陶器、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、瓦片が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



第167図 SX57 性格不明遺構平面図・断面図

25) SX64 性格不明遺構 (第168図 図版36-2・3)

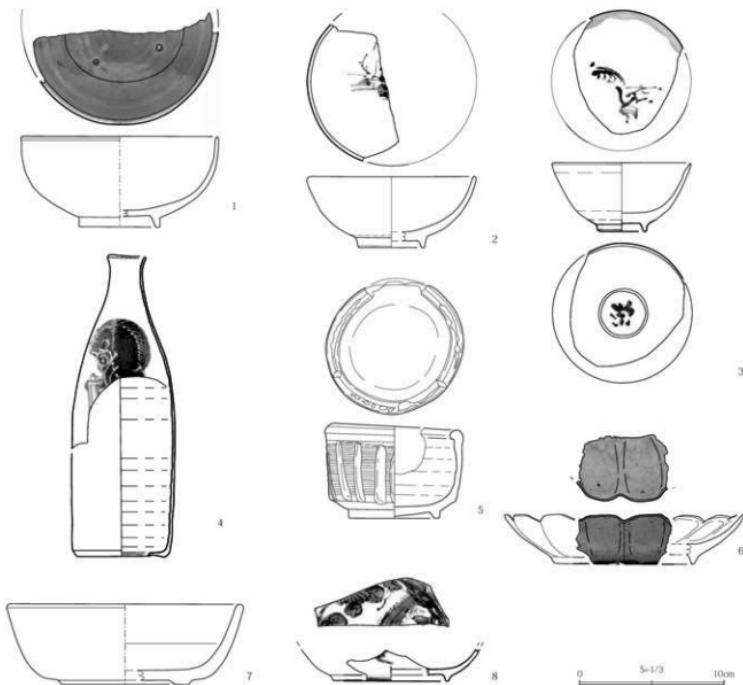
S16-E64 グリッドに位置し、南側は調査区の外側に広がる。規模は長軸 2.1m、短軸 86cm、深さ 1.64m を測る。平面形は不明で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。堆積土は褐色粘土質シルト・褐色砂質シルト・褐色シルトによる 10 層からなる。遺物は産地不明の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、瓦片が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



第168図 SX64 性格不明遺構平面図・断面図

(5) II層遺構外出土遺物（第169図～180図）

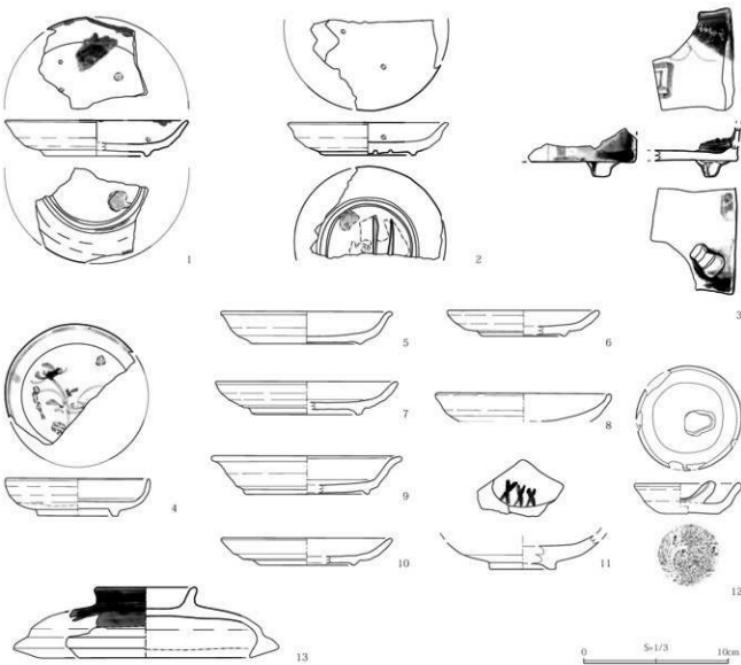
II層遺構外の出土遺物は、種別内訳で陶器片 1881 点、磁器片 2597 点、土師質土器片 571 点、瓦質土器 190 点、石製品 29 点、瓦片 2172 点、土製品 5 点、金属製品（古銭含む）84 点、その他 33 点となり、総数で 7562 点である。ここでは、図示可能な 116 点を抽出し図示した。



図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法華 [cm]			産地	時期	文様・備考	登録番号
							D径	底径	高さ				
1	94-11	S16-E59	陶器	鉢	口縁～底部	黒	13.6	5.6	6.3	大庭相馬	19世紀後半	目組	I-144
2	95-8	S16-E59	陶器	鉢	口縁～底部	黒	11.7	4.6	4.9	大庭相馬	19世紀前半	鉢込	I-145
3	95-9	S16-E59	陶器	鉢	口縁～底部	黒	9.6	3.2	4.9	大庭相馬	18世紀後半～19世紀初半	鉢込	I-146
4	94-12	S16-E59	陶器	瓶	口縁～底部	黒	3.8	8.4	28	大庭相馬	19世紀前半	鉢込 イッチャン墨による刷 透明釉	I-147
5	94-14	S16-E59	陶器	鉢	口縁～底部	黒	9	6.3	6.5	廻戸・美濃	18世紀後半	鉢込 火焰脚出し	I-148
6	95-1	S16-E59	陶器	輪花鉢	口縁～底部	黒	16.7	9.7	3.4	志野	17世紀後半		I-149
7	96-10	S16-E59	陶器	鉢	口縁～底部	黒	15.4	8.8	5.1	不明			I-150
8	96-2	S16-E59	陶器	鉢	全体～底部	黒	12.3	7.9	2.1	肥前	10世紀前半	縁付け 草花文	I-151

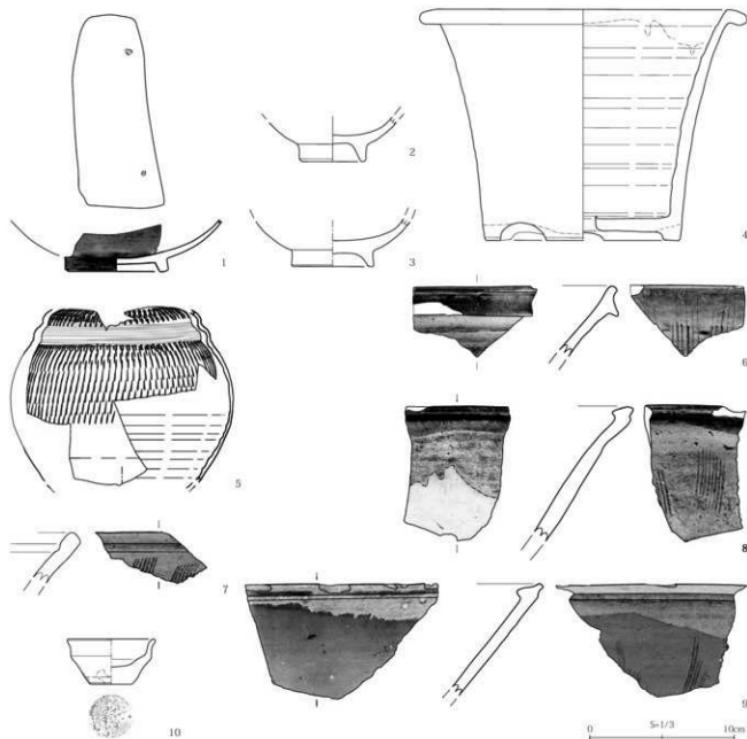
第169図 II層遺構外出土遺物(1)

第1節 駅部



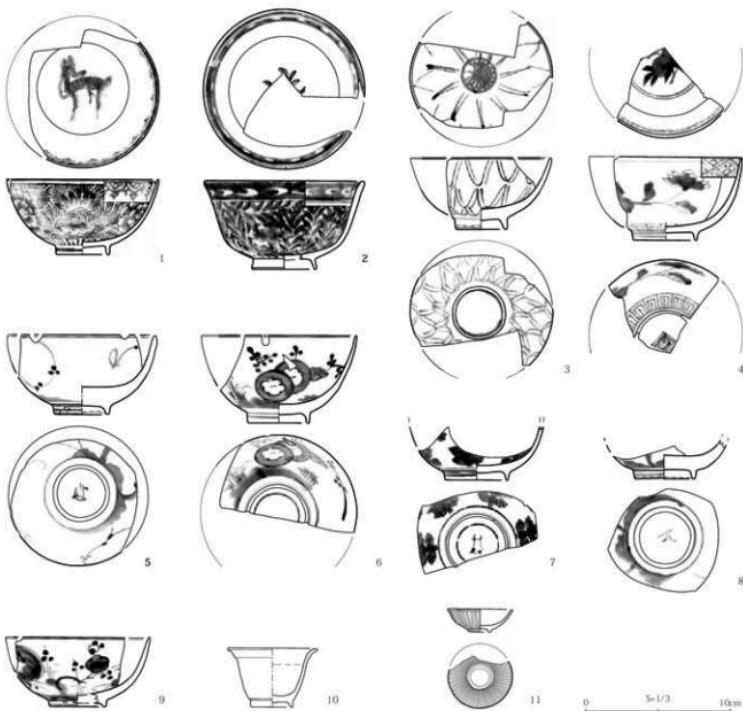
図版 番号	写真図版 番号	グリッド 番号	種別	器種	部位	胎土	法量 cm ³			文種・備考	登録 番号	
								長径	底径	高さ		
1	96-1	S16-E59	陶器	皿	「口縁～ 底部」	泥	(12.7) 17.2	2.5	-	志野	17世紀後半 二次焼熱磁質	I-152
2	96-5	S16-E59	陶器	皿	「口縁～ 底部」	泥	(11.1) 16.9	2.3	-	志野	17世紀後半	I-153
3	95-8	S16-E59	陶器	皿	「口縁～ 底部」	泥	-	-	(3.4)	廻紋・丸印	17世紀後半 鉄粒 磁鉄質	I-154
4	96-6	S16-E59	陶器	皿	「口縁～ 底部」	泥	9.8	5.5	2.6	大瓶相馬	19世紀前半 鉄粒 草文	I-155
5	96-4	S16-E59	陶器	皿	「口縁～ 底部」	泥	11.9	7.4	2.3	志野	17世紀後半 灰釉	I-156
6	95-3	S16-E59	陶器	皿	「口縁～ 底部」	泥	(10.5) 15.7	-	-	志野	17世紀後半 灰釉	I-157
7	95-5	S16-E59	陶器	皿	「口縁～ 底部」	泥	12.6	7.6	2.3	志野	17世紀後半 灰釉	I-158
8	97-2	S16-E59	陶器	皿	「口縁～ 底部」	泥	12.2	4.6	2.6	志野	17世紀後半 灰釉	I-159
9	95-2	S16-E59	陶器	皿	「口縁～ 底部」	泥	(13.2) 18.9	2.7	-	志野	17世紀後半 灰釉	I-160
10	95-11	S16-E59	陶器	皿	「口縁～ 底部」	泥	(11.8) 16.9	1.9	-	志野	17世紀後半 灰釉	I-161
11	94-13	S16-E59	陶器	皿	底部	泥	-	(4.8) (2.4)	-	大瓶相馬	18世紀後半～ 19世紀前半 鉄粒	I-162
12	96-13	S16-E59	陶器	不明類	「口縁～ 底部」	泥	7.4	4.2	2.1	大瓶相馬	18世紀後半 19世紀前半 鉄粒	I-163
13	97-3	S16-E59	陶器	皿	「口縁～ 底部」	泥	(18.4)	-	4.9	大瓶相馬	19世紀前半 鉄粒	I-164

第170図 II層遺構外出土遺物(2)



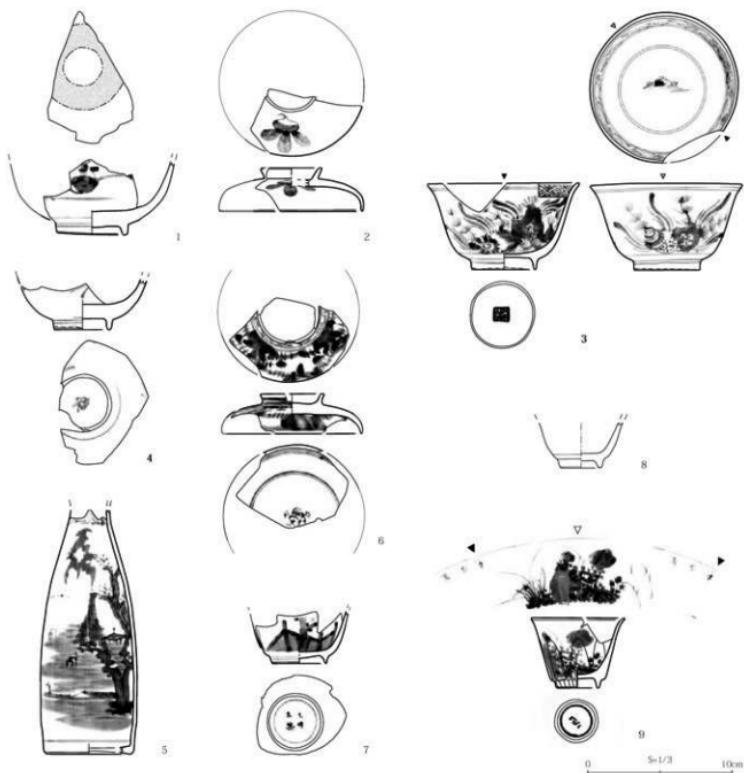
図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	出土	法華 [cm]	产地	時期	文様・備考	登録番号	
							1口径 底径 高					
1	96-3	S16-E59	陶器	鉢	口縁～底部	面	14.7 7 3.5	瀬戸・美濃	18世紀後半～19世紀前半		I-165	
2	103-3	S16-E59	陶器	碗	体部～底部	面	8.7 4.7 3.2	肥前	18世紀後半～19世紀前半		I-166	
3	96-9	S16-E59	陶器	体部～底部	面	10.7 5.7 3.3	肥前	17世紀後半	柄器手		I-167	
4	94-15	S16-E59	陶器	粘木鉢	口縁～底部	面	22.8 18.6 16.1	堺	19世紀以後	鉢輪	I-168	
5	97-1	S16-E59	陶器	土器	口縁～体部	面	9.7 10.6 12.5	大坂相馬	19世紀前半	鉢輪 とびがんな	I-169	
6	97-7	S16-E59	陶器	縦縫	口縁～体部	面	- - 5	岸	17世紀後半	口縫から口縁部に斷灰輪	I-170	
7	97-6	S16-E59	陶器	縦縫	口縁部	面	- - -	岸	17世紀後半	口縫から口縁部に断灰輪	I-171	
8	97-4	S16-E59	陶器	縦縫	口縁～体部	面	- - -	9.4	岸	17世紀後半	口縫から口縁部に断灰輪	I-172
9	97-8	S16-E59	陶器	縦縫	口縁～体部	面	15.7 - -	7.8	岸	17世紀後半	口縫から口縁部に断灰輪	I-173
10	96-11	S16-E59	陶器	小鉢	口縁～底部	面	6.1 2.8 3.2	堺	19世紀以後	鉢輪剥け流し	I-174	

第171図 II層遺構外出土遺物(3)



図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法華 [cm]	底径 直径	高さ	成地	時期	文様・備考	図版番号
1	104-3	S16-E59	磁器	碗	口縁～底部	南	10.7	3.8	5.2	廻戸・美濃	18世紀以後	染付け 外曲)草花文(牡丹) 蘭弁文 内面 絞込み網目	J131
2	104-3	S16-E59	磁器	碗	口縁～底部	南	11.2	4.5	6.1	廻戸・美濃	19世紀前半	染付け 草花文	J132
3	98-10	S16-E59	磁器	碗	口縁～底部	南	9.7	3.6	5	肥前	18世紀後半	染付け 唐口付 矢足にコンニャク判	J133
4	104-1	S16-E59	磁器	碗	口縁～底部	西	10.7	4.4	5.8	肥前	18世紀後半	染付け 外曲)草花文 蘭弁文 高台内に網目 内面)草花文	J134
5	98-8	S16-E59	磁器	碗	口縁～底部	東	10.4	3.8	5.5	肥前	18世紀後半	染付け 外曲)草花文 蘭弁文 高台内に網目	J135
6	100-4	S16-E59	磁器	碗	口縁～底部	東	10.8	4.3	6	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半	染付け 草花文	J136
7	102-9	S16-E59	磁器	碗	全体～底部	南	9.3	4.4	(3.7)	肥前	18世紀後半	染付け コンニャク判判 外面)若草文 高台 内面「大明年製」	J137
8	100-2	S16-E59	磁器	碗	口縁～底部	東	8.5	4.2	(2.7)	肥前	18世紀後半	染付け 草花文 高台内に蘭弁文?	J138
9	104-5	S16-E59	磁器	碗	口縁～底部	東	10	4	4.8	肥前	18世紀後半	染付け 草花文	J139
10	102-10	S16-E59	磁器	小鉢	口縁～底部	東	6.3	2.9	4.2	廻戸・美濃	19世紀以後		J140
11	98-4	S16-E59	磁器	缸	口縁～底部	東	4.5	1.5	2.6	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半	墨押し	J141

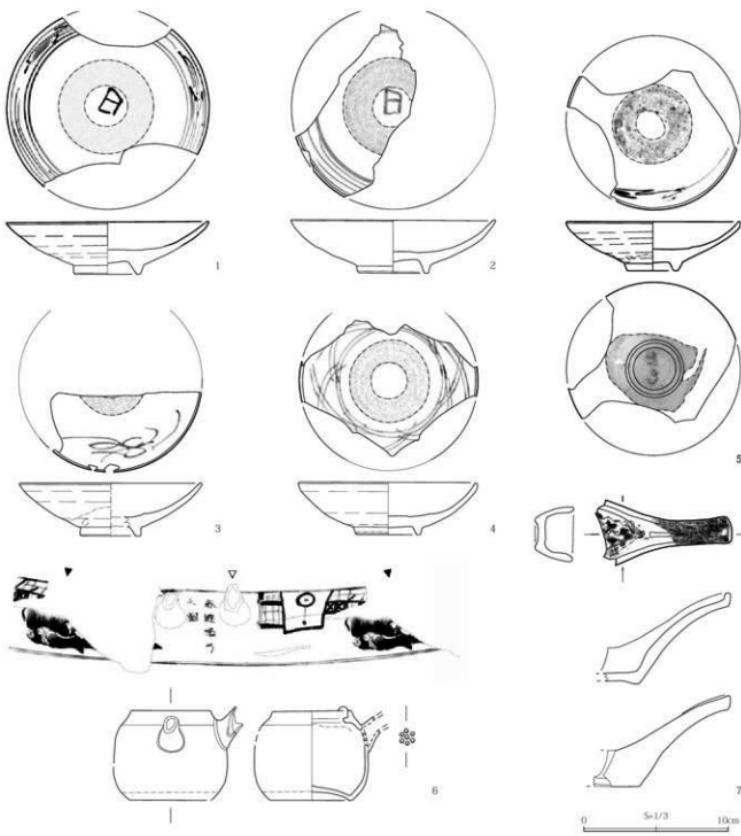
第172図 II層遺構外出土遺物(4)



図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法華 [cm]			高地	時期	文様・備考	登錄番号
							口径	底径	高さ				
1	99-10	S16-E59	磁器	碗	全体～底部	泥	11.4	5	5.2	肥前	17世紀後半～18世紀前半	墨付け 鶴の目輪唐草・草花文	J-142
2	101-5	S16-E59	磁器	碗	口縁～底部	泥	10	4	3	肥前	18世紀後半	墨付け 猫	J-143
3	103-2	S16-E59	磁器	碗	口縁～底部	泥	11.1	4.9	6.3	豪江・美濃	19世紀以後	墨付け 外面)貝 稲籠 海草 高台内に墨 内面)白線に四方壽文 見込に菊文	J-144
4	100-3	S16-E59	磁器	碗	全体～底部	泥	8.8	3.9	(3.4)	肥前	18世紀後半	墨付け 高台内に滿鉢	J-145
5	98-5	S16-E59	磁器	瓶	全体～底部	泥	2.8	5.8	(16.0)	豪江・美濃	19世紀以後	墨付け 山水 菊屋 岩村けむり 菊文	J-146
6	100-5	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	泥 (9.7)	14.4	2.8	肥前	18世紀後半	墨付け 外面)草花文 内面)五瓣花	J-147	
7	100-1	S16-E59	磁器	小鉢	全体～底部	泥	6.8	3.7	(3.6)	肥前	18世紀後半	墨付け 草花文 額 高台内に「太明賀」	J-148
8	99-11	S16-E59	磁器	小鉢	全体～底部	泥	5.3	2.9	3.1	豪江・美濃	19世紀後半		J-149
9	98-7	S16-E59	磁器	小鉢	口縁～底部	泥	6.6	3	4.9	豪江・美濃	19世紀後半	墨付け 外面)草花文 高台内に墨	J-150

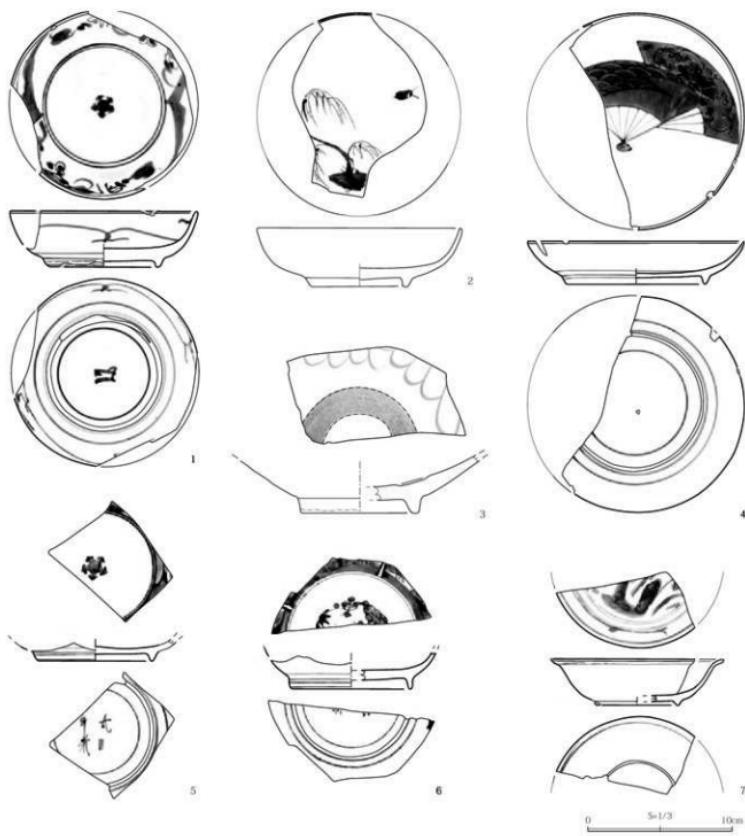
第173図 II層遺構外出土遺物(5)

第1節 駅部



図版番号	写真図版番号	グリッド番号	種別	器種	部位	胎土	法華 cm ²	产地	時期	文様・備考	登録番号
							口径 底径 壁高				
1	103-5	S16-E59	磁器	輪花盤	口縁～底部	密	14 4.8 3.6	肥前	17世紀	染付け「日の字楓葉文」	J-151
2	104-2	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	密	14.2 4.8 3.7	肥前	17世紀	染付け「日の字楓葉文」	J-152
3	100-6	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	密	(12.8) 4.2 3.6	肥前	17世紀後半～18世紀初半	染付け「蛇の目輪渦足」	J-153
4	100-7	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	密	(12.3) 4.6 3.6	肥前	18世紀後半	染付け 内面格子文	J-154
5	99-5	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	密	12.2 3.5 3.4	肥前	17世紀後半～18世紀初半	染付け「蛇の目輪渦足」	J-155
6	98-2	S16-E59	磁器	土瓶	口縁～底部	密	5.5 3.8 6.1	瀬戸・美濃	19世紀前半	染付け 人物図案「春遊図・山之図」	J-156
7	104-6	S16-E59	磁器	蓋	口縁～底部	密	3.8 2.3 6.4	瀬戸・美濃	19世紀以後	染付け 花瓶和琴	J-157

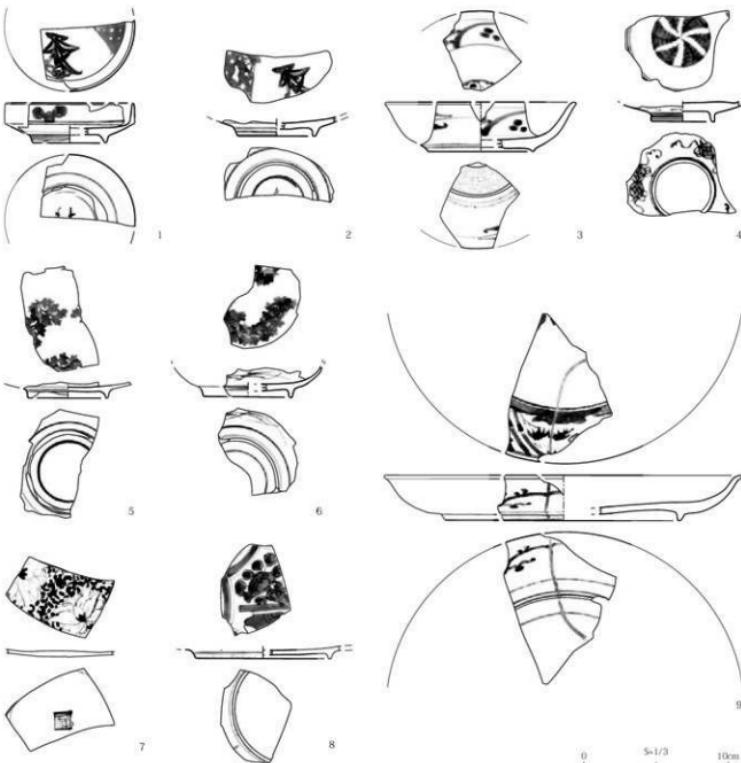
第174図 II層遺構外出土遺物(6)



図版番号	写真図版番号	ダリッド号	種別	器種	部位	胎土	法面 cm ²	底径 口径	高さ	产地	時期	文様・備考	登録番号
1	102-5	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	密	13.1	7.8	3.9	肥前	18世紀後半	染付け 外面)草文 高台内に文字文 内面)草花文 五瓣花	J-158
2	99-1	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	密	(14.3)	8.7	4.1	薩摩・美國	19世紀前半	染付け 口縁有り 繩	J-159
3	102-7	S16-E50	磁器	皿	全体～底部	密	-	8.2	3.9	肥前	17世紀後半	青磁貼 猫の目輪渦足 型押し	J-160
4	99-7	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	密	15.1	9.7	3	肥前	17世紀後半	染付け 見返に猫	J-161
5	102-1	S16-E59	磁器	皿	底部	密	-	3.9	1.2	肥前	18世紀後半～19世紀初	染付け 見返に五瓣花 高台内に大明字質	J-162
6	100-9	S16-E59	磁器	皿	全体～底部	密	-	8.5	Q.2	肥前	18世紀後半	染付け 高台内「(二三)年製」? 内面)草花文 桔竹梅文	J-163
7	100-8	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	密	12.8	8.7	3.3	肥前	18世紀後半～19世紀初	染付け 草文	J-164

第175図 II層遺構外出土遺物(7)

第1節 駅部



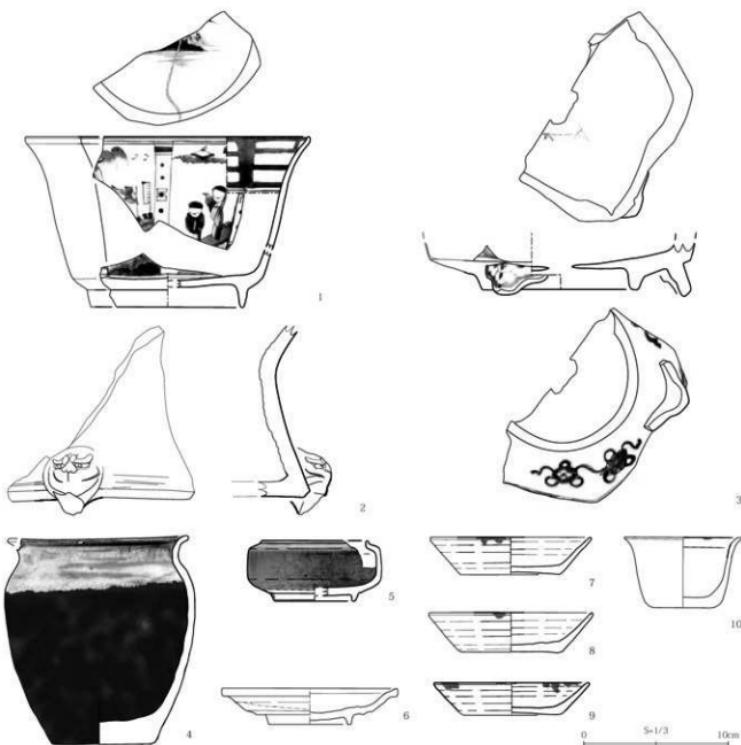
図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法華 (cm ³)	発地	時期	文様・備考	登録番号
							L1径 底径 高さ				
1	99-3	S16-E50	磁器	皿	口縁～底部	陶	9 5.2 2.8	肥前	18世紀後半	染付、コンニャク印判、外面) 梅花、内面) 草文	J-165
2	103-4	S16-E59	磁器	皿	底部	陶	8.3 5.4 (1.4)	肥前	18世紀後半	染付、コンニャク印判、外面) 花紋、高台内に文、内面) 真跡	J-166
3	104-4	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	陶	13.2 7.2 3.4	肥前	18世紀後半	染付、外面) 草文、内面) 草花文	J-167
4	101-6	S16-E59	磁器	皿	全体～底部	陶	- 4.4 (1.2)	肥前	18世紀後半	染付、外盛) 七宝文、内面) 半圓文	J-168
5	104-1	S16-E59	磁器	皿	全体～底部	陶	- 5.5 (1.1)	肥前	18世紀後半	染付、コンニャク印判、草文	J-169
6	102-2	S16-E59	磁器	皿	全体～底部	陶	- 6 (2)	肥前	18世紀後半	染付、コンニャク印判、草文	J-170
7	101-4	S16-E59	磁器	皿	全体	陶	7.5 - -	肥前	18世紀後半	染付、草花文、高台内に角器	J-171
8	99-4	S16-E59	磁器	皿	底部	陶	- 9.4 (0.8)	肥前	18世紀後半～19世紀初半	染付、草花文	J-172
9	99-6	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	陶	24.9 15.2 3.1	肥前	17世紀後半～18世紀初半	染付、外盛) 草文、内面) 勾連文、竹林 接縫部あり	J-173

第176図 II層遺構外出土遺物(8)



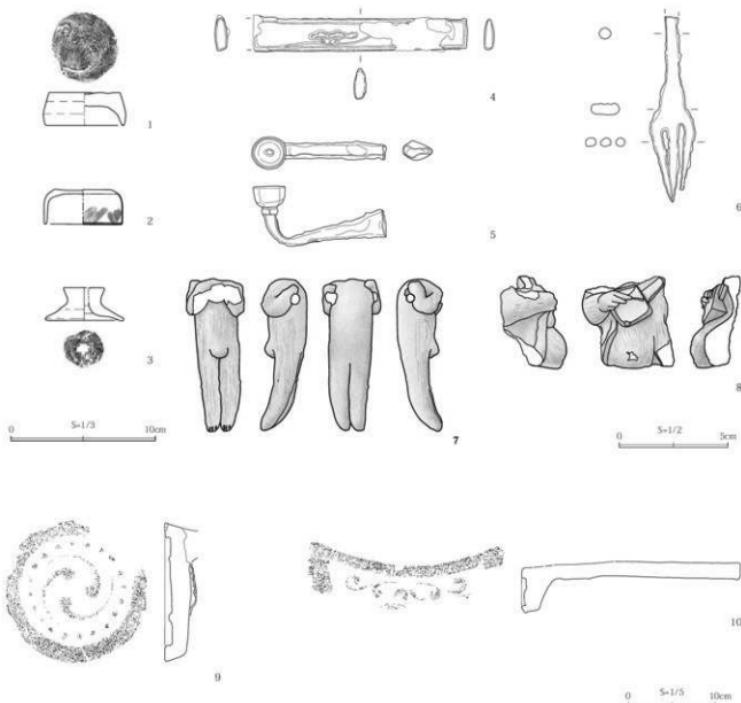
図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法華[cm]			產地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	99-2	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	密	(14.8)	6.1	3.4	肥前	18世紀後半～19世紀初半	染付け 圖彌 菊絵	J-174
2	101-2	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	密	(15.7)	6.8	2.5	肥前	18世紀後半	染付け 外面)草花文、鳥? 内面)草花文、蘭文	J-175
3	99-8	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	密	13.3	8.8	1.80	肥前	19世紀後半	染付け 草花蝶文	J-176
4	98-1	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	密	15.4	6.7	2.5	肥前	17世紀	染付け 草花蝶文	J-177
5	100-10	S16-E59	磁器	皿	全体～底部	密	16	6.20	2.8	肥前	18世紀後半	染付け (外周) 漢文 内面)草花文、見込に五瓣花、高台内に文字	J-178
6	99-9	S16-E59	磁器	火入れ	口縁～全体	密	10.4	-	1.0	肥前	18世紀中期	染付け	J-179
7	98-3	S16-E59	磁器	輪花紋	口縁～底部	密	6.5	2.9	3	肥前	18世紀後半	型押し	J-180
8	98-9	S16-E59	磁器	蓋	口縁	密	4.1	1.7	(2)	肥前	17世紀後半～18世紀初半	染付け 五瓣花	J-181
9	102-8	S16-E59	磁器	瓶	全体～底部	密	-	4.7	(4.4)	肥前	18世紀後半	染付け 草花文	J-182
10	102-6	S16-E59	磁器	鍵利	全体～底部	密	5.3	4.3	(7.8)	高台・尖頭	18世紀後半～19世紀初半	染付け 草花文	J-183

第177図 II層遺構外出土遺物(9)



図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	口径	底径	器高	産地	時期	文様・備考	登録番号
1	98-6	S16-E59	磁器	向付	口縁～底部	泥	19.6	10.6	11.8	蘆戸・美濃	19世紀以後	染付け 外面：唐子？ 内面：口縁部に八卦文	J-184
2	105-7	S16-E59	瓦質土器	舷造り	体部～底部	泥	-	-	13.2	在地	19世紀以後		F-286
3	103-1	S16-E59	磁器	火入れ	底部	泥	-	11	3.3	肥前	19世紀後半～19世紀初半	焼付け 七宝文	J-185
4	95-4	S16-E59	陶器	甕	口縁～底部	泥	12.6	6.9	14.3	尾	19世紀以後	なまこ輪	I-175
5	97-5	S16-E59	陶器	皿	口縁～底部	泥	7.4	5.7	4.2	小野畠馬	18世紀後半～19世紀初半		I-176
6	96-14	S17-E59	陶器	皿	口縁～底部	泥	12.2	5.7	2.5	大庭畠馬	18世紀後半～19世紀初半		I-177
7	104-10	S16-E59	土師質土器	かわらけ	口縁～底部	泥	11.2	6.8	3	在地	19世紀以後	油煙付着	I-267
8	104-12	S16-E59	土師質土器	かわらけ	口縁～底部	泥	11.4	7.1	2.7	在地	19世紀以後	油煙付着	I-268
9	104-11	S17-E59	土師質土器	かわらけ	口縁～底部	泥	11.7	6.8	2.3	在地	19世紀以後	油煙付着	I-269
10	105-3	S16-E59	土師質土器	ミニチュア	口縁～底部	泥	8.2	4.2	5	在地	19世紀以後		I-270

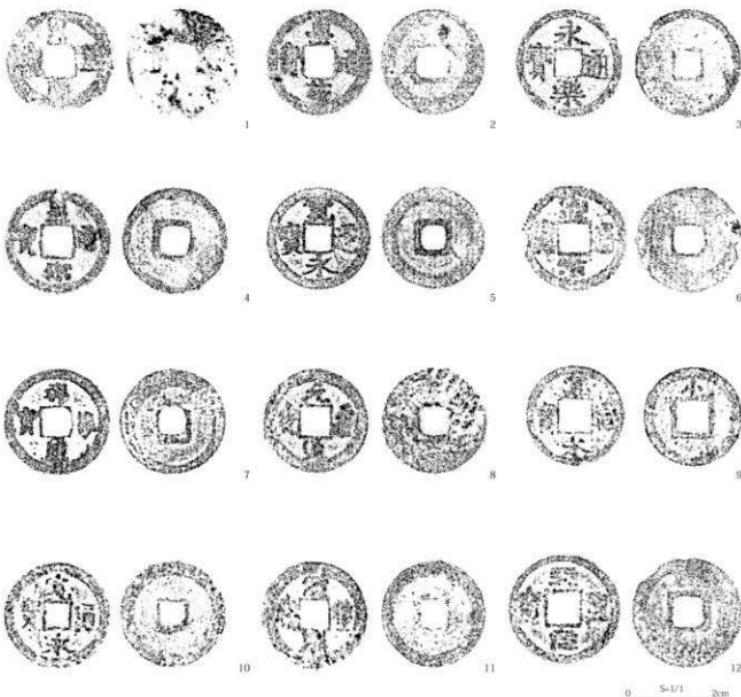
第178図 II層遺構出土遺物(10)



図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
						長さ	幅	厚さ				
1	105-2	S16-E59	土器質	不明	門限～底部	9.4	4.9	2.3	不明	19世紀以前		I-271
2	105-1	S16-E59	土器質	接吻帯	門限～底部	5.5	4.3	2.5	在地	18世紀後半	蓋	I-272
3	104-9	S16-E59	土器質	不明	門限～底部	2.9	3.4	2.3	不明	19世紀以前		I-273

図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	法量(cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
4	106-2	S16-E59	金屬製品	9.8	1.6	0.6	刀子	N-14
5	106-4	S16-E59	金屬製品	6.2	3	1.5	縹告(縁首)	N-15
6	105-8	S16-E59	金屬製品	8.8	2.2	0.5		N-16
7	106-1	S16-E59	土器質	7.2	2.8	2	土入形 蓋?	P-10
8	106-3	S16-E59	土器質	4.5	4.2	-	土入形 三味輪溝き	P-11
9	129-3	S17-E59	軒丸瓦	4	16.2	16.2	瓦当に巴文	F-8
10	129-2	S16-E59	軒平瓦	8	26.2	25.3	瓦面に網目文	G-4

第179図 II層構造外出土遺物(11)

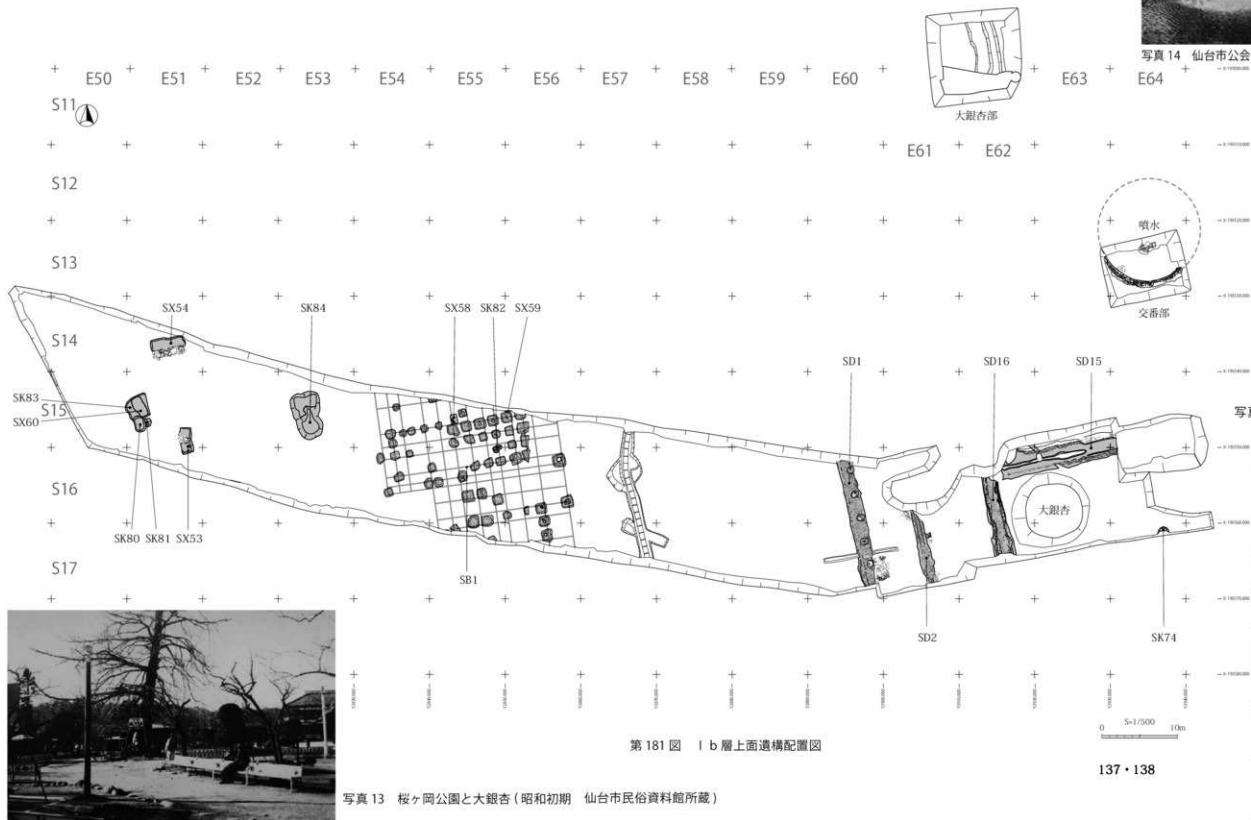


図版 番号	写真図版 番号	グリッド 号	銭銘名	初鑄年	法華 [cm・g]			備考	登録 番号
					外径	穿孔	重さ		
1	133-5	S16-E50	不明	-	2.4	0.75	2.8		N-48
2	133-1	S16-E50	嘉祐通宝	1056(宋)	2.4	0.8	2.7		N-49
3	132-4	S16-E50	永祐通宝	1408(明)	2.4	0.8	2.68		N-50
4	134-6	S16-E50	皇宋通宝	1039(宋)	2.4	0.8	2.85		N-51
5	131-6	S16-E50	寛永通宝	1636	2.35	0.8	2.8		N-52
6	132-11	S16-E50	聖宋通宝	1039(宋)	2.4	0.8	2.85		N-53
7	131-2	S16-E50	祥符通宝	1008(宋)	2.4	0.75	2.68		N-54
8	131-8	S16-E50	元豐通宝	1078(宋)	2.42	0.8	2.8		N-55
9	132-13	S16-E50	寶永通宝	1636	2.35	0.8	2.8		N-56
10	132-5	S16-E50	寛永通宝	1636	2.35	0.8	2.8		N-57
11	131-23	S16-E50	元豐通宝	1078(宋)	2.4	0.8	2.8		N-58
12	131-9	S16-E50	聖宋通宝	1101(宋)	2.35	0.8	2.8		N-59

第180図 II層遺構出土物(12)

4 I b 層上面検出遺構と I b 層出土遺物

I b 層上面で検出された遺構は、近代建物 1 棟、溝 4 条、土坑 6 基、性格不明遺構 4 基である。遺構はいずれも、近代以降に造成されたもので、堆積土中には、近代陶磁器、ガラス片等が多く見られる。SB1 は検出した位置、規模等から明治 19 年に建てられた和洋料亭「抱翠館」と考えられる。SX54 は、この「抱翠館」に付属する厨房施設とも考えられる。また、SD1・2・16 は長軸方向が一致し、SD15 の長軸方向はこれらと直交する。なお、SD15、16 は「大銀杏」を囲む様な配置にある。



(1) 近代建物跡

1) SB1 近代建物跡 (第182図・183図 図版36-4)

S15～16-E54～56 グリッドに位置する。1b 層上面で検出された 50 基以上の基礎坑から構成される近代建物跡である。検出した規模は東西に 20m、南北に 15m である。それぞれの基礎坑は上面形が約 0.6～1.2m × 0.6～1.2m の方形規格で、深さは 40～90cm を測る。内部は、径 10～20cm の自然礫と山砂を交互に重ね上げた構造を持つ。最下面の中央には要石となる径 30～50cm の自然礫を設置し、その周囲には径 10～20cm の自然礫を突きこみ全体の安定を図る工夫が見られる。いずれの基礎坑も建築物の上部構造（上屋構造）を支持するために強固に造成されている。これらの礫中からは、ガラスの小片や、近代の磁器の小片が出土している。また、この基礎坑は約 50cm の間隔で設けられており、江戸從来の尺間法と異なる基準が採用されていたと考えられる。この事から当遺構は、明治 19 年 (1886) に桜ヶ岡公園地内に建てられた和洋料亭「抱翠館」の跡と考えられる。

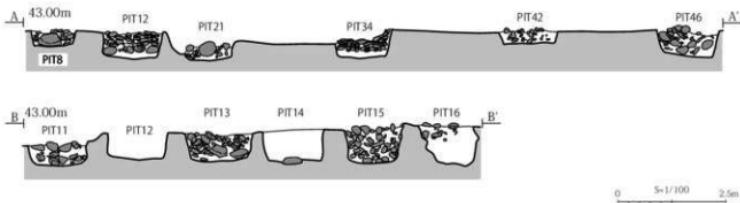
ゆうりやかん
抱翠館について

ゆうりやかん
抱翠館は、明治 19 年 (1886) に針生惣助によって建てられた和洋料亭で、当時、園遊会やビアホールとしても使用されており、明治 35 年 (1902) には板垣退助による演説会にも利用された。明治 42 年 (1909) に仙台市が買収し、仙台市公会堂としたが、昭和 20 年 (1945) 戦災により焼失した。



第182図 SB1 近代建物跡平面図

第1節 駅部



第183図 SB1 近代建物跡断面図

PIT No.	径 (m)	深さ (m)	断面形状	土色	PIT No.	径 (m)	深さ (m)	断面形状	土色
PIT1	1.05	0.24	矩状	IORY2/3	PIT27	1.22	0.58	逆行形	IORY3/2
PIT2	1.23	0.26	矩状	IORY2/2	PIT28	1.13	0.34	矩状	IORY3/2
PIT3	1.36	0.28	矩状	IORY2/2	PIT29	1.63	0.76	U字形	IORY3/2
PIT4	1.42	0.26	逆行形	IORY3/2	PIT30	1.15	0.34	逆行形	IORY3/2
PIT5	1.1	0.41	逆行形	IORY2/2	PIT31	1.37	0.45	逆行形	IORY3/2
PIT6	1	0.18	矩状	IORY2/2	PIT32	1.26	0.46	矩状	IORY3/2
PIT7	1	0.43	逆行形	IORY2/2	PIT33	1.47	0.36	矩状	IORY3/2
PIT8	1.04	0.34	逆行形	IORY2/2	PIT34	1.34	0.62	逆行形	IORY3/2
PIT9	1.12	0.32	U字形	IORY2/2	PIT35	1.24	0.48	逆行形	IORY3/2
PIT10	0.97	0.6	逆行形	IORY2/2	PIT36	1.33	0.39	逆行形	IORY3/2
PIT11	1.72	0.44	逆行形	IORY2/2	PIT37	1.59	0.79	逆行形	IORY3/2
PIT12	1.39	0.6	逆行形	IORY2/2	PIT38	1.88	0.88	U字形	IORY3/2
PIT13	1.37	0.59	逆行形	IORY2/2	PIT39	2	0.72	逆行形	IORY3/2
PIT14	1.41	0.78	逆行形	IORY2/2	PIT40	1.34	0.62	逆行形	IORY3/2
PIT15	1.46	0.88	逆行形	IORY2/2	PIT41	1.58	0.92	逆行形	IORY3/2
PIT16	1.51	0.74	U字形	IORY2/2	PIT42	1.5	0.45	逆行形	IORY3/2
PIT17	1.37	0.45	逆行形	IORY2/2	PIT43	1.42	0.26	逆行形	IORY3/2
PIT18	1.2	0.3	矩状	IORY2/2	PIT44	1.23	0.49	U字形	IORY3/2
PIT19	0.97	0.6	逆行形	IORY2/2	PIT45	1.64	0.8	逆行形	IORY3/2
PIT20	1.29	0.32	矩状	IORY2/2	PIT46	1.59	0.6	逆行形	IORY3/2
PIT21	1.28	0.28	逆行形	IORY2/2	PIT47	1.11	0.24	矩状	IORY3/2
PIT22	1.13	0.44	逆行形	IORY2/2	PIT48	1.11	0.42	矩状	IORY3/2
PIT23	1.14	0.58	逆行形	IORY2/2	PIT49	1.86	0.63	逆行形	IORY3/2
PIT24	1.28	0.52	逆行形	IORY2/2	PIT50	1.57	0.53	逆行形	IORY3/2
PIT25	1.54	0.92	U字形	IORY2/2	PIT51	1.7	0.32	矩状	IORY3/2
PIT26	1.35	0.39	矩状	IORY2/2	PIT52	1.78	0.47	矩状	IORY3/2

第8表 SB1 近代建物跡基礎坑観察表



写真16 創業当時の北翠館(明治19年撮影 戦災復興資料館所蔵)

(2) 溝跡

1) SD1溝跡(第184図・185図 図版37-1~4)

S16-E60～S17-E60 グリッドに位置する。両端は調査区の外側に伸び、調査区を南北に縱断する石組を有する溝である。溝の中心軸より、やや東側に約 160cm 間隔で打たれている現代建物の基礎杭により部分的に削平されている。また、南端部側は複数により大規模に削平されている。検出長は約 17m で主軸方向は N-13°W を示す。

石組は上端幅は 0.96～1m、下端幅は 0.9～0.95m を測る。石組を構築する石材は、片端を平坦に調整した自然礫(長さ 20～40cm、幅 20～50cm、厚さ 20～30cm)で、面を内側に揃え、2段組でほぼ、直線的に乱石積みされている。底面は、扁平な自然礫(長さ 20～40cm、幅 20～50cm、厚さ 8～15cm)の平坦面を上に揃え、底面全体に敷き詰められている。流水の痕跡は見られなかった。

裏込は石組の安定のため、石材を一段積む毎に自然礫(長さ 5～15cm、幅 5～10cm、厚さ 3～10cm)を詰め込んである。

掘り方は上端幅は 1.9～2.0m、下端幅は 1.8～1.9m、深さは 0.48～0.55m を測り、南側に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は近代のガラス片、レンガ片や、鉄屑などを含む黒色シルトの単層である。

遺物は、17世紀～19世紀代の肥前、瀬戸・美濃産の磁器、17世紀代の志野産、大堀相馬産、堤産の陶器が出土し、この内 13 点を図示した。



写真17 SD1溝跡検出状況(北から)

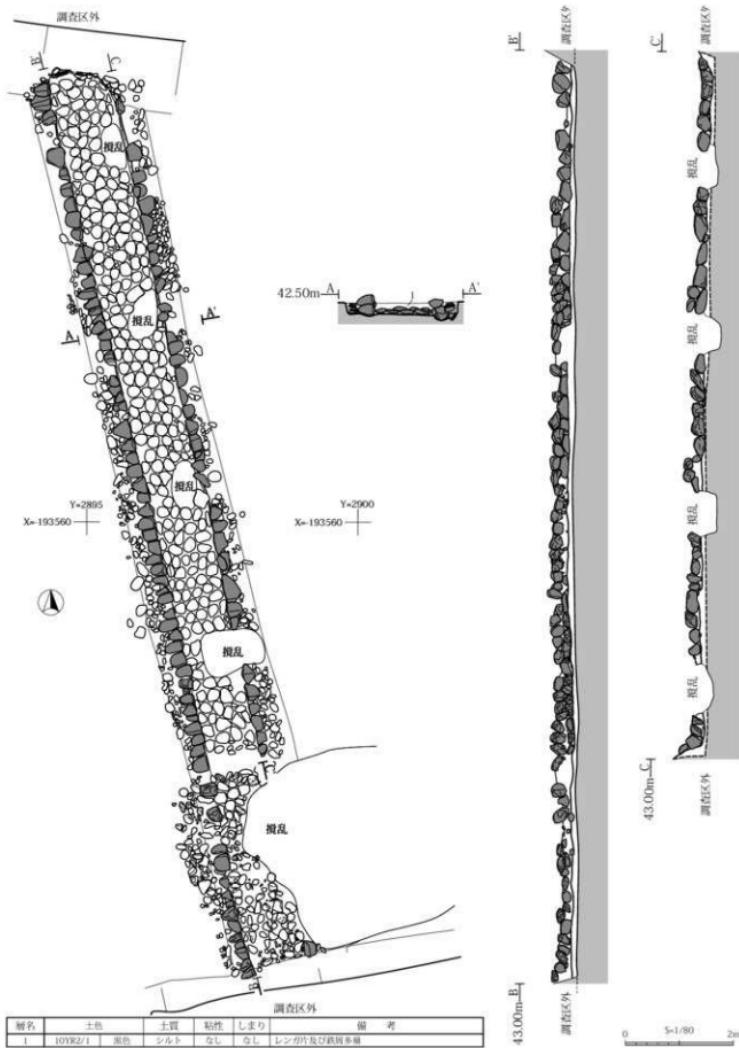


写真18 SD1溝跡検出状況(南東から)

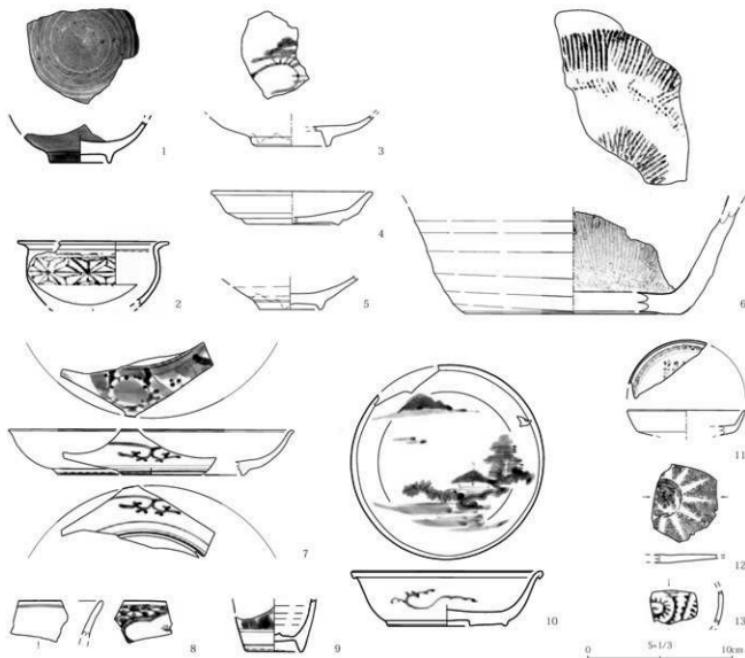


写真19 SD1溝跡検出状況(南東から)

第1節 駅部



第184図 SD1溝跡平面図・断面図



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	取土	法量(cm) L径　底径　脚高	高地	時期	文様・備考	登録番号	
1	106-7	1層	陶器	皿	体部-底部	密	9.1 4.3 2.7	肥前	17世紀	刷毛目文	J-178	
2	106-10	1層	磁器	火入れ	口縁-体部	密	10.5 6.1 5.1	肥前	18世紀後半		J-186	
3	106-8	1層	陶器	皿	体部-底部	密	11.2 5.4 2.3	大屋相馬	19世紀前半	路地 松	J-179	
4	106-6	1層	陶器	皿	口縁-底部	密	11.2 6.5 2.3	志野	17世紀後半		J-180	
5	106-9	1層	磁器	皿	体部-底部	密	9.3 4.5 2.3	肥前	18世紀前半	蛇の目點絵	J-187	
6	106-5	1層	陶器	皿	体部-底部	密	22.8 15 7.1	堀	19世紀後半		J-181	
7	106-11	1層	磁器	皿	口縁-底部	密	19.7 12.8 3.1	肥前	18世紀後半- 19世紀前半	染付け 外面)草文 内面)草花文	J-188	
8	106-12	1層	磁器	皿	口縁部	密	- - 2.5	肥前	18世紀後半- 19世紀前半	染付け 草文	J-189	
9	107-2	1層	磁器	皿	体部-底部	密	5.8 3.8 3.7	肥前	18世紀後半	染付け 草花文	J-190	
10	107-1	1層	磁器	鉢	口縁-底部	密	13.4 8.2 3.8	肥前	18世紀後半- 19世紀前半	染付け 外面)草文 内面)山水文 斜尾 連山	J-191	
11	107-3	1層	磁器	小皿	口縁部	密	8 - -	2	肥前	19世紀以後	口縁部に黄文 見込に文字	J-192
12	106-13	1層	磁器	皿	体部	密	- - 4.4	廻口+直腹	19世紀以後	染付け 型籠割り	J-193	
13	106-14	1層	磁器	鉢?	体部	密	- - 2.4	肥前	18世紀後半	染付け 嬉唐草	J-194	

第185図 SD1溝跡出土遺物

第1節 駅部

2) SD2溝跡(第186図・187図 図版37-5・38-1)

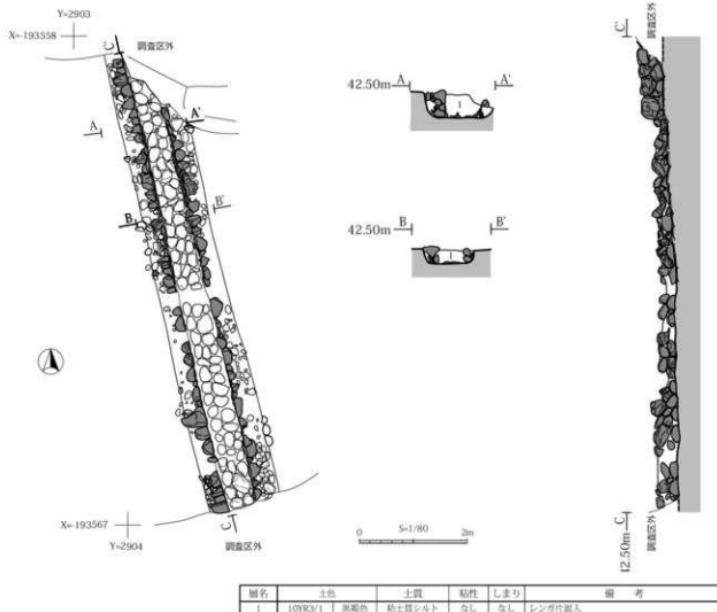
S16-E61～S17-E61 グリッドに位置する。SD1から約8m側を並走し、両端は調査区の外側に伸び、調査区を南北に継続する石組を有する溝である。検出長は8mで主軸方向はN-13°Wを示す。

石組は上端幅は48～55cm、下端幅は45～50cmを測る。石組を構築する石材は、片端を平坦に調整した自然礫(長さ20～30cm、幅20～30cm、厚さ20～25cm)で、面を内側に揃え、3段組でほぼ、直線的に乱石積みされている。なお、3段目の石組は大部分が削平され、両端側にのみ残存する。底面は、扁平な自然礫(長さ20～40cm、幅20～35cm、厚さ8～15cm)の平坦面を上に揃え、底面全体に敷き詰められている。

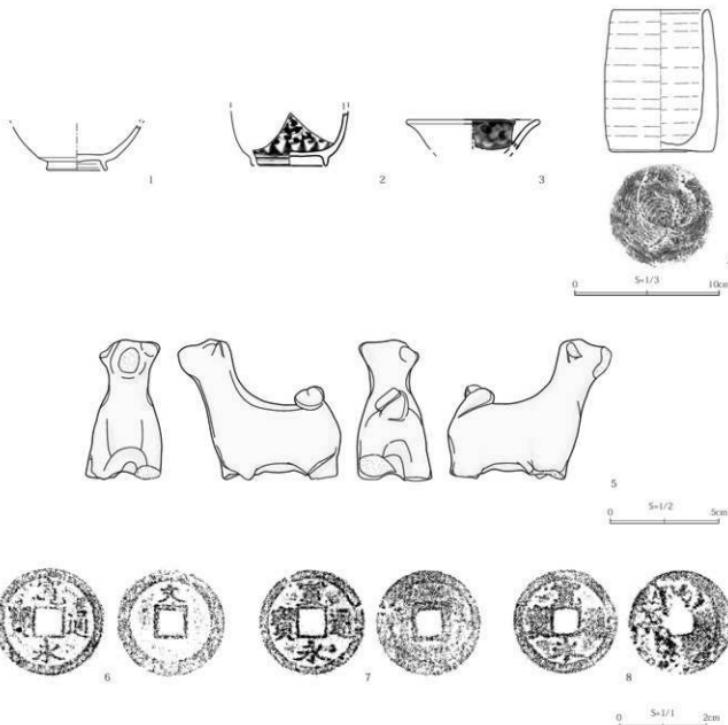
裏込は石組の安定のため、石材を一段積む毎に自然礫(長さ5～15cm、幅5～10cm、厚さ3～10cm)を詰め込んでいる。

掘り方は上端幅は1.28～1.44m、下端幅は0.8～0.96m、深さは0.48～0.64mを測り、南側に向かって緩やかに傾斜する。堆積土は近代のガラス片、レンガ片や、鉄屑などを含む黒色砂質シルトの単層である。

遺物は産地不明の陶器、17世紀～18世紀代の肥前産の磁器、17世紀代の土師質土器、在地産の瓦質土器、19世紀代の土製品、古銭が出土し、この内8点を図示した。



第186図 SD2溝跡平面図・断面図



第187図 SD2溝跡出土遺物

第1節 駅部

3) SD15溝跡(第188図・189図 図版38-2・39-2)

S15-E62～S16-E64グリッドに位置する。両端は調査区の外側に伸び、調査区を東西に縱断する石組を有する溝である。中央部、西端部、および北辺の石組が裏込石のみを残し、攪乱に削平されている。検出長は12.5mで、主軸方向はN-77°-Wを示す。

石組は北辺の石材が失われているために、石組の上端幅、下端幅は不明である。なお、石組を構築する石材はいずれも平坦な面を内側に備えて配置され、以下の3種類に分類できる。

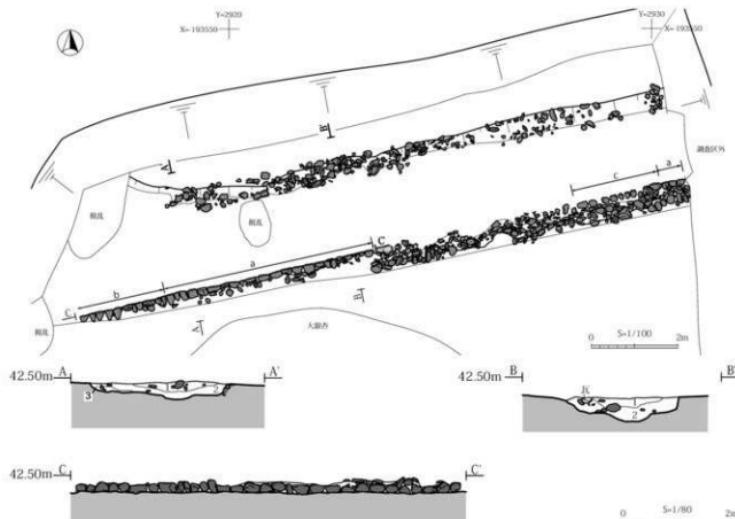
(a) 「自然礫の片端部を平田に打ち欠いたもの」	長さ15～24cm、幅20～30cm、厚さ15～31cm
(b) 「闇知石」	小粒丸長15～30cm、小U横15～20cm、小U縦15～20cm
(c) 「加工痕跡のない自然礫」	長さ10～13cm、幅15～30cm、厚さ10～20cm

第9表 SD15溝跡石材分類表

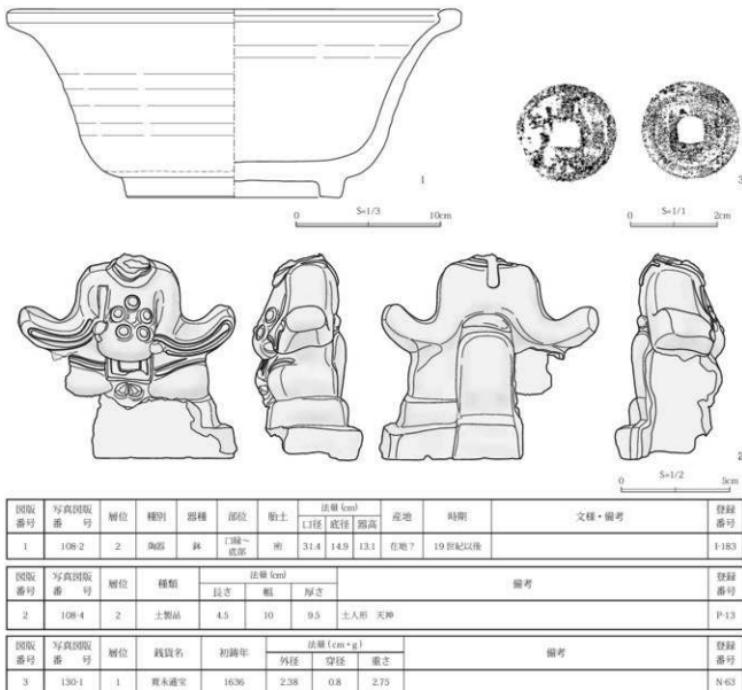
裏込は石組の安定のため、石材を一段積む毎に自然礫(長さ5～15cm、幅5～10cm、厚さ3～10cm)を詰め込んでいる。

掘り方は上端幅は2.8～3.2m、下端幅は2.6～2.8m、深さは0.4cmを測る。底面はやや、起伏をもつ。堆積土は砂質シルトの3層からなる。

遺物は2層中より19世紀代の大堀相馬産、在地産の陶器、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片、土製品、金属製品、古錢が出土し、この内3点を図示した。



第188図 SD15溝跡平面図・断面図



第189図 SD15溝跡出土遺物



写真20 SD15・16溝跡検出状況(北から)

第1節 駅部

4) SD16溝跡(第190図 図版39-1・2)

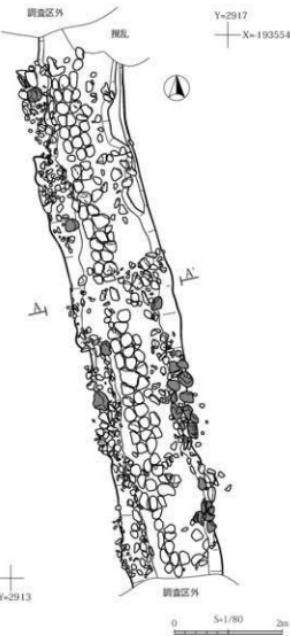
S16-E62～S17-E64グリッドに位置する。SX35と重複しており、SD16が新しい。両端は調査区の外側に伸び、調査区を南北に縱断する石組を有する溝である。石組の大部分は擾乱により削平されている。検出長は10mで、主軸方向はN-13°Wを示す。

残存している石組の上端幅は0.96～1m、下端幅は88mを測る。石組を構築する石材は、片端を平坦に調整した自然礫(長さ15～20cm、幅10～15cm、厚さ5～15cm)の面を内側に揃え、直線的に乱石積みされている。石組の大部分が削平されているため、何段積みかは不明である。底面は、扁平な自然礫(長さ20～32cm、幅20～30cm、厚さ8～15cm)の平坦面を上に揃え、底面全体に敷き詰められている。

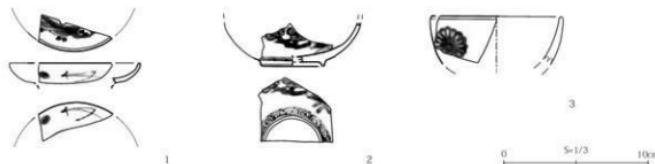
裏込は上面が削平されているため、原位置を留めているものは西辺の一部のみであるが、自然礫(長さ5～15cm、幅5～10cm、厚さ3～10cm)が残存している。

掘り方は上端幅は1.6～1.9m、下端幅は1.12～1.36m、深さは0.4m～0.5mを測り、南側に向かって緩やかに傾斜している。堆積土は暗褐色粘土質シルトの単層からなる。

遺物は19世紀代の堤産の陶器、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片が出土し、この内3点を図示した。



番号	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR2/4 暗褐色	粘土質シルト	なし	なし	炭化物類・径5～30cmの礫多量、壁土[堆積した奥心め・石組含む]



図版番号	写真図版番号	層位	種別	鉱種	部位	胎土	法華(cm)			高地	時期	文様・標考	登録番号
							口徑	底径	高さ				
1	108-7	1層	磁器	小皿	口縁～体部	無	9.1	—	1.6	肥前	18世紀前半	裏付け	J-197
2	108-6	1層	磁器	皿	体部～底部	無	9.4	4.4	3	肥前	18世紀前半	裏付け 菊文	J-198
3	108-5	1層	磁器	碗	口縁～体部	無	9.1	7.3	3.4	肥前	18世紀前半	裏付け 菊文	J-199

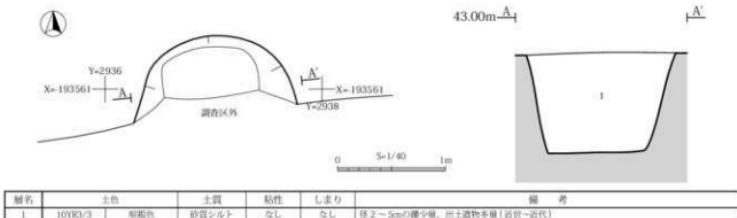
第190図 SD16溝跡平面図・断面図、出土遺物

(3) 土坑

1) SK74 土坑(第191図・192図 図版40-1・2)

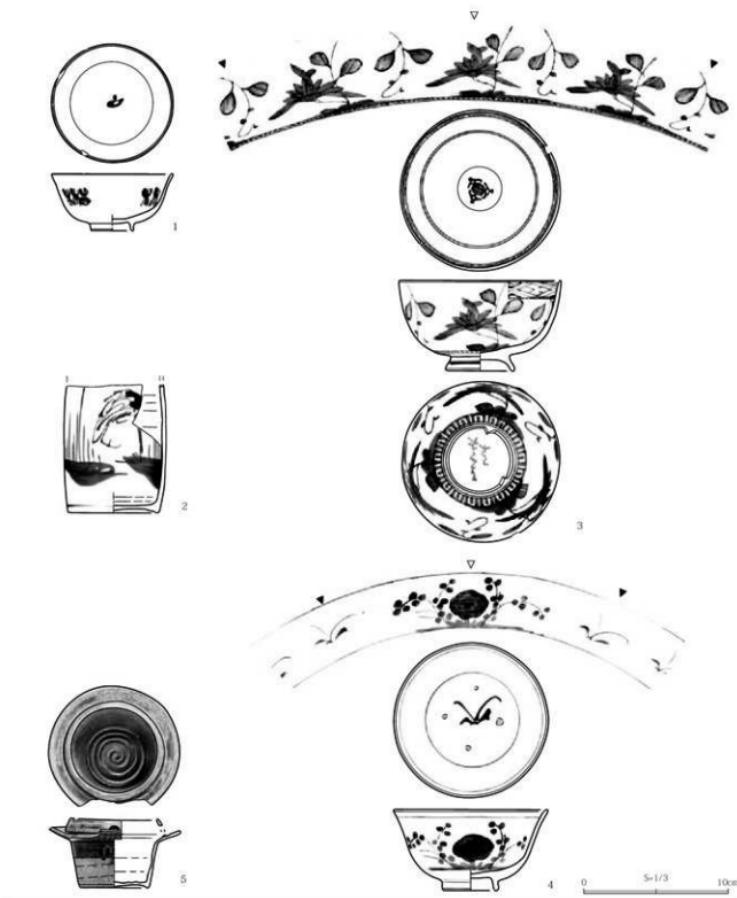
S17-E64 グリッドに位置する。SX51 と重複しており、SK74 が新しい。南側が調査区の外に広がる。規模は、長軸 1.5m、短軸 57cm、深さ 1m を測る。平面形は長軸方向 N-83°E を示す橢円形で、断面形は逆台形である。底面は平坦をなし、堆積土は砂質シルトの単層からなる。

遺物は 19 世紀代の大堀相馬産の陶器、17 ~ 18 世紀代の肥前産の磁器、19 世紀代の瀬戸・美濃産、切込産の磁器、瓦片、土師質土器が出土し、この内 6 点を図示した。



図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	胎土	法量(cm)			產地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	高さ				
I	109-1	I層	磁器	皿	口縁～底	赤土	21.6	12.2	3.2	肥前	17世紀後半	美濃手草花織文 基台内ハリ痕有箇所	J-200

第191図 SK74 土坑平面図・断面図・出土遺物(1)



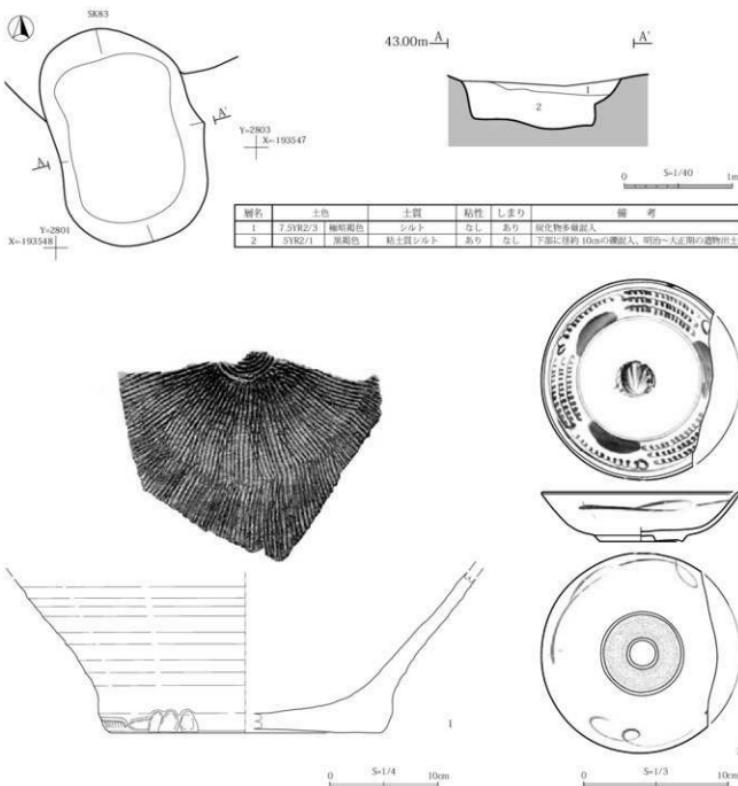
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	出土	法華(cm)	产地	時期	文様・備考	登録番号
1	109-6	1層	磁器	磁反碗	口縁～底部	素	8.3	3	4	瀬戸・天造 瀬氏青文 口縁有り	J201
2	109-4	1層	磁器	施用	口縁～底部	素	6.8	6.3	8.9	肥前 18世紀前半 染付け 風雅文	J202
3	109-3	1層	磁器	施用	口縁～底部	素	11.3	4.6	6.3	切込 19世紀以後 染付け 外面)草花文 瓢箪 内面)口縁部に 西方釋文 足辺に二作花 染付け有り	J203
4	109-2	1層	磁器	施用	口縁～底部	素	10.7	3.8	5.7	切込 19世紀前半 染付け 外面)草花文 内面)足辺に雲文 染付け有り	J204
5	109-5	1層	陶器	油浸器	口縁～底部	素	6.1	4.7	4.8	瀬 19世紀前半 鉄馴染け流し	J184

第192図 SK74 土坑出土遺物(2)

2) SK80 土坑(第193図 図版40-3・4)

S15-E51 グリッドに位置する。SK81、SK83 と重複しており、SK80 が新しい。規模は、長軸 2.2m、短軸 2.2m、深さ 41cm を測る。平面形は長軸方向 N-16°-W を示す橢円形で、底面はやや起伏をもち、断面形は逆台形である。堆積土は極暗褐色シルト、黒褐色粘土質シルトの 2 層からなる。

遺物は 2 層より 19 世紀代の堤産の陶器、19 世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、瓦片が出土し、この内 2 点を図示した。



第193図 SK80 土坑平面図・断面図・出土遺物

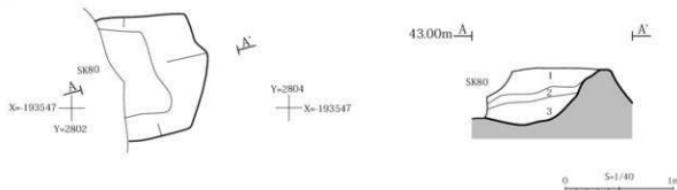
第1節 駅部

3) SK81 土坑(第194図 図版40-5)

S15-E51 グリッドに位置する。SK80 と重複しており、SK81 が古い。規模は、長軸 1.16m、短軸 0.84m、深さ 50cm を測る。平面形は大半が削平されており不明である。底面はやや起伏をもち、断面形は逆台形である。堆積土はシルト、粘土質シルトの 3 層からなる。

遺物は 3 層より 19 世紀代の堤産の陶器、19 世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、瓦片が出土しているが、細片のため図示し得なかった。

(A)



第194図 SK81 土坑平面図・断面図

4) SK82 土坑(第195図 図版41-1)

S15-E55～S16-E55 グリッドに位置する。規模は、長軸 1.27m、短軸 88cm、深さ 34cm を測る。平面形は長軸方向 N-70°-E を示すが、不整形で、南西側に 0.35m ほど張り出した部分がある。この箇所は検出面より深さ 15cm ほどの位置で底面幅 56cm、奥行き 24cm を測りテラス状を呈する。底面は弧状に緩やかに内湾し、断面形は逆台形である。堆積土は黒褐色粘土質シルトの 2 層からなる。遺物は出土していない。

(A)

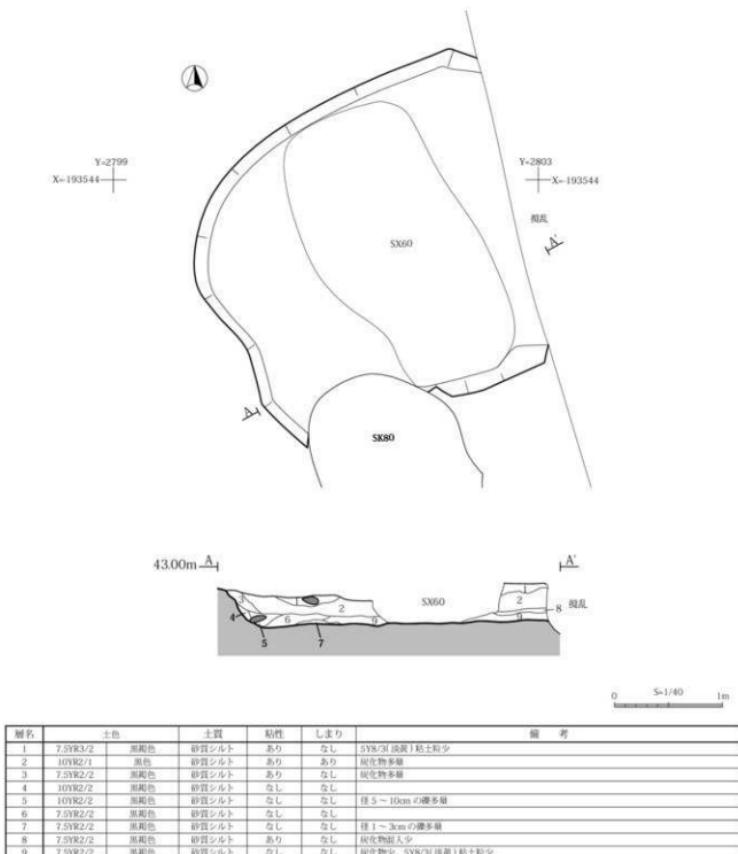


第195図 SK82 土坑平面図・断面図

5) SK83 土坑(第196図 図版41-2)

S15-E51 グリッドに位置する。SK80、SX60 と重複しており、SK83 が古い。東側を擾乱により削平される。規模は、長軸 3.12m、短軸 3.06m、深さ 33cm を測る。平面形は主軸方向 N-15°W を示す隅丸方形で、底面はやや起伏をもち、断面形は逆台形である。堆積土は砂質シルトの 9 層からなる。

遺物は 2 層より 19 世紀代の堤産の陶器、19 世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、土師質土器、在地産の瓦質土器、瓦片、金属製品が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



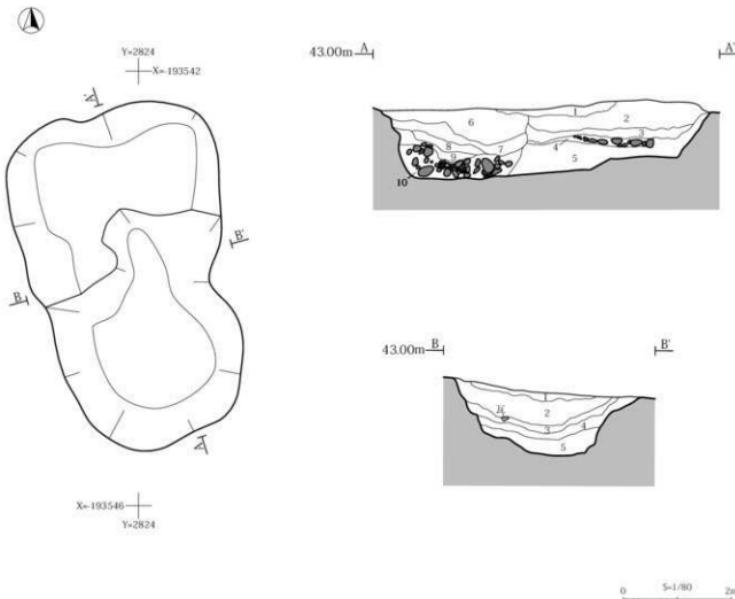
第196図 SK83 土坑平面図・断面図

第1節 駅部

6) SK84 土坑(第197図 図版41-3・4)

S15-E53 グリッドに位置する。規模は、長軸 6.34m、短軸 3.97m、深さ 64cm を測る。平面形は主軸方向は N-15°W を示す不整形で、底面はやや起伏をもち、断面形は逆台形である。北側の深さ 44cm のところに、底面幅 1.44m、奥行き 0.6 ~ 1.36m の不整形のテラス状を呈する場所を確認した。堆積土は粘土質シルトを主とする 10 層からなる。4 層・10 層より長さ 20 ~ 25cm、幅 10 ~ 20cm、厚さ 3 ~ 10cm の自然礫が多量に出土した。

遺物はガラス片、性格不明の金属小片、19世紀前代の產地不明の陶磁器と瓦片が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	暗青灰土	粘土質シルト	ややあり	あり	径 1mm 以下のローム粒子を多量に含む。径約 1cm の角化ブロック少額
2	暗青灰土	粘土質シルト	ややあり	あり	径 1mm 以下の砂粒。径約 5cm の礫多量
3	10YR2/3	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	あり
4	10YR2/3	黒褐色	粘土質シルト	なし	なし
5	10YR1/2	黒褐色	粘土質シルト	なし	あり
6	7.5Y2/1	黒褐色	粘土質シルト	なし	あり
7	10YR2/1	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	あり
8	10YR1/1	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	あり
9	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	あり
10	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	なし	粘土質シルトのローム粒子。径 10 ~ 20cm、長さ 20 ~ 25cm、厚さ 3 ~ 9cm の礫半量と、3 ~ 10cm の小礫多量に含む

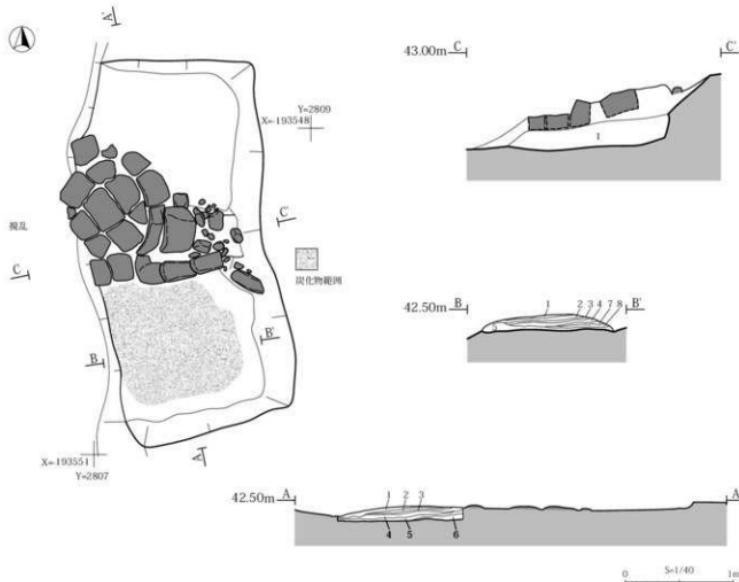
第197図 SK84 土坑平面図・断面図、出土遺物

(4) 性格不明遺構

1) SX53 性格不明遺構(第198図 図版41-5・42-1・2)

S15-E51～S16-E51 グリッドに位置する。遺構上部と西側を擾乱により削平されている。規模は、長軸 3.58m、短軸 2.04m、深さ 10～16cm を測る。平面形は方形で、底面は平坦をなし、断面形は逆台形である。また、遺構中央に石組、南側には炭化物を多量に含んだ堆積土が見られる。

石組は各面を扁平に加工した石材(長さ 10～15cm、幅 20～24cm、厚さ 12～15cm)で構築されている。削平により上部構造、全体像は不明な部分が多いが、残存している石組は、石材の面を上に据えて平坦に敷き詰められている。なお、配置された石には 1～3cm 程度の隙間が見られる。石材はいずれも被熱しており赤色化している箇所も見られ、脆くなっている。堆積土は粘土質シルト層と炭化物を含む粘土質シルトが交互に積層状にみられる。遺物は出土しなかった。



層名	土色	土質	粘性	しまり	参考
1	灰2	黒色	粘土質シルト	なし	ややあり 堆土施設壁面土
2	10Y88/1	灰白色	粘土質シルト	ややあり	なし 径 1mm以下の砂礫片・埴土片・炭化物微細颗粒土
3	10Y92/3	黒褐色	粘土質シルト	なし	ややあり 堆土施設壁面土
4	10Y88/1	灰白色	粘土質シルト	ややあり	なし 径 1mm以下の砂礫片・埴土片・炭化物微細颗粒土
5	10Y92/3	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり 堆土施設壁面土
6	10Y93/3	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり 堆土施設壁面土
7	10Y92/3	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり 堆土施設壁面土
8	10Y88/1	灰白色	粘土質シルト	あり	なし 径 1mm以下の砂礫片・埴土片・炭化物微細颗粒土

第198図 SX53 性格不明遺構平面図・断面図

第1節 駅部

2) SX54 性格不明遺構(第199~200図 図版42-3~5)

S14-E51 グリッドに位置する。レンガと自然礫を組み合わせたカマドを4基持つ。規模は、長軸4.65m、短軸2.52m、深さ60~68cmを測る。平面形は長軸方向N-77°Eを示す隅丸長方形である。カマドは4基で、袖は5本を備え、南辺に配置される。いずれのカマドも燃焼効率を高めるために15~20cmほど、南側に向かって、レンズ状になだらかに掘られている。また、各カマドは奥壁面、底面とともに長期間の被熱により赤色化し、脆くなっている。各袖はレンガ(長さ21cm、幅10.1cm、厚さ5.1cm)、自然礫(長さ15~40cm、幅10~30cm、厚さ15~25cm)、加工された自然礫(長さ20~45cm、幅10~30cm厚さ15~25cm)を組み合わせ、隙間に白色粘土を充填し強固に築造されている。東西両端の2基のカマドは、平面形がアーチ状になるように作られている。北側範囲(4.65×2.3m)には、カマドから抜き出したと考えられる炭化物が3~5cmの厚さで堆積している。

遺物は产地不明の陶器、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、在地産の瓦質土器、瓦片が出土しているが、細片のため図示し得なかった。

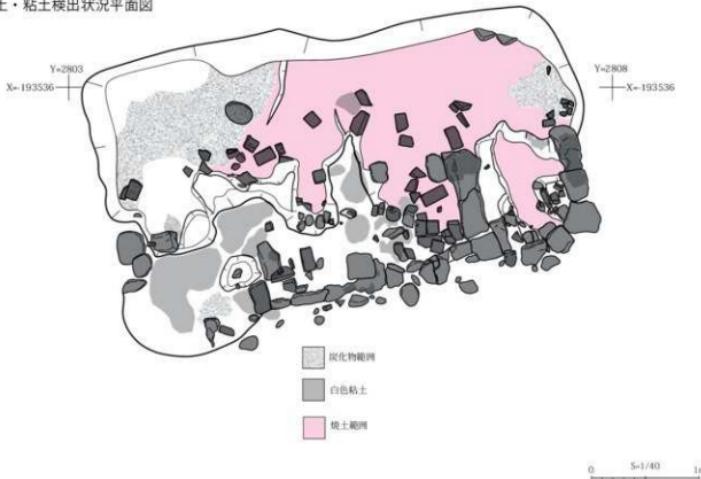


写真21 SX54 性格不明遺構東側検出状況(東から)

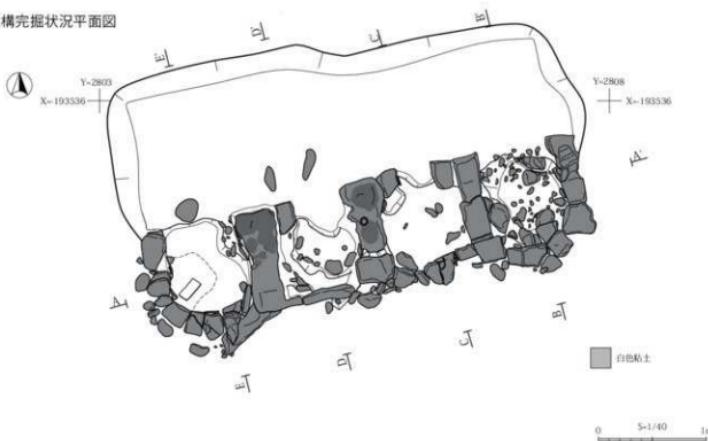


写真22 SX54 性格不明遺構検出状況(北から)

焼土・粘土棟出状況平面図

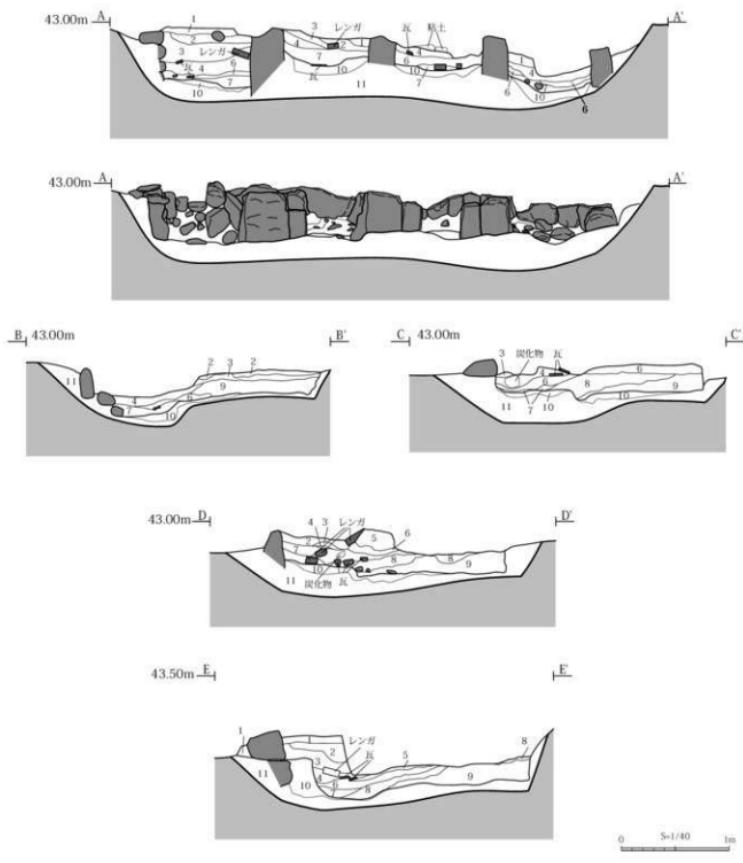


遺構完掘状況平面図



第199図 SX54 性格不明遺構平面図

第1節 駅部



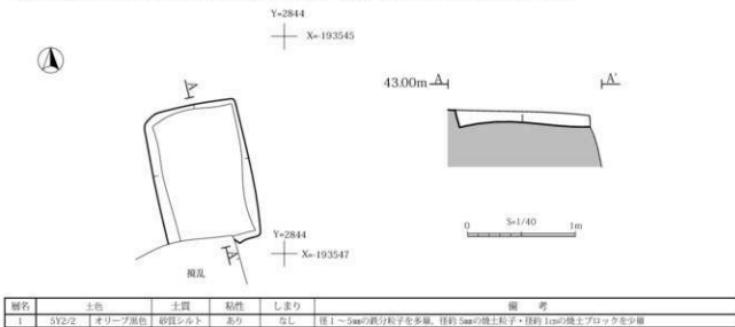
第200図 SX54 性格不明構造断面図

番号	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	2.SYS/4	湖褐色	粘土質シルト	ややあり	焼土(SYSu/8)と炭化層(Su/2)多層
2	5YR8/8	褐色	シルト	なし	焼土層が削ぎ取られたもの
3	2.SYS/4	湖褐色	粘土質シルト	ややあり	炭化物層を複数層に存続
4	N 2	湖褐色	炭化物層	なし	川底泥の遺物少層
5	10YR2/2	湖褐色	砂質シルト	ややあり	
6	10YR4/4	褐色	砂質シルト	なし	
7	2.SYS/4	湖褐色	粘土質シルト	ややあり	炭化物層少層
8	5Y7/4	浅褐色	砂質シルト	なし	珪藻土～20cm厚多層
9	N 2	黒色	炭化物層	なし	焼土多層
10	2.SYS/4	湖褐色	粘土質シルト	ややあり	焼土多層
11	N 2	黒色	炭化物層	なし	粘土質シルト多層

3) SX58 性格不明遺構(第201図 図版43-1・2)

S15-E55 グリッドに位置する。南側を擾乱により削平されている。規模は、長軸 1.33m、短軸 90cm、深さ 15cm を測る。平面形は主軸方向 N-12°-W を示す方形で、底面はやや起伏をもち、断面形は逆台形である。堆積土は砂質シルトの単層からなる。

遺物は産地不明の陶磁器と瓦の小片が出土しているが、細片のため図示し得なかった。



第201図 SX58 性格不明遺構平面図・断面図

4) SX60 性格不明遺構(第202図 図版43-3・4)

S15-E51 グリッドに位置する。南側を擾乱で削平されている。SK83 と重複しており、SX60 が新しい。規模は、長軸 1.33m、短軸 90cm、深さ 15cm を測る。平面形は主軸方向 N-12°-W を示す隅丸長方形で、底面はやや起伏をもち、断面形は逆台形である。堆積土は黒褐色砂質シルトの単層からなる。

遺物は 19世紀代の堤産の陶器と瓦片が出土しているが細片のため、図示し得なかった。

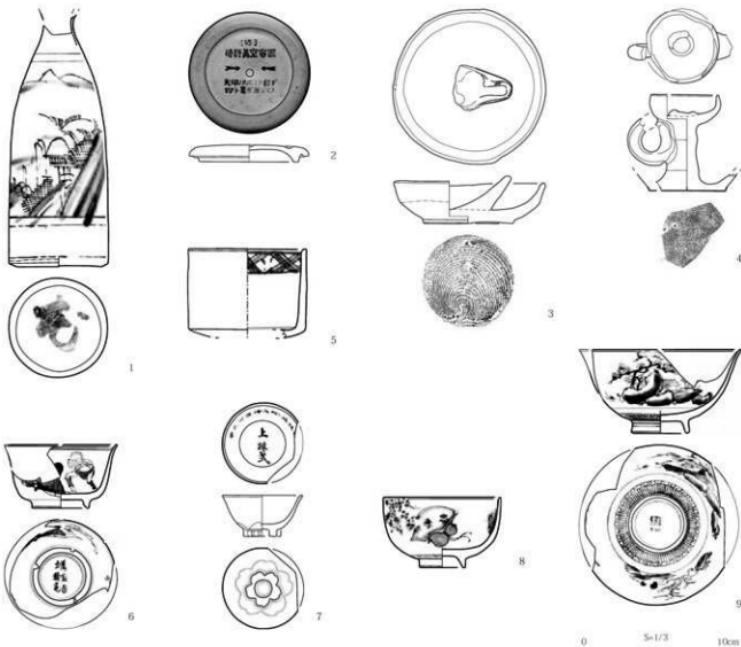


第202図 SX60 性格不明遺構平面図・断面図

第1節 駅部

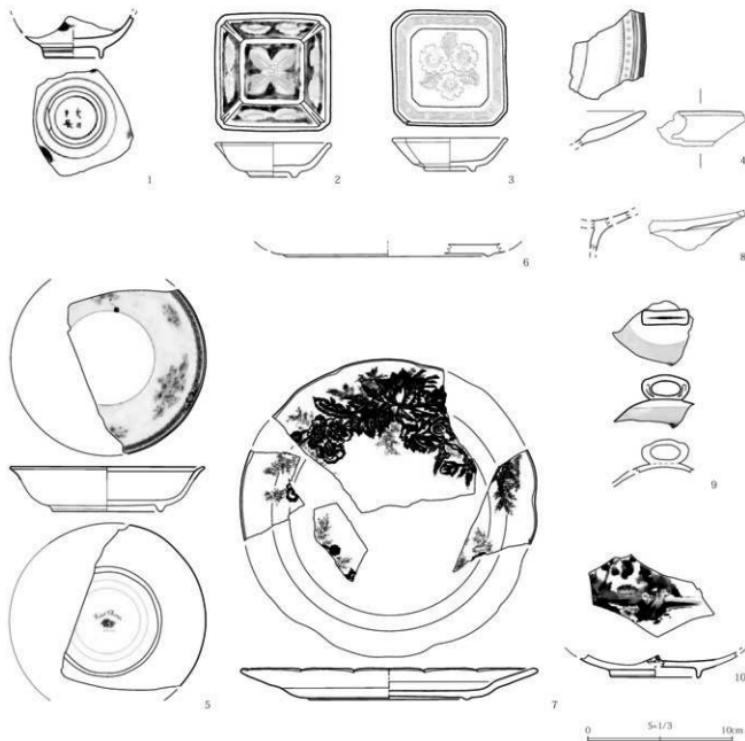
(5) I層遺構外出土遺物(第203~第209図)

I層遺構外での出土遺物は、種別内訳で、陶器片 1787 点、磁器片 3661 点、土師質土器 350 点、瓦質土器 168 点、石製品 15 点、土製品 6 点、その他 60 点、瓦片 2240 点、金属製品(古銭含む)91 点となり、総数で 8378 点を数える。ここでは、図化可能な 49 点を抽出し図示した。



図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量 [cm]			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	高さ				
1	111-1	S16-E59	陶器	壺形	全体～底部	重	2	6.7	117.8	大阪相馬	18世紀後半～19世紀前半	色絵付け 山水文 東屋 個體け舟 通山	I-186
2	110-6	S16-E59	陶器	壺	口縁～底部	重	8.4	7.8	1.2	在地	20世紀以前	「白里青花真空浴器 天印ノケタミヲナギツケト青花青花マヌス」	I-187
3	111-4	S16-E59	陶器	打目罐	口縁～底部	重	10.5	5.2	3	在地	19世紀前半		I-188
4	111-5	S17-E59	陶器	壺	口縁～底部	重	4.7	5.4	6.7	在地	19世紀前半	鉢輪	I-189
5	114-1	S16-E59	陶器	壺	口縁～底部	重	8.2	-	16.3	肥前	18世紀後半	吉遊輪	I-190
6	111-8	S16-E59	磁器	小坪	口縁～底部	重	7.2	4	4.4	鹿児・美濃	19世紀以前	染付け 蒔掛軸写 宝物 壺 高台内「清潤」	J-206
7	112-3	S16-E59	磁器	小坪	口縁～底部	重	5.5	2.5	2.8	鹿児・美濃	19世紀以前	染付け 「桜ヶ岡大神宮御靈宮」上巻式 壺 台比根形	J-207
8	111-9	S16-E59	磁器	壺	口縁～底部	重	5.2	3.2	4.9	鹿児・美濃	20世紀以前	染付け 蒔掛軸写 堀「忠志」孤單 壺 蓮井	J-208
9	111-7	S16-E59	磁器	壺	口縁～底部	重	11.3	4	5.8	鹿児・美濃	20世紀以前	染付け 蒔掛軸写 山水 東屋 蓮井	J-209

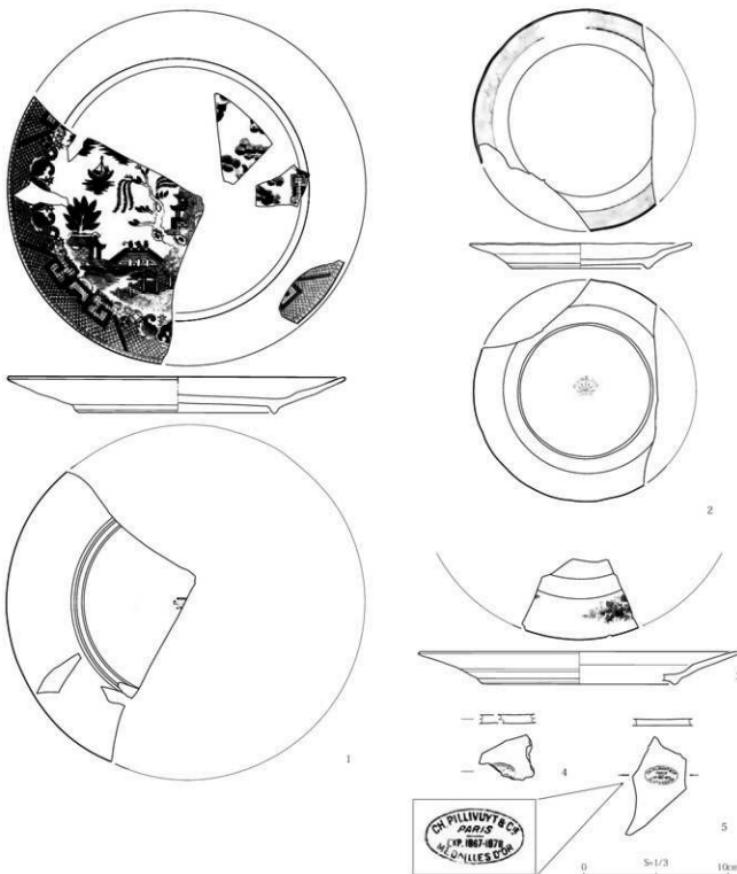
第203図 I層遺構外出土遺物(1)



0 5~1/3 10cm

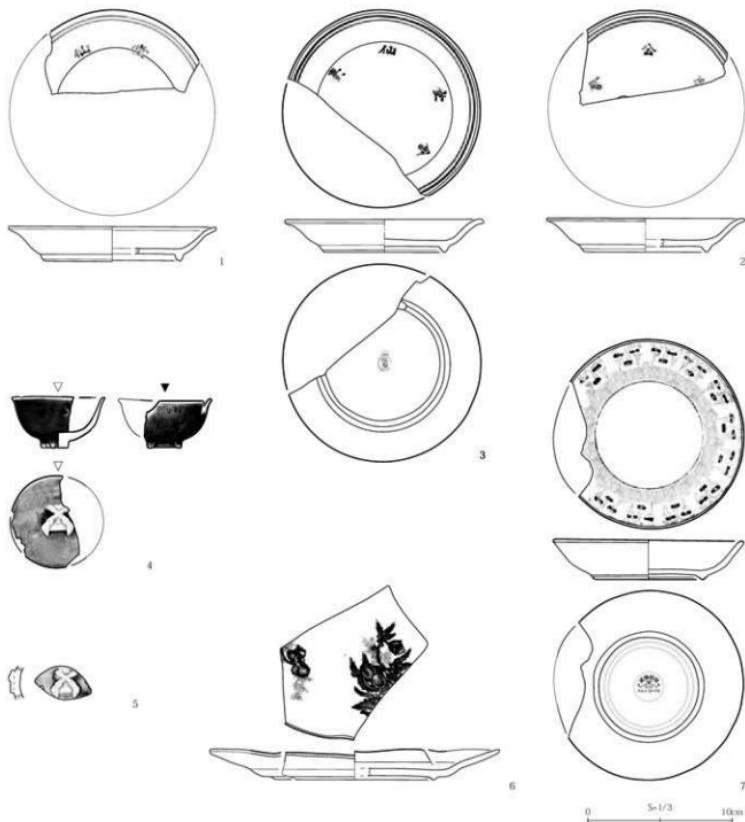
図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法華 口径	法華 底径	法華 高さ	成地	時期	文様・備考	写真 番号
1	114-4	S16-E59	磁器	碗	全体～ 底部	泥	-	4.1	(2.9)	肥前	18世紀後半	菊紋付 高台内に「大明年製」	J210
2	112-2	S16-E59	磁器	小皿	全体～ 底部	泥	8.2	3.3	2.3	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半	菊押し。牡丹？	J211
3	112-1	S16-E59	磁器	小皿	全体～ 底部	泥	8.2	3.7	2.3	肥前	19世紀前半	菊押し 菊文 線	J212
4	114-6	S16-E59	磁器	皿	口縁～ 全体	泥	-	-	(2.4)	海外	19世紀以後	洋食器	J213
5	114-7	S16-E59	磁器	皿	口縁～ 底部	泥	13.5	7.6	3.1	海外	19世紀以後	洋食器	J214
6	115-2	S16-E59	磁器	皿	全体～ 底部	泥	-	14.1	10.8	海外	19世紀以後	洋食器	J215
7	115-3	S16-E59	磁器	皿	口縁～ 底部	泥	(20.8)	(11)	2.2	海外	19世紀以後	菊紋付写 牡丹 洋食器	J216
8	115-1	S16-E59	磁器	?	全体	泥	-	-	(2.5)	海外	19世紀以後	洋食器	J217
9	115-4	S16-E59	磁器	皿	上部	泥	-	-	3.6	海外	19世紀以後	洋食器 取手	J218
10	114-5	S16-E59	磁器	皿	全体～ 底部	泥	-	6.2	(1.5)	肥前	19世紀以後	菊紋付 瓢箪文	J219

第204図 I層遺構外出土遺物(2)



第205図 I層遺構外出土遺物(3)

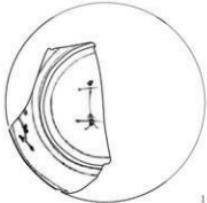
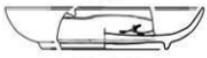
図版番号	写真図版番号	グリッド番号	種別	器種	部位	胎土	法華(km ²)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	高さ				
1	113-5	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	泥	62.0	(13.7)	13.6	海外	19世紀以後	鋼板転写 磁器 ウィローパターン 洋食器	J-220
2	113-5	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	泥	13.4	9.6	2.7	海外	19世紀以後	洋食器	J-221
3	113-6	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	泥	20.4	(13.6)	2.3	海外	19世紀以後	洋食器	J-222
4	114-3	S16-E59	磁器	皿	底部	泥	-	-	0.6	海外	19世紀以後	G. ピリビイ社の銘「パリ博覧会 1867」 G. ピリビイ社の銘「1878年金賞」 洋食器	J-223
5	114-2	S16-E59	磁器	皿	底部	泥	-	-	0.4	海外	19世紀以後	G. ピリビイ社の銘「パリ博覧会 1867」 G. ピリビイ社の銘「1878年金賞」 洋食器	J-224



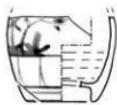
図版番号	写真図版番号	グリッド番号	種別	器種	部位	出土	法華 cm			在地	時期	文様・縁考	登録番号
							口径	底径	高さ				
1	113-7	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	密	114.5	10.3	2.5	斎戸・美濃	20世紀以後	「仙」(「口」)紋 仙台市公会堂か 洋食器	J-225
2	113-3	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	密	137	8.5	2.3	斎戸・美濃	20世紀以後	「仙」(「口」)紋 仙台市公会堂か 洋食器	J-226
3	113-1	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	密	138	8.7	2.4	斎戸・美濃	19世紀以後	「口」(「公」)紋 仙台市公会堂か 洋食器	J-227
4	113-3	S16-E59	磁器	小坪	口縁～底部	密	5.4	1.6	2.7	斎戸・美濃	20世紀以後	具脚? 田園風の敷物形 台形は文机江一ら形	J-228
5	110-3	S16-E59	磁器	小坪	底部	密	4	1.5	2.3	在地	20世紀以後	文机にレール形の当台	J-230
6	113-4	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	密	20	11	2	海外	19世紀以後	網目(蛇)紋 洋食器	J-229
7	113-2	S16-E59	磁器	皿	口縁～底部	密	132	7.7	2.7	斎戸・美濃	19世紀以後	メーカー「FUJI SEITO」洋食器	J-231

第206図 I層遺構外出土遺物(4)

第1節 駅部



1



2



4



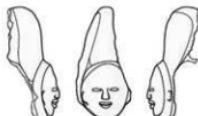
3



5



6



7



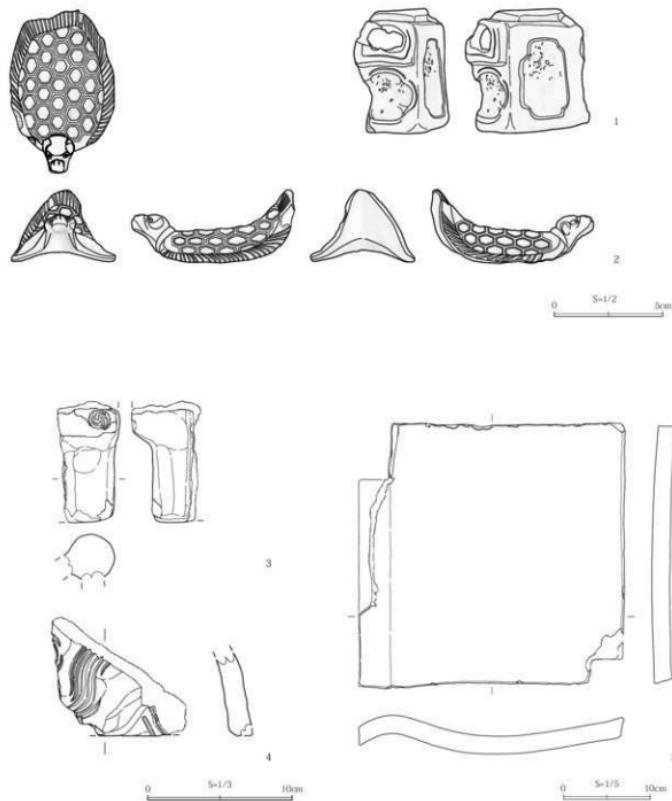
8

0 5+1/3 10cm

図版番号	写真図版番号	グリッド番号	種類	器種	部位	胎土	法量 (cm ³)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							長さ	幅	厚さ				
1	114-8	S16-E59	織部	瓶	口縁～底部	泥	13.7	8.8	2.8	肥前	18世紀後半	染付 口紅 外側)草文 高行内(「○○技春」内面)草花文 見込に杏叶花	J-232
2	114-9	S16-E59	織部	瓶	体部～底部	泥	7.3	4.7	5.8	肥前	19世紀後半	染付 草文 風波文	J-233
3	112-5	S16-E59	土師質	かわらけ	口縁～底部	泥	10.7	5.4	2.3	不明	20世紀以後	「奈良 銅印位記念 大典」「大正四年十一月廿日」	J-275
4	115-6	S16-E59	織部	ミニチュア	口縁～底部	泥	1.8	1.4	3	不明	19世紀?	色絵 瓶・鉢	J-234

図版番号	写真図版番号	グリッド番号	種類	法量 (cm ³)			備考			登録番号
				長さ	幅	厚さ	土人形	猪	馬	
5	112-7	S16-E59	土製品	33.0	22	2.4	土人形	猪		P-14
6	112-8	S16-E59	土製品	5.5	11.20	3.1	土人形	猪		P-15
7	112-9	S16-E59	土製品	11.0	2.5	3	土人形			P-16
8	112-10	S16-E59	土製品	6.4	11.00	2	土人形	猪		P-17

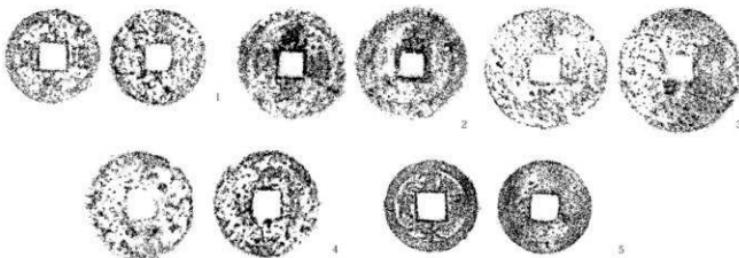
第207図 I層遺構外出土遺物(5)



図版 番号	写真図版 番号	グリッド	種類	法華 cm ²			備考	写真 番号
				長さ	幅	厚さ		
1	112-11	S16-E59	土製品	5.5	14.9	5.8	土人形	P-18
2	113-7	S16-E59	土製品	7.8	5	3.4	土人形・龜	P-19
3	129-13	S16-E59	瓦	14.2	7	8.5		H-2
4	129-6	S16-E59	瓦	15.2	12.8	14	陶瓦の一部か?	H-3
5	129-14	S16-E59	残瓦	31	30.3	3.1		G-5

第208図 I層遺構外出土遺物(6)

第1節 駅部



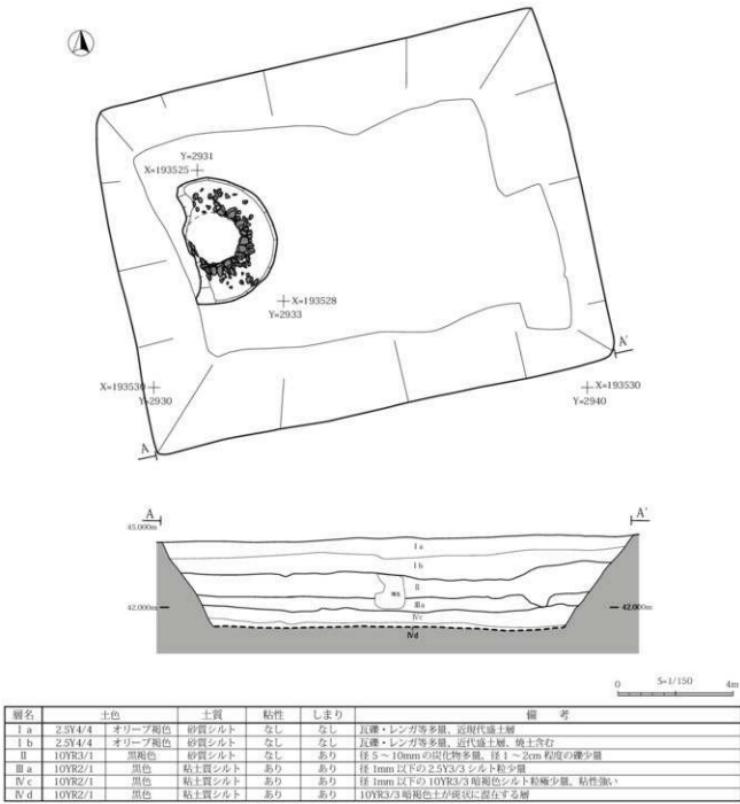
図版 番号	写真図版 番 号	グリッド	銭貨名	初鑄年	法規 [cm・g]			参考	DBB 番号
					外径	穿孔	重さ		
1	130-5	S16-E59	寛永通宝	1630	2.4	0.8	2.75		N-64
2	130-4	S16-E59	寛永通宝	1630	2.5	0.81	2.75	背文	N-65
3	132-3	S16-E59	不明	-	2.4	0.8	2.68		N-66
4	130-8	S16-E59	不明	-	2.4	0.8	2.8		N-67
5	130-16	S16-E59	寛永通宝	1630	2.4	0.8	2.8		N-68

第209図 I層遺構外出土遺物(7)

第2節 交番部

1 II a層上面検出遺構(第210図)

本調査区は大町交番の移設予定地として発掘調査が行われた。S13-E64 グリッドに位置し、調査区として 8 × 5m、面積 40m²の長方形トレンチを設定した。II a 層上面で、石組の井戸跡を 1 基検出した。



第210図 II層上面遺構配置図・基本土層図

* 土層注記表の内容は、12 頁の基本層序に同じ。

(1) 井戸跡

1) SE1 井戸跡(第211図・212図 図版47-2・48-1・2)

S13-E64 グリッドに位置し、石組を有する井戸である。西側は調査区外に広がる。平面形はほぼ円形を呈し、検出した堀り方の上部径推定約3m、最下部径は推定約2.92mを測る。検出面より約0.9mまで確認したが、調査区壁際で検出されたため、安全を考慮して底面検出まで調査は行わなかった。底面が検出されていないため全体の形状は不明な部分が多いが、検出部分においては上部が緩やかに広がる円筒形である。

井戸側は石組のもので、検出した上部径は推定約1.17m、下部径は推定約0.95mを測る。石材を円筒形に積んで構築され、検出面より0.9mの箇所で検出された。

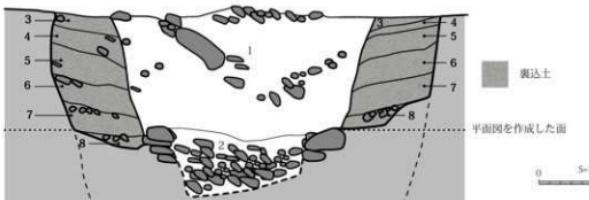
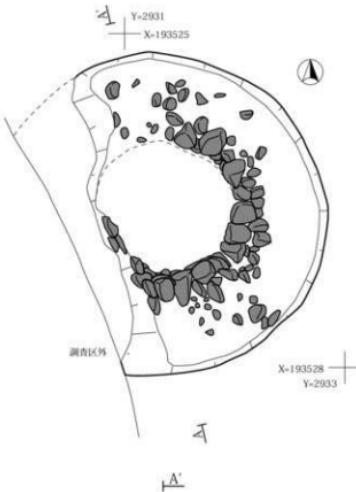
石組は扁平な自然礫(長さ20~32cm、幅12~25cm、厚さ8~17cm)構築され、積み方は石材を放射状に並べた、いわゆる乱石積みであり、大形の石材の間隙には小形の石材を詰め込んでいる。確認した部分においては積み方に変化は見られない。上面部分は崩れ落ちたものと考えられる。

裏込は石材を1段あるいは2段積む毎に石の高さだけ埋められている。3~8層まで確認し、各層ともに、5~10cm程の楕円の自然縦を含む。

堆積土は砂質シルト層からなり、2層中に崩れた石組の石材が多量に検出された。

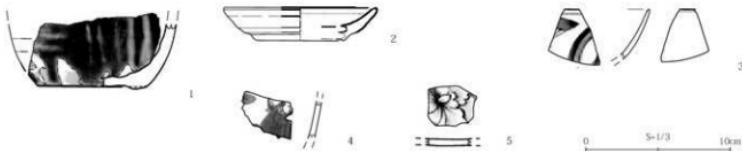
遺物は1層中より18世紀代の瀬戸・美濃産の陶器、18世紀代の肥前産の磁器、19世紀代の瀬戸・美濃産の磁器、土師質土器、瓦質土器が出土し、この内5点を図示した。

42.00m A-A'



層名	土色	土質	粘性	しまり	備考
1	10YR5/1	黒褐色	砂質シルト	あり	なし 径1~5mmの砂礫を多量、径10~25cmの礫を少量に含む
2	10YR5/1	黒褐色	砂質シルト	あり	なし 径1~5mmの砂礫を多量、径10~25cmの礫を少量に含む
3	10YR5/1	黒褐色	砂質シルト	あり	あり 径1~5mmの砂礫を多量、径約10mmの楕円の小礫を多個に含む、裏込土
4	10YR6/6	明褐色	砂質シルト	あり	あり 径1~5mmの砂礫を多量、径約10mmの楕円の小礫を多個に含む、裏込土
5	10YR1/1	黒褐色	砂質シルト	あり	あり 径1~5mmの砂礫を多量、径約10mmの楕円の小礫を多個に含む、裏込土
6	2.5Y5/4	黄褐色	砂質シルト	あり	あり 径1~5mmの砂礫を多量、径約10mmの楕円の小礫を多個に含む、裏込土
7	10YR2/1	黒褐色	砂質シルト	あり	あり 径1~5mmの砂礫を多量、径約10mmの楕円の小礫を多個に含む、裏込土
8	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	あり 径1~5mmの砂礫を多量、径約10mmの楕円の小礫を多個に含む、裏込土

第211図 SE1 井戸跡平面図・断面図



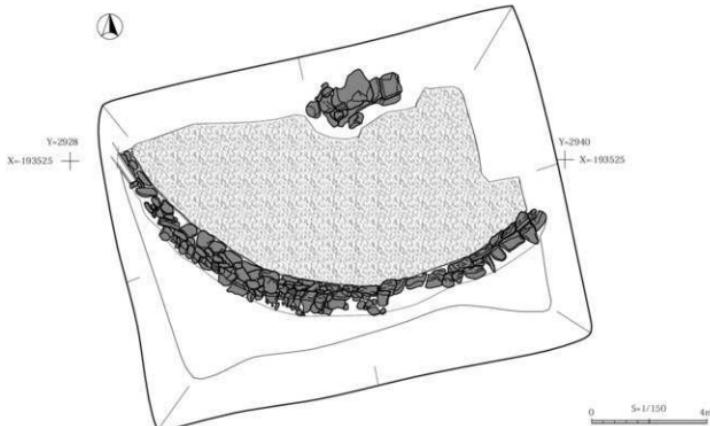
図版番号	写真図版番号	層位	種別	器種	部位	歴土	法線(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							11径	底径	高さ				
1	117-3	I層	陶器	甕	全体～底部	密	11.6	7.7	4.7	瀬戸・美濃	18世紀前半	鉢輪	J-191
2	117-7	I層	陶器	皿	口縁～底部	密	10.6	6.2	2.3	志野	17世紀後半		J-192
3	117-4	I層	磁器	碗	口縁～底部	密	-	-	(3.5)	肥前	18世紀後半～19世紀前半	縁付け 猫	J-235
4	117-5	I層	磁器	不明	体部	密	-	-	(2.6)	瀬戸・美濃	19世紀前半	縁付け	J-236
5	117-6	I層	磁器	皿	体部	密	-	-	(3.3)	瀬戸・美濃	19世紀前半	縁付け 牡丹	J-237

第212図 SE1 井戸跡出土遺物

2 I層上面検出施設跡(近・現代)(第213図 図版46-1・2・47-1)

S13-E64 グリッドに位置し、調査区全域から検出された噴水施設の一部と思われる遺構である。

確認された規模は全長 9.6m、最大幅 5.4m、地表面から約 1.9m 下で、コンクリート打設による平らな面を検出した。検出状況から水盤の径は約 13m と推定することができる。また、この水盤は一辺 45～50cm 程の切石を積み重ねて作られた高さ 1.2～1.3m の壁を有する。なお、この壁は補強か、あるいは水漏れを防ぐために、各切石の間隙にはコンクリートが充填されている。底面に打設されたコンクリートの直下は、自然礫(長さ 10～15cm、幅 5～10cm、厚さ 5～10cm)を突き込み強固に基礎固めされていた。調査区の北壁には噴水装置の台と考えられるコンクリートの塊が露出していたが、安全を考慮して調査は行わなかった。

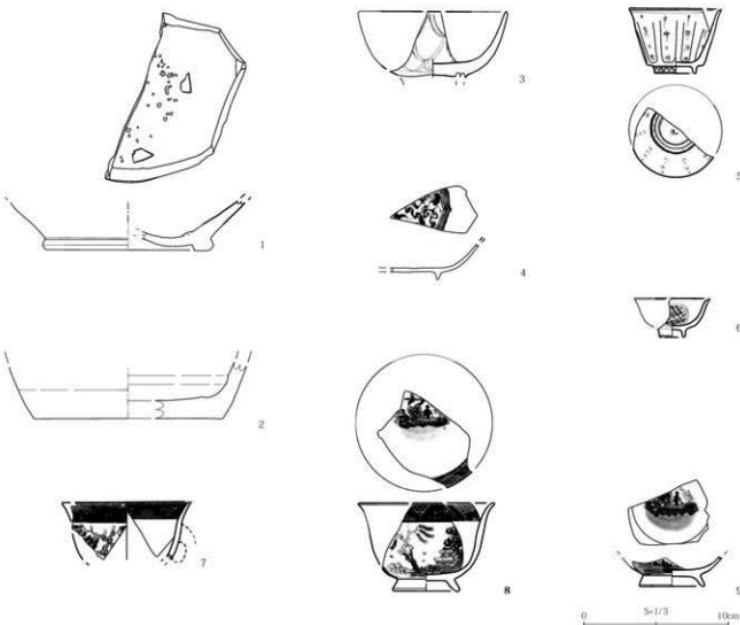


第213図 I層上面検出施設跡

第2節 交番部

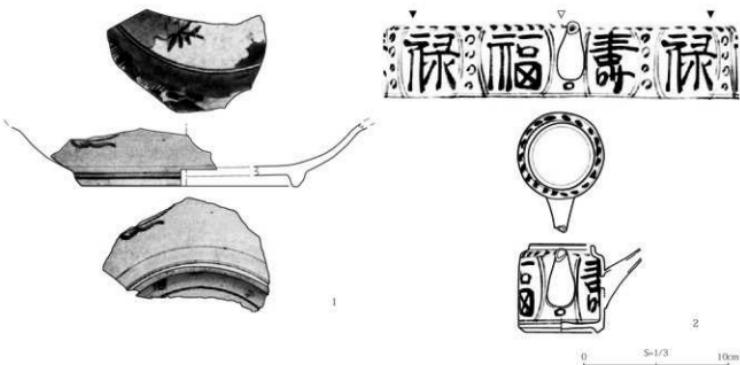
3 遺構外出土遺物 (第214図・215図)

交番部遺構外の出土遺物は、種別内訳で陶器片 199 点、磁器片 404 点、土師質土器片 17 点、瓦質土器 40 点、瓦片 733 点、金属製品(古銅含む)9 点、その他 18 点となり、総数で 1420 点を数える。ここでは、図化可能な 11 点を抽出し図示した。



図版番号	写真図版番号	グリッド番号	種別	器種	部位	胎土	法線(cm) 口径 底径 高さ	産地	時期	文様・備考	登録番号
1	116-1	S13-E64	陶器	鉢	体部～底部	密	- (11.4) (3.3)	廻戸・美濃	17世紀	日臨あり(鉢土目)	J-193
2	116-2	S13-E64	陶器	鉢	体部～底部	密	(13.1) (3.8)	肥前	18世紀後半		J-194
3	116-9	S13-E64	磁器	碗	口縁～体部	密	10.4 4.7 4.6	肥前	18世紀後半～ 19世紀初半	染付け 薩摩文	J-238
4	116-4	S13-E64	磁器	皿	体部～底部	密	- - (2.5)	肥前	18世紀後半～ 19世紀初半	染付け 内面草花文	J-239
5	116-8	S13-E64	磁器	小坪	口縁～底部	密	6.4 3 4.5	廻戸・美濃	19世紀前半	染付け 文字文	J-240
6	116-6	S13-E64	磁器	小坪	口縁～底部	密	5.3 1.8 2.7	廻戸・美濃	19世紀前半	染付け 丸文	J-241
7	116-3	S13-E64	磁器	碗	口縁～体部	密	9 - (4)	海外	19世紀以後	刷毛焼 ウィローパターン(繩文)	J-242
8	116-7	S13-E64	磁器	碗	口縁～底部	密	9.5 4.8 6.3	海外	19世紀後半	刷毛焼 ウィローパターン(繩文)	J-243
9	117-2	S13-E64	磁器	碗	体部～底部	密	- 4.5 (2.2)	海外	19世紀後半	刷毛焼 ウィローパターン(繩文)	J-244

第214図 交番部遺構外出土遺物(1)



第215図 交番部遺構外出土遺物(2)



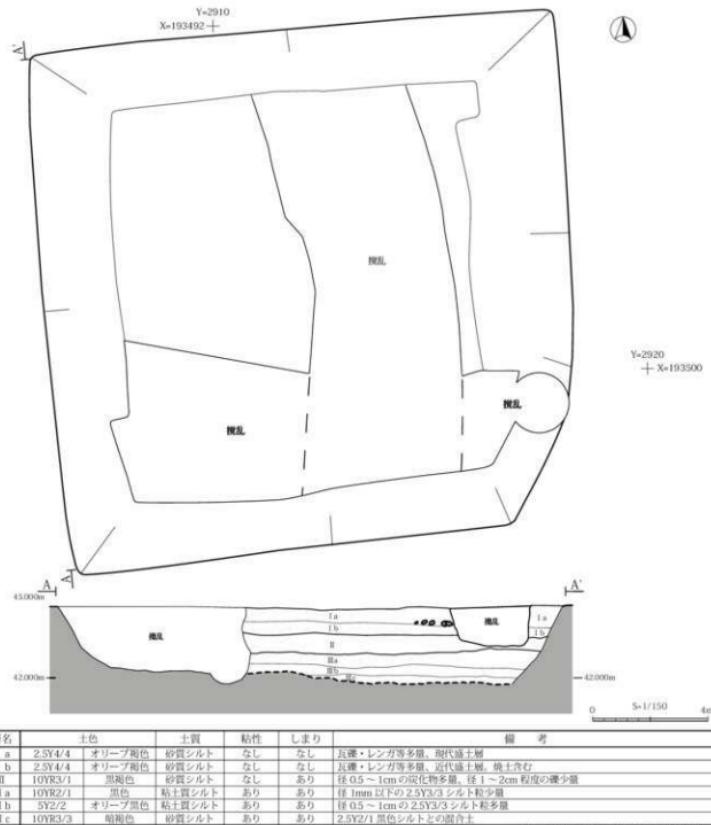
写真23 公会堂と噴水（当時の絵葉書）

第3節 大銀杏部

1 大銀杏部調査区（第216図）

本調査区は大銀杏の移設予定地として発掘調査が行われた箇所で、S10・11-E61・62 グリッドに位置する。調査区は $8.2 \times 9.3\text{m}$ 、面積 76.2m^2 の方形の竪坑を設定した。調査区のほぼ大半が擾乱により削平されている。遺構は検出されなかったが、基本土層中より 17～19世紀代の遺物が多量に出土した。

調査区の中央を南北に縱断する擾乱は「櫛臺區及近傍村落之圖」(本書第5図-11)に描かれている中央に小島を持つ池跡の一部の可能性がある。



第216図 大銀杏部調査区平面図・基本土層図

2 III b 層出土遺物(第217図)

III層の出土遺物は、種別内訳で陶器片 267 点、磁器片 329 点、土師質土器片 41 点、瓦質土器 17 点、瓦片 225 点、金属製品(古銭含む)29 点、石製品 3 点、その他の遺物 7 点となり、総数で 918 点を数える。ここでは、図化可能な 3 点を抽出し図示した。

図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法規 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							上径	底径	器高				
1	118-2	S10-E62	陶器	罐	体部～底部	泥質	11.1	4.3	5.4	西田	18世紀前半	網目	I-195
2	118-3	S10-E62	金属製品	-	-	18.4	3.2	1.7					N-17
3	133-3	S10-E62	青磁	碗	初輪年	法規 (cm・g)			備考			登録番号	
					外径	穿孔径	重さ					N-69	
					25	0.81	275						

第217図 III b 層出土遺物

3 II 層出土遺物(第218～226図)

II 層の出土遺物は、種別内訳で陶器片 1038 点、磁器片 1051 点、土師質土器片 196 点、瓦質土器 92 点、瓦片 315 点、金属製品(古銭含む)64 点、石製品 21 点、土製品 11 点、その他 8 点となり、総数で 2796 点を数える。ここでは、図化可能な 73 点を抽出し図示した。

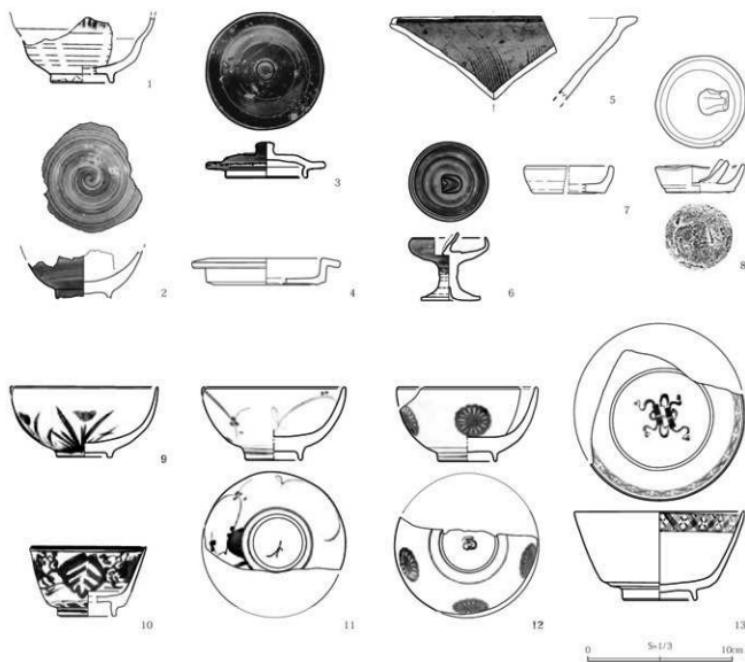
図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法規 (cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							上径	底径	器高				
1	118-5	S10-E61	陶器	罐	口縁～底部	泥質	10.5	3.6	6.2	大坂田馬	19世紀前半	鉄輪・火薬掛け洗し	I-196
2	120-4	S10-E61	陶器	罐	口縁～底部	泥質	17.9	12.7	14.20	堀	10世紀以前	網目	I-197

第218図 II 層出土遺物(1)



図版番号	写真図版番号	グリッド番号	種別	器種	部位	出土	法算(cm)			溝地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	器高				
1	119-7	S10-E61	陶器	器反側	口縁～底部	面	13	5	8.4	有地	18世紀後半～19世紀前半		I-198
2	119-8	S10-E61	陶器	器	口縁～底部	面	12.4	4.4	4.8	裏印・美濃	19世紀前半	草花文	I-199
3	119-1	S10-E61	陶器	器	口縁～底部	面	-	-	-	大堀相馬	19世紀前半	鉢足・山水文・彫屋	I-200
4	119-5	S10-E61	陶器	器	口縁～底部	面	12	8.5	2.3	近野	17世紀	鉢足・秋草?	I-201
5	119-9	S10-E61	陶器	器	口縁～底部	面	10.2	5.9	2.3	大堀相馬	18世紀後半	鉢足・草文	I-202
6	119-3	S10-E61	陶器	器	口縁～底部	面	9.8	6.5	2.3	大堀相馬	19世紀前半	鉢足	I-203
7	119-2	S10-E61	陶器	器	口縁～底部	面	-	-	-	大堀相馬	18世紀後半	鉢足・草花文	I-204
8	119-9	S10-E61	陶器	体部～底部	面	2.9	8.2	16.5	肥前	18世紀前半	刷毛目	I-205	

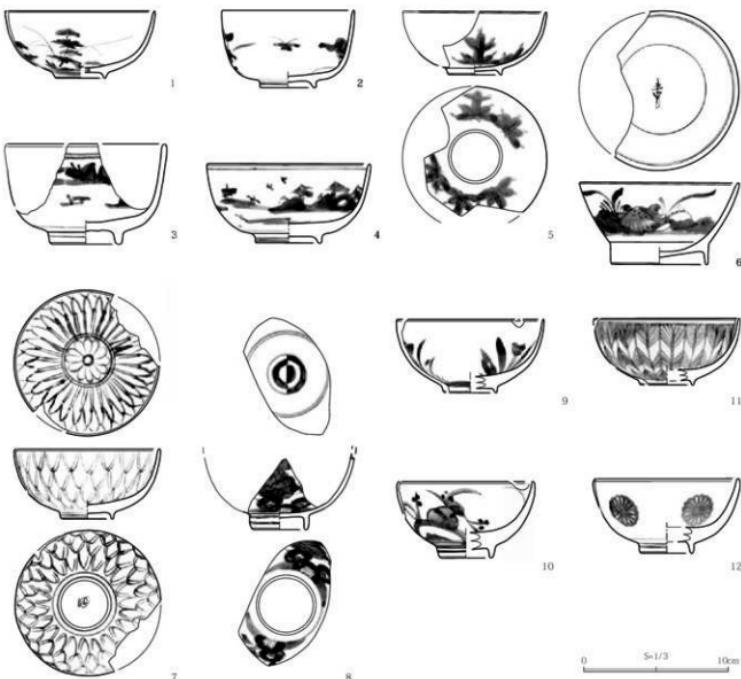
第219図 II層出土遺物(2)



図版番号	写真同版番号	グリッド号	種別	器種	部位	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
						口径	底径	高さ				
1	118-6	S10-E61	陶器	碗	体部～底部	9.9	4.4	4.6	大坂田馬	17世紀後半		J-206
2	121-3	S10-E61	陶器	碗	体部	-	-	-	肥前	17世紀前半	刷毛目文	J-207
3	119-6	S10-E61	陶器	盃	口縁～底部	8.3	5.7	2.5	大坂田馬	17世紀前半	直輪	J-208
4	119-8	S10-E61	陶器	盃	口縁～底部	10.3	7.2	1.9	大坂田馬	17世紀前半	鉢輪	J-209
5	120-6	S10-E61	陶器	擂鉢	口縁部	-	-	5.8	岸	17世紀		J-210
6	121-2	S10-E61	陶器	足 台	口縁～底部	-	-	-	岸	19世紀前半	鉢輪	J-211
7	120-3	S10-E61	陶器	打明皿	口縁～底部	6.2	4.8	1.9	岸	19世紀前半	鉢輪	J-212
8	119-7	S10-E61	陶器	打明皿	口縁～底部	6.3	4.8	1.9	岸	19世紀前半	鉢輪	J-213
9	122-7	S10-E61	磁器	碗	口縁～底部	10.3	3.8	4.9	肥前	18世紀前半	染付け 草花文 水仙	J-246
10	124-4	S10-E61	磁器	小坪	口縁～底部	-	-	-	肥原・美濃	19世紀前半	染付け 草花文 置草 文	J-247
11	125-5	S10-E61	磁器	碗	口縁～底部	10	4	5.2	肥前	18世紀前半	染付け 草花文 置草 内面に昆虫文	J-248
12	122-1	S10-E61	磁器	碗	口縁～底部	9.8	4.1	5.2	肥前	18世紀前半	染付け コンニャク印模 外面に菊 肩台内に油絵	J-249
13	125-2	S10-E61	磁器	碗	口縁～底部	11.7	5.2	6.2	肥前	18世紀前半	吉祇輪 内面に口縁部に四方舞文 短込に宝物	J-250

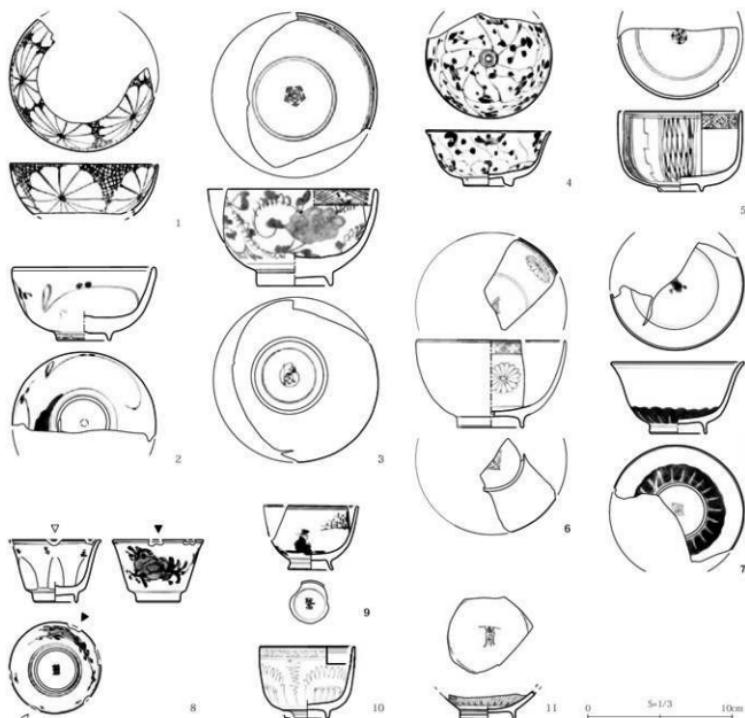
第220図 II層出土遺物(3)

第3節 大銀杏部



図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法量(cm)			産地	時期	文様・備考	登録番号
							口径	底径	高さ				
1	118-4	S10-E61	磁器	碗	口縁～底部	泥	10.5	3.3	-	肥前	18世紀後半	染付け 草花文	J-251
2	123-8	S10-E61	磁器	碗	口縁～底部	泥	9.2	3.0	5.4	肥前	18世紀後半～19世紀前半	染付け 草花蝶文	J-252
3	123-5	S10-E61	陶器	碗	口縁～底部	泥	11.1	5	7	大隅粗陶	18世紀後半～19世紀前半	染付け 花文	I-214
4	122-5	S10-E61	磁器	碗	口縁～底部	泥	11.4	4.6	5.5	肥前	18世紀後半～19世紀初半	染付け 山水文 墓	J-253
5	123-4	S10-E61	磁器	碗	口縁～底部	泥	10	3.7	4.4	肥前	18世紀後半～19世紀前半	染付け 菊松	J-254
6	122-9	S10-E61	磁器	碗	口縁～底部	泥	11	6.7	5.7	肥前	18世紀後半～19世紀初半	染付け(外腹)草花文 内腹)寿字文	J-255
7	123-9	S10-E61	磁器	碗	口縁～底部	泥	10.2	3.7	4.9	肥前	18世紀後半～19世紀初半	染付け 紫狂文 高台内に赤渦器	J-256
8	124-8	S10-E61	磁器	碗	全体	泥	10.4	4	5.3	肥前	18世紀後半	染付け(外腹)草花文 内腹)見込に剣刃	J-257
9	123-2	S10-E61	磁器	碗	口縁～底部	泥	10.5	3.7	5.1	肥前	18世紀後半	染付け 草花文 水仙	J-258
10	124-3	S10-E61	磁器	碗	口縁～底部	泥	9.6	3.7	5.3	肥前	18世紀後半	染付け 草花文 蘆草	J-259
11	122-6	S10-E61	磁器	碗	口縁～底部	泥	10.2	3.7	4.6	肥前	18世紀後半	染付け 矢羽根	J-260
12	125-3	S10-E61	磁器	碗	口縁～底部	泥	10	3.7	5.2	肥前	18世紀後半	染付け コンニャク印刷 葵	J-261

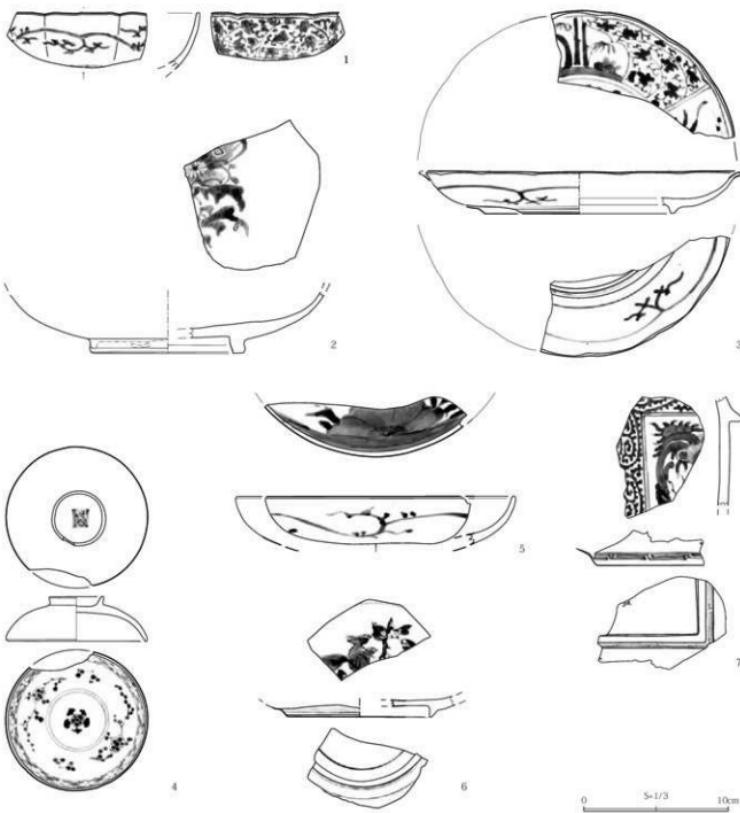
第221図 II層出土遺物(4)



図版番号	写真図版番号	グリッド番号	種別	器種	部位	胎土 上層 底径 底深 高さ	法線(cm)	產地	時期	文様・備考	登錄番号
1	124-6	S10-E61	磁器	碗	口縁～ 底部	灰	10.2 6.6 3.6	肥前	18世紀後半～ 19世紀初半 染付け 菊花、水賀文	J262	
2	123-7	S10-E61	磁器	碗	口縁～ 底部	灰	10 3.8 5.1	肥前	18世紀後半 染付け 草文、露草	J263	
3	121-6	S10-E61	磁器	碗	口縁～ 底部	灰	11.8 5.3 6.8	肥前	18世紀後半 染付け(外面)草花文、内面)延辺に五瓣花 牡丹 高円内に星虫	J264	
4	124-5	S10-E61	磁器	碗	口縁～ 底部	灰	8.7 3.4 3.6	肥前	19世紀初半 染付け 菊花	J265	
5	123-10	S10-E61	磁器	碗	口縁～ 底部	灰	8.6 3.1 5.6	肥前	18世紀後半 染付け(外面)廻目・瓣形文、内面)口縁部 に四方瓣文	J266	
6	125-7	S10-E61	磁器	碗	口縁～ 底部	灰	10.4 4.5 5.1	肥前	18世紀後半 青花輪・染付け 内面)口縁部に四方瓣文 菊花	J267	
7	125-1	S10-E61	磁器	小坪	口縁～ 底部	灰	9.2 3.9 5.2	肥前・美濃	19世紀初半 染付け 菊花文	J268	
8	124-9	S10-E61	磁器	小坪	口縁～ 底部	灰	6.4 3 4.3	肥前・美濃	19世紀初半 染付け 草花文、牡丹	J269	
9	123-3	S10-E61	磁器	小坪	口縁～ 底部	灰	- 2.9 4.2	肥前・美濃	19世紀初半 染付け 風景文 高台内に露	J270	
10	124-2	S10-E61	磁器	碗	口縁～ 底部	灰	6.6 2.0 5.1	肥前	18世紀初半 細筆 四方瓣文	J271	
11	121-5	S10-E61	磁器	碗	体部～ 底部	灰	6.4 3.9 1.8	肥前	18世紀後半～ 19世紀初半 染付け(外面)唐文 内面)延辺に寿字文、高 台内に露	J272	

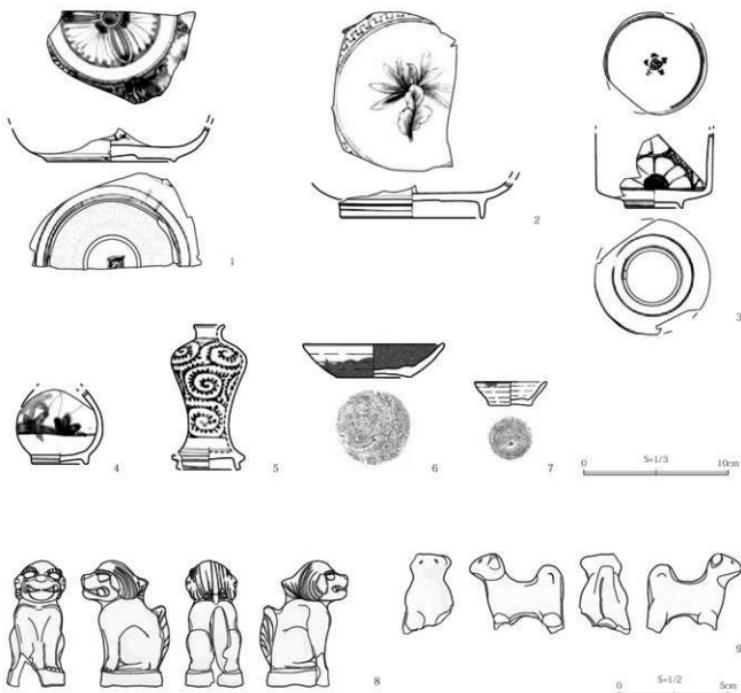
第222図 II層出土遺物(5)

第3節 大銀杏部



図版 番号	写真図版 番号	グリッド 号	種別	器種	部位	駿士	法量 cm			備地	時期	文様・備考	登録 番号
							口径	底径	高さ				
1	122-8	S10-E61	磁器	輪花皿	口縁～ 体部	座	16.2	-	3.8	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半	染付(外側)草文(内側)唐草文	J-273
2	123-6	S10-E61	磁器	皿	体部～ 底部	座	21.6	10.5	4.4	肥前	18世紀後半	染付(草花文)	J-274
3	121-7	S10-E61	磁器	皿	体部～ 底部	座	-	-	-	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半	染付(外側)草文(内側)草花文	J-275
4	122-2	S10-E61	磁器	蓋	口縁～ 底部	座	9.7	3.7	3.1	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半	青磁胎 高行仁款滿鉢	J-276
5	122-4	S10-E61	磁器	皿	口縁～ 体部	座	18.4	-	3.5	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半	染付(草花文)	J-277
6	122-3	S10-E61	磁器	皿	底部	座	13.2	9.7	0.8	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半	染付(草花文)	J-278
7	124-1	S10-E61	磁器	長角瓶	体部～ 底部	座	-	-	-	肥前	18世紀後半	染付(外側)薔薇台面文(内側)鳴鶴草文 電?	J-279

第223図 II層出土遺物(6)



第224図 II層出土遺物(7)

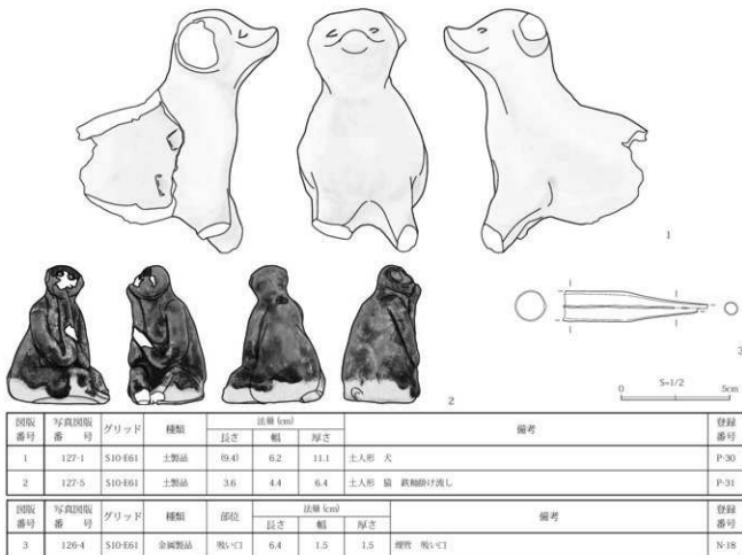
図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	源種	部位	法規(km)			産地	時期	文様・備考	登録番号
						口径	底径	器高				
1	124-10	S10-E61	磁器	瓶	体部～底部	周	13.7	8.8	2.4	肥前	18世紀後半～19世紀前半 染付け 草花文 鰐の目大面付 高台内に溝	J-280
2	123-11	S10-E61	磁器	瓶	体部～底部	周	13.5	10	2.5	肥前	19世紀以前 染付け 草文	J-281
3	125-6	S10-E61	磁器	瓶	体部～底部	周	8.2	3.8	5.1	肥前	18世紀後半～19世紀前半 染付け 菊花 水紋文	J-282
4	124-7	S10-E61	磁器	瓶	体部～底部	周	4	4	3.2	肥前	18世紀後半～19世紀前半 染付け 草花文 岩松?	J-283
5	123-1	S10-E61	磁器	御神酒添利	口縁～底部	周	2.2	4.5	10	肥前	18世紀後半～19世紀前半 染付け 精油草文 梅瓶形	J-284
6	125-10	S10-E61	土製質土器	かわらけ	口縁～底部	周	9.8	5.2	2.3	在地	18世紀後半～19世紀前半 油燈付着	J-276
7	125-9	S10-E61	土製質土器	灯明器	口縁～底部	周	5	3	1.7	在地	18世紀後半～19世紀前半 油燈付着	J-277
図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法規(km)			備考			登録番号		
				長さ	幅	厚さ						
8	128-1	S10-E61	土製品	3.8	2.6	5.7	土人形	鉈頭		P-20		
9	128-5	S10-E61	土製品	4.2	2.2	4.1	土人形	片		P-21		

第3節 大銀杏部



第225図 II層出土遺物(8)

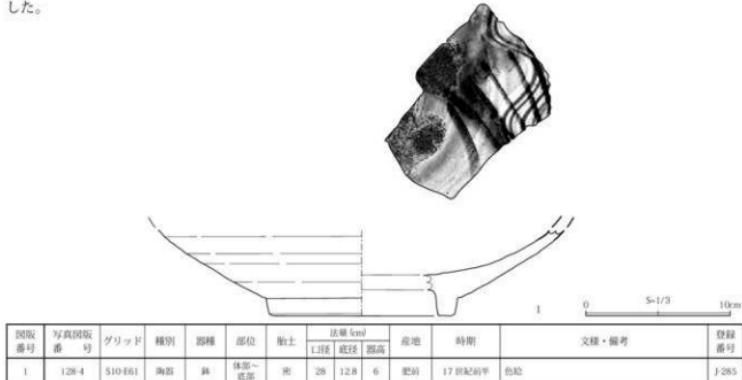
図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量 cm			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
1	126-9	S10-E61	土製品	2.8	2.9	2.5	土鈴	P-22
2	126-8	S10-E61	土製品	4.9	(1.4)	3.4	土人形 尻	P-23
3	126-7	S10-E61	土製品	1.8	5.4	3.2	土人形 天神	P-24
4	126-6	S10-E61	土製品	3	3.6	4	土人形 人物	P-25
5	127-2	S10-E61	土製品	1.5	4.4	4.5	土人形 大黒天	P-26
6	127-3	S10-E61	土製品	1.5	2.5	3.5	土人形 人物	P-27
7	127-4	S10-E61	土製品	4	5.8	9.8	土人形 子守	P-28
8	127-6	S10-E61	土製品	6	3.9	8.9	土人形 四	P-29



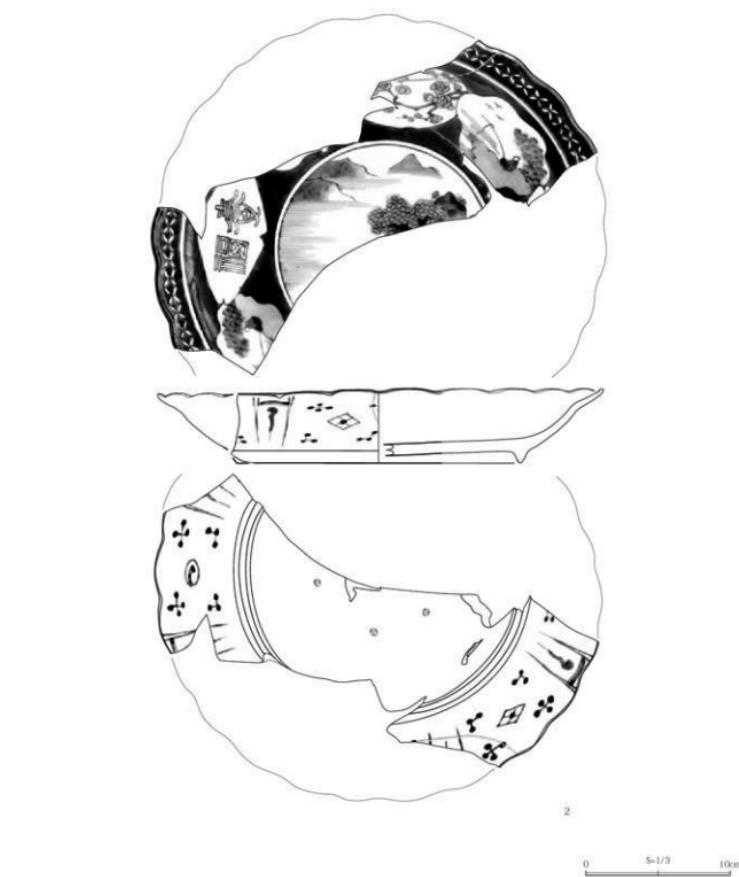
第226図 II層出土遺物(9)

4 I b 層出土遺物(第227図・228図)

I b 層の出土遺物は、種別内訳で陶器片 56 点、磁器片 93 点、土師質土器片 13 点、瓦質土器 1 点、瓦片 64 点、金属製品(古錢含む)2 点、土製品 10 点となり総数で 239 点を数える。ここでは、図化可能な 2 点を抽出し図示した。



第227図 I b 層出土遺物(1)



第228図 I b層出土遺物(2)

図版 番号	写真図版 番 号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	法算 [cm]		産地	時期	文様・備考	登録 番号	
							L径	底径	器高				
1	128-3	S10461	磁器	皿	口縁～ 全体	陶	30.2	19.8	5.1	肥前	17世紀後半	梅花・山水文 七宝文 高台内八分縁 3ヶ所 他鉢底あり	J-285

第6章 出土遺物と検出遺構について

第1節 出土遺物について

1 遺物数量表

本調査で出土した遺物の数量は以下の第10～12表の通りである。

出土遺物集計表

地区	縄文 土器	丸瓦・ 軒丸瓦	平瓦・ 軒平瓦	その他の 瓦	陶器	土師質 土器	瓦質 土器	磁器	石器・ 石製品	木製 品類	金属 製品	自然 遺物	土製品	その他	合計
駿部	44	3230	11820	244	6606	2063	671	9456	115	532	47	42	230	35100	
愛鷹部		92	652	7	208	21	43	409		9		18	21	1459	
大樹ヶ部		114	617	4	1579	279	128	1890	24	118		21	33	4797	
合計	44	3436	13089	255	8393	2363	842	11745	139	659	47	63	281	41356	

駅部IV層上面遺構出土遺物

遺構名	縄文 土器	丸瓦・ 軒丸瓦	平瓦・ 軒平瓦	その他の 瓦	陶器	土師質 土器	瓦質 土器	磁器	石器・ 石製品	木製 品類	金属 製品	自然 遺物	土製品	その他	合計
SD9		1			2		2		1			3		2	11
SD14															
SX29		2			13	1	2	11					1		30
SX31	6	6	1	41	40	2	32	5				1	2	1	137
SX32					2	1									3
SX33															
SX35		1						1							3
SX51	3	5		5	9										22
合計	9	15	1	64	53	4	45	5				4	2	4	206

駅部III層上面遺構出土遺物

遺構名	縄文 土器	丸瓦・ 軒丸瓦	平瓦・ 軒平瓦	その他の 瓦	陶器	土師質 土器	瓦質 土器	磁器	石器・ 石製品	木製 品類	金属 製品	自然 遺物	土製品	その他	合計
SA1															1
SB2					1										
SB3															
SB4															
SB5															
SB6															
SD10															
SD12		2			1										3
SK48					5	1	1	5							12
SK54	1	14			16	6	4	2				3		46	
SK55					1										1
SK56															
SK57	1	7			9	1		15							33
SK58															
SK59															
SK60															
SK62															
SK63	3				1	9	1	1							15
SK65	5				1	13									19
SK66															
SK67								2							2
SK68							2								2
SK69					1										1
SK70															
SK71															
SK72															
SK73															
SK85															
SK22	133	1192	2	15	14	2	9				11				1378
SK23	6	22		2	1										31
SK34	3	18		11	28	2	2				10				74
SK37	1080	2832	10	89	5	5	93								4114
SK61	2	1		2	4	1									10
SK62															
SK63					3	3	2	3			2				13
合計	1224	4097	13	157	86	20	132				23		3		5755

第10表 出土遺物数量表(1)

第1節 出土遺物について

駅部II層上面遺構出土遺物

遺構名	縄文 土器	丸瓦・ 軒丸瓦	平瓦・ 軒平瓦	その他 の瓦	陶器	土師質 土器	瓦質 土器	磁器	石器・ 石製品	木製 品類	金属 製品	自然 遺物	土製品	その他	合計
SD3	40	275	6	119	23	3	90	1		12		1			570
SD4	15	44		14	10	4	12								99
SD6															
SK1	90	137			132	15	16	115	4		13		1		523
SK2	1	5			9	6		5			1				27
SK3								2			1				3
SK4															
SK5	14	45			17	4	15	8			7				110
SK6															
SK7															
SK9	15	49			8	6	1	5	1						85
SK10	1	6			3	1									11
SK11															
SK12	1				1		1	3			3				9
SK14	7	40			3	2	3	3							58
SK15					1						1				4
SK17	7	34			26	26	6	18			16	3			136
SK18												11			11
SK19	21	38			2	7	2								70
SK22	7	35			87	15		30	2		4		2		182
SK23	8	11			1			1							21
SK25		2			2		1								5
SK27	8	27			14	36		9	2		10				106
SK28	2	1			2	2		2							9
SK30															
SK31	3					6						7			16
SK32					1	9	4	3							17
SK33						1		1							2
SK34	24	66			8	17	1				5	2			123
SK35															
SK36		2													2
SK37	15	95			29	65	8	25	3		16	4	1		261
SK40															
SK46															
SK47	4				13	4		14							35
SK50															
SK51															
SK52															
SK75	6	5			37	4	5	62			8		2		129
SK76					16	1	2	1							20
SK77					39	8	7	33			2				89
SK78															
SN1						8					10				18
SN2	1	6	2		1	5	1	1	2						19
SK2	28	58			53	23	18	25	2		4	1	2		214
SX4															
SX5	1	1			1			1							4
SX6															
SX7		4					1	1							6
SX9	3	25			5			3							36
SX10	20	63			37	17		23							160
SX12	1	10			8	5	1	5	1						31
SX14	19	41			18	3	1	11							93
SX15	76	218			105	50	20	69	4		14	8	1	4	569
SX19					2		1								3
SX26	5	39	1		72	25	2	80	1		12		5		242
SX27	4	15			10	4	1	15							49
SX28		2			8			5							15
SX35		10			10			4			2				26
SX36															
SX38															
SX39	14	53	2		130	69	19	127	1		11	9	1	2	438
SX41	8	5						3							18
SX42	11	159				9	2								181
SX43		1	1		2										4
SX49	3	8	1		111	39	14	78	4		12		7	1	278
SX56	14	2			34	65	2	15			2				134
SX57	1				1			5							7
SX64		10			6			24							40
合計	494	1653	13	1207	587	157	939	28		172	41	22	9		5322

第11表 出土遺物数量表(2)

第6章 出土遺物と検出遺構について

駅部Ⅰ層上面遺構出土遺物

遺構名	縄文 土器	丸瓦・ 軒丸瓦	平瓦・ 軒平瓦	その他 の瓦	陶器	土師質 土器	瓦質 土器	磁器	石器・ 石製品	木製 品類	金属 製品	自然 遺物	土製品	その他	合計
SB1	21	73	1	21	9	10	23				8			2	168
SD1	186	605		281	67	3	305	4			5			28	1484
SD2	60	244	2	159	22	27	243	4			16	2	1	6	786
SD15	15	32	2	107	18	3	225	2			6		1		411
SD16	12	33			32	12	4	50	1			2			146
SK61															
SK74	2	5			5	6		19			2				39
SK80		1			19			5							25
SK81					12	15		36			1				64
SK82															
SK83	4	15			5	1	2	23			1				51
SK84	4	39			1	6	2				4				56
SK24											1				1
SK25															
SK47															
SK48															
SK53								3			5				8
SK54		66		19		1	219	3			18			17	343
SK58		3		1			2				2				8
SK59															
SK60		2		2											4
合計	304	1130	5	667	141	52	1153	14			71	2	2	53	3594

駅部基本層出土遺物

遺構名	縄文 土器	丸瓦・ 軒丸瓦	平瓦・ 軒平瓦	その他 の瓦	陶器	土師質 土器	瓦質 土器	磁器	石器・ 石製品	木製 品類	金属 製品	自然 遺物	土製品	その他	合計
IV c 層	29		6			23			4					5	67
IV b 層	11					14			3					13	41
IV 層		1			1		3	4						10	19
Ⅲ層	312	996	13	590	216	60	700	13			58	5	20	2983	
Ⅱ層	456	1643	73	1881	571	190	2597	29			84	5	33	7562	
Ⅰ層	320	1817	103	1787	350	168	3661	15			91	6	60	8378	
複数中	4	108	460	23	252	21	16	225	4		33	0	20	1166	
合計	44	1197	4922	212	4511	1195	437	7187	68		266	16	161	20216	

交番部出土遺物

遺構名	縄文 土器	丸瓦・ 軒丸瓦	平瓦・ 軒平瓦	その他 の瓦	陶器	土師質 土器	瓦質 土器	磁器	石器・ 石製品	木製 品類	金属 製品	自然 遺物	土製品	その他	合計
SE1		4	14			9	4	3	5						39
I層		88	638	7	199	17	40	404				9		18	1420
合計		92	652	7	208	21	43	409				9		18	1459

大銀杏部基本層出土遺物

遺構名	縄文 土器	丸瓦・ 軒丸瓦	平瓦・ 軒平瓦	その他 の瓦	陶器	土師質 土器	瓦質 土器	磁器	石器・ 石製品	木製 品類	金属 製品	自然 遺物	土製品	その他	合計
Ⅲ層		32	192	1	267	41	17	329	3		29			7	918
Ⅱ層		36	276	3	1038	196	92	1051	21		64	11	8	2796	
Ⅰ層		21	43		56	13	1	93			2		10		239
複数中		25	106	0	218	29	18	407	0		23	0	18		844
合計		114	617	4	1579	279	128	1880	24		118	21	33		4797

第12表 出土遺物数量表(3)

第1節 出土遺物について

2 陶磁器の数的分析

出土した陶磁器の数量は20138点である。近現代の遺物を除き、産地・年代が判明している417点を対象にした。出土層位別の産地組成は以下の表(第13表)の通りとなる。I層の陶磁器に関してはサンプルが少數のため除外することとした。

陶器の産地組成を検討すると、IV層の段階では唐津産、瀬戸・美濃産および在地が主体となっており、III層の段階で大堀相馬産が出現する。II層の段階に至ると大堀相馬産が主体を占めるようになり、堤産の出現も認められる。

磁器の産地組成は、IV層の段階では産地・年代の判明している製品が出土しておらず、III層の段階で肥前産が認められる。II層の段階では肥前産の大幅な増加に加え、瀬戸・美濃産磁器、切込産・在地産などの東北地方産磁器が出現している。

II層とIII・IV層の出土数量の差が大きく、なおかつサンプル数も少ないため概には言えないが、上記に認められる傾向は、武家屋敷など周辺の近世遺跡の状況とも一致しているものと思われる。

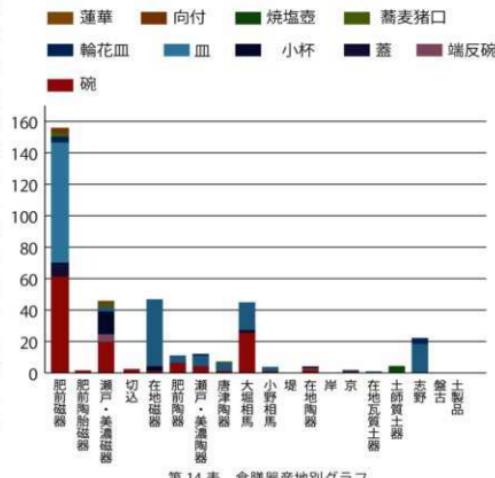
陶器	青磁	肥前	吉野	瀬戸・美濃	京	椎古	岸	大堀相馬	小野相馬	堤	在地
I層	3	12	16	8	2	1	5	71	4	16	20
II層	3	3	4	5	—	—	7	2	2	—	2
III層	2	—	2	5	—	—	—	—	—	—	—
IV層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

磁器	肥前	瀬戸・美濃	切込	在地
I層	150	40	2	1
II層	17	—	—	—
III層	—	—	—	—
IV層	—	—	—	—

第13表 出土層位一産地別遺物数量表

本調査における出土遺物の機種別産地組成は次表(第14~17表)の通りである。

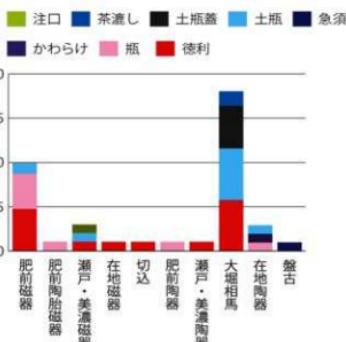
食膳具の産地別組成(第14表)では、肥前産磁器が最も多く出土しており、瀬戸・美濃産磁器、在地産磁器、大堀相馬産陶器がこれに次ぐ。特に食膳具の中でも主体をなすであろう磁器の碗・皿については、肥前産の数量が突出している。これは、仙台藩領内での肥前産磁器の流通量を反映しているものと思われる。また、瀬戸・美濃産磁器には皿が少なく、在地の磁器は碗が少なく皿が多くなるなど、19世紀代では器種別に産地に偏りが見られる。これは生産地の動向や、消費地側の選択によるものなど、さまざまな要因によって現出した状況と考えられるが、詳細については今後の資料の蓄積に期待したい。この他、陶器では大堀相馬産が多く出土しており、一定の需要があったものと思われる。器種組成としては、碗と皿がほぼ同量となっている。焼塩壺に関しては在地産のみであり、当遺跡において搬入品は見られなかった。



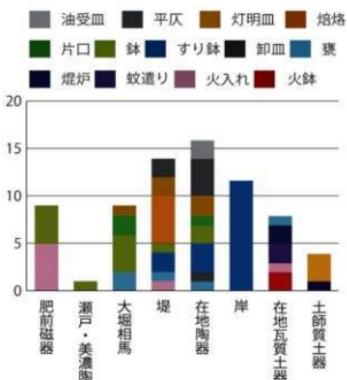
喫茶・飲酒具（第15表）としては肥前産の徳利・瓶、大堀相馬産の徳利・土瓶が多く出土している。特に大堀相馬の数量が顕著である。酒の容器として利用される徳利・瓶などは、その販売時において比較的高値に近い場所で焼かれた製品が、輸送コストなどの観点からも有用であったと考えられる。

暖房具（第16表）については在地の陶器・瓦質土器が出土数の大半を占める。元来、陶器・瓦質土器の類は長距離輸送には向いておらず、必然的に消費地に近い場所で生産する必要があったと思われる。壺などの大容量器種からなる貯蔵具の類、使用頻度が高く破損の機会が多いすり鉢などの調理具も、同じく近隣で生産されたものが使用されることが多かったと思われる。

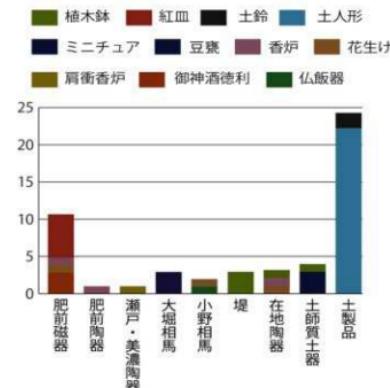
その他の製品（第17表）については、器種ごとに産地の傾向が分かれている。化粧具である紅皿は肥前産が占めている。御神酒徳利も同様に肥前産のみである。豆甕は大堀相馬となっており、植木鉢は堤産が主体を占め、その他に在地陶器、土師質土器が見られる。土人形・土鈴なども消費地近隣で生産されたもので占められる。



第15表 喫茶・飲酒具产地別グラフ



第16表 暖房具・貯蔵具・調理具・灯明具产地別グラフ



第17表 信仰・調度具・その他产地別グラフ

第1節 出土遺物について

3 乾山について

第229図はSX39から出土した乾山銘の京焼の皿である。見込み部分に赤絵で紅葉を描き、外底部に同様の赤絵により「乾山」の字を書いている。尾形乾山は寛文3年(1663年)に京都の呉服商、雁金屋の家に生まれ、兄の尾形光琳とともに当時の藝術界を牽引した人物である。乾山は元禄12年(1699年)に京都の鳴滝窯で本格的な作陶活動をはじめ、享保8年(1723年)には京都二条丁子屋町・聖護院門前において生産を続ける。その後享保17年(1732年)には江戸へ赴き、入谷村にて活動を続ける。

乾山の後継は分派し、二派が興った。入谷村では入谷村次郎兵衛が二世乾山を名乗り、三世宮崎富之助、四世酒井抱一、五世西村義庵、六世三浦乾也、七世浦野乾成へと「乾山誠状」が継承され、乾山の正統とされている。一方で養子の猪八(野々村仁清の子と伝えられる)が聖護院門前で乾山の活動を継続し(「聖護院窯」)、二世乾山を名乗り、宮田吳介が三世乾山を継いでいる。当遺跡出土の乾山銘京焼は、胎土は京焼のものであり、聖護院窯の可能性が高いが、江戸で京焼の土を使って作られる場合もあるため概には言えない。仙台市内では初の出土例であり、今後の資料の蓄積を待ちたい。

4 焼継について

焼継による補修痕のある遺物は21点確認できた。内訳は肥前產磁器16点、瀬戸・美濃產磁器4点、切込産磁器1点である。これらのうち、底裏に補修剤で文字が書いてあるものは6点確認された(第230図3・5・6・10・12・18)。また、生産年代は17世紀後半~18世紀前半が1点、18世紀前半が2点、18世紀前半~19世紀前半が1点、18世紀後半が3点、18世紀後半~19世紀前半が4点、19世紀前半が5点、19世紀以降が4点であり、18世紀後半以降のものが大半をしめている。焼継ぎは江戸では1790年頃から普及し始めたといわれており、本調査における傾向も、磁器の耐用年数などを考慮に入れた場合、この年代観とほぼ一致する。この事から、18世紀末から19世紀にかけて、仙台藩領内においても焼継ぎが行われていたと考えられる。

また、朱を混ぜた補修剤によって底裏に文字が書かれている例が多く見られた。平成18年度の仙台城亀岡トンネル開削部の調査(仙台市2009)においても1点が確認されている。これは焼継ぎ師による注文者識別記号と推



(第153図7)

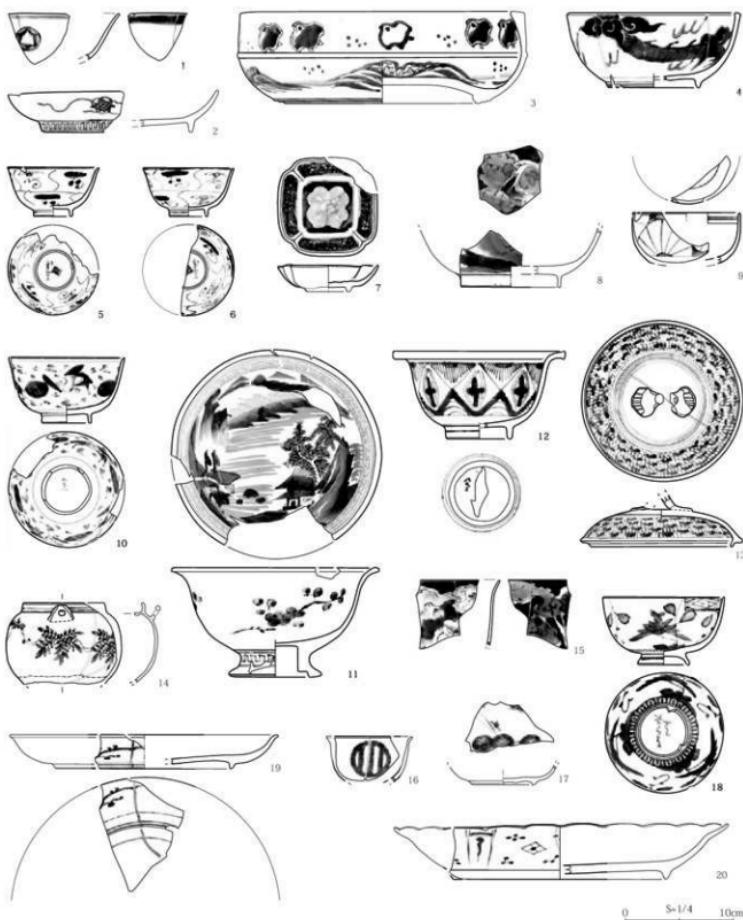
第229図

SX39出土の乾山銘の陶器

番号	地区	出土遺物	產地	機種	年代	近鉄跡の有無	本文図版番号	備考・銘の読み
1	駅塚	SX37	肥前	碗	18世紀後半	欠損	第106回-4	
2	駅塚	SX75	肥前	長角瓶	18世紀後半	なし	第118回-5	
3	駅塚	SX75	肥前	瓶	19世紀以降	あり	第117回-1	九千七百九十五 イチ百七十三
4	駅塚	SX75	肥前	碗	19世紀以降	なし	第116回-1	
5	駅塚	SX77	瀬戸・美濃	端反側	19世紀後半	あり	第122回-6	ト二千五十一
6	駅塚	SX77	瀬戸・美濃	端反側	19世紀後半	あり	第122回-7	ト二千五十二
7	駅塚	SX77	肥前	小皿	18世紀後半~19世紀前半	なし	第123回-1	
8	駅塚	SX26	肥前	碗	18世紀後半	なし	第124回-9	
9	駅塚	SX26	肥前	碗	18世紀後半	なし	第144回-1	
10	駅塚	SX39	瀬戸・美濃	碗	19世紀後半	あり	第150回-11	ぬけ一
21	駅塚	SX39	肥前	碗	19世紀後半	なし	第153回-2	
22	駅塚	SX39	肥前	碗	18世紀後半~19世紀前半	あり	第153回-1	八進二(ハジニ)
23	駅塚	SX39	肥前	碗	18世紀後半~19世紀前半	なし	第152回-1	
14	駅塚	SX39	肥前	土瓶	18世紀後半~19世紀前半	欠損	第152回-5	
15	駅塚	SX49	肥前	向付	18世紀後半~19世紀前半	欠損	第163回-2	
16	駅塚	SX49	瀬戸・美濃	端反側	19世紀後半	欠損	第161回-5	
17	駅塚	SX49	肥前	瓶	18世紀後半	なし	第162回-7	
18	駅塚	SK74	切込	碗	19世紀以降	あり	第192回-3	不明
19	駅塚	II頭丸土	肥前	瓶	17世紀後半~18世紀前半	欠損	第176回-9	
20	大畠古墳	1M80風	肥前	瓶	17世紀以降	なし	第228回-1	

第18表 焼継のある出土遺物觀察表

定されており、桜ヶ岡公園遺跡では、「九千七百九十五 イ七百七十三」、「ト二千五十二」、「め廿一」、「八能二（ハ廿二）」などの記録が認められた。これらの記号は、「イ、ト、め、ハなどの仮名文字による頭文字」+「漢数字」という形式をとっている。また、平成21年度の桜ヶ岡公園遺跡－西公園高架橋・広瀬川橋梁橋台部の調査でも80点以上の焼継ぎ痕のある陶磁器が確認されている。

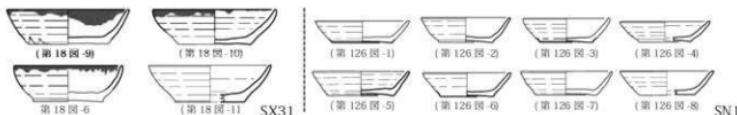


第230図 焼継のある出土遺物

5 土師質土器

次に土師質土器について述べる。Ⅲ層上面で検出されたSX31からは17世紀後半の資料とともに土師質土器が出土している。これらの法量を集計すると、平均口径11.8cm、平均底径6.95cm、平均器高3.4cmとなる。Ⅱ層上面ではSN1出土のものが一括性が高く、平均口径8.45cm、平均底径5.1cm、平均器高2.17cmである。また、SX56からも土師質土器が一括で出土しており、こちらは平均口径8.4cm、平均底径4.5cm、平均器高2.14cmを計る。資料数の少なさはいぬめないが、Ⅲ層段階とⅡ層段階で口径一底径一器高に変化が認められた。Ⅲ層段階からⅡ層段階にかけて、製品自体は小さくなっている。そのほかの比率を求めたところ、口一底比率(口径に対して底径が占める割合)高いほど口径と底径の差が小さい。)はⅢ層段階で58.9%、Ⅱ層段階で53%および60%となり、また、口一高比率(口径に対して器高が占める割合)高いほど深い器となる。)はⅢ層段階28.8%、Ⅱ層段階で25.6%および25.4%となっている。Ⅲ層段階からⅡ層段階にかけて、わずかに浅くなる傾向が認められる。

また、Ⅱ面SN2地鉄造構から出土した墨書き土師質土器は、口径20.1~21.1cm、底径15~16cm、器高3.4~3.7cm



第231図 SX31・SN1出土の土師質土器

を測る大きなもので、底部「FO」の墨書きがある。このような墨書きの類例としては豊島区染井遺跡加賀美家地区(豊島区1991)の出土土師質土器が挙げられる。染井遺跡出土例では、口径19cmの2枚を合わせた一組の上に、口径12.5cmの2枚を合わせた一組が配されていた。上下ともに、合わせた2枚の上面に「上」、下皿に「下」を墨書きしている。「」と「○」の違いがあり、また「下」の字も書き順・形ともに本来の字とは異なる。東京都豊島区染井遺跡の例では、上下の区別のために上、下の字を書いたと推定されるのに対して、当調査の事例では上皿に対して「下」を書いている等、差異が認められる。

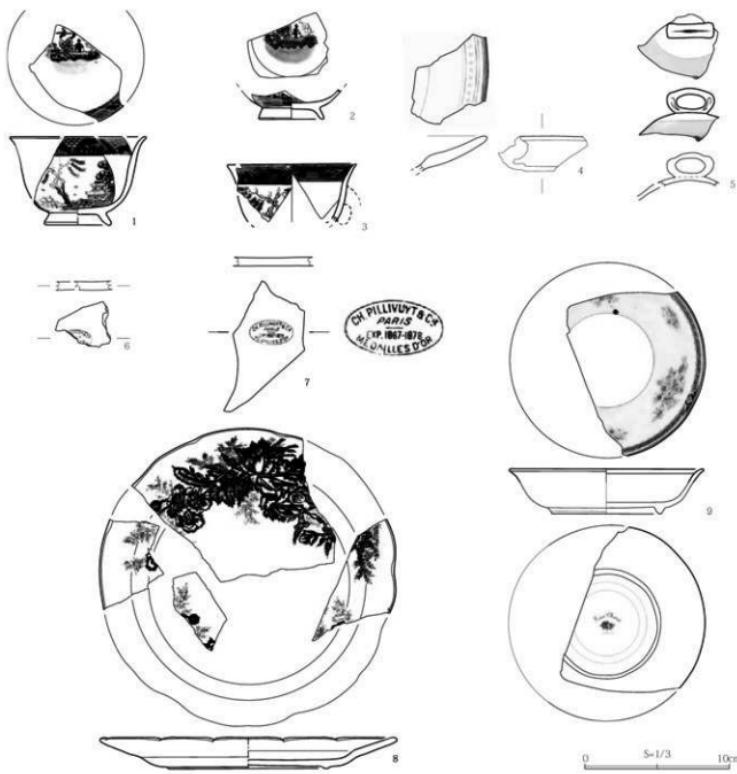
武家屋敷という性質上、江戸の習俗に接する機会も多くあったものと思われ、SN1出土の墨書き土師質土器は、それらの習俗を部分的に、低い理解のまま取り入れた一例とも考えられる。



第232図
土師質土器高台「FO」の墨書き

最後に近代のやきものについて触れておきたい。桜ヶ岡公園遺跡は明治時代以降、抱翠館、仙台市公会堂などが建てられ、東北産業博覧会の会場としても使用されており、当時としては西洋文化の最先端に触れられる場所であったと考えられる。桜ヶ岡公園遺跡から出土している洋食器は、駅部盛上および交番部盛上より出土している。フランスピリビー社の皿底部、ボーンチャイナのカップ、ローズチャイナの皿などが認められる。第233図-6・7はピリビー社(PILLIVUYT)の製品である。同社は1818年創業のフランスの磁器メーカーで、1867年および1878年にパリ万国博覧会で金賞を受賞しており、「PARIS EXP.1867-1878 MEDAILLES D'OR」の記載は、この記念を記したものである。また、ウイローパターン(柳文様)と呼ばれる絵付け製品が複数出土している。銅版転写を用いる手法は18世紀後半にイギリスからはじまつたものだが、1840年以降はオランダ製が主流となる。当遺

跡出土の銅版転写磁器については産地が判別できないものがほとんどだが、オランダ製の可能性が高い。また、第233図-9は“RoseChina JAPAN”的銘があり、太平洋戦争後の復興期にノリタケで製造された製品で、1946年頃の製品と考えられる。戦前の品質にいたらなかつたため、Noritakeの文字は使わず、RoseChinaという銘を入れていた時期の製品である。



番号	地区	出土遺物	產地	機種	年代	銘の有無	本文図版番号	備考
1	交番塚	遺構内	海外	画	19世紀以降	無	第234図-8 ウィロー・バターン(繩文様)	
2	交番塚	遺構内	海外	画	19世紀以降	無	第234図-9 ウィロー・バターン(繩文様)	
3	交番塚	遺構内	海外	画	19世紀以降	無	第234図-7 ウィロー・バターン(繩文様)	
4	交番塚	遺構内	海外	画	19世紀以降	無	第234図-6 ウィロー・バターン(繩文様)	
5	削面	1層	海外	画	19世紀以降	無	第234図-9	
6	削面	SDS	在地	画	19世紀以降	有	第235図-4 ピリビー社製 "PARIS EXP:1867-1878" "MEDAILLES D'OR" の銘	
7	削面	1層	海外	画	19世紀以降	有	第235図-5 ピリビー社製 "PARIS EXP:1867-1878" "MEDAILLES D'OR" の銘	
8	削面	1層	海外	画	19世紀以降	無	第234図-7	
9	削面	1層	岡南	画	19世紀以降	有	第234図-9 Rose China	

第233図 桜ヶ岡公園遺跡出土の洋食器

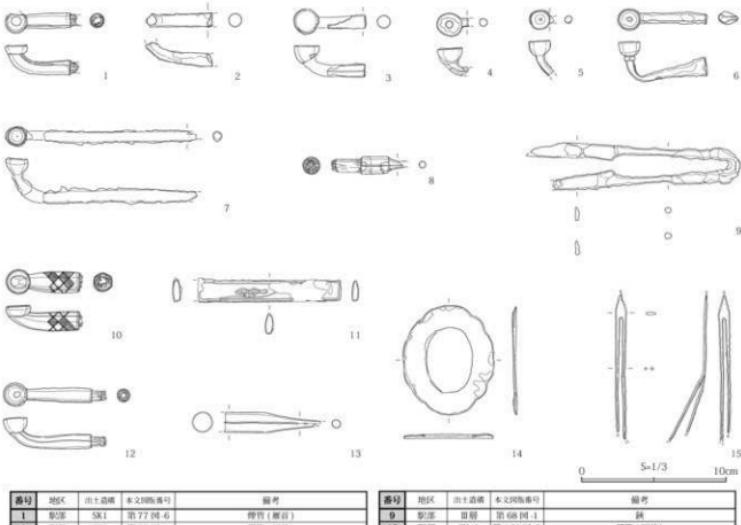
第1節 出土遺物について

7 金属製品

金属製品は大銀杏部 169 点、駅部 1184 点、交番部 9 点の合計 1362 点が出土している。はじめに煙管について記す。抽出した煙管は SK1(第 234 図-1)、SK2(第 234 図-2)、SK17(第 234 図-3)、SK37(第 234 図-4・5・7)、SX15(第 234 図-8)、SX49(第 234 図-10・12)、II 層盛土(第 234 図-6)、大銀杏部 II 層盛土(第 234 図-13)の 11 点である。SK37(第 234 図-7)は延べ煙管で、他は羅宇煙管である。羅宇部分が残存している製品もみられる(第 234 図-1・8)。

古泉弘氏の分類及び、年代観(古泉 1987)に則り、当遺跡出土の煙管を分類したい。第 1 段階にあたるものは第 234 図-5(SK37)、第 234 図-6(II 層盛土)がある。また、第 234 図-4(SK37)も古い時期に位置づけられる。また、肩の状態により第 234 図-8(SX15)出土例も 18 世紀前半以前のものと推定される。また、18 世紀後半以降の製品としては第 234 図-1(SK1)、第 234 図-7(SK37: 延べ煙管)、第 234 図-10(SX49)、第 234 図-13(大銀杏部 II 層盛土)出土例がある。

そのほかの金属製品は、鉄(第 234 図-9: III 層盛土)、襷金具と思われる製品(第 234 図-14: SK37)、簪(第 234 図-15: SX49)、小柄(第 234 図-11: II 層盛土)がある。第 234 図-14 は襷の引き手部分の部品と思われる。この製品については X 線撮影の結果、象嵌などの装飾は施されず、無紋であることが判明している。第 234 図-11 の小柄は柄の部分に松の陽刻が施されている。



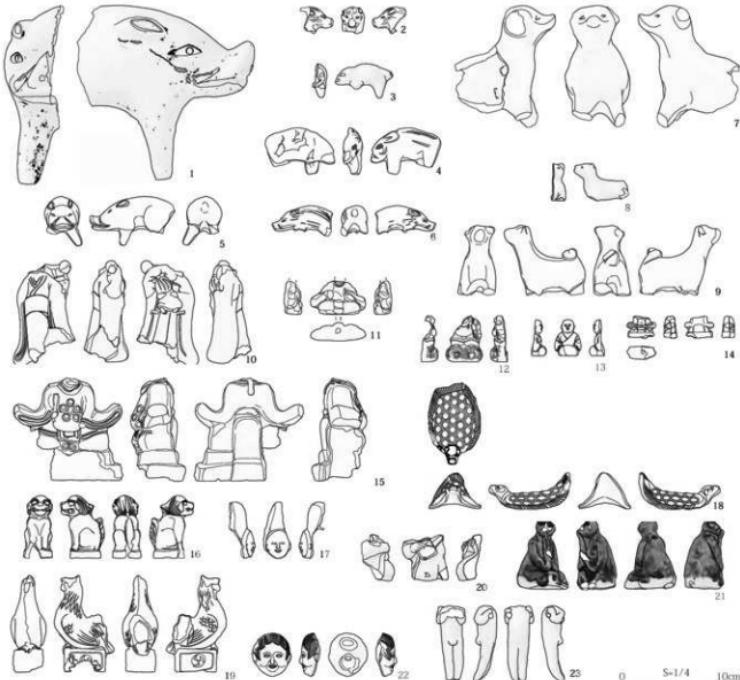
番号	地区	出土遺物	本文図版番号	備考
1	駅部	SK1	第 77 図-6	煙管(羅宇)
2	駅部	SK2	第 79 図-1	煙管(羅宇)
3	駅部	SK17	第 99 図-2	煙管(羅宇)
4	駅部	SK37	第 107 図-2	煙管(羅宇)
5	駅部	SK37	第 107 図-3	煙管(羅宇)
6	駅部	II層	第 179 図-5	煙管(羅宇)
7	駅部	SK37	第 107 図-4	煙管
8	駅部	SX15	第 139 図-2	煙管(羅宇・焼口)

番号	地区	出土遺物	本文図版番号	備考
9	駅部	田螺	第 68 図-1	鉄
10	駅部	SX49	第 164 図-2	煙管(羅宇)
11	駅部	II層	第 179 図-4	刀子(小柄)
12	駅部	SX49	第 164 図-1	煙管(羅宇)
13	大銀杏部	II層	第 226 図-3	煙管
14	駅部	SK37	第 107 図-1	襷金具
15	駅部	SX49	第 164 図-3	鉄

第 234 図 桜ヶ岡公園遺跡出土の金属製品

8 土製品

土製品は大銀杏部21点、駅部42点の合計63点が出土している。猪、犬の出土が比較的多く、ついで土人形が目立つ。珍しいところでは西(第235図-19)、狛犬(第235図-16)、蓑龜(第235図-18)なども見られる。大型の猪型土製品(第235図-1)は顔の表現など細かく描出されている。猪は多産の象徴であり、犬は子供の守り神とされる。土製品の出土例はⅠ層およびⅡ層に集中しており、江戸時代後半期にこれらの玩具類・お守りの種類が増加していると考えられる。



番号	地区	出土遺物	產地	本文図版番号	形
1	駅部	SK75	在地	第119図-2	猪
2	駅部	I層	在地	第207図-5	猪
3	駅部	I層	在地	第207図-6	猪
4	駅部	I層	在地	第207図-9	猪
5	駅部	SD3	在地	第72図-14	猪
6	駅部	田村	在地	第68図-2	猪
7	大銀杏部	II層	在地	第226図-1	犬
8	大銀杏部	II層	在地	第225図-2	犬
9	駅部	SD2	在地	第187図-5	犬
10	大銀杏部	II層	在地	第225図-7	子守
11	大銀杏部	II層	在地	第225図-3	天神
12	大銀杏部	II層	在地	第225図-5	天神

番号	地区	出土遺物	產地	本文図版番号	形
13	大銀杏部	II層	在地	第225図-6	小猪
14	駅部	SX49	在地	第163図-12	天神
15	駅部	SD1	在地	第224図-3	天神
16	大銀杏部	II層	在地	第224図-8	狛犬
17	駅部	I層	在地	第207図-7	狛犬
18	駅部	I層	在地	第208図-2	狛犬
19	大銀杏部	II層	在地	第225図-8	圓
20	駅部	II層	在地	第179図-8	螺旋彎き
21	大銀杏部	II層	在地	第226図-2	鰐
22	大銀杏部	II層	在地	第225図-4	鰐
23	駅部	II層	在地	第179図-7	鰐?

第235図 桜ヶ岡公園遺跡出土の土製品

第2節 検出遺構について

9 古銭

Ⅲ層盛土から出土した古銭は北宋銭7点、明銭1点である。Ⅲ層では寛永通宝が認められず、17世紀前半以前の流通様式を示しているようである。Ⅱ層では、SK3、SK12、SK17、SN1、SX15、SX26、SX49、SX56及び盛土中から出土しており、寛永通宝24枚、明銭4枚、北宋銭8枚、合計36枚がある。SN1からは比較的多くの古銭が一括で出土している。北宋銭は含まれず、古寛永9枚、新寛永古段階1枚が確認できる。Ⅰ層ではSD2、SD15及び盛土中から出土しており、北宋銭は出土しておらず、すべて寛永通宝が占めている。Ⅲ層は北宋銭のみの時期、Ⅱ層は北宋銭と寛永通宝の過渡期、Ⅰ層は寛永通宝の流通がすべてを占める時期とみられる。

10 出土遺物のまとめ

以上、桜ヶ岡公園遺跡の出土遺物について述べてきたが、近世の出土陶磁器の様相は周辺の武家屋敷と大きな差はなく、出土傾向も生産地と消費地の関係性を反映しているものと思われる。また、近代以降については、掘翠館や仙台市公会堂があった土地の性格から、複数の洋食器が出土し、なおかつ舶来品が多く認められるところに特徴が見られた。

第2節 検出遺構について

今回の調査では、近世～近代の遺構が検出された。ここでは、これらの遺構群の変遷から、土地利用の実態について整理をしておきたい。

1 近世の遺構

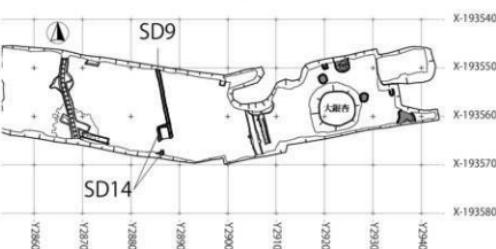
近世の遺構面はⅣa層上面、Ⅲa層上面、Ⅱ層上面の3面が検出されており、各遺構検出面から出土した遺物（主に陶磁器）の生産年代によって、以下のように時期区分することができる。（第19表）

時期区分	年代	遺構検出面	特徴的な遺構
I期	17世紀初頭～17世紀中頃	Ⅳa層上面	SD4, SD14, SX31
II期（武家屋敷前半）	17世紀中頃～18世紀中頃	Ⅲa層上面	SB2, SB3, SB4, SB5, SB6
III期（武家屋敷後半）	18世紀中頃～19世紀初頭	Ⅱ層上面	SD4, SD6

第19表 桜ヶ岡公園遺跡の時期区分表

(1) I期(第236図)

検出した遺構は、溝跡2条と性格不明遺構6基である。検出時の確認面の観察所見から、SD9、SD14の周辺及び、性格不明遺構が集中して分布する範囲には、樹木の抜根跡と考えられる凹凸が多く観察された。一方、Ⅳa層上面の遺構は、上位の生活面であるⅢa層から振り込まれたものではなく、樹木（抜根跡）の



第236図 IVa層上面検出遺構

間に振り込んだ遺構、もしくは、土層観察からは確認されていないが、この抜根跡を埋め整地したⅢ層とⅣa層の間のもう一枚の生活面から振り込まれた可能性もある。溝跡(SD9・SD14)の機能に関しては不明な点が多いが、

主軸方向は仙台城普請に伴う、片平丁の町割区画の方位とほぼ、一致している。これは屋敷内の施設も町割区画に沿って造成された可能性が考えられる。なお、後述するⅡ期の掘立柱建物、Ⅲ期の石組溝等の遺構の配置や方位もこれと同様である。SX31からは多量の土師質土器と少量の水晶片が出土しており、なんらかの祭祀が行われた可能性を示唆するが、他の性格不明遺構の機能は明確にはできなかった。

(2) Ⅱ期(第237図)

Ⅲa層上面で検出された遺構は柱跡1条、掘立柱建物跡5棟、溝2条、土坑18基、性格不明遺構7基である。これらはいずれも、武家屋敷の家屋、施設の一部と考えられる。以下、各遺構の新旧関係、配置関係の性格について述べる。

遺構名	柱穴の平均径(cm)	柱穴の平均深度(cm)	検出した規模(m×m)
SB2	76	45	(17.5) × (8.7)
SB3	44	14	1.8 × (3.8)
SB4	65	54	4.7 × (17.5)
SB5	53	46	(5.7) × (12.2)
SB6	43	40	3.9 × (12.5)

第20表 掘立柱建物跡の規模()は調査区内で確認できた寸法で、全体の規模は不明

1) 掘立柱建物と柱列

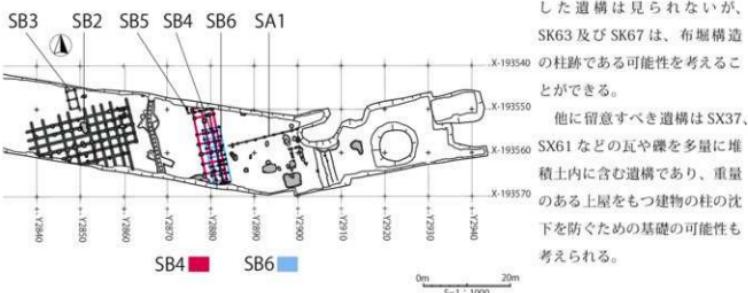
SB4、SB6、SA1の新旧関係と配置関係については、相互に柱穴の切り合いがなく不明であるが、SB4とSB6は建物跡の大部分が重複し、SA1も上記2棟と接近しすぎているため、同時存在は考えられない。しかし、SB4とSB6は主軸方向、位置関係から、どちらかが立替棟と考えられる。従って、建物跡の組み合わせは西側のSB2とSB3、東側のSB4とSB5、もしくはSB5とSB6及び、区画内に建物跡は見つけられなかったが、SA1に区画される調査区中央部の3組を想定することができる。

2) SB2とSB3

まず、SB2とSB3相互の主軸が直行し、近接するSB2とSB3は同一屋敷地内の建物跡であり、東西棟のSB2は確認された規模と東柱を有することなどから、母屋と考えられ、北側にあるSB3は小規模、側柱構造という点から、SB2に付随する納屋等のような施設と考えられる。

3) SB4、SB5、SB6

SB4とSB5は両者とも東西2間、南北6間以上で総柱構造に近く、両者の規模の比較から、拡大、縮小に伴う建て替の景観変化を想定することができる。また、その北側に隣接するSB5はSB4、SB6に伴う建物跡と考えられる。SA1に区画される範囲は、当該遺構の北側か南側に想定される。前述したように、ここには、建物跡と認定



第237図 III a層上面検出遺構

した遺構は見られないが、SK63及びSK67は、布堀構造の柱跡である可能性を考えることができる。

他に留意すべき遺構はSX37、SX61などの瓦や礫を多量に堆積土内に含む遺構であり、重量のある上屋をもつ建物の柱の沈下を防ぐための基礎の可能性も考えられる。

第2節 検出遺構について

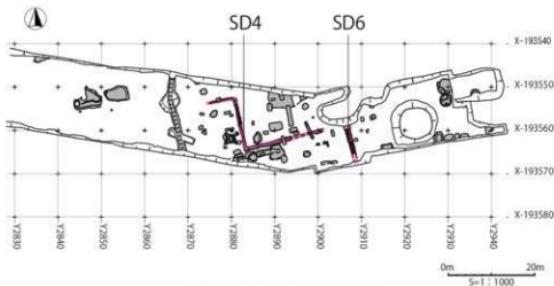
(3) III期(第238図)

II層上面で検出した遺構は、溝跡3条、土坑39基、祭祀遺構2基、性格不明遺構25基である。以上、上記の遺構のうち留意すべきいくつかの遺構について述べる。溝跡はクランク状に屈折走行するSD4と南北方向に直線的に走行するSD6の2条の石組溝である。これはIII期(武家屋敷後半)の武家屋敷の配置と境界を考える上で重要な要素となりうる。

SD4は機能においては石組を両岸に備えた区画溝であったと考えられる。この石組は削平され、総延長の8パーセントのみの検出にとどまっている。18世紀以降に描かれた多くの絵図には、これにあたるクランク状の境界線は描かれておらず、武家屋敷の土地面積から考慮しても、屋敷境ではなく、屋敷地内の内部区画のために使用されたものと推定される。

建物の基礎跡と考えられるのはSD3b、SX10、SX12、SX14である。SD3はSD3a、3bと分けたが、南側のSD3bの底面に十字の木組跡が出土したことから、建物の基礎跡の可能性を考えた。SX10は樹木の抜根跡を部分的に生め、X字部の端部に比較的大きい自然礫を突き込み、基礎として利用した可能性がある。SX12、SX14についても、小～中程度の多量の自然礫を上層に含むことから、同様の機能を想定し得る。祭祀遺構SN1は8枚の土師質土器小皿と十枚の寛永通宝の理納が行われた跡である。土師質土器は2枚一組の合わせ口にされていた。SN2は土師質土器大皿が4枚出土し、これも2枚一組で合わせ口状にされ、周囲から水晶片が2片出土している。SN1と同様に、近世後半の祭祀跡の事例として興味深い成果といえる。

II期の検出面については、II層(盛土)に覆われている箇所が見られる。このII層上面においては掘立柱建物跡は検出されていない。これは、礎石建物が建てられるようになったことが原因の一つと考えられるが、II層上面は搅乱で削平されている箇所が多く、礎石建物の存在を窺わせるような遺構は検出されなかった。



第238図 II層上面検出遺構

2 近代の遺構(第239図)

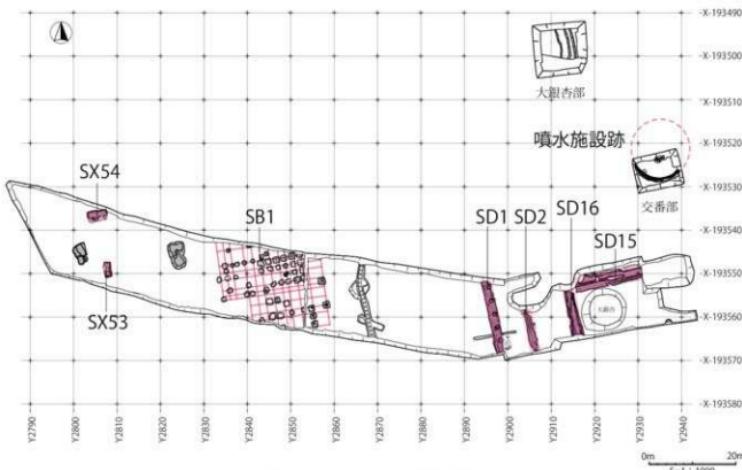
近代(明治時代～戦前)の遺構は1b層上面で、建物跡1棟、溝跡4条、土坑6基、建性格不明遺構4基、噴水施設跡を検出した。溝跡はいずれも石組溝で、建物跡は抱翠館跡と考えられる。また、SX54は出土状況から近代の厨房施設と考えられる。

石組溝(SD1・SD2・SD15・SD16)、抱翠館跡(SB1)はいずれも近世の建物跡・溝と縱横の軸線方向が一致している。これは近世からの町割り区画が、近代の土地利用に対しても、なんらかの規制を与えていたということが考えられる。

抱翠館跡(SB1)と厨房施設(SX54)の間隔は直線距離にして約30mを測り、また、周辺は現代建物基礎による削平が著しく、遺構の検出状況からは二つの遺構の関係性を述べることは難しい。しかし、抱翠館は洋料亭といつたこともあり、当然、厨房施設も完備していたと考えられる。また、SX54以外に抱翠館の厨房施設と考えられる遺構が検出していないことや、SX54が4基ものカマドを備える遺構という状況から、この二つの遺構に何らかの関係性があったものと考えられる。

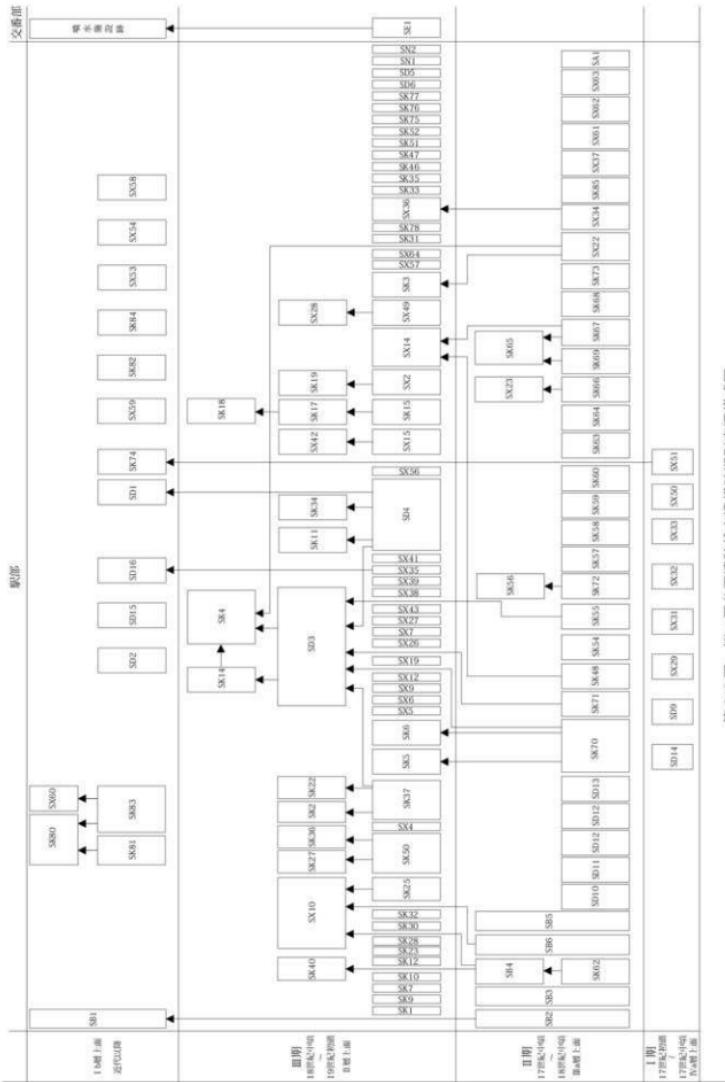
石組溝であるSD15とSD16は大銀杏を意識し、これを囲むように造成されている。当時の公園内における役割などは不明である。

いずれの遺構も、近代の桜ヶ岡公園を考えるうえで貴重な資料といえる。



第239図 1b層上面検出遺構

第2節 検出構造について



第240図 桜ヶ岡公園遭難検出遭難時期別変遷模式図

第7章 まとめ

1. 桜ヶ岡公園遺跡は広瀬川左岸に形成された河岸段丘（仙台中町面）上に立地している。標高は43～45mである。
2. 本調査は、仙台市高速鉄道東西線建設に伴い、平成19年5月10日～平成20年7月17日に行われた。調査面積は2,282m²である。
3. 調査区は仙台城の広瀬川を挟んだ東側に位置しており、近世を主な時期として遺構・遺物が検出された。また、近代以降の遺構も調査対象としている。
4. 駅舎調査区では柱穴列跡1条、掘立柱建物跡5棟、溝跡16条、土坑84基、性格不明遺構63基、祭祀遺構2基が確認され、遺構総数は171基である。
5. 大銀杏部調査区では遺構は検出はされなかつたが、基本層中より大量の17～19世紀陶磁器が出土した。
6. 交番部調査区では戦前の桜ヶ岡公園の施設であった噴水の水盤の一部が検出された。噴水施設の下層から井戸跡(SE1)を1基検出した。
7. 近世の遺構は出土遺物によりⅠ期、Ⅱ期（武家屋敷前半）、Ⅲ期（武家屋敷後半）と、3時期に区分される。Ⅰ期は17世紀初頭でⅣa層上面、Ⅱ期は17世紀中頃～18世紀中頃でⅢa層上面、Ⅲ期は18世紀中頃～19世紀初頭でⅡ層上面にそれぞれ相当する。近代の遺構はⅠb層上面で検出した。
8. 検出された主要な遺構と様相は、以下のとおりである。
 - Ⅰ期：溝跡と性格不明遺構を検出した。武家屋敷造成以前の記録は残されておらず、詳細は不明であるが、検出した溝跡(SD9・SD14)とともに、走行方向が、後世の区割りと一致する。遺物は唐津・瀬戸・美濃、岸、土師質土器が出土している。
 - Ⅱ期：武家屋敷の一部と考えられる5棟の掘立柱建物跡が5棟(SB2・SB3・SB4・SB5・SB6)検出されている。遺物は肥前磁器、唐津・瀬戸・美濃、土師質土器等が出土している。なお、この時期における当該地の居住者は片倉小十郎、津田民部と考えられる。
 - Ⅲ期：区画溝と考えられる石組溝(SD4)が検出された。この時期では、盛土をはじめとする大規模な土木工事が行われて、建物は礎石建物になるものと推測される。遺物は磁器、陶器とともに生活雑器が主体で、磁器は肥前から瀬戸・美濃への変遷がみられ、陶器は堤焼、小野相馬、大堀相馬焼などがみられる。幕末には古内左近介、大内縫殿が居住しているものと考えられる。
- 近代：抱翠館(SB1)、石組溝(SD1・SD2・SD15・SD16)等が検出された。出土遺物はヨーロッパ産の磁器（フランスのビリビィ）等が見られる。明治時代以降、当該地は桜ヶ岡公園として利用された。
9. 出土遺物の総数は41356点である。遺物は、繩文土器片、丸瓦・軒丸瓦、平瓦・軒平瓦、その他の瓦、陶器、瓦質土器、土師質土器、磁器、石製品、金属製品、土製品等がみられた。Ⅰ期において磁器は肥前のみで、陶器は志野、織部、岸、肥前（唐津を含む）、瀬戸・美濃等がみられる。Ⅱ期においても磁器は肥前のみで、陶器は織部、岸、肥前（唐津を含む）、瀬戸・美濃、京等がみられる。Ⅲ期において磁器は肥前に加えて、瀬戸・美濃、切込等もみられる。陶器は大堀相馬、小野相馬、堤、在地産と見られる播鉢、植木鉢なども確認した。また、海外で生産された磁器も少量であるが出土した。
10. 桜ヶ岡公園遺跡は17～19世紀の遺構や遺物が検出され、遺物の年代、検出面から4時期に区分することができた。検出した主要な遺構は、近世～近代を通して、いずれも同軸方向に配置されている。これは、近世の屋敷地開発時の区割り、および地形に大きく影響をうけているものと考えられる。また、近世の掘立柱建物、近代の抱翠館の検出により、当該地の土地利用のおおよその変遷が概観できた。

引用・参考文献

引用・参考文献

- 井上喜久男 1992 『尾張陶磁』 ニュー・サイエンス社
- 江戸遺跡研究会編 2001 『図説江戸考古学研究事典』 柏書房
- 大橋康二 1994 『古伊万里の文様 初期肥前器を中心』 理工学社
- 大橋康二 編 2009 『そば猪口辞典』 講談社
- 大橋康二・西田宏子監修 1988 『古伊万里』 平凡社
- 大橋康二構成 2002 『そば猪口事典』 平凡社
- 九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年』
- 九州近世陶磁学会 2002 『国内出土の肥前陶磁 西日本の流通を探る 第1分冊』
- 九州近世陶磁学会 2002 『国内出土の肥前陶磁 西日本の流通を探る 第2分冊』
- 古賀隆 1974 『切込焼』 雄山閣
- 坂田啓編 1995 『私本仙台藩土作事典』 創栄出版
- 佐藤巧 1979 『近世武家住宅』 葛文社
- 沙留地区遺跡調査会 1996 『夕景遺跡』
- 芹沢長介ほか編 1981 『日本やきもの集成 北海道 東北 関東』 平凡社
- 仙台市教育委員会 1985 『仙台城三ノ丸跡』 仙台市文化財調査報告書第76集
- 仙台市教育委員会 1986 『柳生』 仙台市文化財調査報告書第95集
- 仙台市教育委員会 1997 『養種園遺跡』 仙台市文化財調査報告書第214集
- 仙台市教育委員会 2000 『沼向遺跡第1～3次調査』 仙台市文化財調査報告書第241集
- 仙台市教育委員会 2002 『仙台城跡1 一平成13年度調査報告書』 仙台市文化財調査報告書第259集
- 仙台市教育委員会 2003 『仙台城跡2 一平成14年度調査報告書』 仙台市文化財調査報告書第264集
- 仙台市教育委員会 2004 『仙台城跡3 一平成15年度調査報告書』 仙台市文化財調査報告書第270集
- 仙台市教育委員会 2004 『仙台城跡4 一平成16年度調査報告書』 仙台市文化財調査報告書第271集
- 仙台市教育委員会 2005 『仙台市高速鉄道東西線関係道路発掘調査(1)概要報告書』 仙台市文化財調査報告書第289集
- 仙台市教育委員会 2006 『仙台市高速鉄道東西線関係道路発掘調査(2)概要報告書』 仙台市文化財調査報告書第302集
- 仙台市教育委員会 2007a 『川内A遺跡 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査1』 仙台市文化財調査報告書第312集
- 仙台市教育委員会 2007b 『桜ヶ岡公園遺跡 第2次調査報告書』 仙台市文化財調査報告書第318集
- 仙台市教育委員会 2008 『桜ヶ岡公園遺跡 第3次調査報告書』 仙台市文化財調査報告書第335週
- 仙台市教育委員会 2009 『仙台城跡 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査II』 仙台市文化財調査報告書第342集
- 仙台市教育委員会 2010 『桜ヶ岡公園遺跡 第4次調査報告書』 仙台市文化財調査報告書第378集
- 仙台市史編さん委員会 1994 『仙台市史 特別編1 自然』
- 仙台市史編さん委員会 1995 『仙台市史 特別編2 考古資料』
- 仙台市史編さん委員会 2004 『仙台市史 史通編5 近世3』
- 高倉淳淳か編 1994 『絵図・地図で見る仙台第一輯』 今野印刷株式会社
- 高倉淳淳か編 2005 『絵図・地図で見る仙台第二輯』 今野印刷株式会社
- 東北大大学理蔵文化財調査研究センター 1993 『東北大大学理蔵文化財調査年報6』
- 東北大大学理蔵文化財調査研究センター 1994 『東北大大学理蔵文化財調査年報7』
- 東北大大学理蔵文化財調査研究センター 1997 『東北大大学理蔵文化財調査年報8』
- 東北大大学理蔵文化財調査研究センター 2000 『東北大大学理蔵文化財調査年報13』
- 東北大大学理蔵文化財調査研究センター 2005 『東北大大学理蔵文化財調査年報18』
- 豊島区教育委員会 1991 『染井町一東京都豊島区・染井遺跡(加賀美家地区)発掘調査の記録』
- 兵庫理蔵調査会 1996 『日本出土鉄鑄錬』
- 松本秀明・熊谷真樹 2010 『広瀬川中流域における完新世の河床高度変化に関する知見』 東北地理学会・北海道地理学会共催秋季学术大会発表要旨 『季刊地理学 Vol.63』
- 溝岡忠成か編 1981 『日本やきもの集成 6 近畿(Ⅱ)』 平凡社
- 宮城正俊 1982 『新説切込焼』 宝文堂
- 宮城県姓氏家系大辞典編纂委員会 1994 『宮城県姓氏家系大辞典』 角川書店
- 宮崎町文化財調査報告書第3集 1990 『切込窯跡』 宮城県文化財保護協会

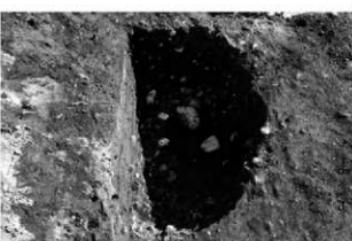
写真図版



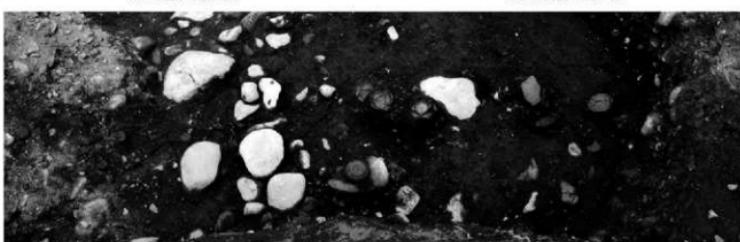
1.SD9 完掘（北から）



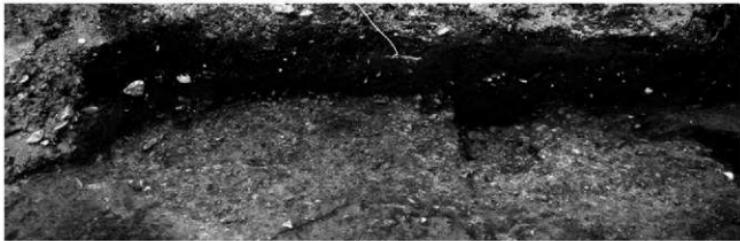
2.SD14 完掘（北から）



3.SX29 完掘（西から）

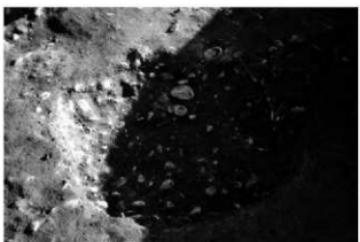


4.SX31 遺物出土状況（西から）

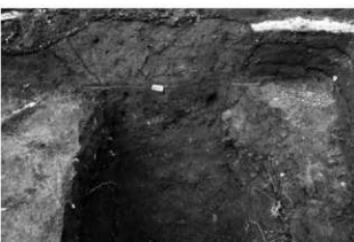


5.SX32 完掘（南から）

検出遺構写真



1.SX33 完掘（南から）



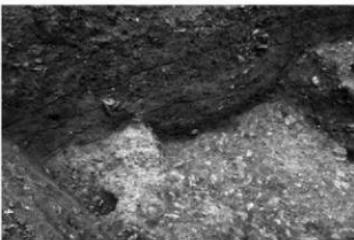
2.SX50 完掘（南から）



3.SX51 完掘（東から）



4.SX51 断面（西から）



4.SX51 断面（南から）



1.SA1 完掘（北から）



2.SB2・SB3 完掘（東から）



図版 4 駅部Ⅲ層上面 (2)



1.SD10 完體（西から）



2.SD10 断面（西から）



3.SD12 完體（西から）



4.SD12 断面（西から）



5.SK48 完體（西から）



6.SK48 遺物出土状況（西から）

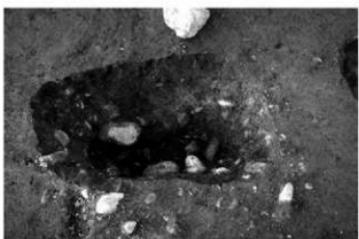
検出遺構写真



1.SK54 調査状況（西から）



2.SK55 完掘（西から）



3.SK56 完掘（南から）



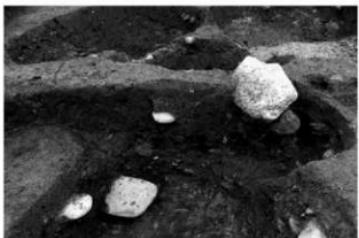
4.SK56 断面（南から）



5.SK58 調査状況（西から）



6.SK59 調査状況（東から）



7.SK60 調査状況（東から）



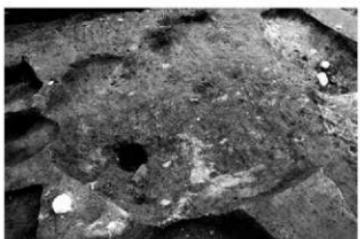
8.SK62 完掘（北から）



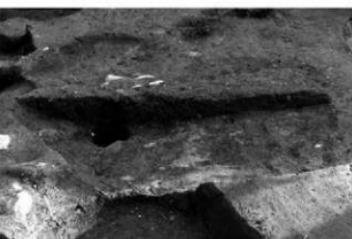
1.SK63 調査状況（南西から）



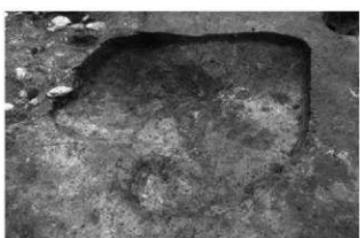
2.SK63 断面（南から）



3.SK65 調査状況（北から）



4.SK65 断面（北から）



5.SK66 完整（北から）



6.SK66 断面（北から）



7.SK68 完整（西から）



8.SK68 断面（西から）

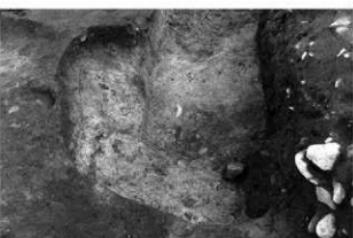
検出遺構写真



1.SK67 調査状況（南から）



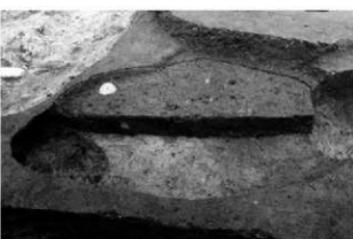
2.SK67 断面（南から）



3.SK69 調査状況（西から）



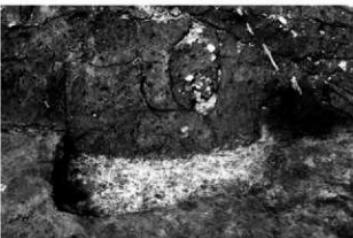
4.SK70 調査状況（南から）



5.SK71 調査状況（南から）



6.SK72 調査状況（西から）



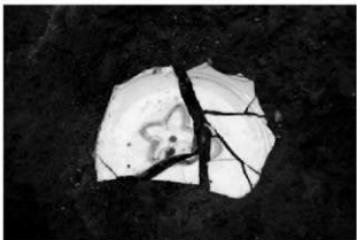
7.SK73 調査状況（南から）



1.SX22 調査状況（北西から）



2.SX22 断面（東から）



3.SX22 遺物出土状況（南から）



4.SX22 遺物出土状況（南から）

検出遺構写真



1.5X23 調査状況（東から）



2.5X34 調査状況（南から）



3.5X37 遺物出土状況（南から）



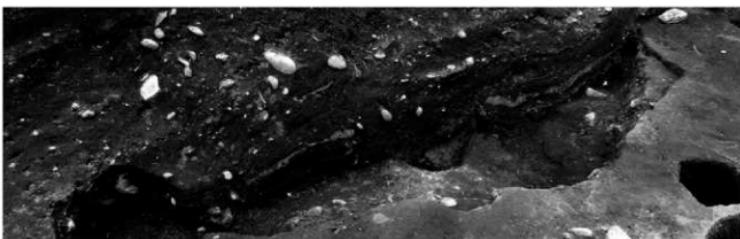
4.5X37 堆積状況（南から）



1.SX61 調査状況（東から）



2.SX62 完掘（南から）



3.SX63 完掘（北から）



4.SX63 遺物出土状況（東から）



5.SX63 断面（東から）



6.SX63 遺物出土状況（東から）

検出遺構写真



1.5D3 北側完掘（南から）



2.5D3 南側完掘（南から）



3.5D3 木材検出（北から）



1.SD3・SD4 完掘 (北から)



2.SD4 石組検出 (南から)

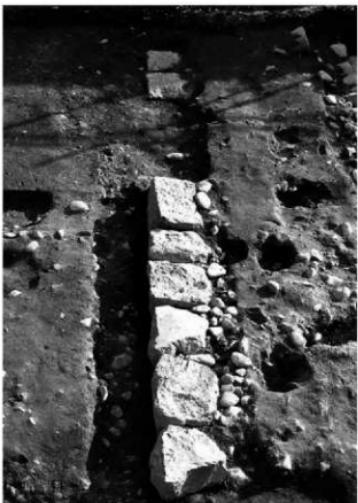


3.SD4 断面 (南から)



4.SD4 断面 (東から)

検出遺構写真



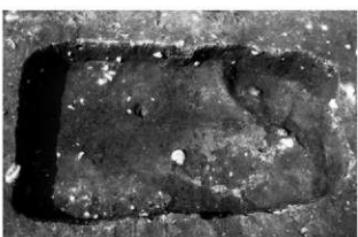
1.SD6 完壁 (北から)



2.SD6 断面 (南から)



3.SD6 石組 (東から)



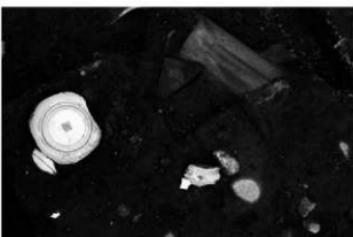
4.SK1 完壁 (南から)



5.SK1 断面 (南から)



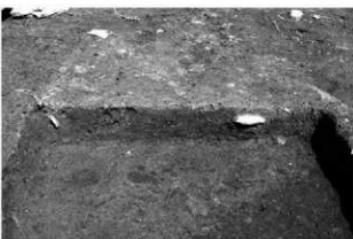
6.SK1 遺物出土状況 (南から)



7.SK1 遺物出土状況 (北から)



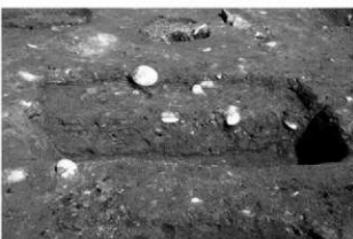
1.SK2 完掘 (南から)



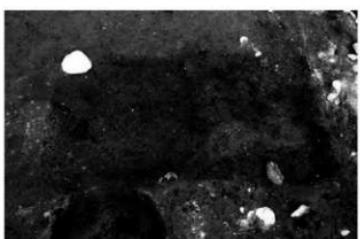
2.SK2 断面 (南から)



3.SK3 完掘 (南から)



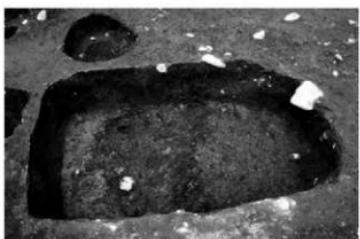
4.SK3 断面 (南から)



5.SK4 完掘 (南から)



6.SK4 断面 (南から)

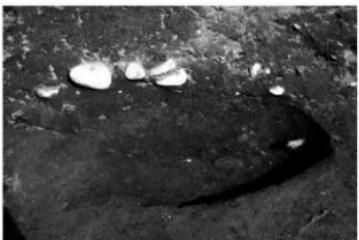


7.SK5 完掘 (北から)



8.SK5 断面 (北から)

検出遺構写真



1.SK6 完掘 (南から)



2.SK7 完掘 (南から)



3.SK7 断面 (南から)



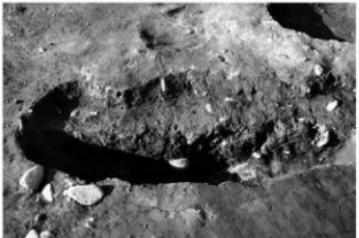
4.SK9 完掘 (西から)



5.SK9 断面 (西から)



6.SK10 完掘 (南から)



7.SK10 断面 (南から)



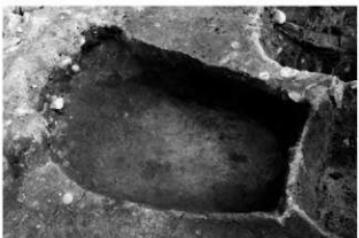
8.SK11 完掘 (南から)



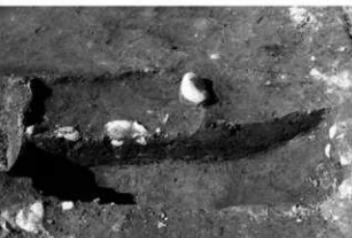
1.SK12 完掘（西から）



2.SK12 断面（南から）



3.SK14 完掘（南から）



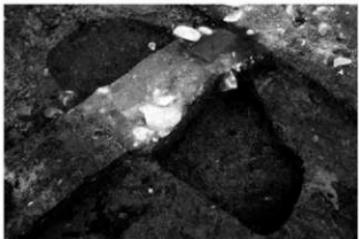
4.SK14 断面（南から）



5.SK15 完掘（北から）



6.SK15 断面（南東から）

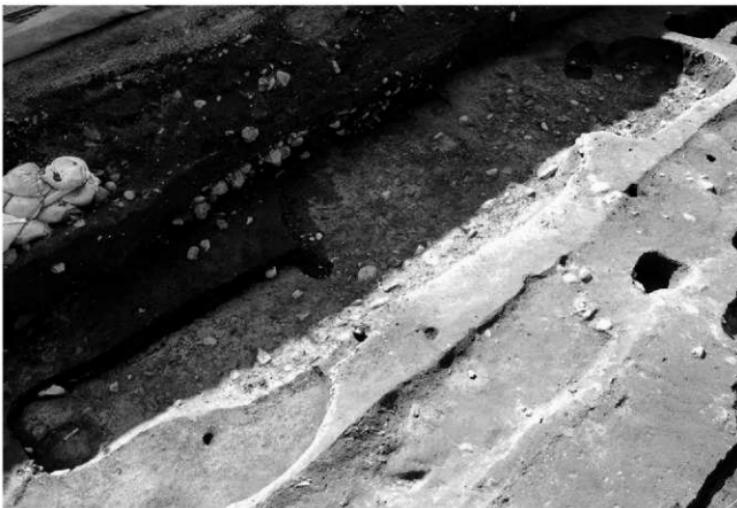


7.SK18 完掘（北西から）



8.SK18 断面（西から）

検出遺構写真



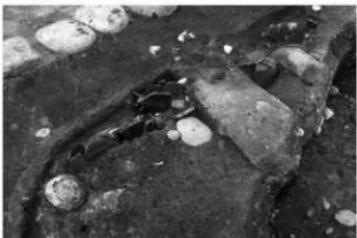
1.SK17 完整 (南西から)



2.SK17・SK18 断面 (東から)



3.SK17 断面 (東から)



4.SK19 完整 (南から)



5.SK19 断面 (西から)



1.SK22 完掘 (西から)



2.SK22 断面 (西から)



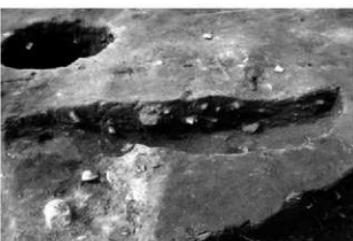
3.SK23 完掘 (南から)



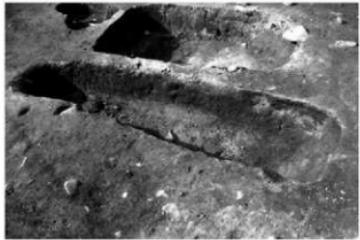
4.SK23 断面 (南から)



5.SK25 完掘 (北から)



6.SK25 断面 (東から)

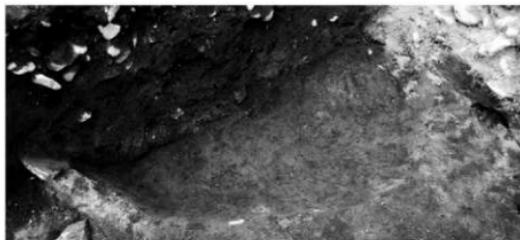


7.SK27 完掘 (南東から)



8.SK27 断面 (西から)

検出遺構写真



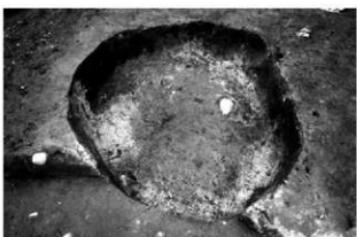
1.SK28 完掘（南から）



2.SK30 完掘（北から）



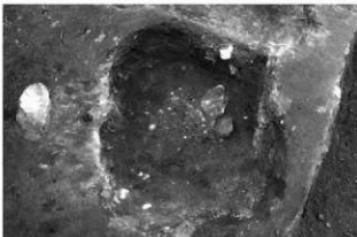
3.SK30 断面（西から）



4.SK31 完掘（南から）



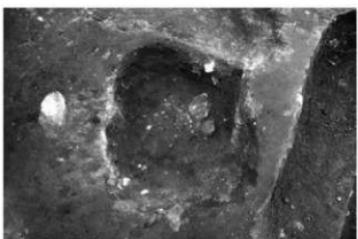
5.SK31 断面（南西から）



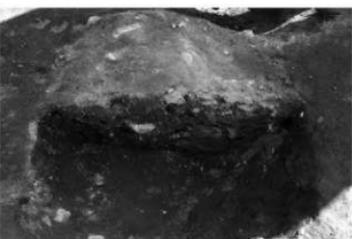
6.SK32 完掘（東から）



7.SK32 断面（東から）



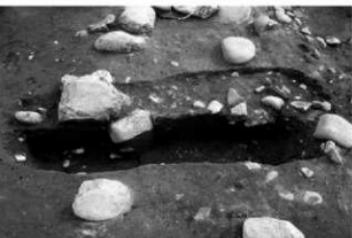
1.SK33 完観（東から）



2.SK33 断面（東から）



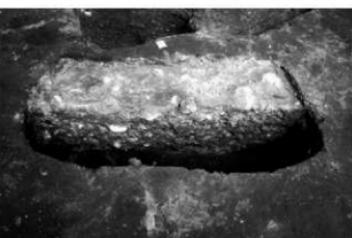
3.SK34 完観（北から）



4.SK34 断面（東から）



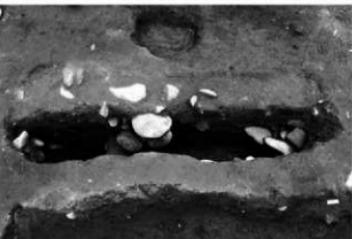
5.SK35 完観（東から）



6.SK35 断面（北から）



7.SK36 完観（東から）



8.SK36 断面（北から）

検出遺構写真



1.SK37 完施 (南から)



2.SK37 断面 (西から)



3.SK37 断面 (南から)



4.SK37 遺物出土状況



1.SK40 完掘 (東から)



2.SK40 断面 (東から)



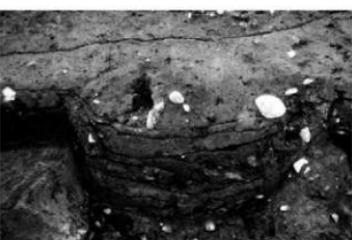
3.SK46 完掘 (西から)



4.SK46 断面 (西から)



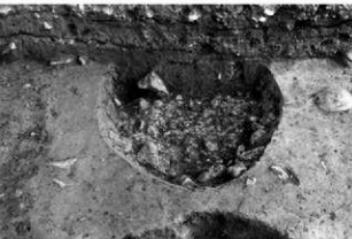
5.SK47 完掘 (東から)



6.SK50 断面 (北から)



7.SK51 完掘 (南から)



8.SK52 完掘 (南から)

検出遺構写真



1.SK75 完掘（北から）



2.SK76 完掘（北から）

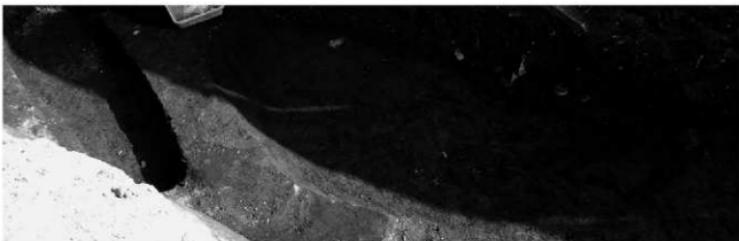


1.SK77 完璧（東から）

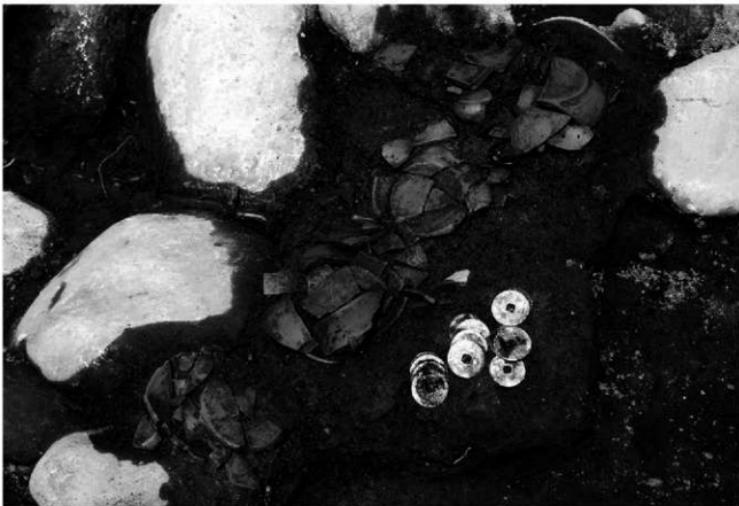


2.SK77 検出・遺物出土状況（北から）

検出遺構写真



1.SK78 完璧（北から）



2.SN1 遺物出土状況（南から）



3.SN1 遺物出土状況（南から）



4.SN1 遺物出土状況（南から）



1.SN2 遺物出土状況(東から)



2.SN2 遺物出土状況(東から)

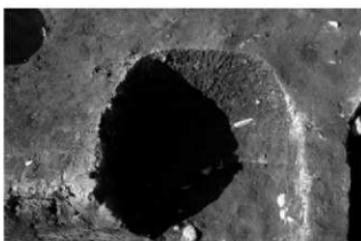
検出遺構写真



1.5X2 完掘 (北から)



2.5X4 完掘 (南から)



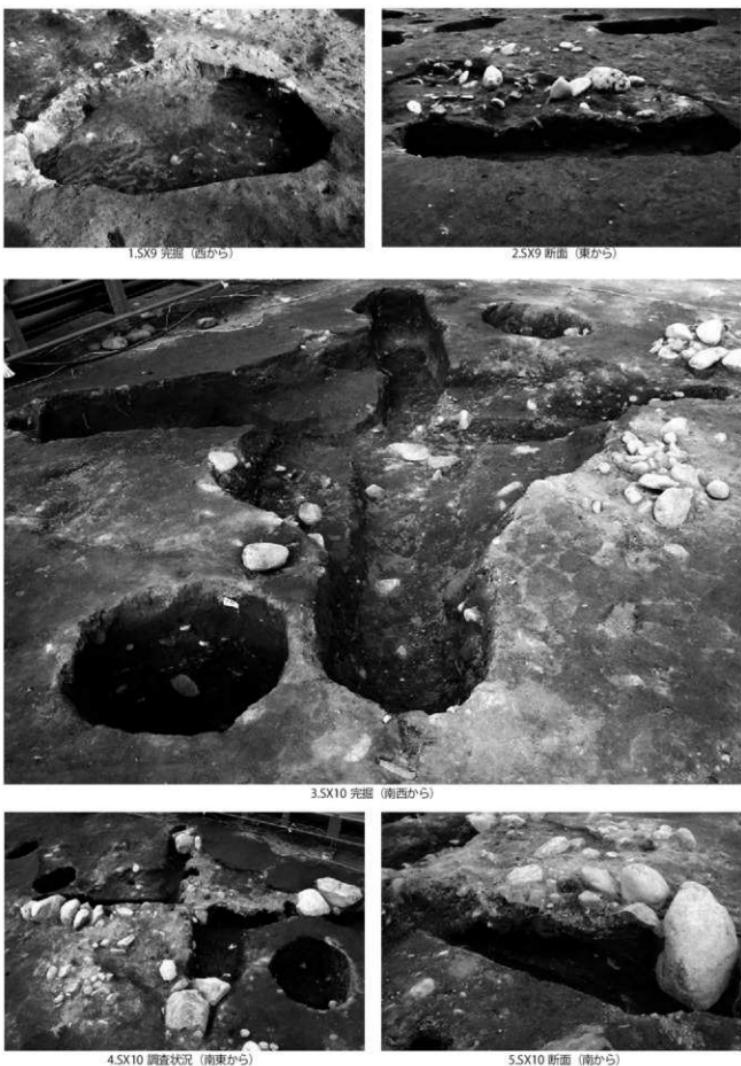
3.5X5 完掘 (南から)



4.5X6 完掘 (南から)

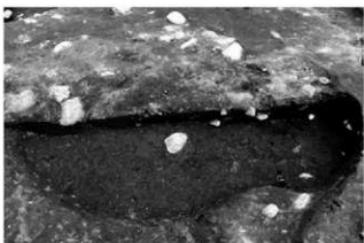


5.5X7 完掘 (南から)



図版 29 駅部 II 層上面 (18)

検出遺構写真



1.5X12 調査状況（西から）



2.5X12 調査状況（南から）



3.5X14 調査状況（南から）



4.5X14 調査状況（北から）



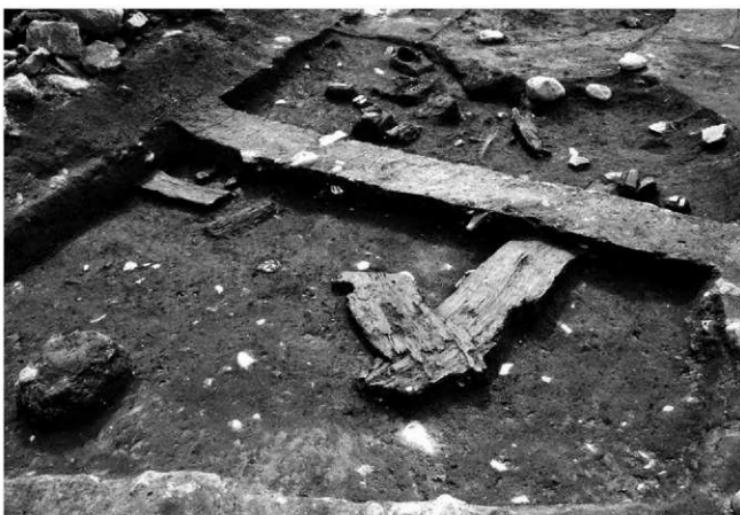
5.5X14 調査状況（南から）



6.5X15 遺物出土状況



7.5X15 遺物出土状況



1.5X15 遺物出土状況（北東から）

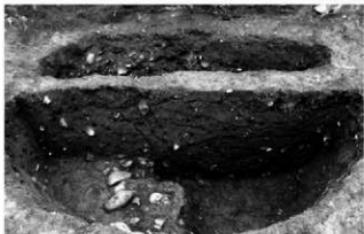


2.5X19 検出（南から）

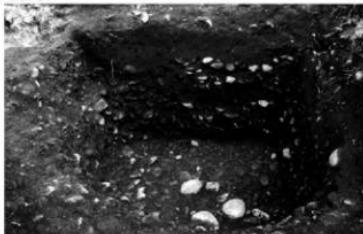
検出遺構写真



1.SX26 完壁 (北から)



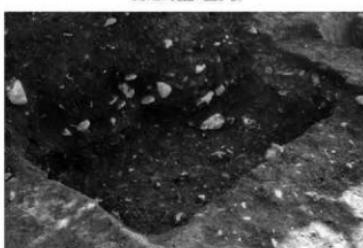
2.SX26 断面 (東から)



3.SX27 完壁 (西から)



4.SX28 完壁 (西から)



5.SX35 完壁 (北東から)



1.SX36 完掘 (南から)



2.SX38 完掘 (北から)



3.SX39 完掘 (東から)

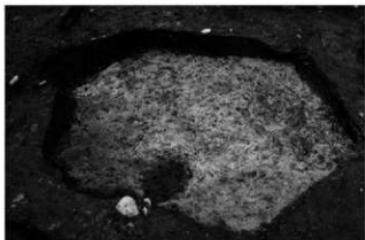


4.SX39 断面 (南から)



5.SX41 完掘 (南から)

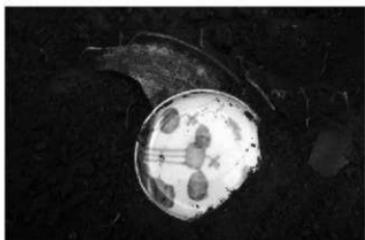
検出遺構写真



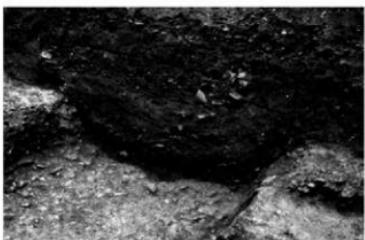
1.5X42 完壁 (西から)



2.5X43 検出 (西から)



3SX49 遺物出土状況 (北から)



4.5X49 断面 (北から)



5.5X49 完壁 (西から)



1.SX56 完施（東から）

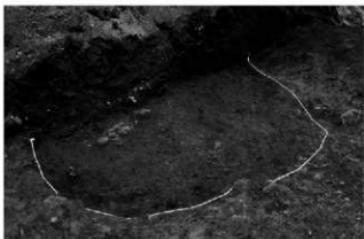


2.SX56 地鎮遺構位置関係（西から）

検出遺構写真



1.SX57 完壁 (南から)



2.SX64 検出 (北から)

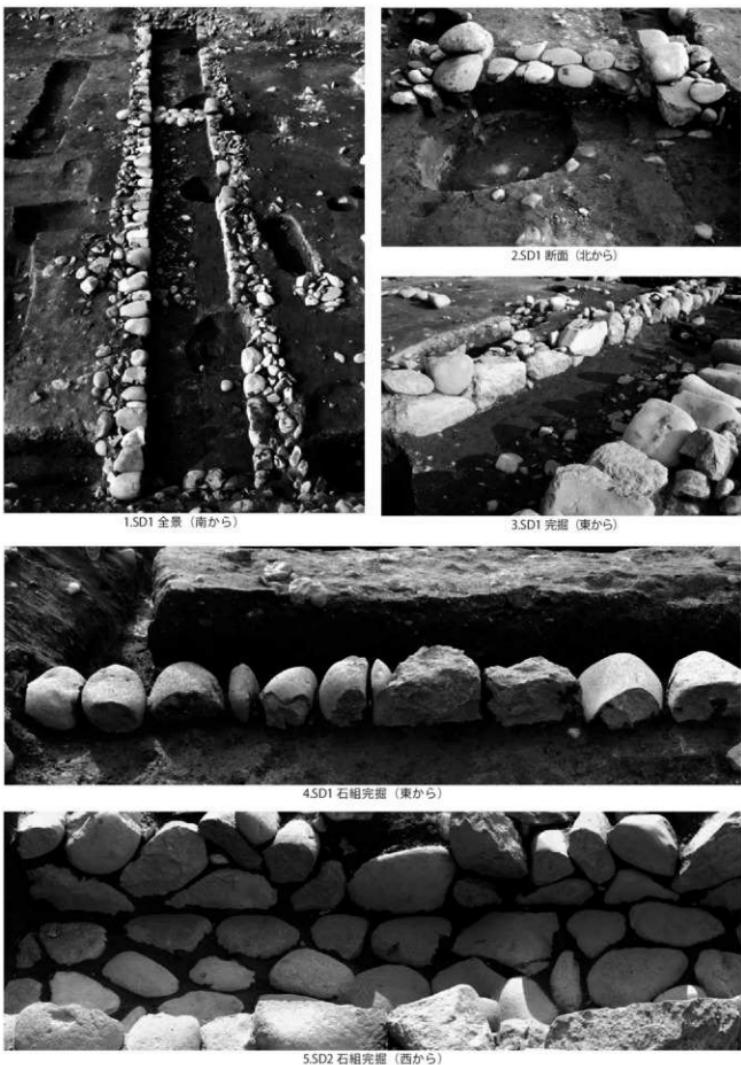


3.SX64 断面 (北から)



4.SB1 全景 (東から)

図版 36 駅部 II 層上面 (25)・駅部 I 層上面 (1)



図版 37 駅部Ⅰ層上面(2)

検出遺構写真



T.SD2 全景（南東から）



2.SD15 全景（東から）



TSD16 全景（西から）

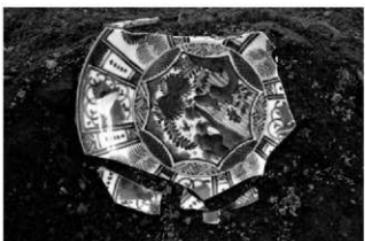


2SD15・16 全景（北西から）

検出遺構写真



1SK74 完掘（北から）



2.SK74 遺物出土状況



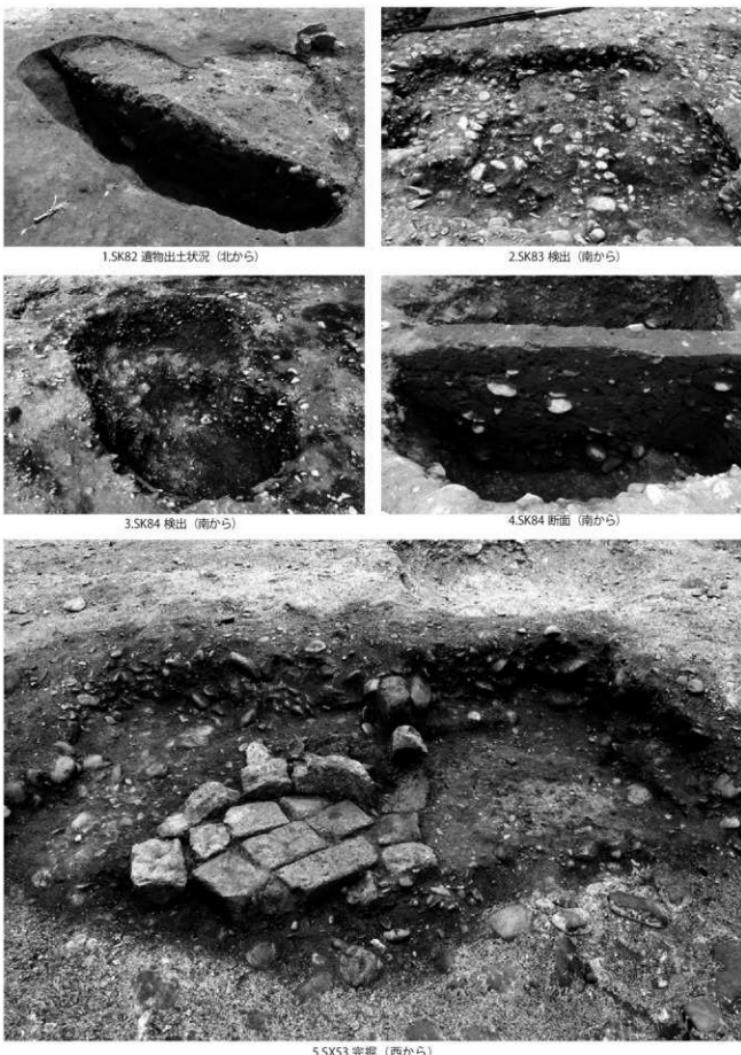
3.SK80 検出（南から）



4.SK80 遺物出土状況



5.SK81 検出（南から）

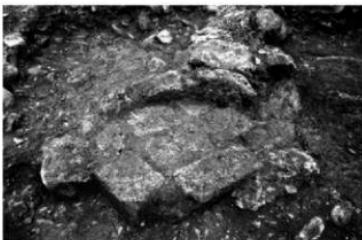


図版 41 駅部Ⅰ層上面(6)

検出遺構写真



1.SX53 遺物出土状況（南から）



2.SX53 検出（東から）



3.SX54 完壁（北から）



4.SX54 断面（北から）



5.SX54 断面（東から）



1.SX58 棚出（南東から）



2.SX58 断面（西から）



3.SX60 完壁（西から）



4.SX60 断面（南から）

検出構造写真



1. 調査区全景（西から）



1. 説明会風景



2. 説明会風景



3. 説明会風景



4. 調査風景(西から)

検出遺構写真



1. 交番部噴水検出（北東から）



2. 交番部噴水検出（南から）



1. 交番部噴水底面完掘（東から）



2. SE1 挖出（西から）



2. SE1 完掘（東から）

検出遺構写真



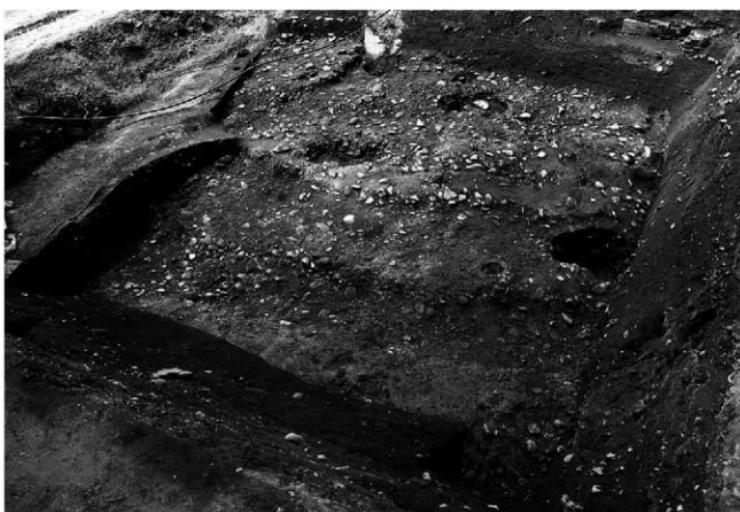
I.SE1 石組（西から）



2.SE1 断面（東から）



1. 交番部調査区全景（東から）



2. 大銀杏部完掘（東から）

検出遺構写真



1. 大銀杏部遺物出土状況（北から）



2. 大銀杏部遺物出土状況



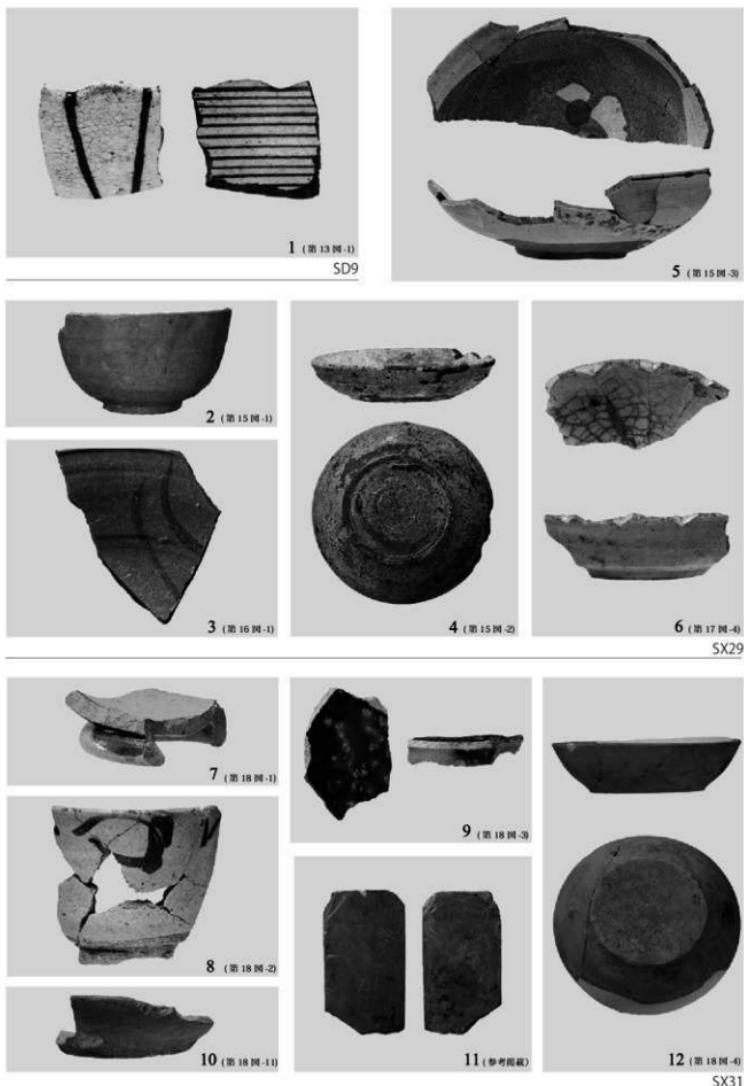
3. 大銀杏部遺物出土状況



4. 大銀杏部遺物出土状況

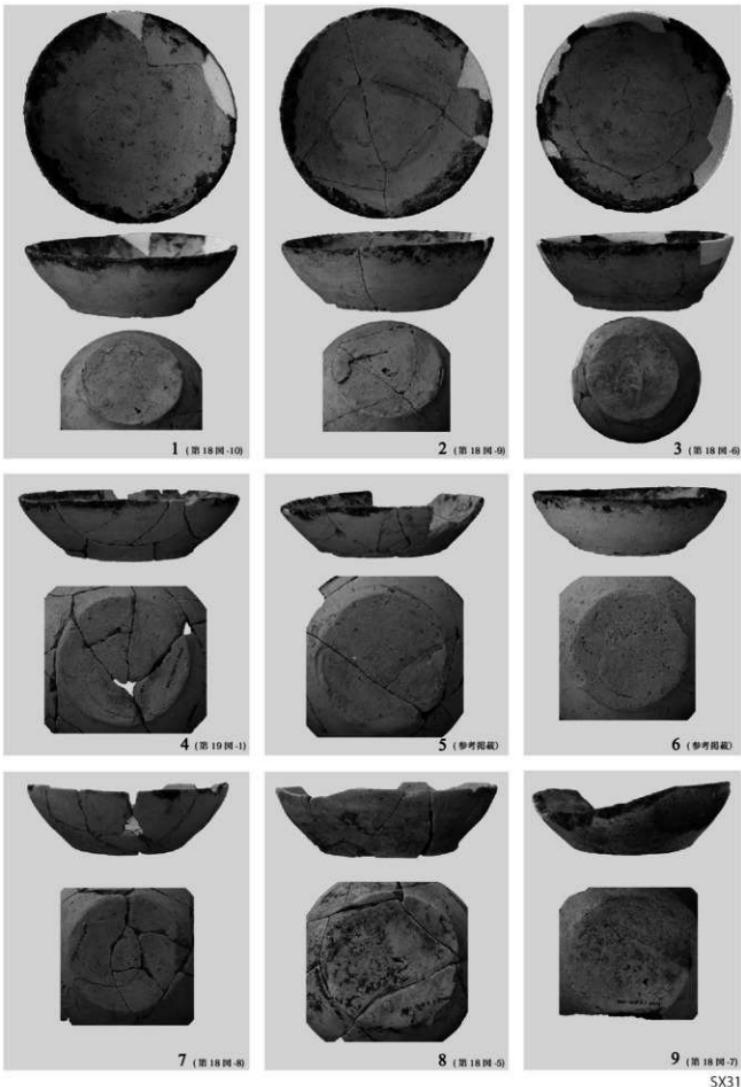


4. 大銀杏部遺物出土状況

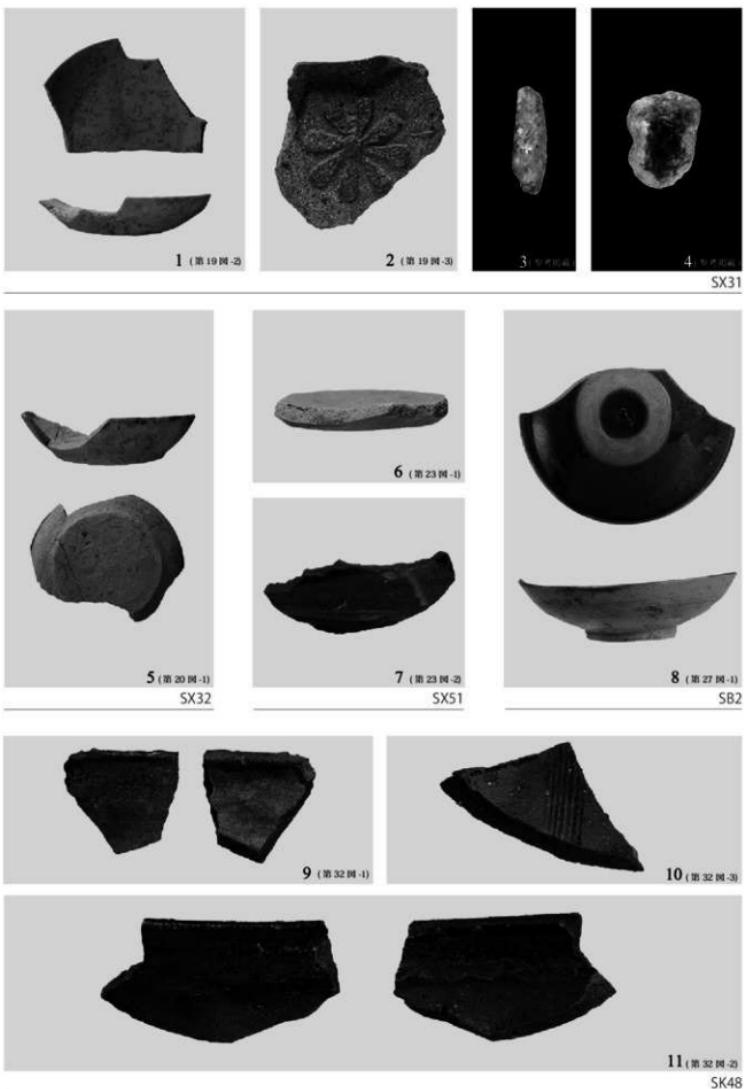


図版 51 駅部IV a 層上面遺構出土遺物 (1)

出土遺物写真

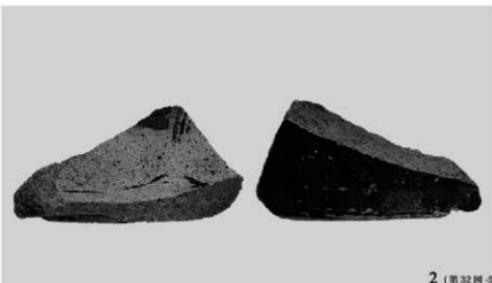


図版 52 駅部IV a 層上面遺構出土遺物 (2)

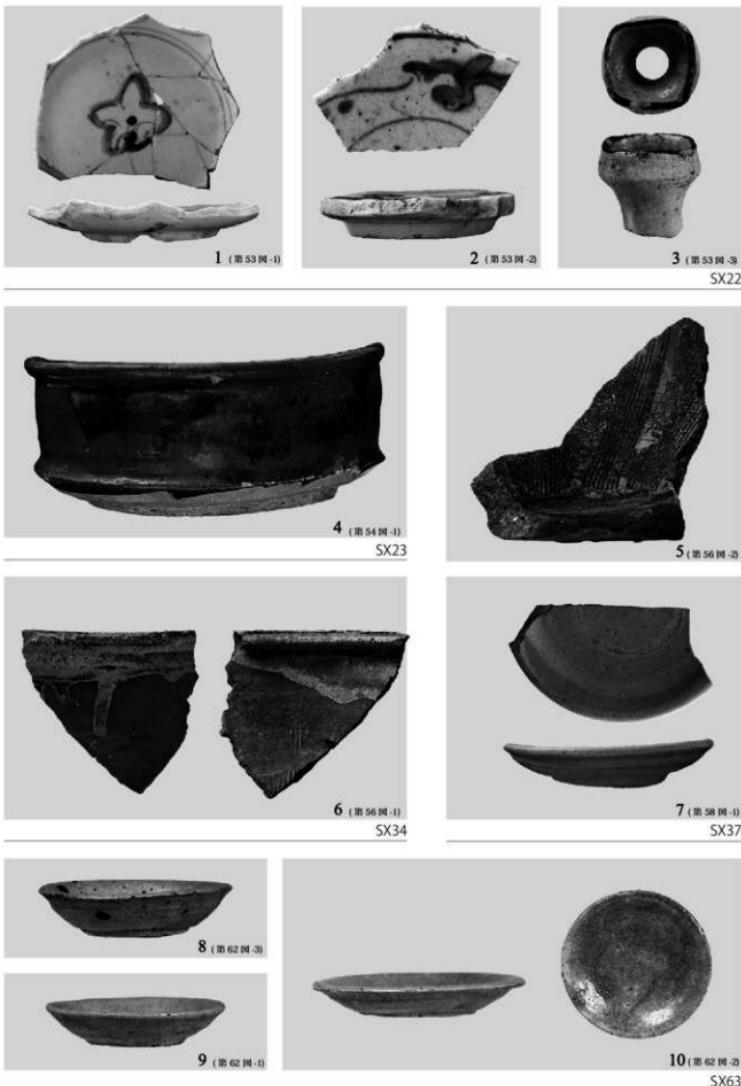


図版 53 駅部IV a層上面遺構出土遺物(3)・III層上面遺構出土遺物(1)

出土遺物写真

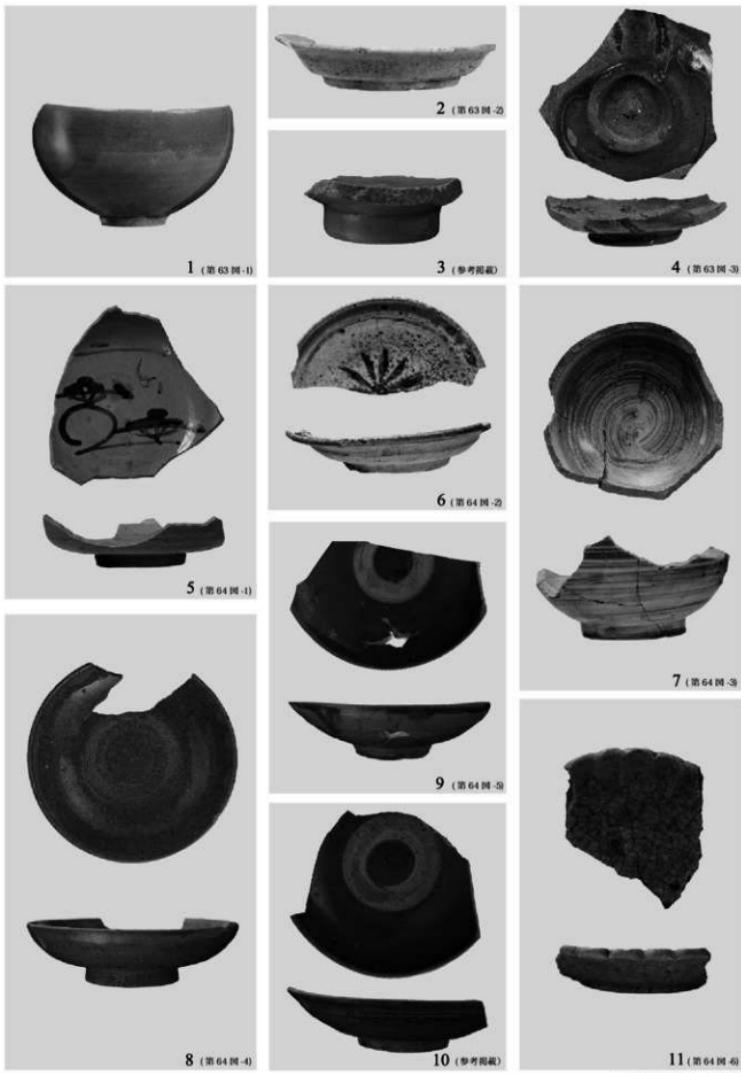


図版 54 駅部Ⅲ層上面遺構出土遺物 (2)



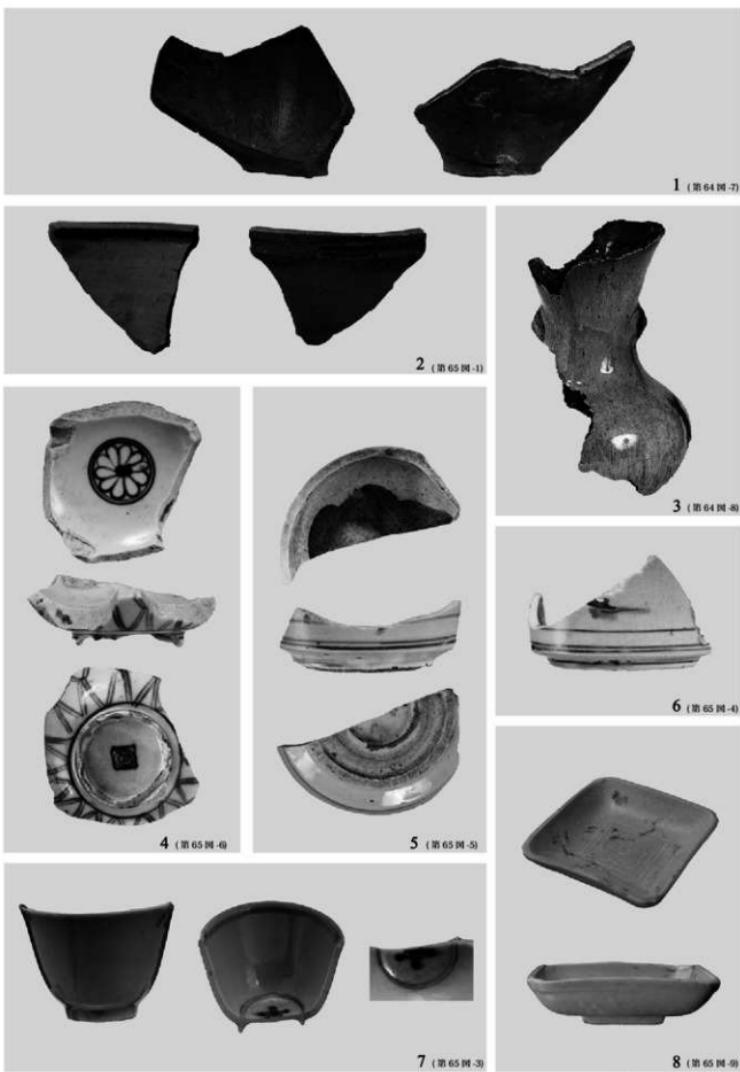
図版 55 駅部Ⅲ層上面遺構出土遺物(3)

出土遺物写真



三層道構外出土遺物

図版 56 駅部Ⅲ層遺構外出土遺物(1)

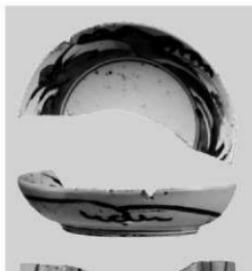


図版 57 駅部 III 層遺構外出土遺物 (2)

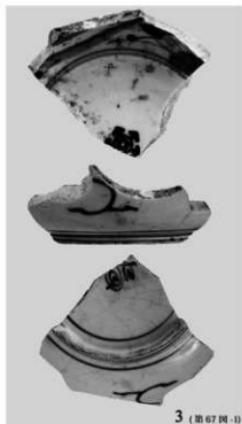
出土遺物写真



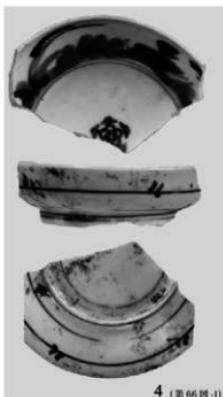
1 (第65図-2)



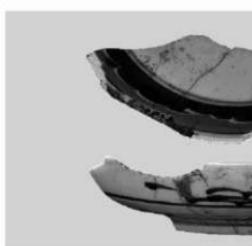
2 (第66図-2)



3 (第67図-1)



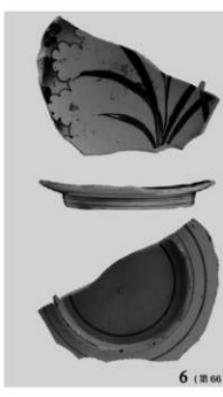
4 (第66図-1)



5 (第66図-6)



III層遺構外出土遺物
8 (第66図-6)

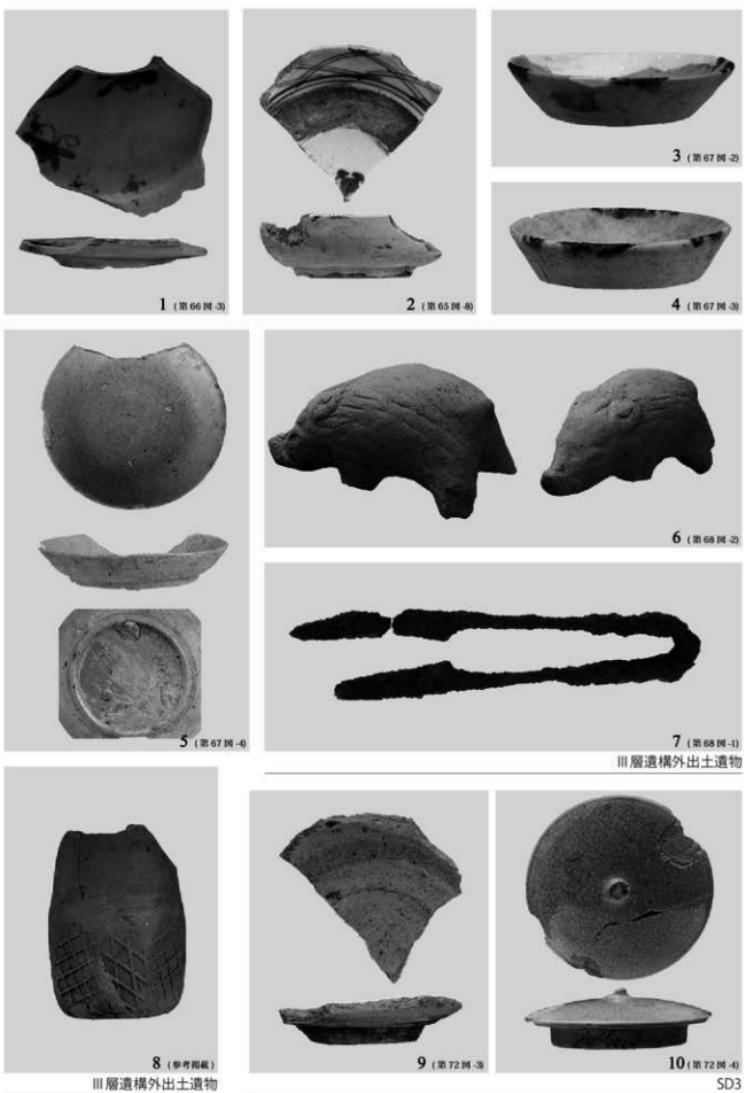


6 (第66図-5)



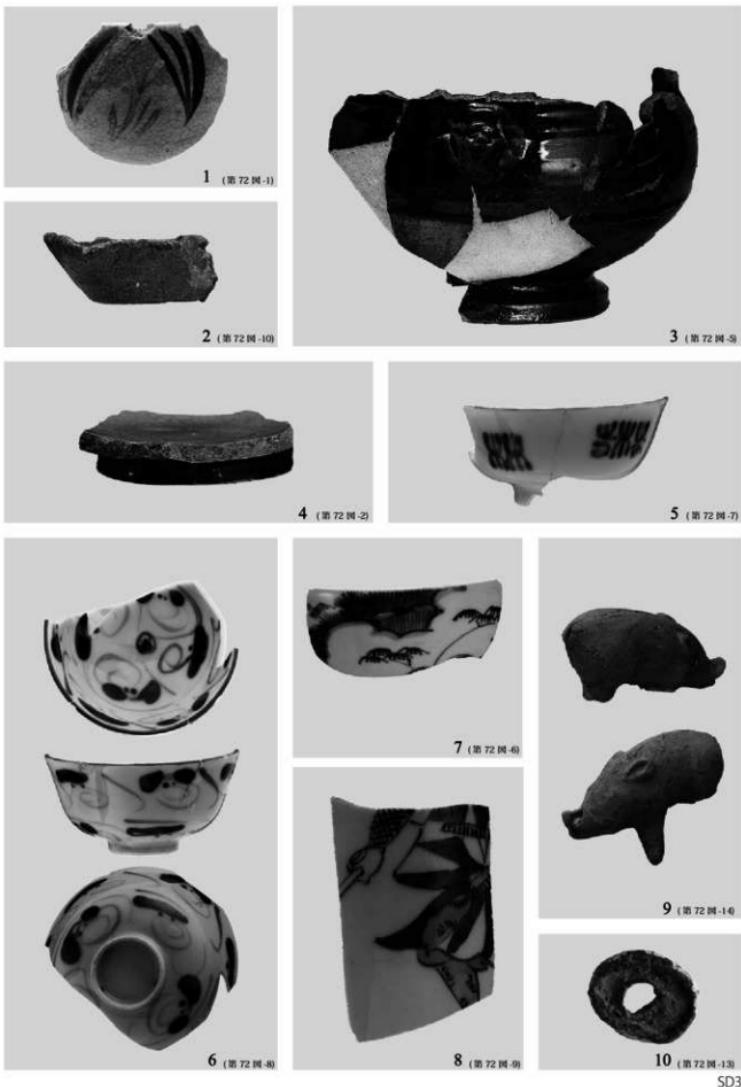
7 (第65図-7)

図版 58 駅部Ⅲ層遺構外出土遺物 (3)

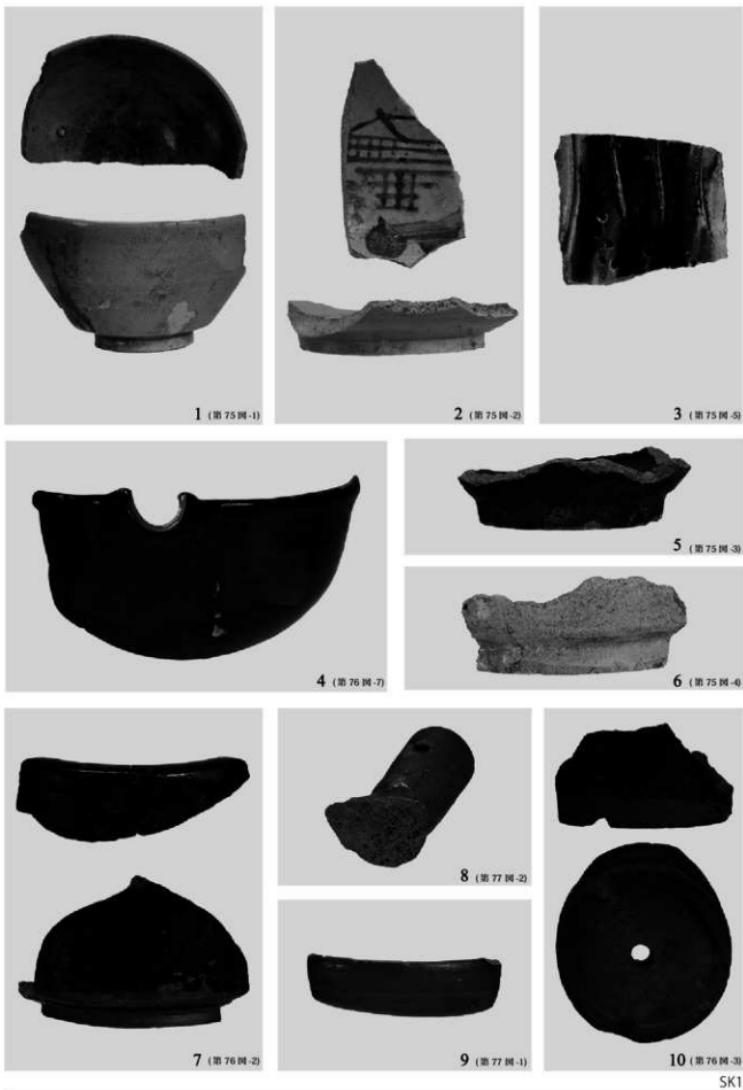


図版 59 駅部III層遺構外出土遺物(4)・II層上面遺構出土遺物(1)

出土遺物写真



図版 60 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (2)

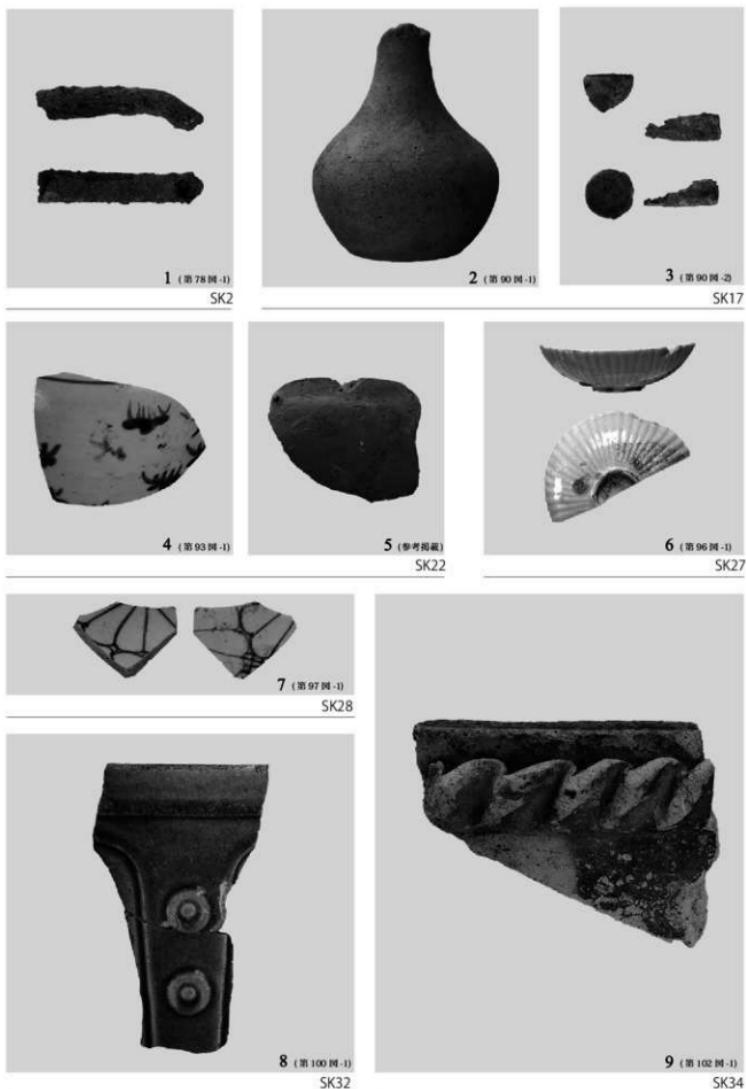


図版 61 駅部II層上面遺構出土遺物(3)

出土遺物写真



図版 62 駅部 II 層上面遺構出土遺物(4)

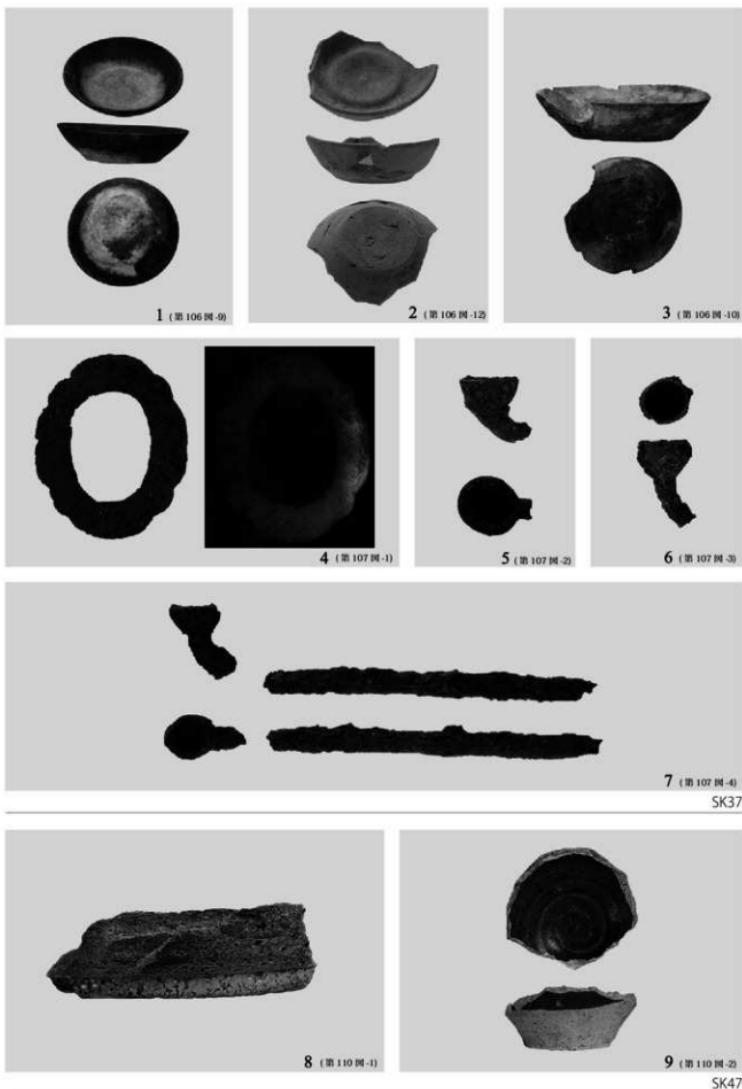


図版 63 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (5)

出土遺物写真

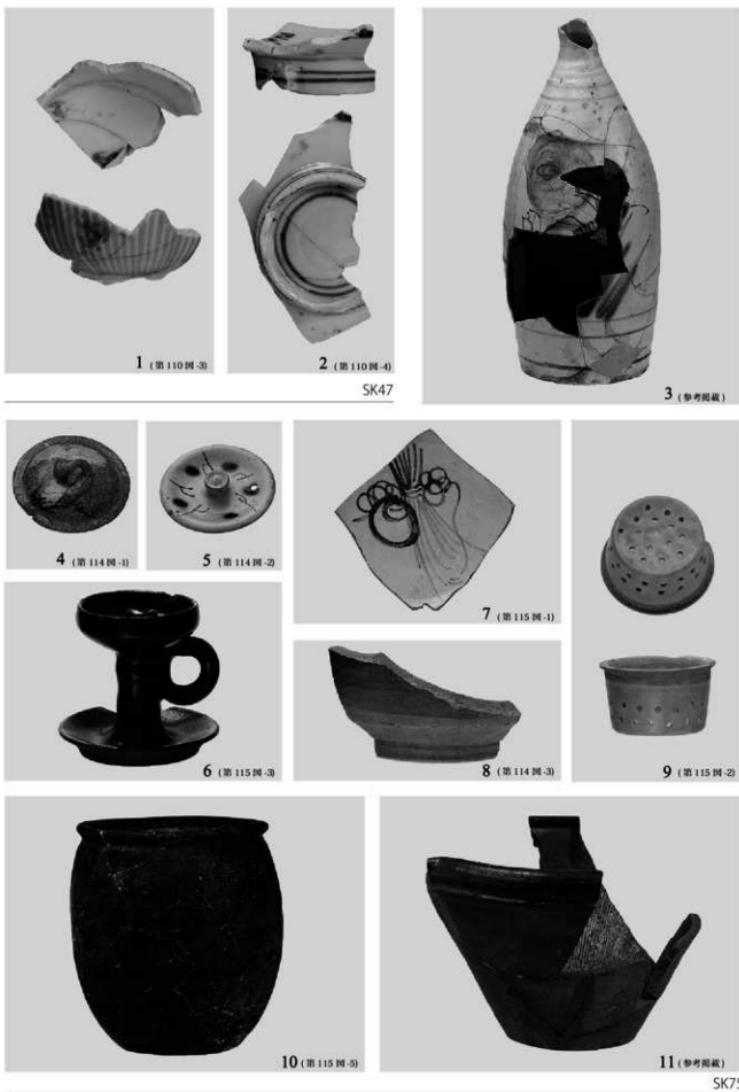


図版 64 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (6)



図版 65 駅部 II 層上面遺構出土遺物(7)

出土遺物写真



図版 66 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (8)

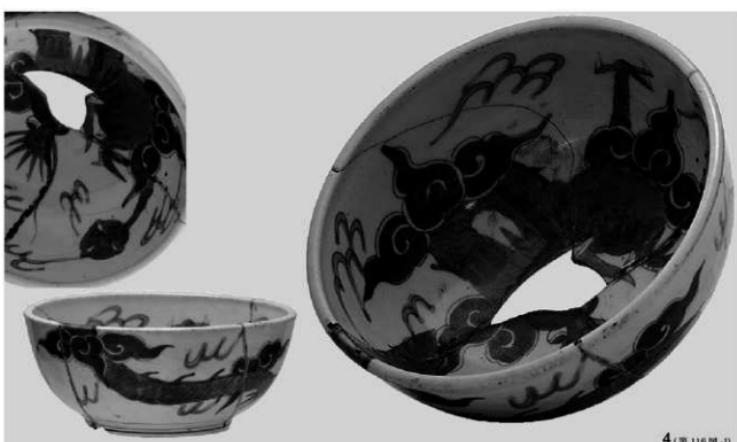


1 (第 117 図-1)



2 (第 115 図-7)

3 (第 116 図-5)



4 (第 116 図-1)
SK75

出土遺物写真



1 (第116図-2)



2 (第116図-3)



3 (第116図-4)



4 (第115図-8)



5 (第115図-6)



6 (第117図-4)



7 (第117図-3)



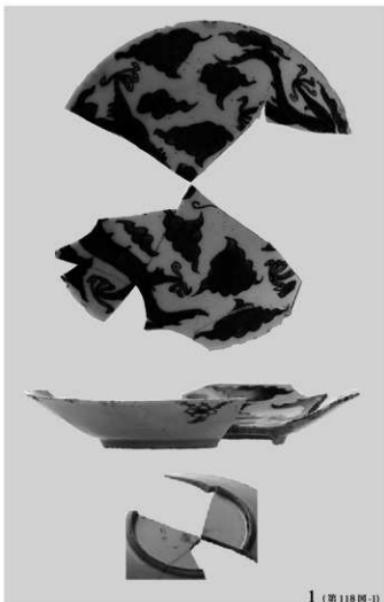
8 (第115図-4)



9 (参考図)

SK75

図版 68 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (10)



1 (第118図-1)



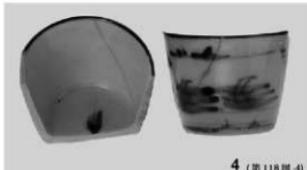
2 (第118図-2)



3 (第118図-3)



5 (第117図-2)



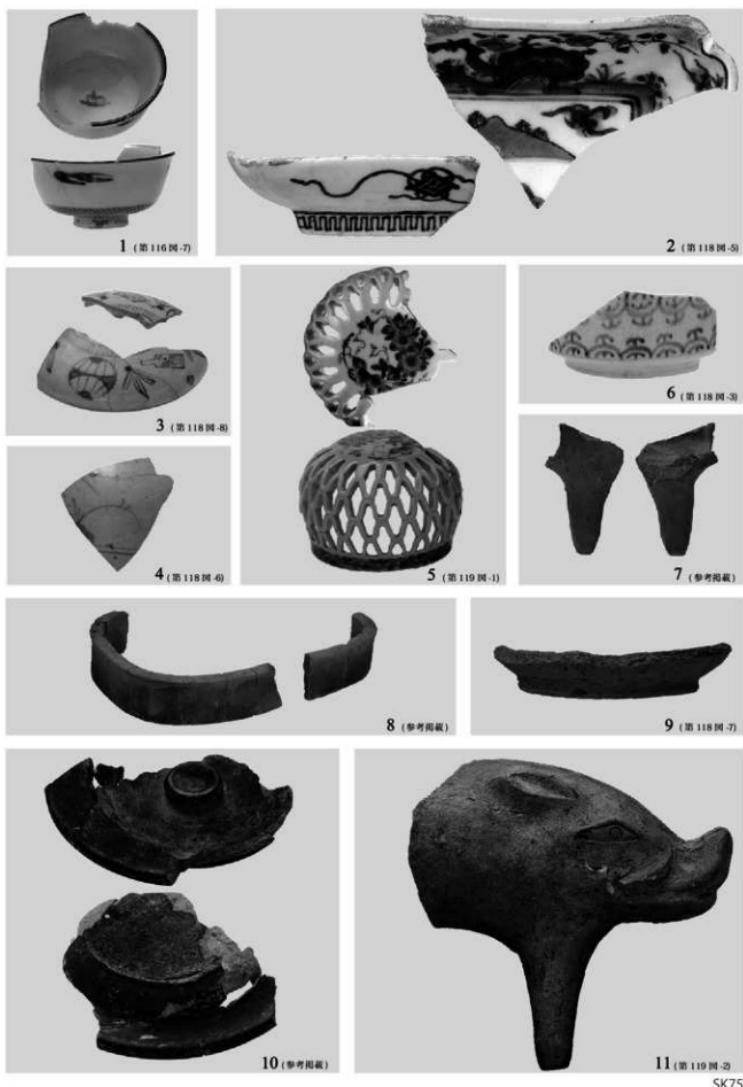
4 (第118図-4)



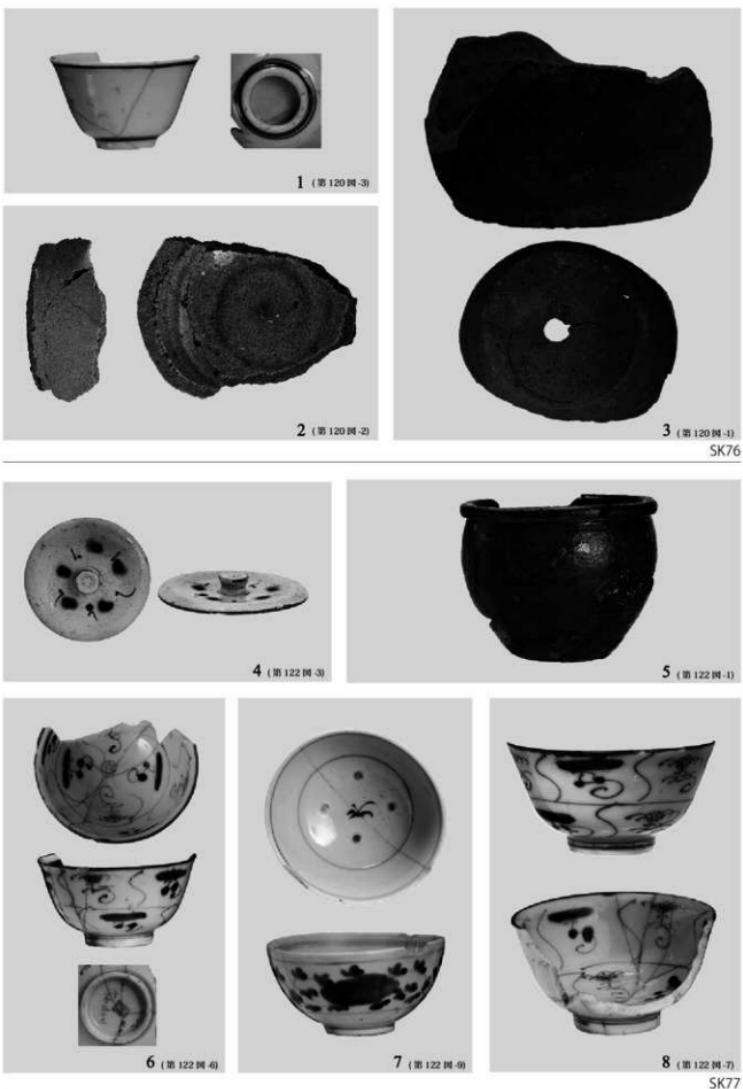
6 (第116図-4)

SK75

出土遺物写真



図版 70 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (12)

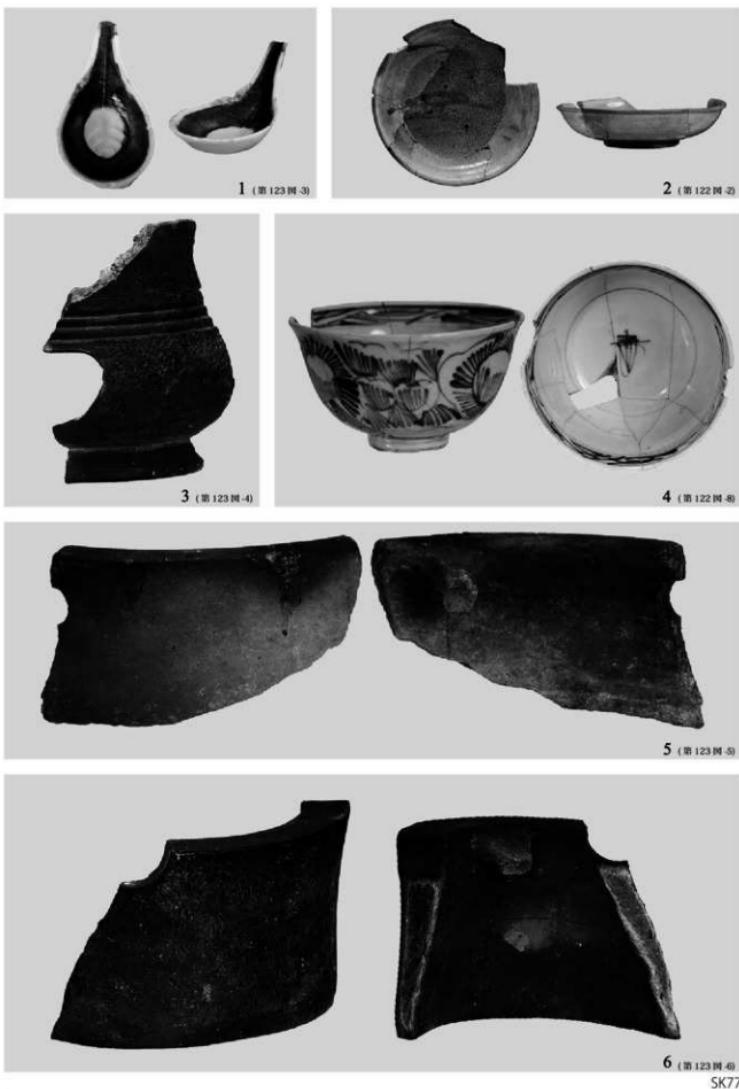


図版 71 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (13)

出土遺物写真

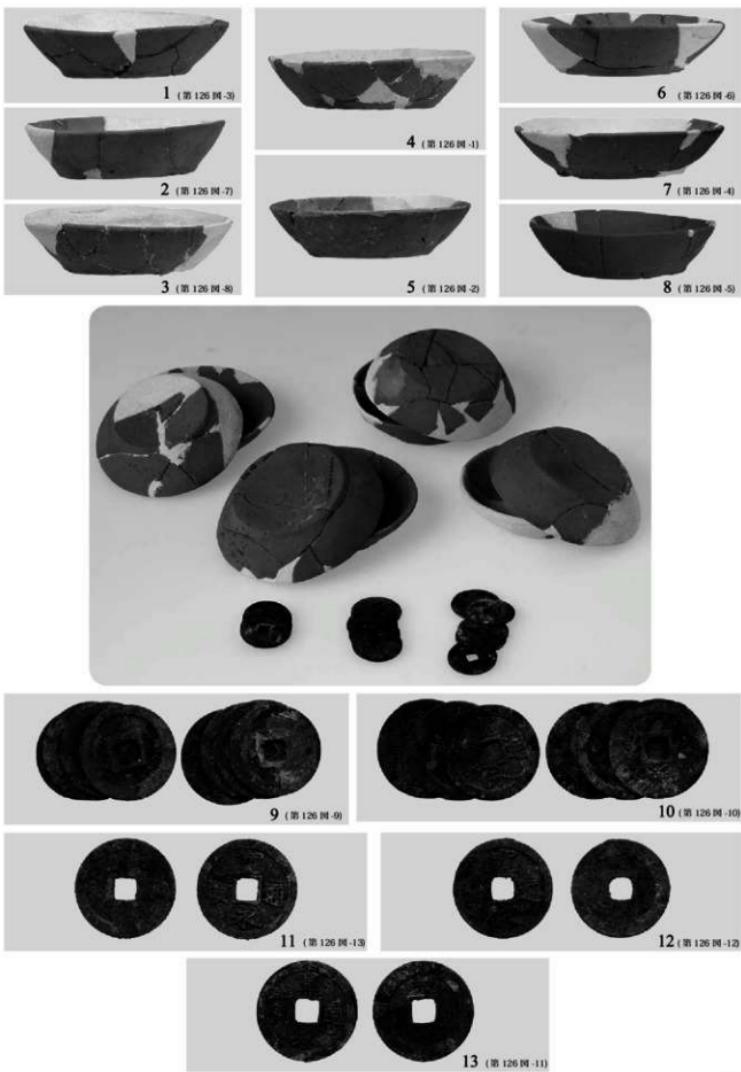


図版 72 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (14)

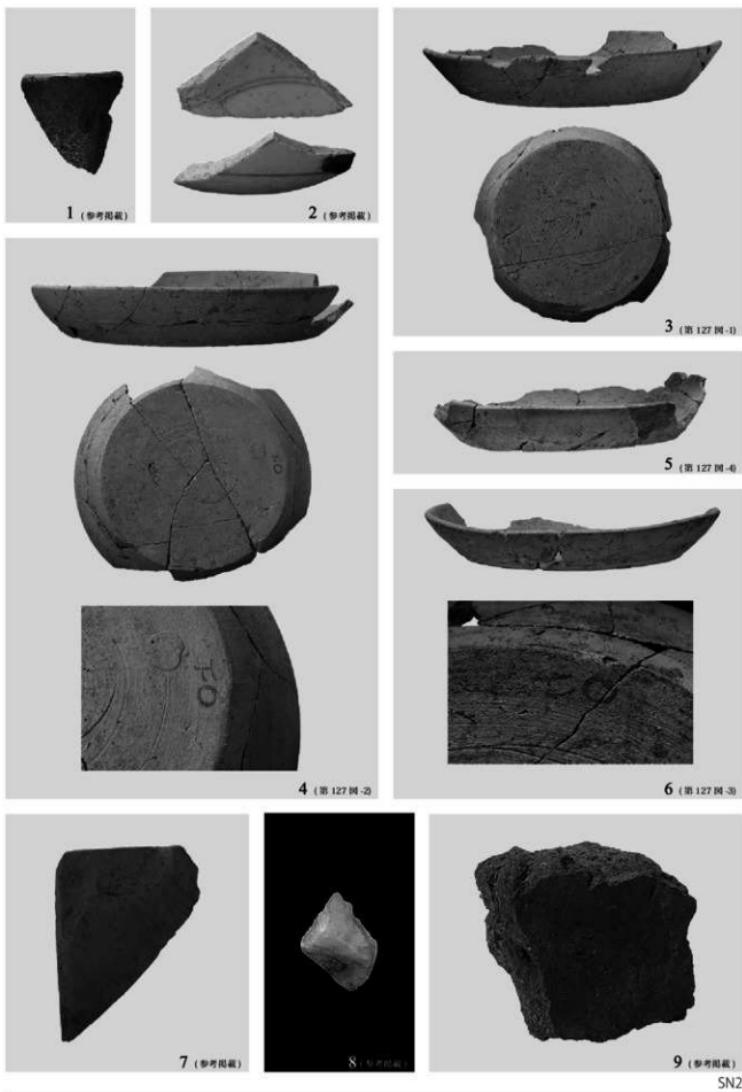


図版 73 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (15)

出土遺物写真

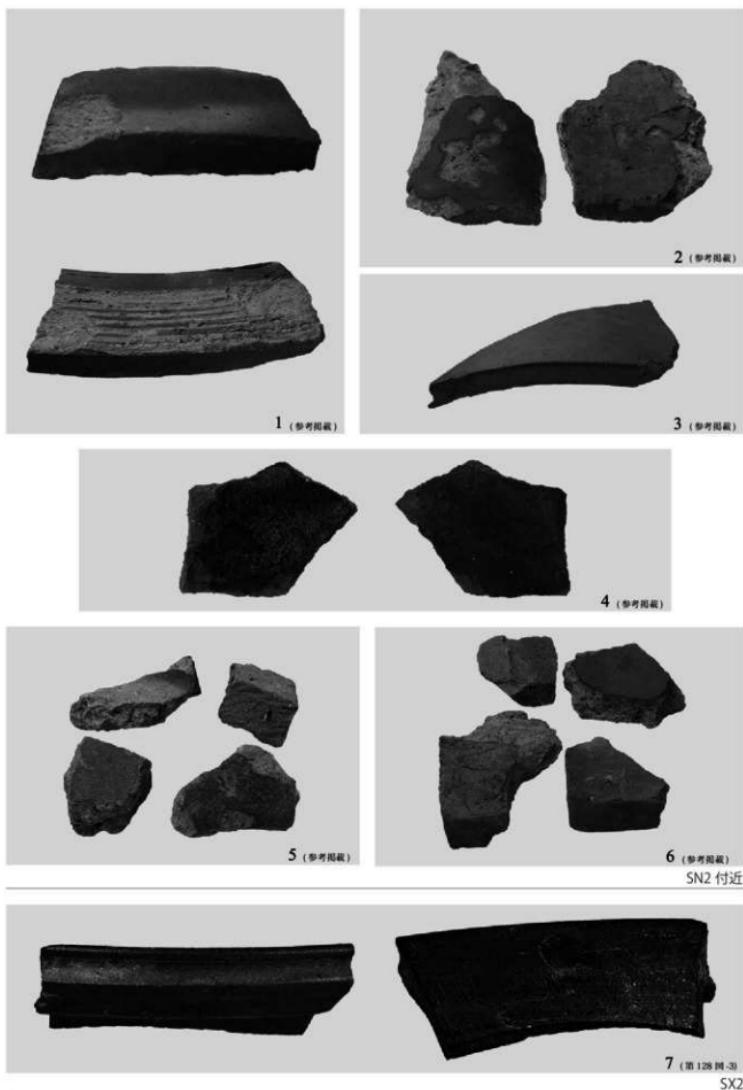


図版 74 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (16)

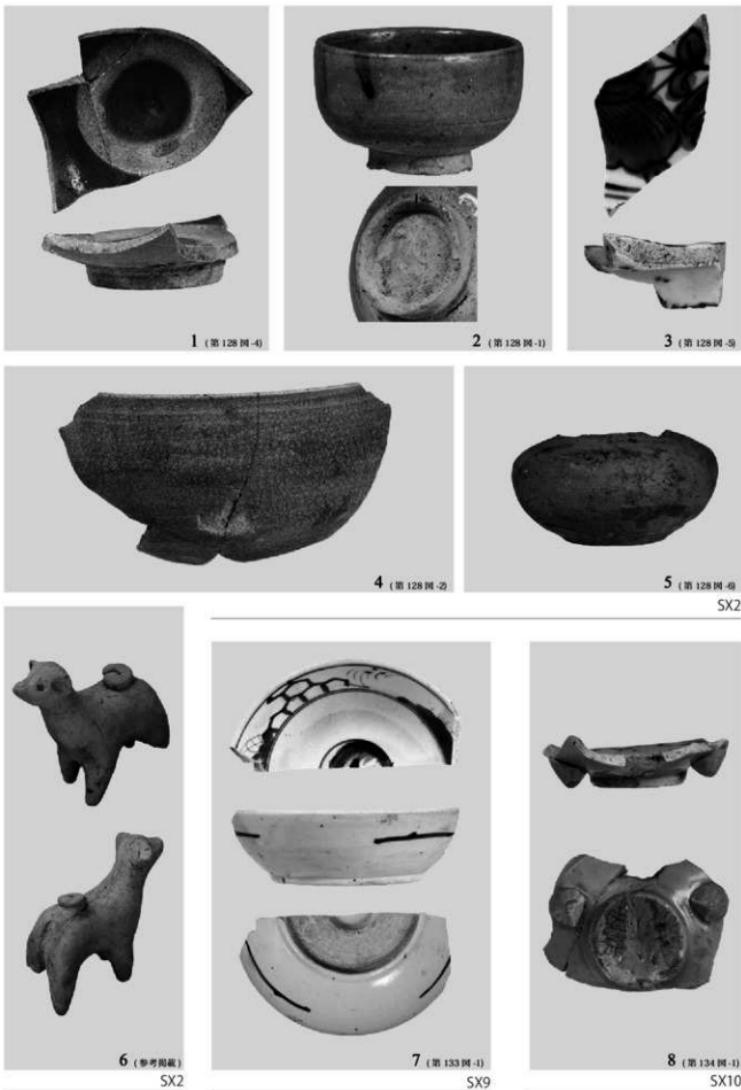


図版 75 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (17)

出土遺物写真

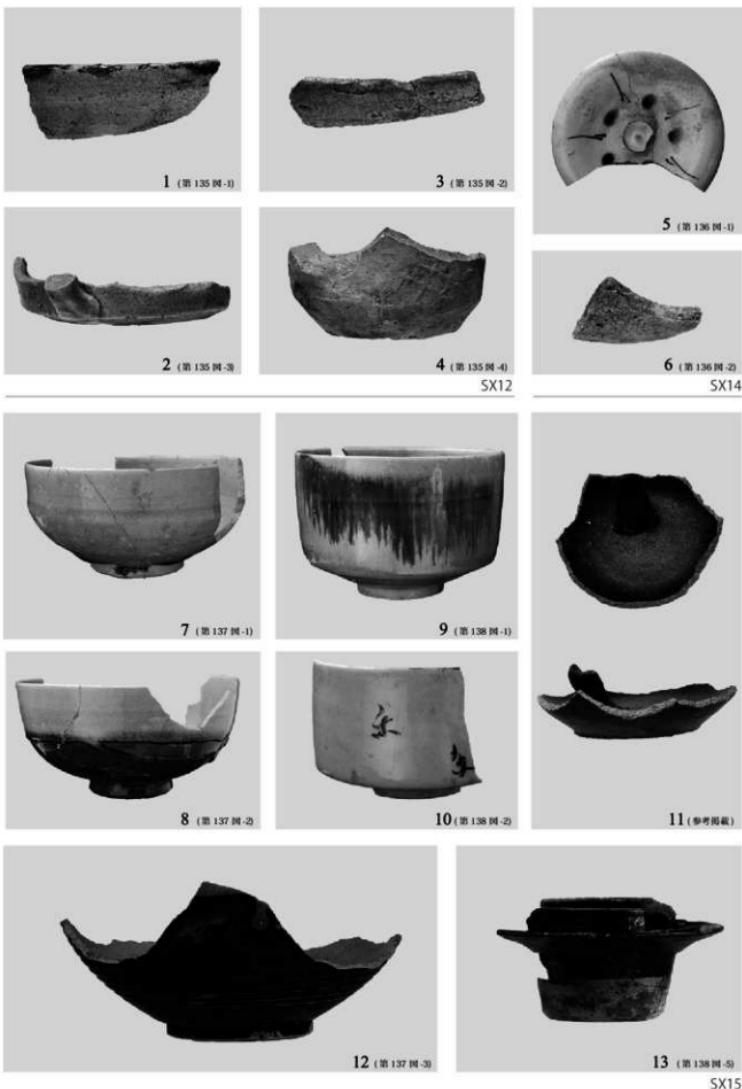


図版 76 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (18)

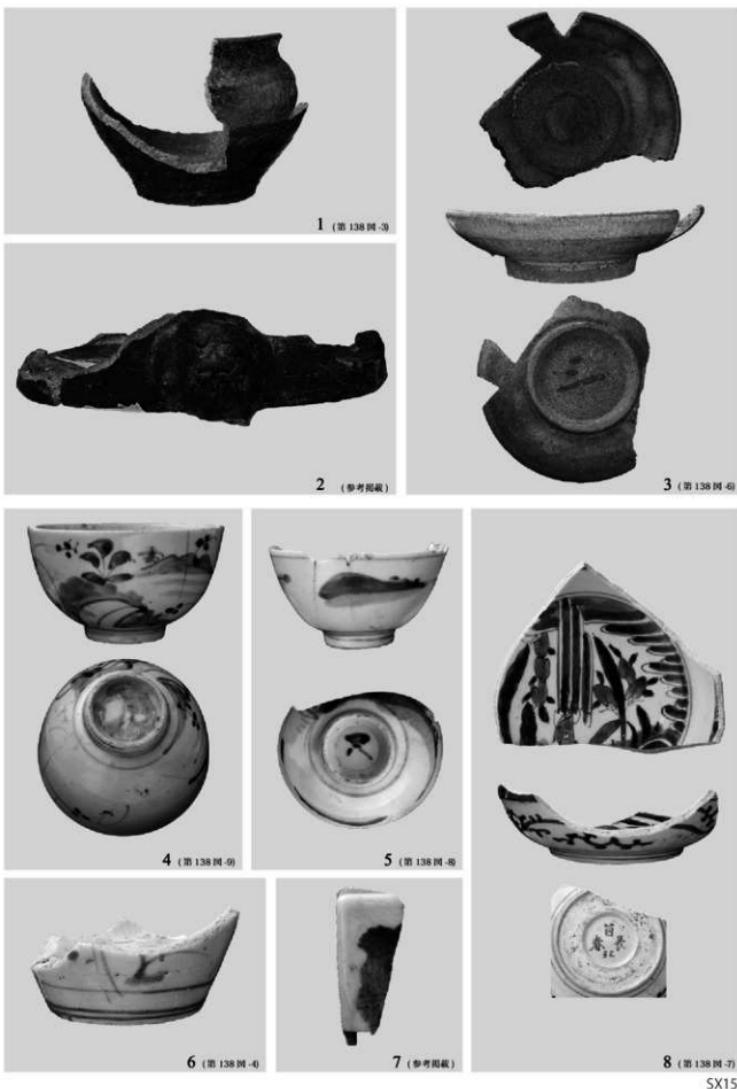


図版 77 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (19)

出土遺物写真



図版 78 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (20)



図版 79 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (21)

出土遺物写真

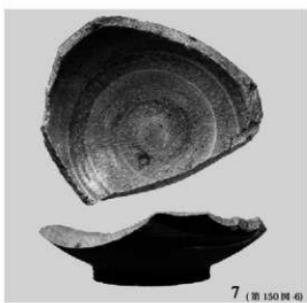
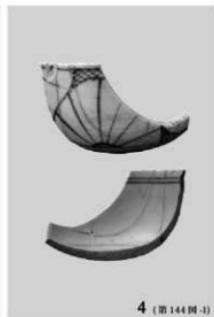
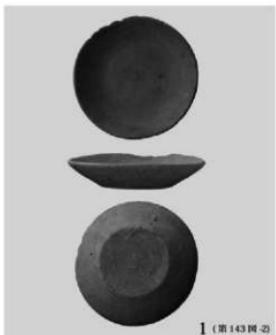


図版 80 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (22)



図版 81 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (23)

出土遺物写真

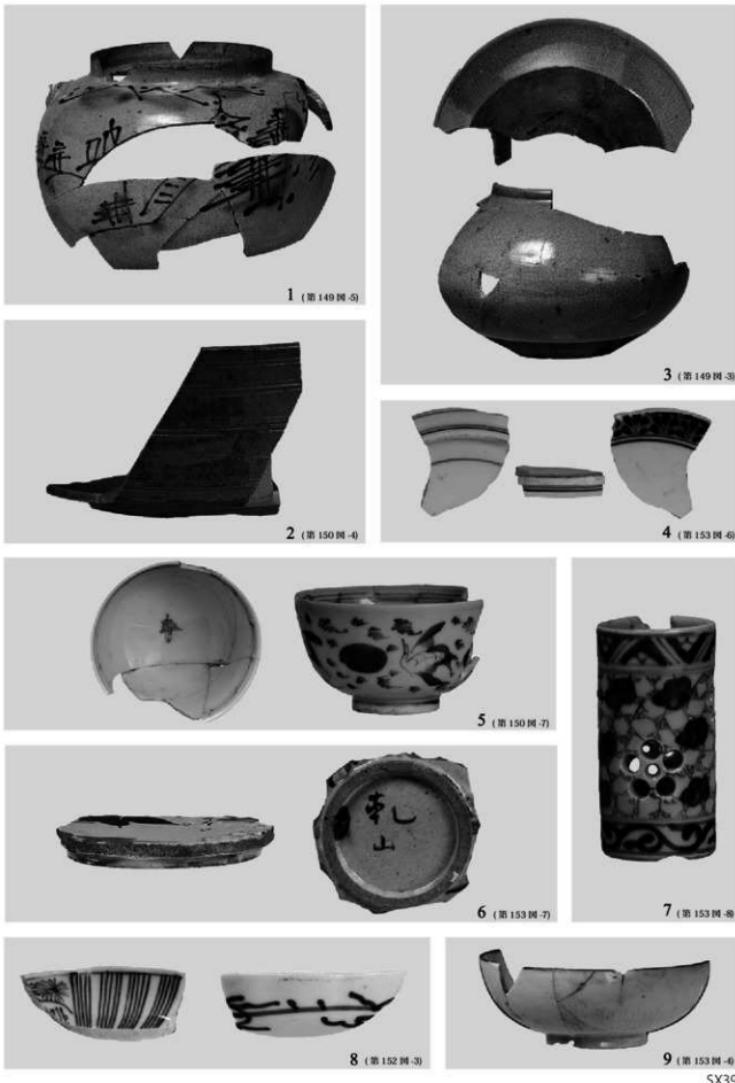


図版 82 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (24)



図版 83 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (25)

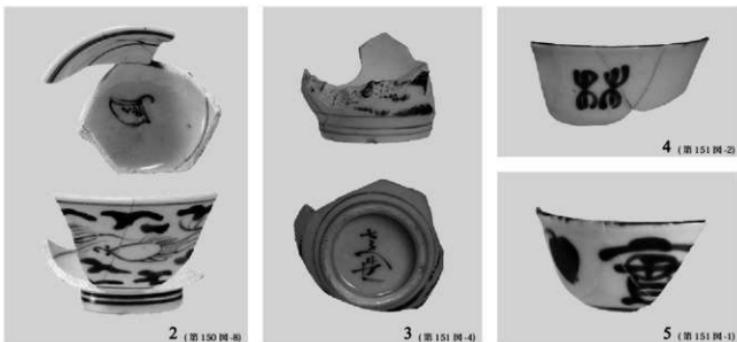
出土遺物写真



図版 84 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (26)



1 (第152図-④)



4 (第151図-2)

5 (第151図-1)



6 (第150図-11)
SX39

図版 85 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (27)

出土遺物写真



図版 86 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (28)



図版 87 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (29)

出土遺物写真



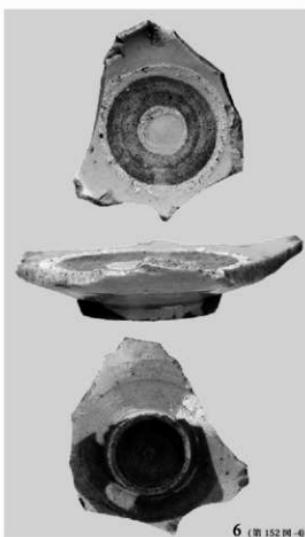
1 (参考図版)



2 (参考図版)



4 (第 151 図-10)



6 (第 152 図-6)



3 (第 151 図-11)



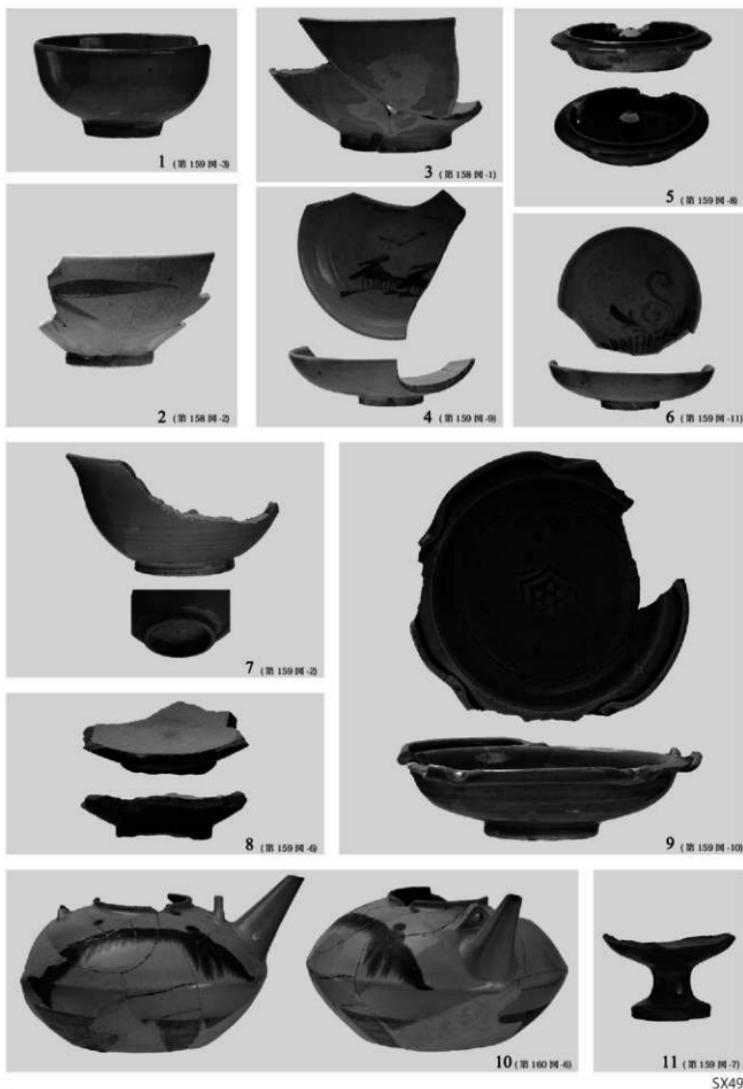
5 (第 151 図-7)



7 (第 154 図-8)

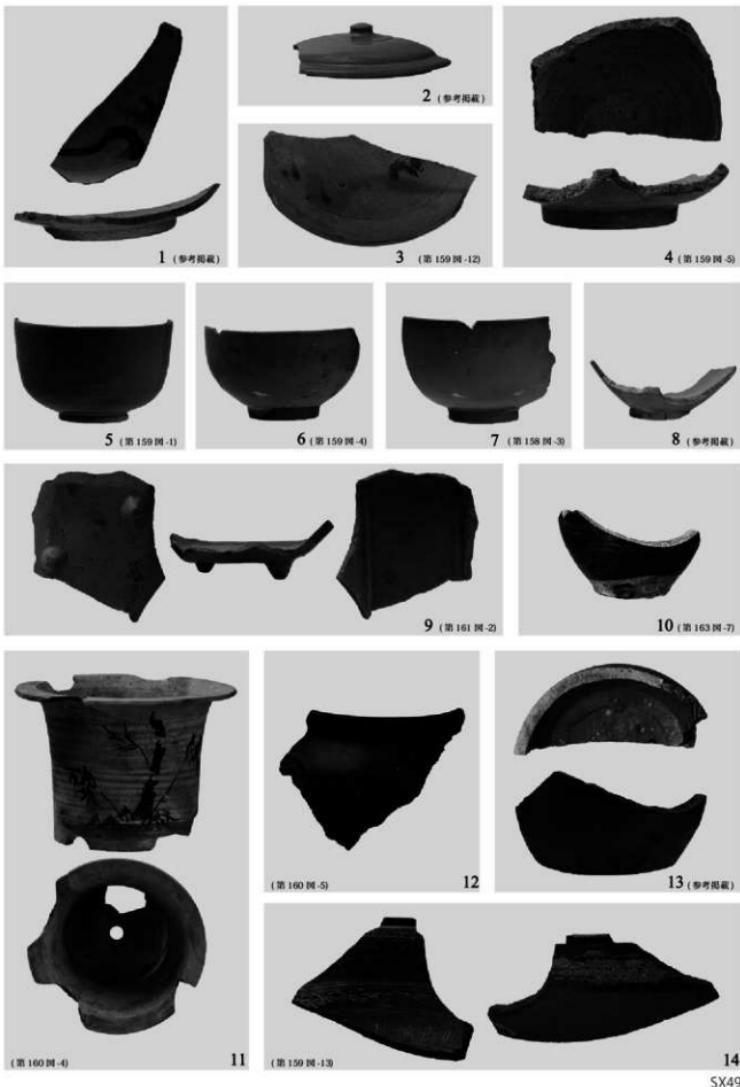
SX39

図版 88 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (30)

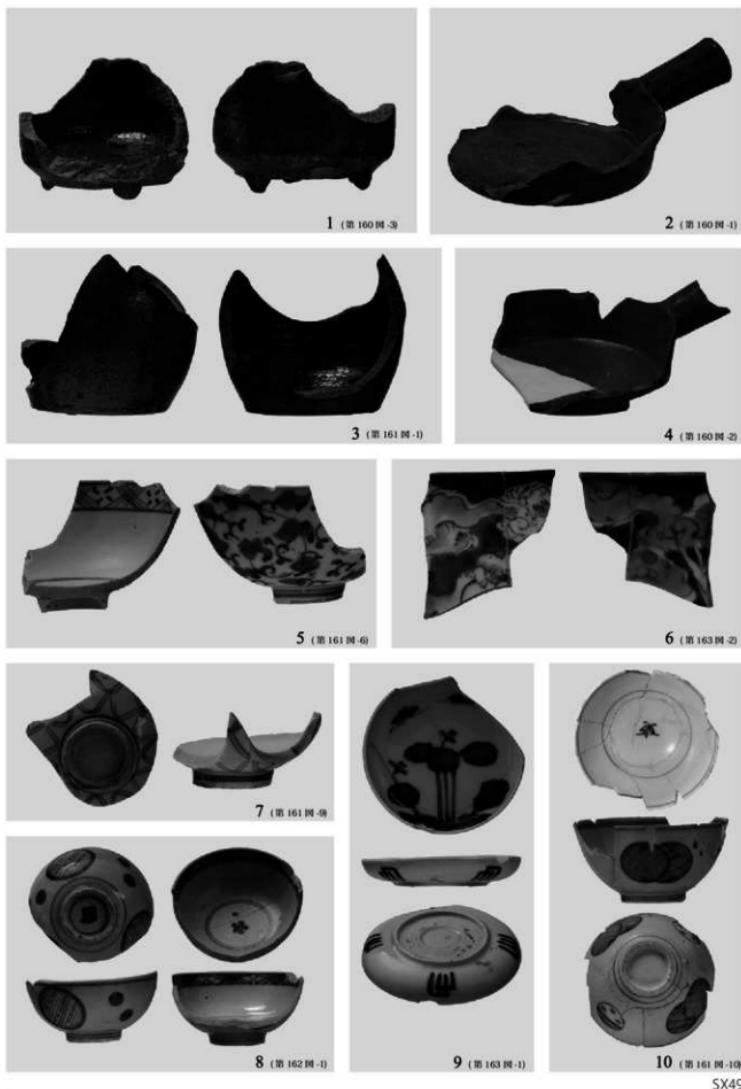


図版 89 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (31)

出土遺物写真

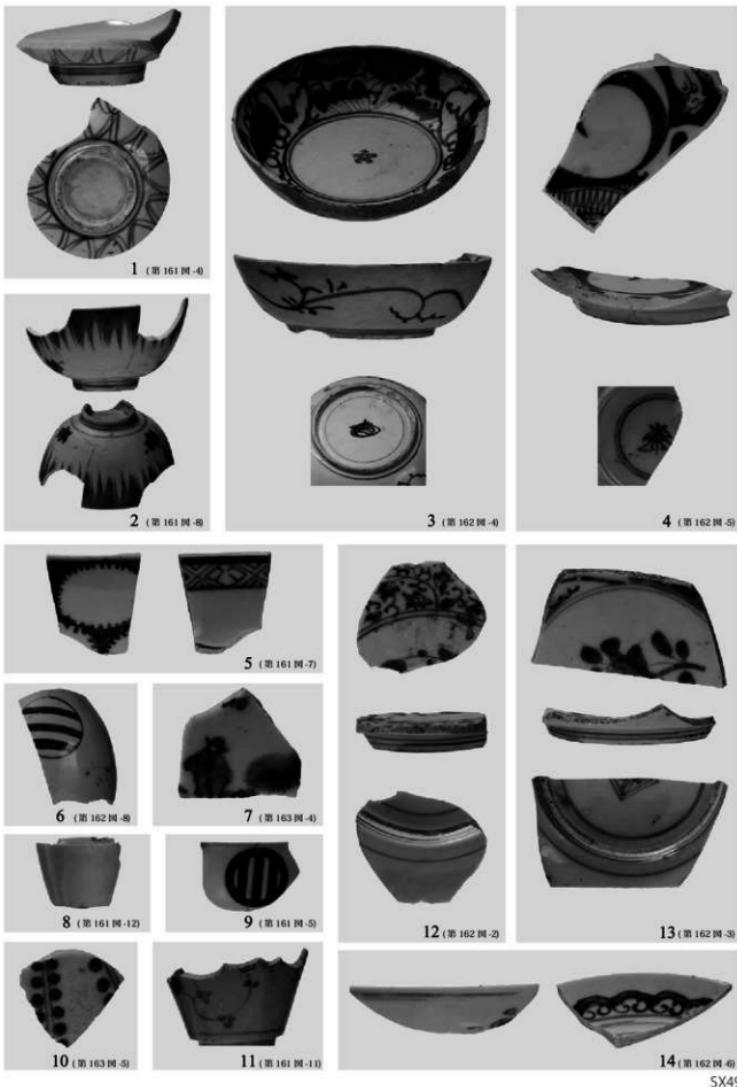


図版 90 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (32)



図版 91 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (33)

出土遺物写真



図版92 駅部II層上面遺構出土遺物(34)

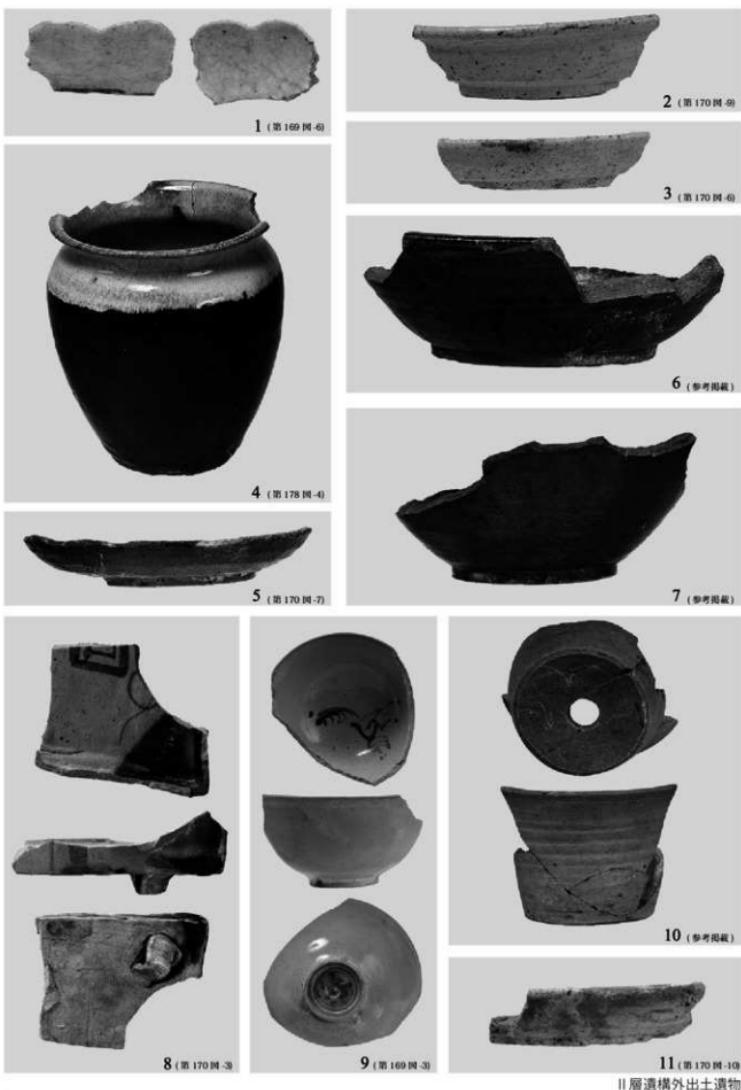


図版 93 駅部 II 層上面遺構出土遺物 (35)

出土遺物写真



図版 94 駅部II層上面遺構出土遺物(36)・II層遺構外出土遺物(1)



II層遺構外出土遺物

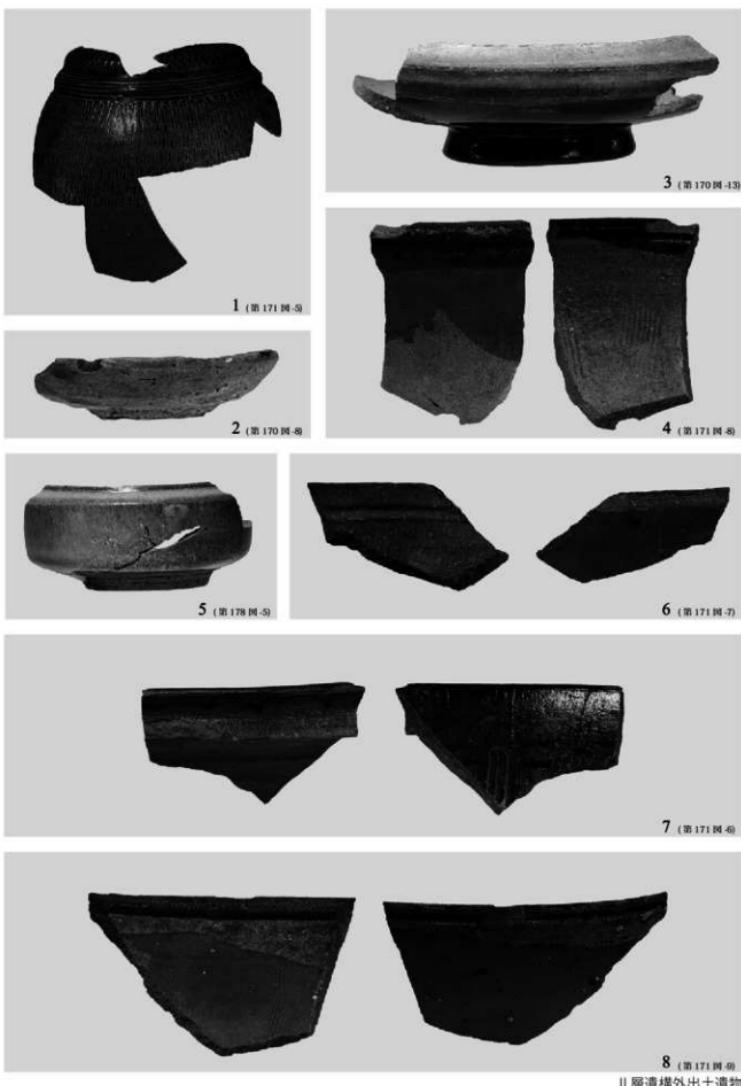
図版 95 駅部II層遺構外出土遺物(2)

出土遺物写真



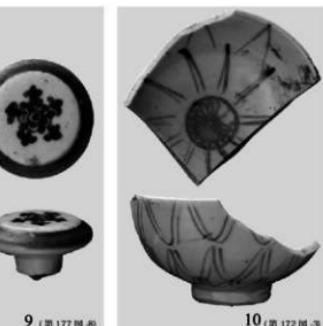
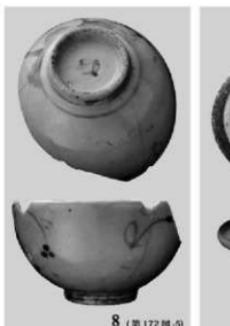
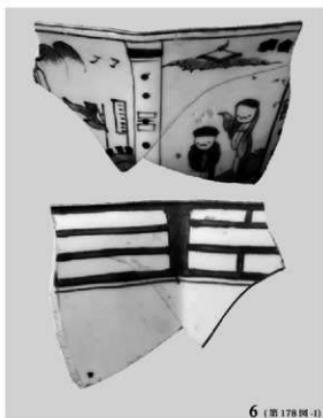
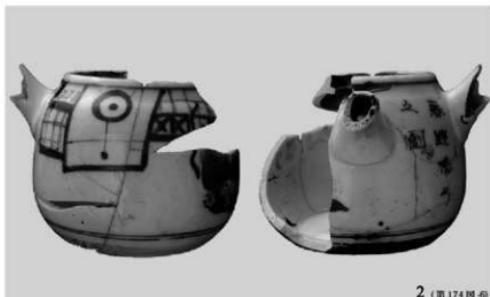
II層遺構外出土遺物

図版 96 駅部 II 層遺構外出土遺物 (3)

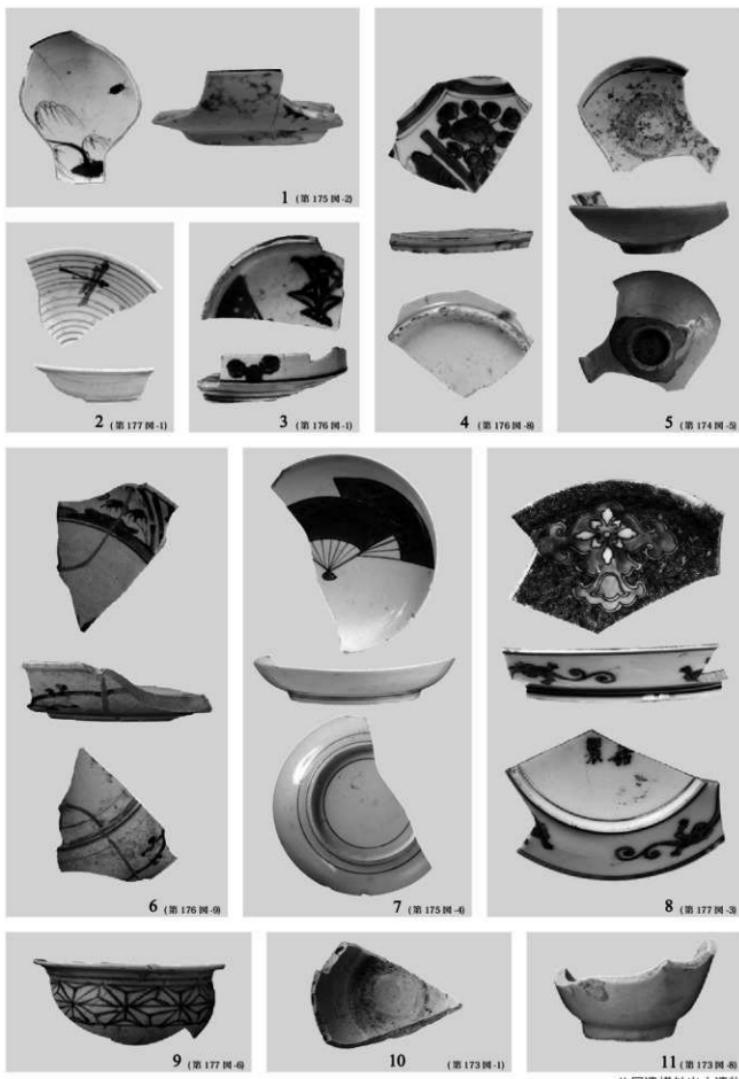


図版 97 駅部 II 層遺構外出土遺物 (4)

出土遺物写真



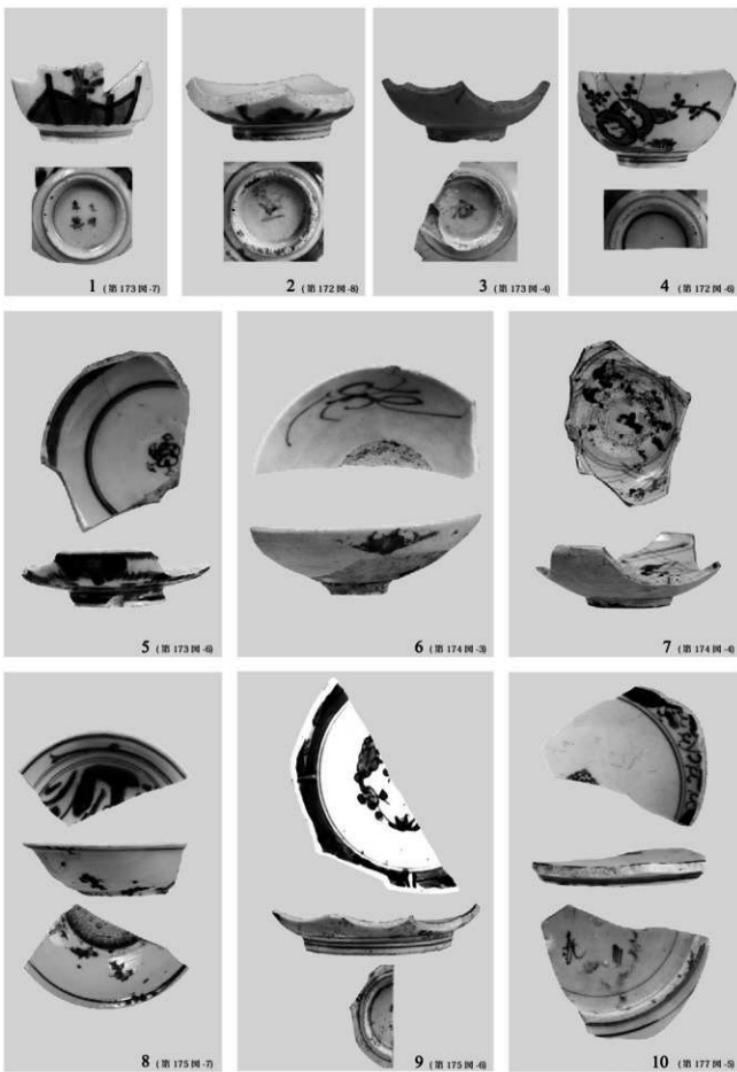
図版 98 駅部 II 層遺構外出土遺物 (5)



II 層遺構外出土遺物

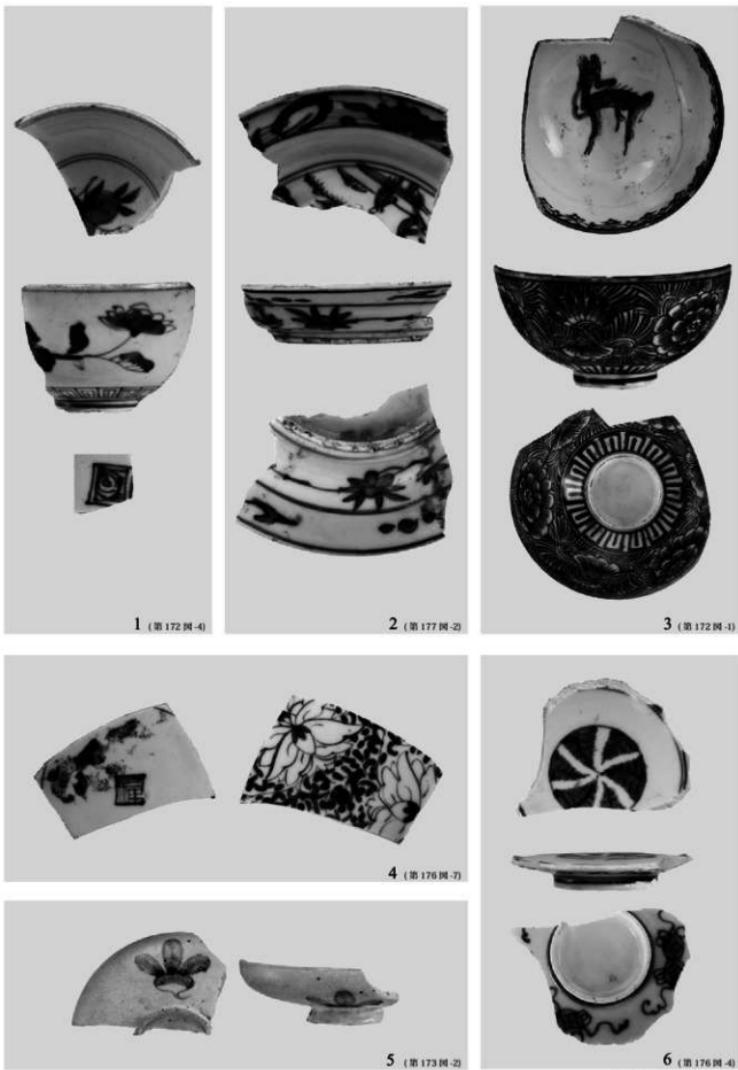
図版 99 駅部 II 層遺構外出土遺物 (6)

出土遺物写真



II層遺構外出土遺物

図版 100 駅部 II 層遺構外出土遺物 (7)

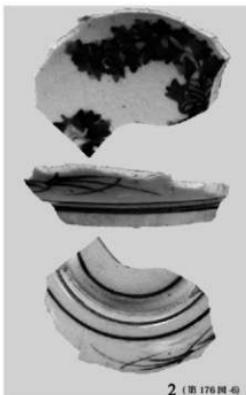


図版 101 駅部 II 層遺構外出土遺物 (8)

出土遺物写真



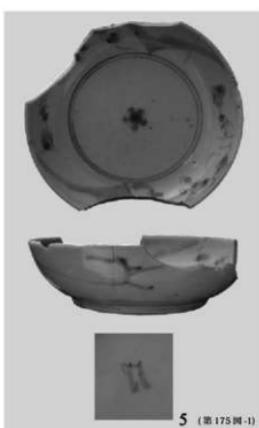
1 (第 175 図-5)



2 (第 176 図-4)



3 (参考図版)



5 (第 175 図-1)



6 (第 177 図-10)



7 (第 175 図-3)



8 (第 172 図-9)



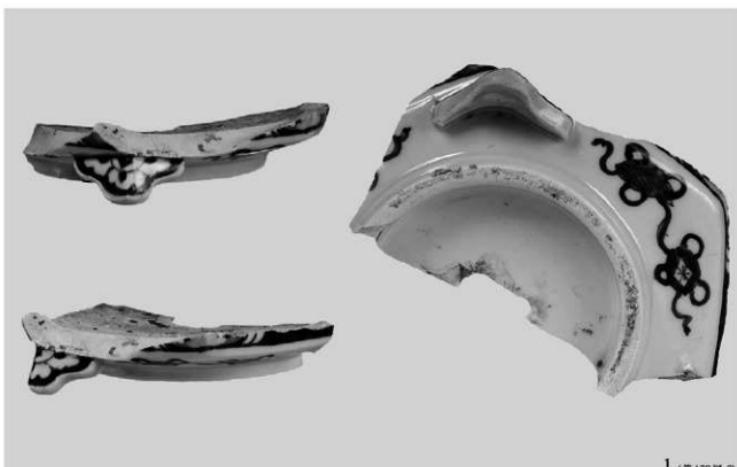
9 (第 172 図-7)



10 (第 172 図-10)

II 屋造構外出土遺物

図版 102 駅部 II 層遺構外出土遺物 (9)

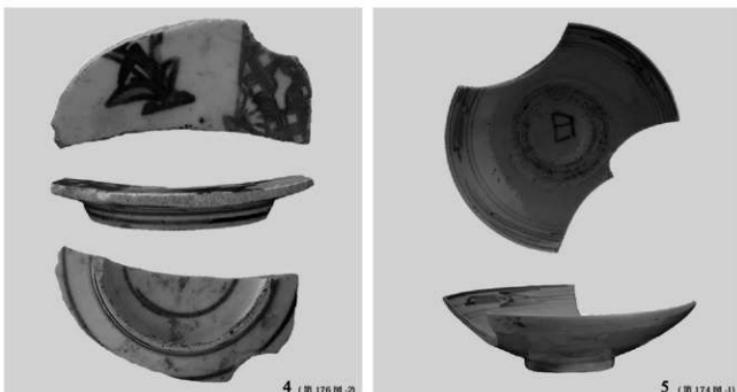


1 (第178図-3)



2 (第173図-3)

3 (第171図-2)



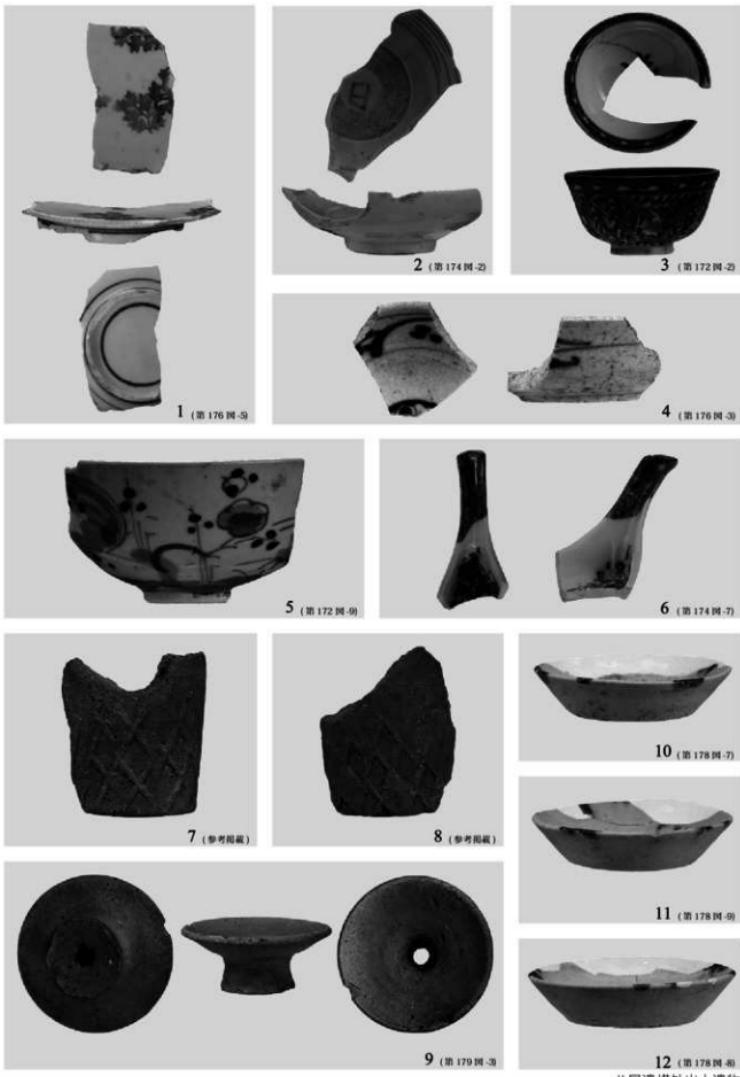
4 (第176図-2)

5 (第174図-1)

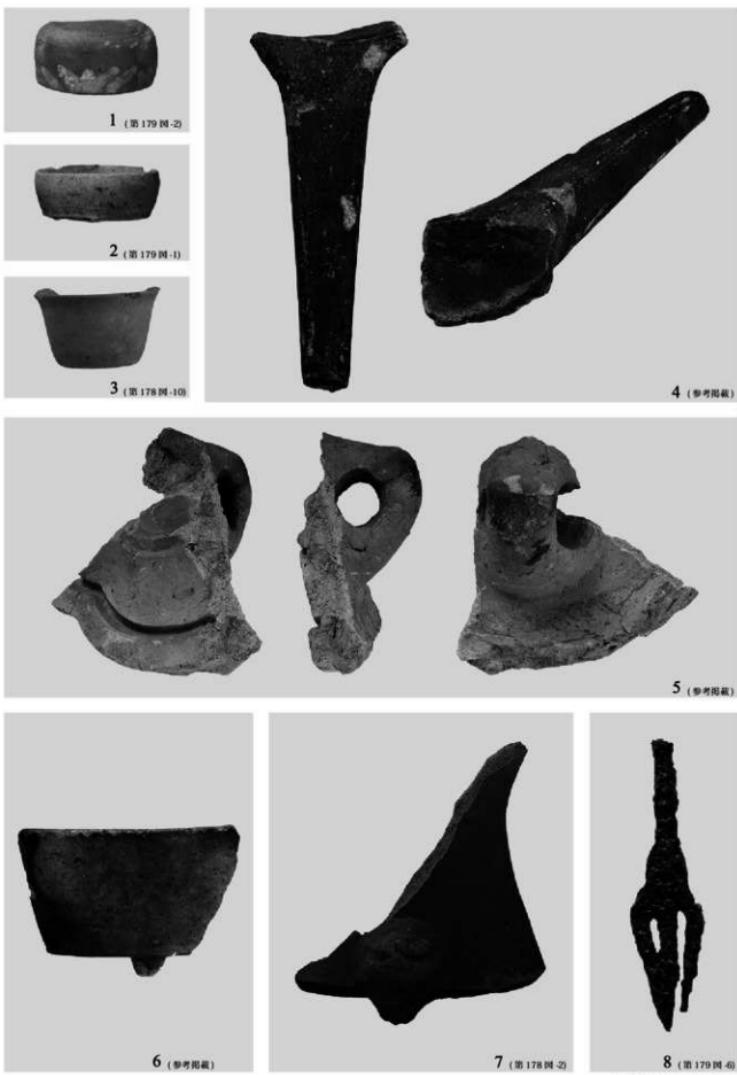
II層遺構外出土遺物

図版 103 駅部II層遺構外出土遺物(10)

出土遺物写真



図版 104 駅部 II 層遺構外出土遺物 (11)

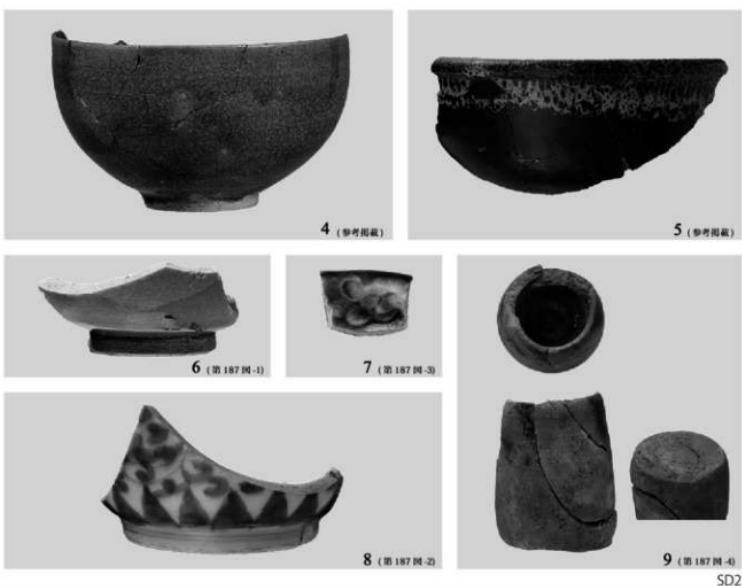
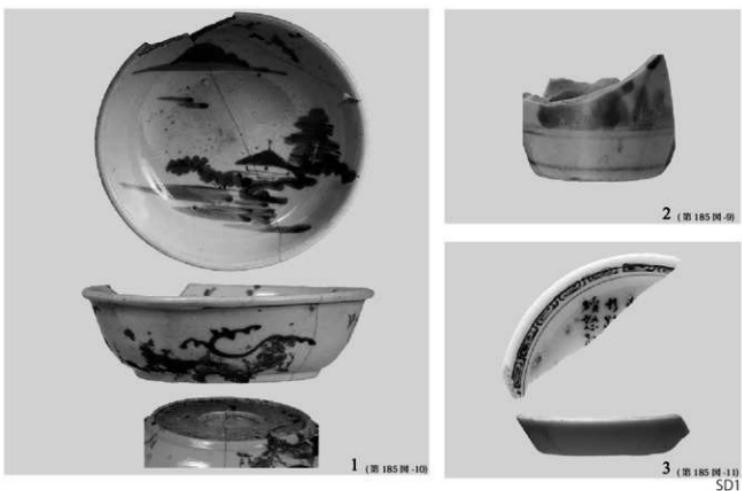


図版 105 駅部 II 層遺構外出土遺物 (12)

出土遺物写真

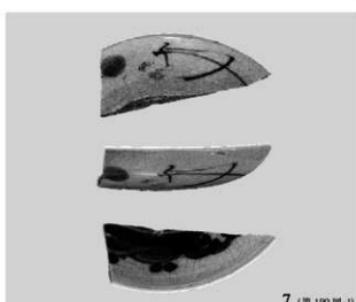
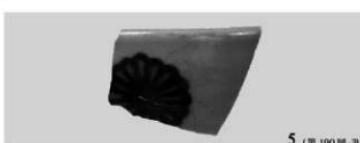


図版 106 駅部 II 層遺構外出土遺物 (13)・I 層上面遺構出土遺物 (1)

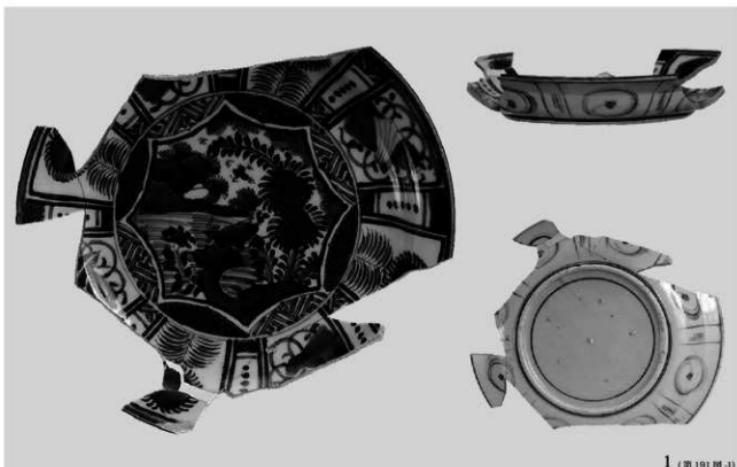


図版 107 駅部Ⅰ層上面遺構出土遺物(2)

出土遺物写真



図版 108 駅部 I 層上面遺構出土遺物 (3)



1 (第191図-1)



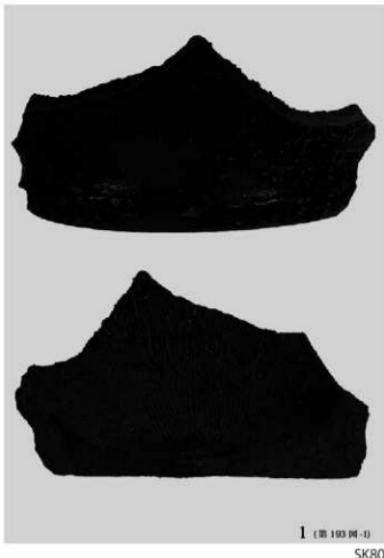
2 (第192図-4)

3 (第192図-3)

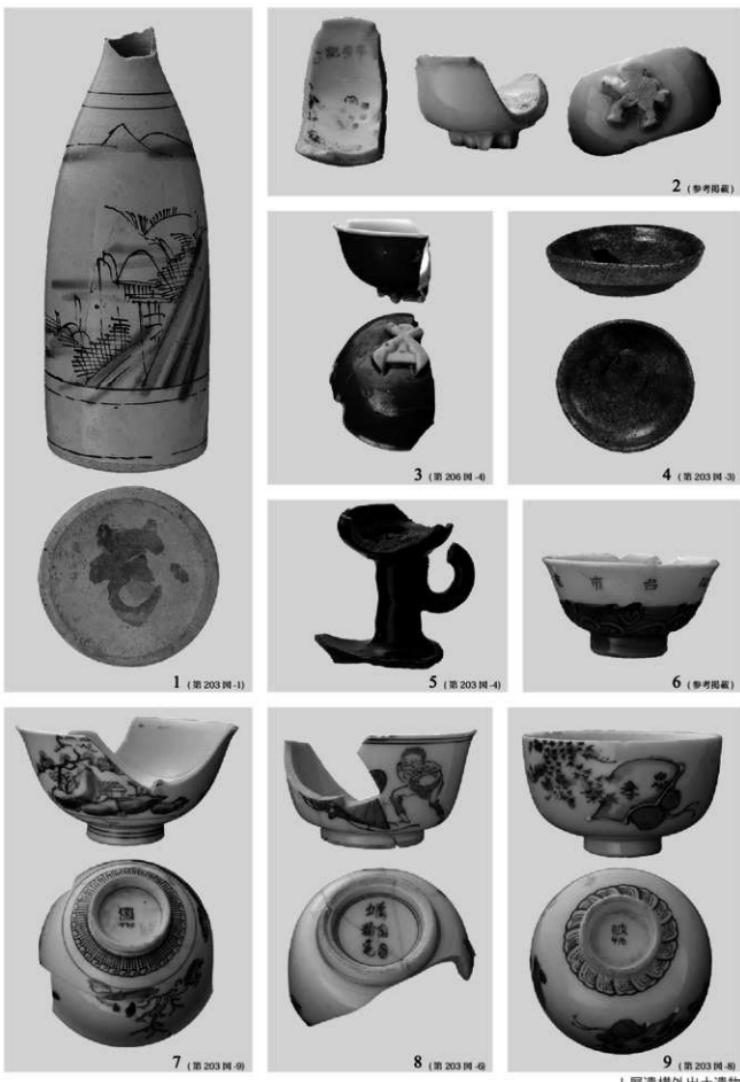
6 (第192図-1)

SK74

出土遺物写真



図版 110 駅部 I 層上面遺構出土遺物 (5)・I 層遺構外出土遺物 (1)

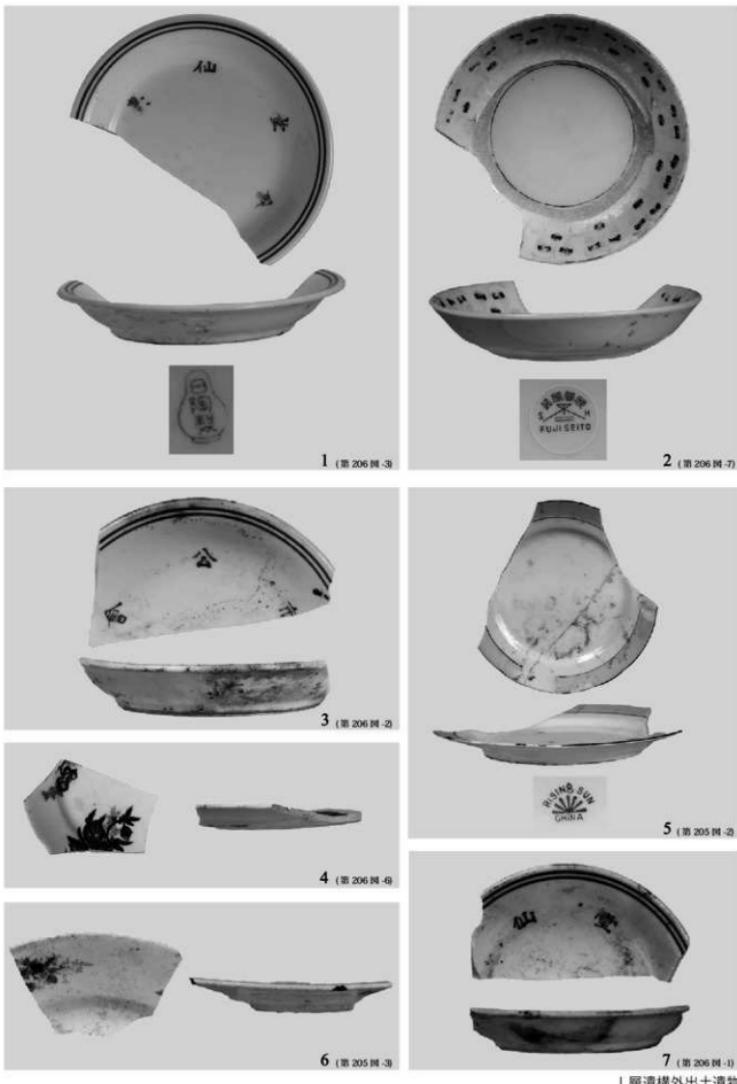


図版 111 駅部Ⅰ層遺構外出土遺物(2)

出土遺物写真

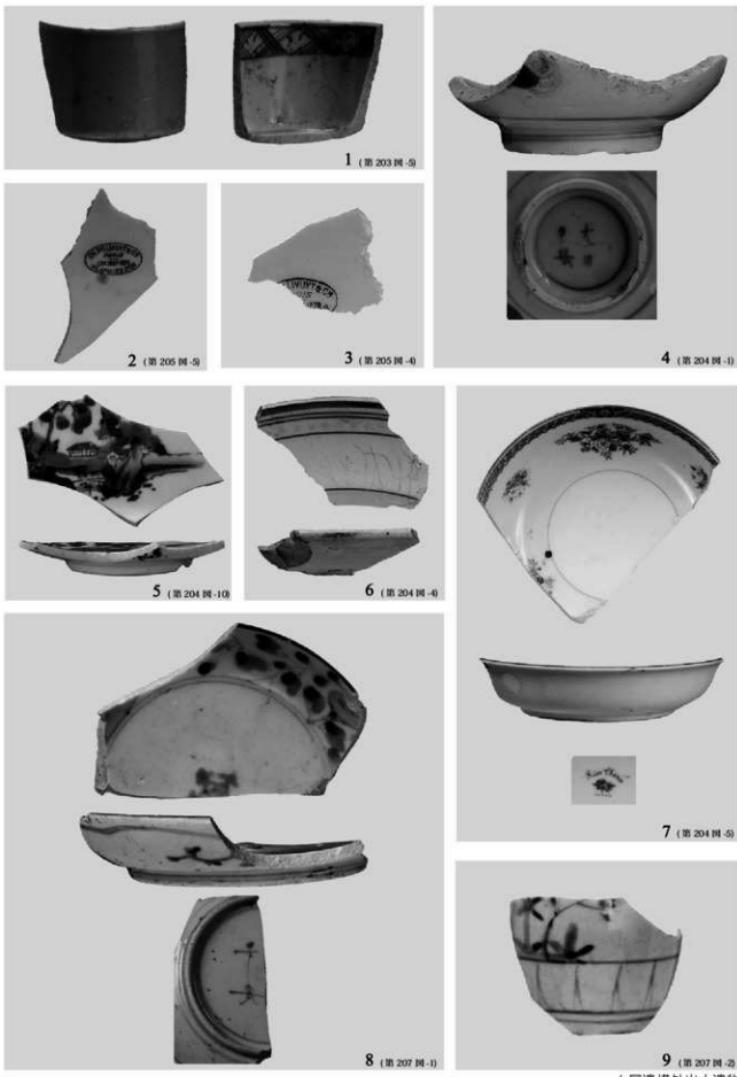


図版 112 駅部 I 層遺構外出土遺物 (3)



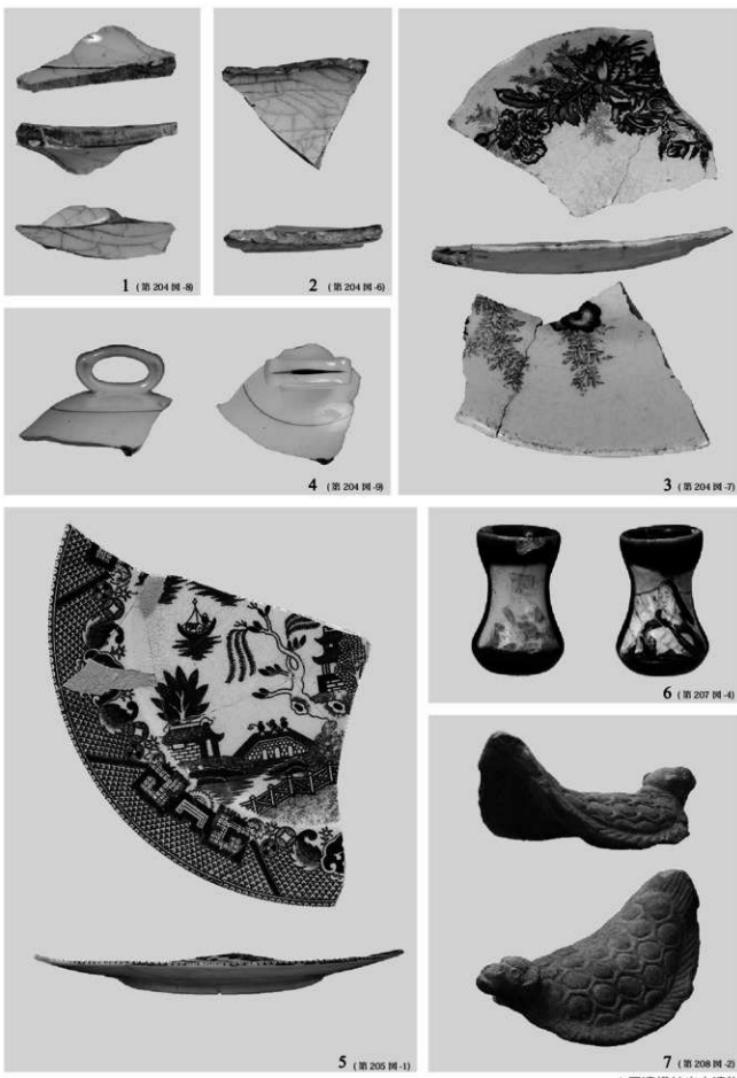
図版 113 駅部 I 層遺構外出土遺物 (4)

出土遺物写真



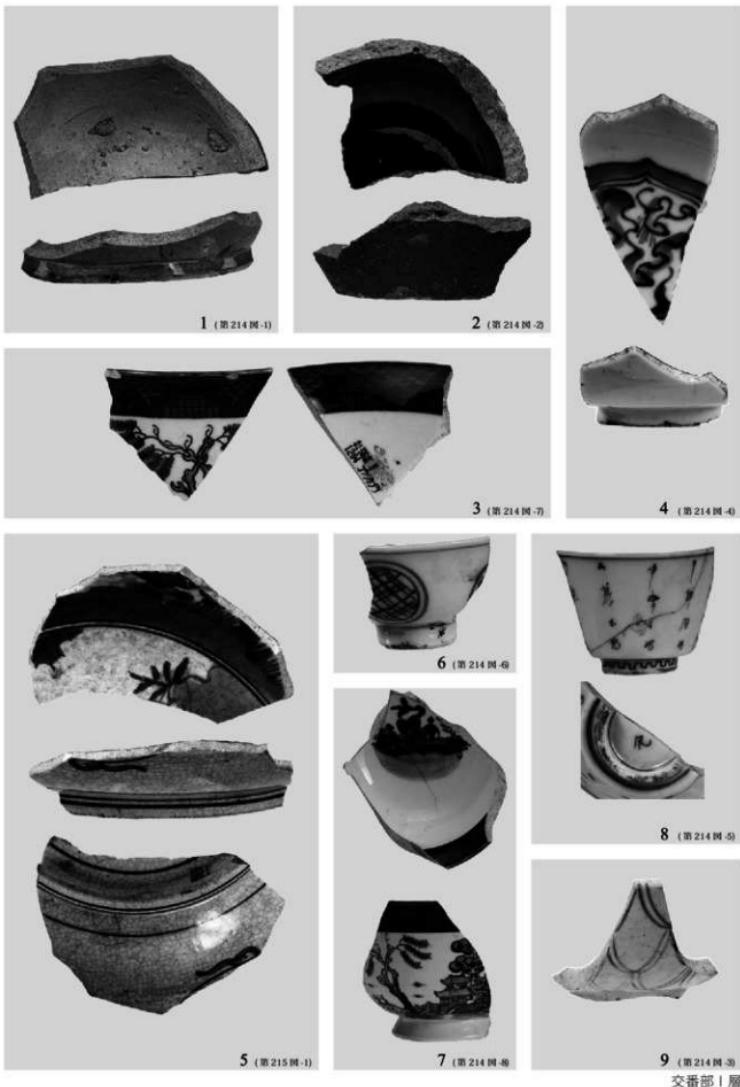
1 層遺構外出土遺物

図版 114 駅部 I 層遺構外出土遺物 (5)



図版 115 駅部Ⅰ層遺構外出土遺物(6)

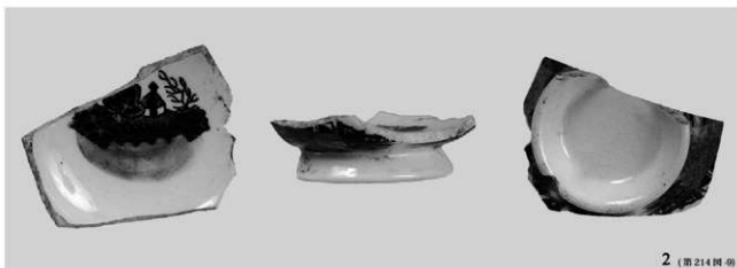
出土遺物写真



図版 116 交番部Ⅰ層出土遺物(1)



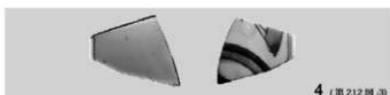
1 (第215図-2)



2 (第214図-9)
交番部Ⅰ層



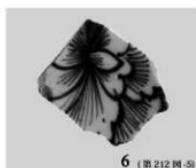
3 (第212図-1)



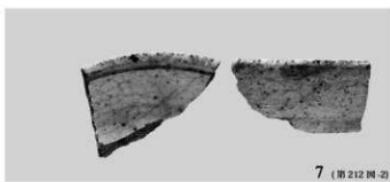
4 (第212図-3)



5 (第212図-4)



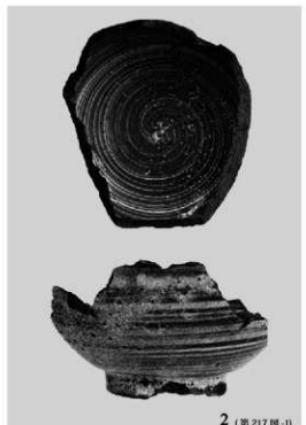
6 (第212図-5)



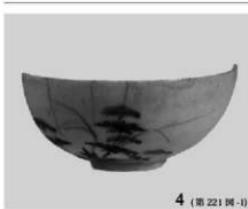
7 (第212図-2)
SE1

図版 117 交番部Ⅰ層出土遺物(2)

出土遺物写真

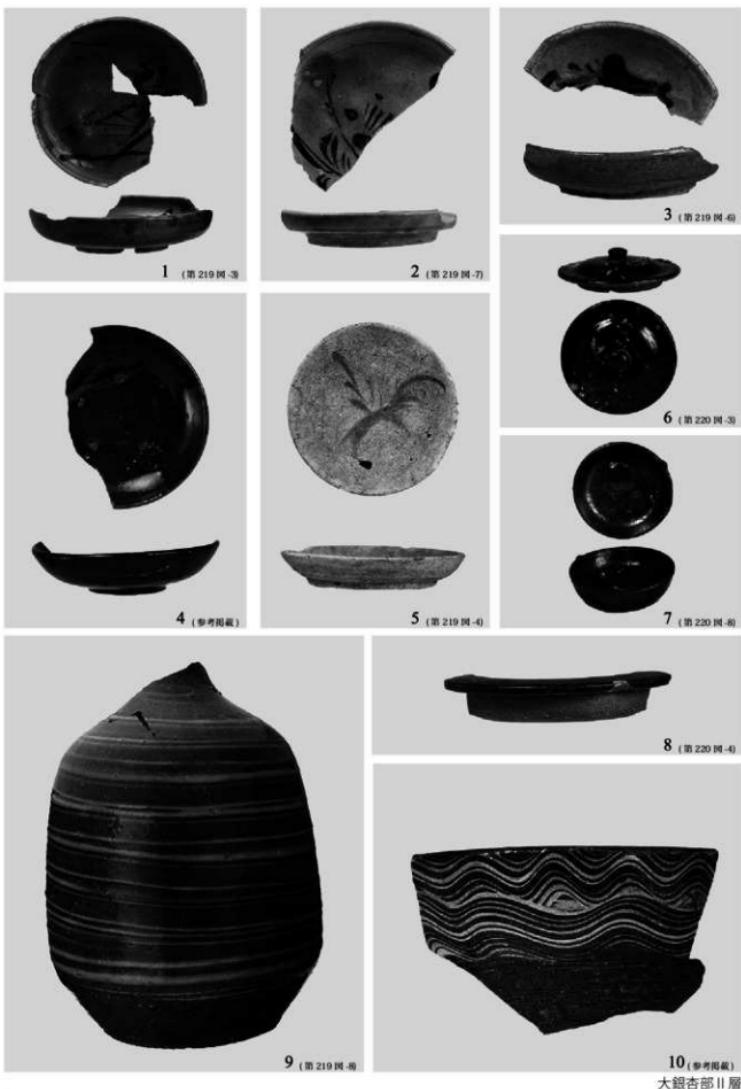


大銀杏部III層



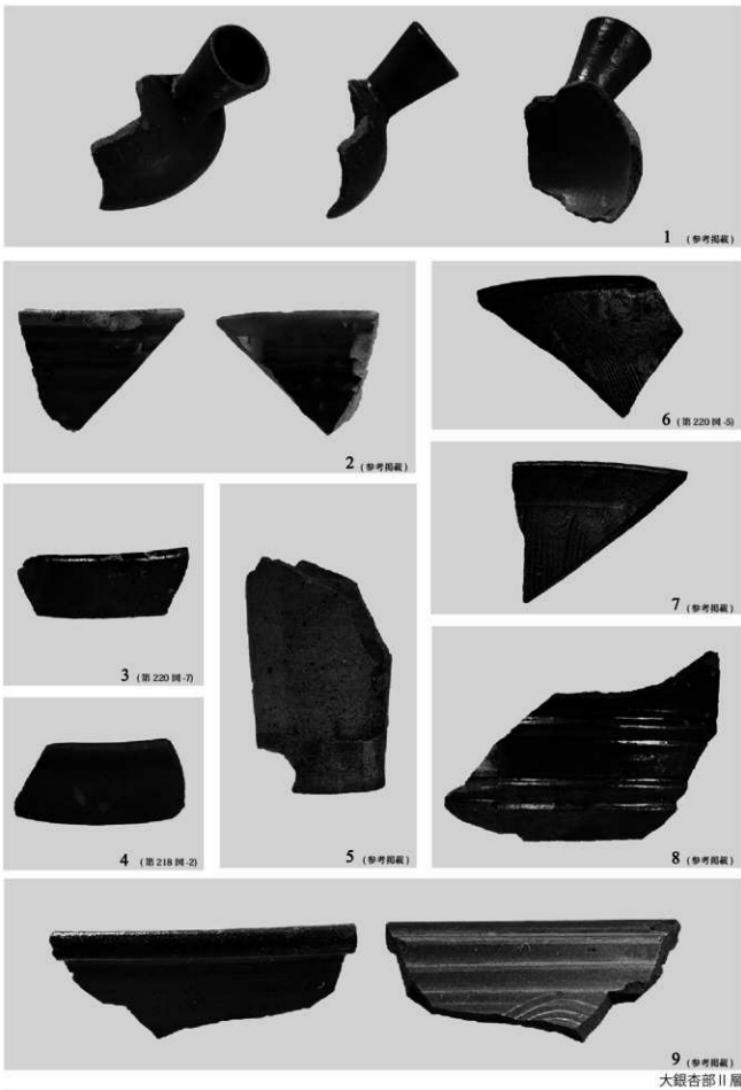
大銀杏部II層

図版 118 大銀杏部III層出土遺物・II層出土遺物(1)



図版 119 大銀杏部 II 層出土遺物 (2)

出土遺物写真



図版 120 大銀杏部 II 層出土遺物 (3)

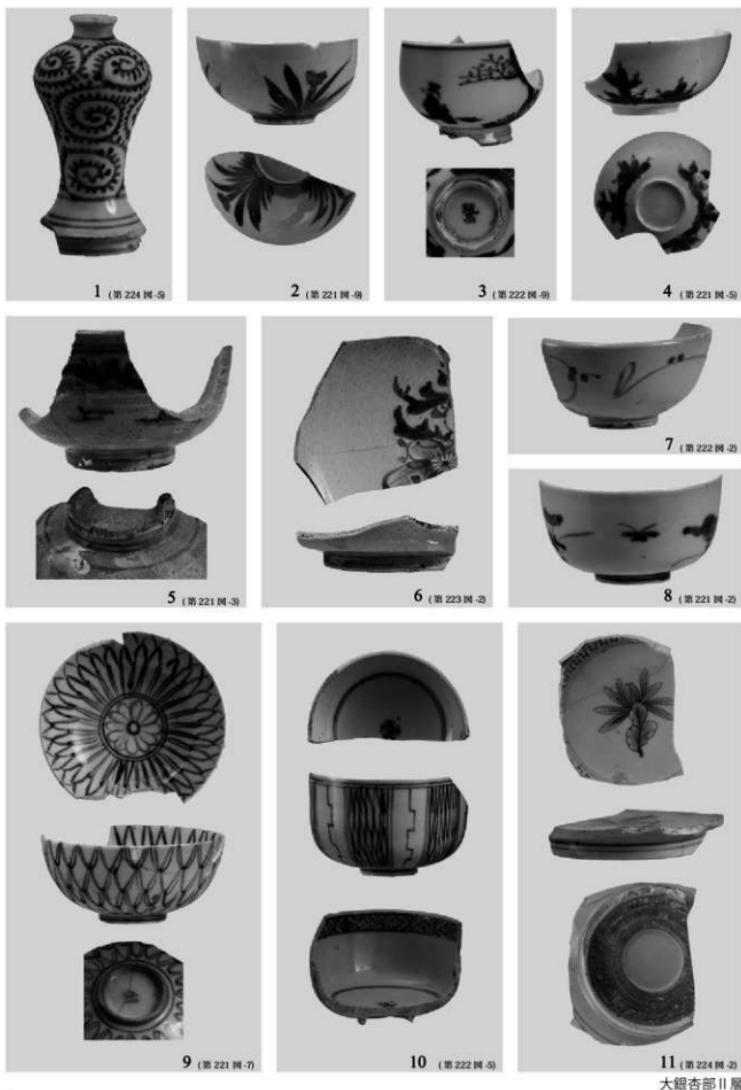


図版 121 大銀杏部 II 層出土遺物 (4)

出土遺物写真

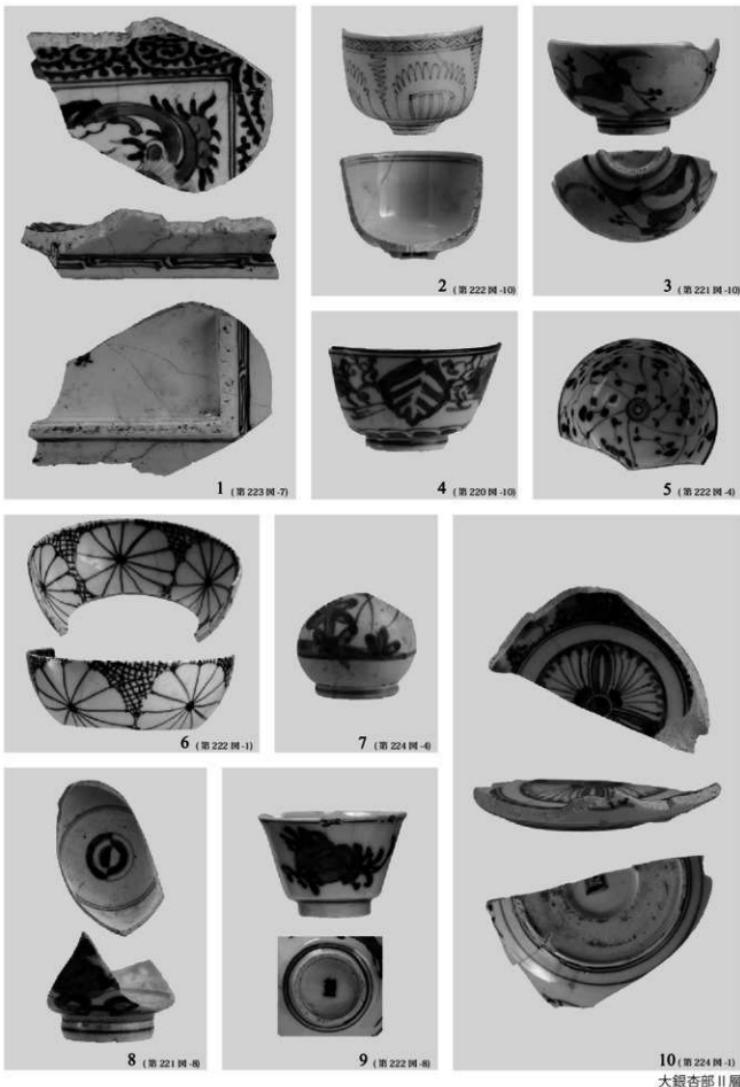


図版 122 大銀杏部 II 層出土遺物 (5)



図版 123 大銀杏部 II 層出土遺物 (6)

出土遺物写真

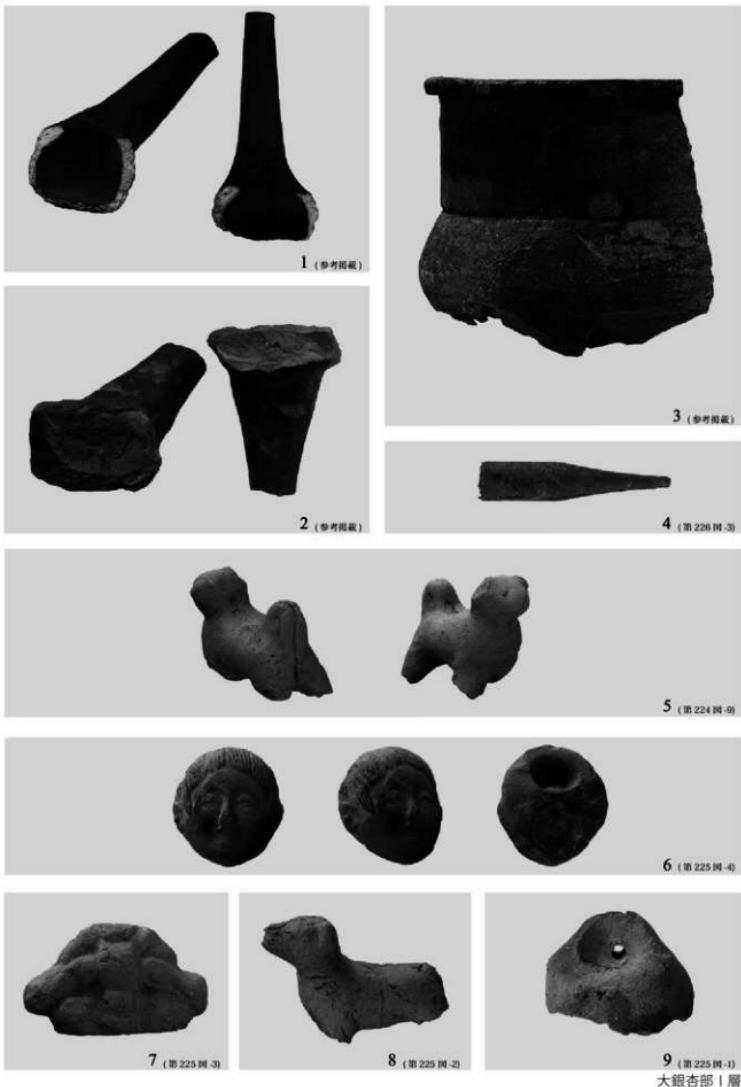


図版 124 大銀杏部 II 層出土遺物 (7)



図版 125 大銀杏部II層出土遺物(8)

出土遺物写真



図版 126 大銀杏部 I 層出土遺物 (1)



図版 127 大銀杏部 | 層出土遺物 (2)

出土遺物写真



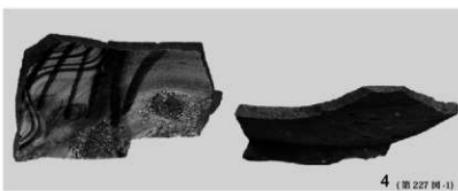
1 (第224図-8)



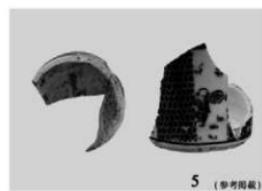
2 (参考図版)



3 (第228図-1)



4 (第227図-1)



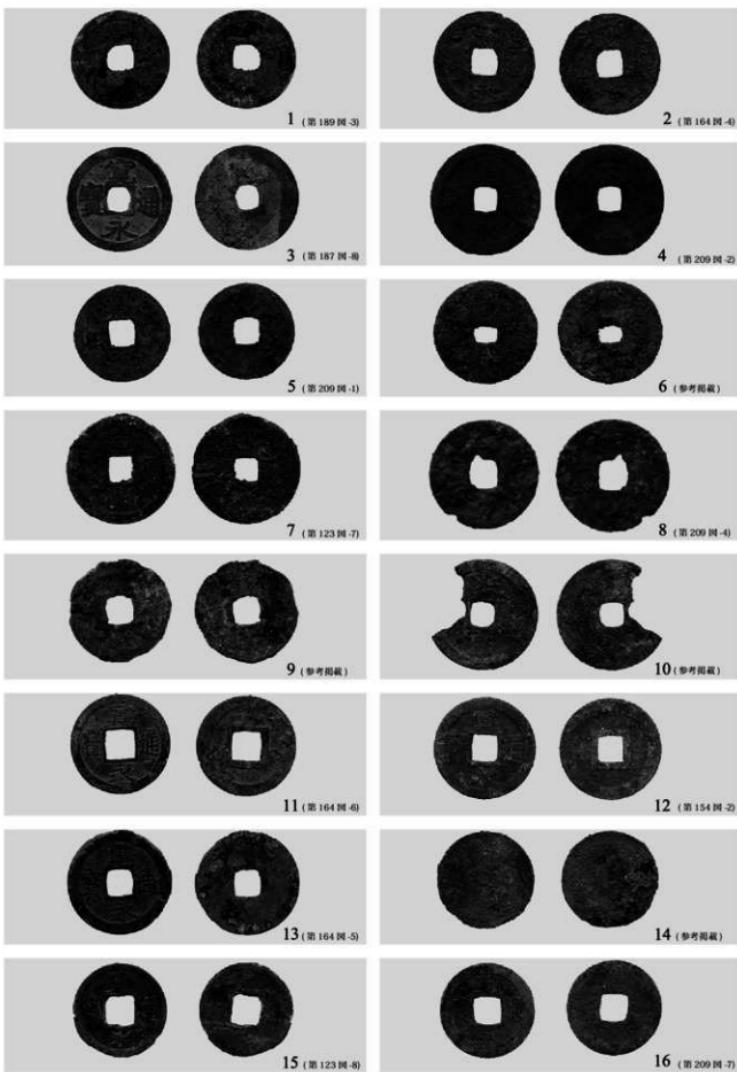
5 (参考図版)
大銀杏部 I 層

図版 128 大銀杏部 I 層出土遺物 (3)

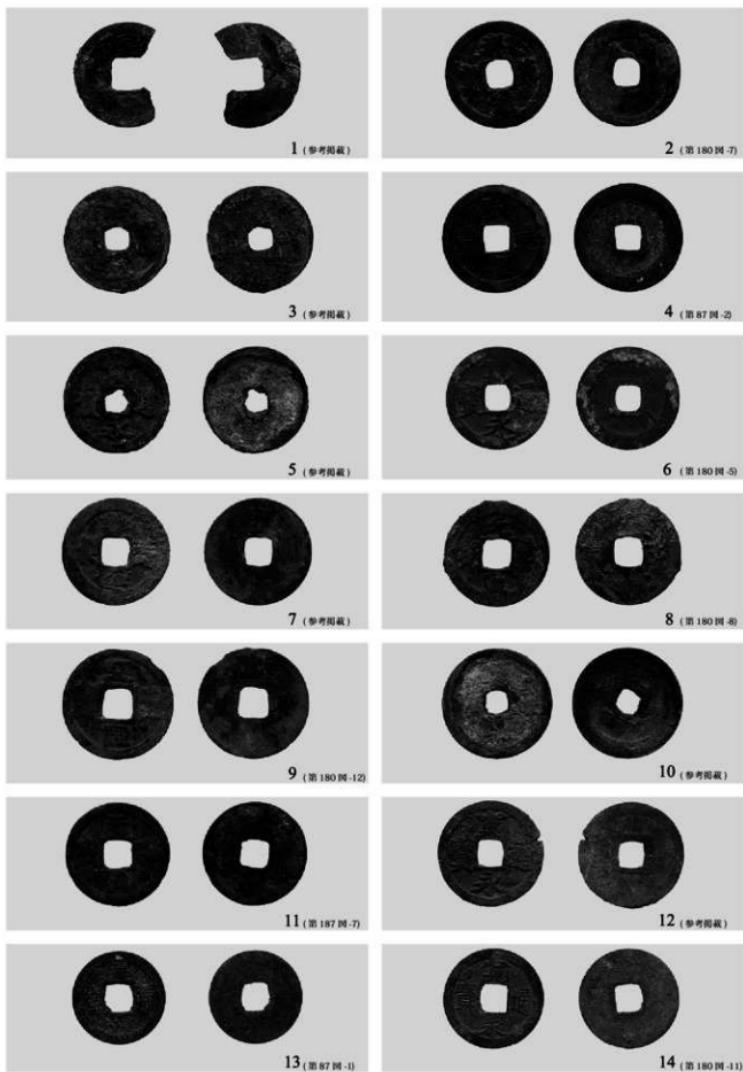


図版 129 瓦

出土遺物写真

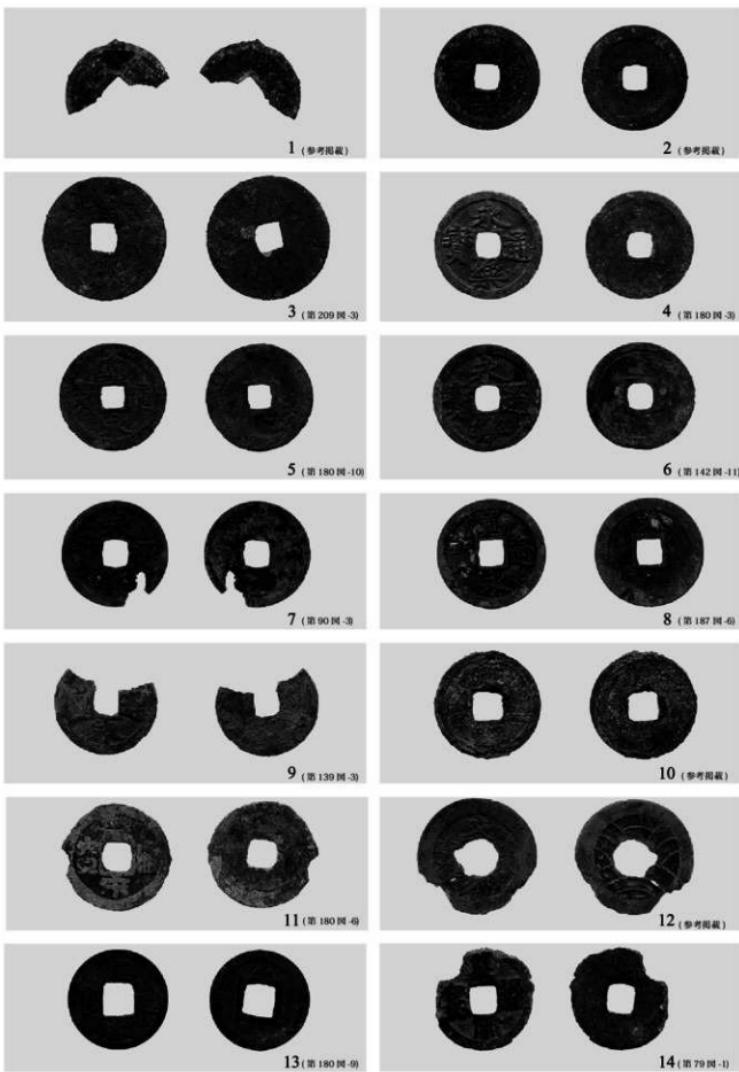


図版 130 出土古錢(1)

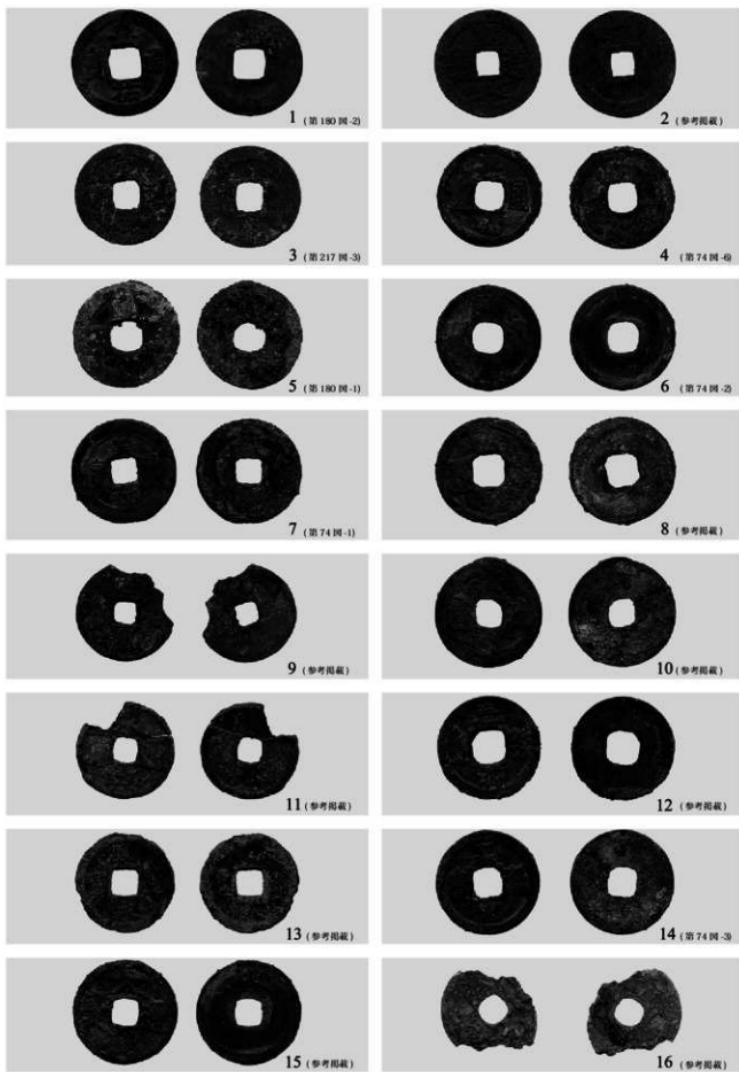


図版 131 出土古錢 (2)

出土遺物写真

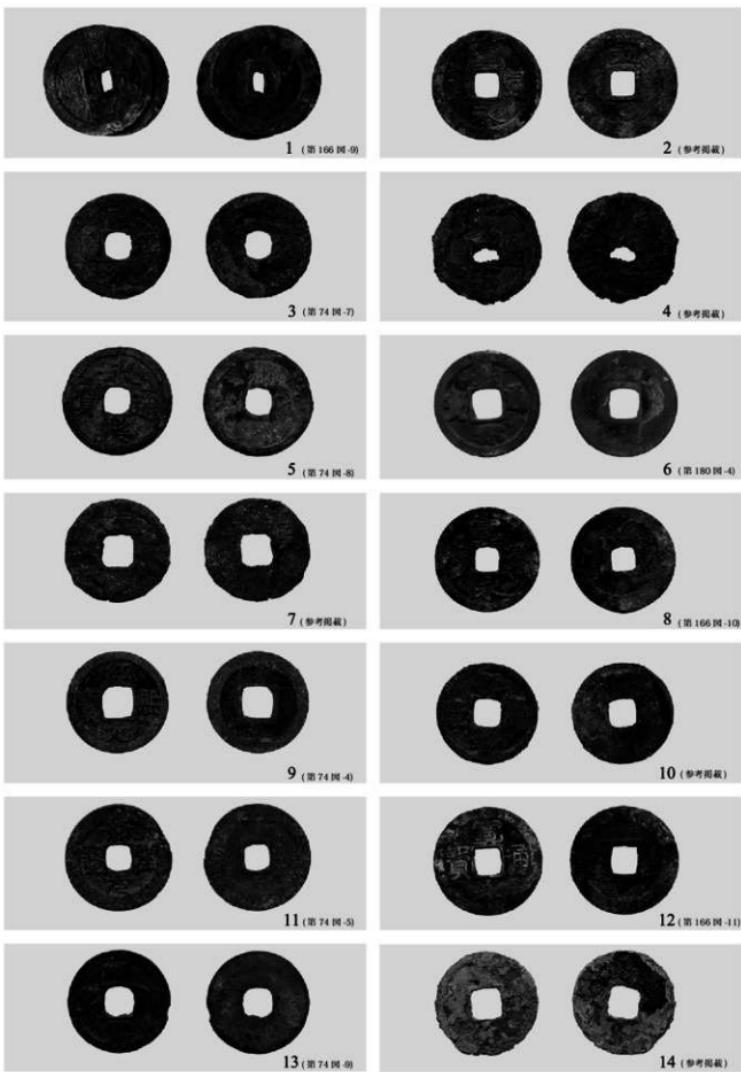


図版 132 出土古銭(3)



図版 133 出土古銭(4)

出土遺物写真



図版 134 出土古錢(5)

報告書抄録

仙台市文化財調査報告書 第384集

桜ヶ岡公園遺跡 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書IV

2011年3月

発行 仙台市教育委員会
宮城県仙台市青葉区二日町1番1号
文化財課 022(214)8893~8894

印刷 今野印刷株式会社
宮城県仙台市若林区六丁の目西町2-10
022(288)6123